



## **Cisco Nexus 3000 シリーズ NX-OS システム管理コンフィギュレーションガイドリリース 7.x**

初版：2015年07月22日

### **シスコシステムズ合同会社**

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## 目次

### はじめに 1

対象読者 1

表記法 1

Cisco Nexus 3000 シリーズ NX-OS ソフトウェアの関連資料 3

マニュアルに関するフィードバック 4

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート 4

### 新機能および変更された機能に関する情報 5

新機能および変更された機能に関する情報 5

### 概要 9

システム管理機能 9

### スイッチ プロファイルの設定 15

スイッチ プロファイルに関する情報 16

スイッチ プロファイル コンフィギュレーション モード 16

コンフィギュレーションの検証 17

スイッチ プロファイルを使用したソフトウェアのアップグレードとダウングレード 18

スイッチ プロファイルの前提条件 19

スイッチ プロファイルの注意事項および制約事項 19

スイッチ プロファイルの設定 20

スイッチ プロファイルへのスイッチの追加 22

スイッチ プロファイルのコマンドの追加または変更 23

スイッチ プロファイルのインポート 26

スイッチ プロファイルのコマンドの確認 28

ピア スイッチの分離 29

スイッチ プロファイルの削除 29

スイッチ プロファイルからのスイッチの削除 30

スイッチ プロファイル バッファの表示 31

スイッチのリブート後のコンフィギュレーションの同期化 32

スイッチプロファイル設定の show コマンド	33
サポートされているスイッチプロファイルコマンド	33
スイッチプロファイルの設定例	35
ローカルおよびピアスイッチでのスイッチプロファイルの作成例	35
同期ステータスの確認例	36
実行コンフィギュレーションの表示	37
ローカルスイッチとピアスイッチ間のスイッチプロファイルの同期の表示	37
ローカルスイッチとピアスイッチでの確認とコミットの表示	38
同期の成功と失敗の例	39
スイッチプロファイルバッファの設定、バッファ移動、およびバッファの削除	39
<b>CFS の使用</b>	<b>41</b>
CFS について	41
CFS 配信	42
CFS の配信モード	42
非協調型配信	43
協調型配信	43
無制限の非協調型配信	43
CFS 配信ステータスの確認	43
アプリケーションの CFS サポート	44
CFS のアプリケーション要件	44
アプリケーションの CFS のイネーブル化	44
アプリケーション登録ステータスの確認	44
ネットワークのロック	45
CFS ロックステータスの確認	45
変更のコミット	46
変更の廃棄	46
設定の保存	46
ロック済みセッションのクリア	46
CFS リージョン	47
CFS リージョンの概要	47
シナリオ例	47

CFS リージョンの管理	48
CFS リージョンの作成	48
CFS リージョンへのアプリケーションの割り当て	48
別の CFS リージョンへのアプリケーションの移動	49
リージョンからのアプリケーションの削除	49
CFS リージョンの削除	50
IP を介した CFS の設定	50
IPv4 を介した CFS のイネーブル化	50
IP を介した CFS 設定の確認	51
IP を介した CFS の IP マルチキャストアドレスの設定	51
CFS の IPv4 マルチキャストアドレスの設定	51
IP を介した CFS の IP マルチキャストアドレス設定の確認	52
CFS のデフォルト設定	52
<b>NTP の設定</b>	<b>53</b>
NTP の概要	53
タイム サーバとしての NTP	54
CFS を使用した NTP の配信	54
クロック マネージャ	55
High Availability (高可用性)	55
仮想化のサポート	55
ライセンス要件	55
NTP の前提条件	55
NTP の注意事項と制約事項	56
デフォルト設定	57
NTP の設定	57
インターフェイスでの NTP のイネーブル化またはディセーブル化	57
正規の NTP サーバとしてのデバイスの設定	58
NTP サーバおよびピアの設定	59
NTP 認証の設定	60
NTP アクセス制限の設定	62
NTP ソース IP アドレスの設定	63
NTP ソース インターフェイスの設定	63

NTP ブロードキャスト サーバの設定	64
NTP マルチキャスト サーバの設定	65
NTP マルチキャスト クライアントの設定	66
NTP ログインの設定	67
NTP 用の CFS 配信のイネーブル化	68
NTP 設定変更のコミット	68
NTP 設定変更の廃棄	69
CFS セッション ロックの解放	69
NTP の設定確認	70
NTP の設定例	71
<b>PTP の設定</b>	<b>73</b>
PTP に関する情報	73
PTP デバイス タイプ	74
PTP プロセス	75
PTP のハイ アベイラビリティ	75
PTP のライセンス要件	76
PTP の注意事項および制約事項	76
PTP のデフォルト設定	76
PTP の設定	77
PTP のグローバルな設定	77
インターフェイスでの PTP の設定	79
PTP 設定の確認	81
<b>ユーザ アカウントおよび RBAC の設定</b>	<b>83</b>
ユーザ アカウントおよび RBAC の概要	83
ユーザ ロール	83
事前定義された SAN 管理者ユーザ ロール	84
ルール	85
SAN 管理者ロール機能のルール マッピング	86
ユーザ ロール ポリシー	88
ユーザ アカウントの設定の制限事項	88
ユーザ パスワードの要件	89
ユーザ アカウントの注意事項および制約事項	90

ユーザ アカウントの設定	90
SAN 管理者ユーザの設定	92
RBAC の設定	93
ユーザ ロールおよびルールの作成	93
機能グループの作成	94
ユーザ ロール インターフェイス ポリシーの変更	95
ユーザ ロール VLAN ポリシーの変更	96
ユーザ ロール VSAN ポリシーの変更	97
ユーザ アカウントと RBAC の設定の確認	98
ユーザ アカウントおよび RBAC のユーザ アカウント デフォルト設定	98
<b>Session Manager の設定</b>	<b>101</b>
Session Manager の概要	101
Session Manager の注意事項および制約事項	102
Session Manager の設定	102
セッションの作成	102
セッションでの ACL の設定	102
セッションの確認	103
セッションのコミット	103
セッションの保存	104
セッションの廃棄	104
Session Manager のコンフィギュレーション例	104
Session Manager 設定の確認	104
<b>スケジューラの設定</b>	<b>107</b>
スケジューラの概要	107
リモート ユーザ認証	108
スケジューラ ログ ファイル	108
スケジューラのライセンス要件	109
スケジューラの注意事項および制約事項	109
スケジューラのデフォルト設定	109
スケジューラの設定	110
スケジューラのイネーブル化	110
スケジューラ ログ ファイル サイズの定義	110

リモート ユーザ認証の設定	111
ジョブの定義	112
ジョブの削除	113
タイムテーブルの定義	114
スケジューラ ログ ファイルの消去	116
スケジューラのディセーブル化	116
スケジューラの設定確認	117
スケジューラの設定例	117
スケジューラ ジョブの作成	117
スケジューラ ジョブのスケジューリング	117
ジョブ スケジュールの表示	118
スケジューラ ジョブの実行結果の表示	118
スケジューラの標準	118
<b>オンライン診断の設定</b>	<b>119</b>
オンライン診断について	119
ブートアップ診断	119
ヘルスマonitoring診断	120
拡張モジュール診断	121
オンライン診断の設定	122
オンライン診断設定の確認	123
オンライン診断のデフォルト設定	123
パリティ エラーの診断	124
パリティ エラーのクリア	124
ソフトエラー リカバリ	125
メモリ テーブルの状態の確認	126
<b>Embedded Event Manager の設定</b>	<b>127</b>
Embedded Event Manager について	127
Embedded Event Manager ポリシー	128
イベント文	129
アクション ステートメント	130
VSH スクリプト ポリシー	130
Embedded Event Manager のライセンス要件	130



Embedded Event Manager の前提条件	131
Embedded Event Manager の注意事項および制約事項	131
Embedded Event Manager のデフォルト設定	132
Embedded Event Manager の設定	132
環境変数の定義	132
CLI によるユーザ ポリシーの定義	133
イベント文の設定	134
アクション文の設定	137
VSH スクリプトによるポリシーの定義	139
VSH スクリプト ポリシーの登録およびアクティブ化	140
システム ポリシーの上書き	141
EEM パブリッシャとしての syslog の設定	142
Embedded Event Manager の設定確認	143
Embedded Event Manager の設定例	144
その他の参考資料	145
EEM の機能の履歴	145
システム メッセージ ログिंगの設定	147
システム メッセージ ログिंगの概要	147
syslog サーバ	148
システム メッセージ ログिंगのライセンス要件	149
システム メッセージ ログिंगの注意事項および制約事項	149
システム メッセージ ログिंगのデフォルト設定	149
システム メッセージ ログिंगの設定	150
ターミナルセッションへのシステム メッセージ ログिंगの設定	150
ファイルへのシステム メッセージ ログिंगの設定	152
モジュールおよびファシリティ メッセージのログिंगの設定	154
ログング タイムスタンプの設定	156
ACL ログング キャッシュの設定	157
インターフェイスへの ACL ログングの適用	157
Source-Interface ログングの設定	158
ACL ログの一致レベルの設定	159
syslog サーバの設定	160

UNIX または Linux システムでの syslog の設定	162
syslog サーバ設定の配布の設定	163
ログ ファイルの表示およびクリア	164
システム メッセージ ロギングの設定確認	165
<b>Smart Call Home の設定</b>	<b>167</b>
Smart Call Home に関する情報	167
Smart Call Home の概要	168
Smart Call Home 宛先プロファイル	168
Smart Call Home アラート グループ	169
Smart Call Home のメッセージ レベル	171
Call Home のメッセージ形式	172
Smart Call Home の注意事項および制約事項	177
Smart Call Home の前提条件	178
Call Home のデフォルト設定	178
Smart Call Home の設定	179
Smart Call Home の登録	179
担当者情報の設定	179
宛先プロファイルの作成	181
宛先プロファイルの変更	182
アラート グループと宛先プロファイルの関連付け	184
アラート グループへの show コマンドの追加	185
電子メール サーバの詳細の設定	186
定期的なインベントリ通知の設定	187
重複メッセージ抑制のディセーブル化	188
Smart Call Home のイネーブル化またはディセーブル化	189
Smart Call Home 設定のテスト	189
Smart Call Home 設定の確認	190
フル テキスト形式での syslog アラート通知の例	191
XML 形式での syslog アラート通知の例	191
<b>ロールバックの設定</b>	<b>195</b>
ロールバックについて	195
ロールバックの注意事項と制約事項	195

チェックポイントの作成	196
ロールバックの実装	197
ロールバック コンフィギュレーションの確認	198
<b>DNS の設定</b>	<b>199</b>
DNS クライアントに関する情報	199
ネーム サーバ	199
DNS の動作	200
High Availability (高可用性)	200
DNS クライアントの前提条件	200
DNS クライアントのライセンス要件	200
DNS クライアントのデフォルト設定	201
DNS 送信元インターフェイスの設定	201
DNS クライアントの設定	202
<b>SNMP の設定</b>	<b>205</b>
SNMP について	205
SNMP 機能の概要	205
SNMP 通知	206
SNMPv3	206
SNMPv1、SNMPv2、SNMPv3 のセキュリティ モデルおよびセキュリティ レベル	207
ユーザベースのセキュリティ モデル	208
CLI および SNMP ユーザの同期	209
グループベースの SNMP アクセス	210
SNMP のライセンス要件	210
SNMP の注意事項および制約事項	210
SNMP のデフォルト設定	210
SNMP の設定	211
SNMP 送信元インターフェイスの設定	211
SNMP ユーザの設定	212
SNMP メッセージ暗号化の適用	213
SNMPv3 ユーザに対する複数のロールの割り当て	213
SNMP コミュニティの作成	213

SNMP 要求のフィルタリング	214
SNMP 通知レシーバの設定	214
VRF を使用する SNMP 通知レシーバの設定	216
VRF に基づく SNMP 通知のフィルタリング	216
インバンドアクセスのための SNMP の設定	217
SNMP 通知のイネーブル化	218
リンクの通知の設定	221
インターフェイスでのリンク通知のディセーブル化	221
TCP での SNMP に対するワンタイム認証のイネーブル化	222
SNMP スイッチの連絡先および場所の情報の割り当て	222
コンテキストとネットワーク エンティティ間のマッピング設定	223
SNMP のディセーブル化	224
SNMP 設定の確認	224
<b>RMON の設定</b>	<b>225</b>
RMON について	225
RMON アラーム	226
RMON イベント	226
RMON の設定時の注意事項および制約事項	227
RMON 設定の確認	227
デフォルトの RMON 設定	227
RMON アラームの設定	228
RMON イベントの設定	229
<b>SPAN の設定</b>	<b>231</b>
SPAN に関する情報	231
SPAN 送信元	232
送信元ポートの特性	232
SPAN 宛先	233
宛先ポートの特性	233
SPAN の注意事項および制約事項	233
SPAN セッションの作成または削除	234
イーサネット宛先ポートの設定	235
送信元ポートの設定	236

送信元ポート チャンネルまたは VLAN の設定	236
SPAN セッションの説明の設定	237
SPAN セッションのアクティブ化	238
SPAN セッションの一時停止	238
SPAN 情報の表示	239
SPAN のコンフィギュレーション例	240
SPAN セッションのコンフィギュレーション例	240
単一方向 SPAN セッションの設定例	240
SPAN ACL の設定例	241
UDF ベース SPAN の設定例	241
ローカル SPAN および ERSPAN の設定	243
ERSPAN に関する情報	243
ERSPAN 送信元	244
ERSPAN 宛先	244
ERSPAN セッション	244
マルチ ERSPAN セッション	245
High Availability (高可用性)	245
ERSPAN のライセンス要件	245
ERSPAN の前提条件	246
ERSPAN の注意事項および制約事項	246
ERSPAN のデフォルト設定	250
ERSPAN の設定	250
ERSPAN 送信元セッションの設定	250
ERSPAN 送信元セッションの SPAN 転送ドロップトラフィックの設定	253
ERSPAN ACL の設定	254
ユーザ定義フィールド (UDF) ベースの ACL サポートの設定	256
ERSPAN 宛先セッションの設定	258
ERSPAN セッションのシャットダウンまたはアクティブ化	261
ERSPAN 設定の確認	263
ERSPAN の設定例	264
ERSPAN 送信元セッションの設定例	264
ERSPAN 宛先セッションの設定例	264

ERSPAN ACL の設定例	265
UDF ベース ERSPAN の設定例	265
その他の参考資料	266
関連資料	266
<b>グレースフル挿入と削除の設定</b>	<b>267</b>
グレースフル挿入と削除について	267
プロファイル	268
スナップショット	269
<b>GIR のライセンス要件</b>	<b>270</b>
<b>GIR のワークフロー</b>	<b>270</b>
メンテナンス モード プロファイルの設定	270
通常モード プロファイルの設定	272
スナップショットの作成	273
スナップショットへの show コマンドの追加	275
グレースフル削除のトリガー	277
グレースフル挿入のトリガー	279
GIR 設定の確認	280
<b>PCAP SNMP パーサーの使用</b>	<b>283</b>
PCAP SNMP パーサーの使用	283
<b>ソフトウェア メンテナンス アップグレード (SMU) の実行</b>	<b>285</b>
SMU について	285
パッケージ管理	286
SMU の前提条件	286
SMU の注意事項と制約事項	287
Cisco NX-OS のソフトウェア メンテナンス アップグレードの実行	287
パッケージ インストールの準備	287
ローカルストレージ デバイスまたはネットワーク サーバへのパッケージ ファイルのコピー	288
パッケージの追加とアクティブ化	289
アクティブなパッケージセットのコミット	291
パッケージの非アクティブ化と削除	291
インストール ログ情報の表示	292

タップアグリゲーションおよび MPLS ストリッピングの設定	295
タップアグリゲーションに関する情報	295
ネットワーク タップ	295
タップアグリゲーション	296
タップアグリゲーションの注意事項と制約事項	298
MPLS ストリッピングに関する情報	298
MPLS の概要	298
MPLS ヘッダー ストリッピング	299
MPLS ストリッピングに関する注意事項と制限事項	299
タップアグリゲーションの設定	300
タップアグリゲーションの有効化	300
タップアグリゲーション ポリシーの設定	301
タップアグリゲーション ポリシーのインターフェイスへのアタッチ	302
タップアグリゲーションの設定の確認	303
MPLS ストリッピングの設定	303
MPLS ストリッピングの有効化	303
MPLS ラベルの追加と削除	304
ラベルエントリのクリア	305
MPLS ストリッピング カウンタのクリア	305
MPLS ラベル エージングの設定	306
宛先 MAC アドレスの設定	306
MPLS ラベルの設定の確認	307
sFLOW の設定	309
sFlow について	309
sFlow エージェント	309
ライセンス要件	310
前提条件	310
sFlow の注意事項および制約事項	310
sFlow のデフォルト設定	311
sFlow の設定	311
sFlow 機能のイネーブル化	311
サンプリング レートの設定	312

- 最大サンプリング サイズの設定 312
- カウンタのポーリング間隔の設定 313
- 最大データグラム サイズの設定 314
- sFlow アナライザのアドレスの設定 315
- sFlow アナライザ ポートの設定 316
- sFlow エージェント アドレスの設定 316
- sFlow サンプリング データ ソースの設定 317
- sFlow 設定の確認 318
- sFlow の設定例 319
- sFlow に関する追加情報 319
- sFlow の機能の履歴 319





# 第 1 章

## はじめに

---

この前書きは、次の項で構成されています。

- [対象読者, 1 ページ](#)
- [表記法, 1 ページ](#)
- [Cisco Nexus 3000 シリーズ NX-OS ソフトウェアの関連資料, 3 ページ](#)
- [マニュアルに関するフィードバック, 4 ページ](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート, 4 ページ](#)

## 対象読者

このマニュアルは、Cisco Nexus デバイスのコンフィギュレーションおよびメンテナンスを担当するネットワーク管理者を対象としています。

## 表記法

コマンドの説明には、次のような表記法が使用されます。

表記法	説明
<b>bold</b>	太字の文字は、表示どおりにユーザが入力するコマンドおよびキーワードです。
<i>italic</i>	イタリック体の文字は、ユーザが値を入力する引数です。
[x]	省略可能な要素（キーワードまたは引数）は、角カッコで囲んで示しています。

表記法	説明
[x   y]	いずれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードや引数は、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
{x   y}	必ずいずれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードや引数は、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x {y   z}]	角カッコまたは波カッコが入れ子になっている箇所は、任意または必須の要素内の任意または必須の選択肢であることを表します。角カッコ内の波カッコと縦棒は、省略可能な要素内で選択すべき必須の要素を示しています。
variable	ユーザが値を入力する変数であることを表します。イタリック体を使用できない場合に使用されます。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。

例では、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
screen フォント	スイッチが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコ (<>) で囲んで示しています。
[ ]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報やこのマニュアルに記載されていない参照資料を紹介しています。



注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

## Cisco Nexus 3000 シリーズ NX-OS ソフトウェアの関連資料

Cisco NX-OS 3000 シリーズ全体のマニュアルセットは、次の URL から入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/tsd\\_products\\_support\\_series\\_home.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/tsd_products_support_series_home.html)

### リリースノート

リリースノートは、次の URL から入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod\\_release\\_notes\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod_release_notes_list.html)

### インストールガイドおよびアップグレードガイド

インストールガイドおよびアップグレードガイドは、次の URL から入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod_installation_guides_list.html)

### ライセンス情報

NX-OS の機能ライセンスの詳細については、『『Cisco NX-OS Licensing Guide』』を参照してください。 [http://www.cisco.com/en/US/docs/switches/datacenter/sw/nx-os/licensing/guide/b\\_Cisco\\_NX-OS\\_Licensing\\_Guide.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/switches/datacenter/sw/nx-os/licensing/guide/b_Cisco_NX-OS_Licensing_Guide.html) の。

NX-OS のエンドユーザ契約書および著作権の詳細については、『Cisco NX-OS ソフトウェアのライセンスおよび著作権情報』を参照してください。は、次の URL から入手できます。 [http://www.cisco.com/en/US/docs/switches/datacenter/sw/4\\_0/nx-os/license\\_agreement/nx-ossw\\_lisns.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/switches/datacenter/sw/4_0/nx-os/license_agreement/nx-ossw_lisns.html)。

### コンフィギュレーションガイド

コンフィギュレーションガイドは、次の URL から入手できます。

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/switches/nexus-3000-series-switches/products-installation-and-configuration-guides-list.html>

### プログラミングガイド

XML インターフェイス ユーザガイドおよびその他のプログラミングガイドは、次の URL から入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/products\\_programming\\_reference\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/products_programming_reference_guides_list.html)

### テクニカル リファレンス

テクニカル リファレンスは、次の URL から入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod\\_technical\\_reference\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod_technical_reference_list.html)

### エラー メッセージおよびシステム メッセージ

エラー メッセージおよびシステム メッセージ リファレンス ガイドは、次の URL から入手できません。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/products\\_system\\_message\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/products_system_message_guides_list.html)

## マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、[nexus3k-docfeedback@cisco.com](mailto:nexus3k-docfeedback@cisco.com) へご連絡ください。

ご協力をよろしくお願いいたします。

## マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用、サービス要求の送信、追加情報の収集の詳細については、『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。このドキュメントは、<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html> から入手できます。

『*What's New in Cisco Product Documentation*』では、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧を、RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用して、コンテンツをデスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。



## 第 2 章

# 新機能および変更された機能に関する情報

この章の内容は、次のとおりです。

- [新機能および変更された機能に関する情報, 5 ページ](#)

## 新機能および変更された機能に関する情報

次の表は、この最新リリースに関するガイドでの主な変更点の概要を示したものです。

機能	説明	追加または変更されたリリース	参照先
グレースフル挿入と削除 (GIR)	vPC ドメインのシャットダウンサポートおよびPIMプロトコルの分離のサポートが追加されました。	7.0(3)I2(2)	<a href="#">「グレースフル挿入と削除について, (267 ページ)」</a>
ユーザ アカウント	ユーザ名の最初の文字としてアンダースコア ( _ ) のサポートが追加されました。	7.0(3)I2(2)	<a href="#">ユーザアカウントの設定, (90 ページ)</a>
ERSPAN	Rx 方向へのプライオリティフロー制御 (PFC) フレームのスパニングを可能にするために、 <b>allow-pfc</b> オプションが <b>source interfacetype rx</b> コマンドに追加されました。	7.0(3)I2(1)	<a href="#">ERSPAN 送信元セッションの設定, (250 ページ)</a>

機能	説明	追加または変更されたリリース	参照先
ERSPAN	<b>show monitor session</b> コマンドの出力に、出力インタフェース情報が追加されました。	7.0(3)I2(1)	<a href="#">ERSPAN 設定の確認</a> , (263 ページ)
ERSPAN の機能強化 : SPAN ACL に対する <b>set-erspan-gre-proto</b> < および <b>set-erspan-dscp</b> < オプション。	<b>set-erspan-gre-proto</b> < および <b>set-erspan-dscp</b> < オプションが SPAN ACL に追加されています。	7.0(3)I2(1)	<a href="#">ERSPAN の注意事項および制約事項</a> <a href="#">ERSPAN ACL の設定</a> , (254 ページ) <a href="#">ERSPAN ACL の設定例</a> , (265 ページ)
MAC 衝突イベントに対する新しい syslog カテゴリ (Notice) の追加。	新しい syslog カテゴリ (Notice) の情報が追加されました。MAC 衝突イベント、およびその他の詳細情報 (送信元 MAC アドレス、VLAN、内部ポートの番号情報など) が含まれます。	7.0(3)I2(1)	<a href="#">システムメッセージロギングの注意事項および制約事項</a> , (149 ページ)
BCM_USD、ETHPC、FWM、および NOHMS プロセスのログレベルの設定。	BCM_USD、ETHPC、FWM、および NOHMS プロセスのログレベルは設定できないという注が追加されました。	7.0(3)I2(1)	<a href="#">モジュールおよびファミリーメッセージのロギングの設定</a> , (154 ページ)
パスワード強度チェックの有効化	新しいパスワード強度チェック基準の情報が追加されました。	7.0(3)I2(1)	<a href="#">ユーザアカウントの注意事項および制約事項</a> , (90 ページ) <a href="#">ユーザアカウントの設定</a> , (90 ページ)

機能	説明	追加または変更されたリリース	参照先
<b>show ntp session status</b> CLI コマンドの出力の更新。	<b>show ntp session status</b> CLI コマンドの更新された出力に情報が追加されました。最後のアクションのタイムスタンプ、最後のアクション、最後のアクションの結果、および最後のアクションの失敗理由は表示されません。	7.0(3)I2(1)	<a href="#">NTP の注意事項と制約事項</a> , (56 ページ)
グレースフル挿入と削除の設定	Cisco Nexus 3000 シリーズスイッチのグレースフル挿入と削除 (GIR) の設定方法に関する情報が追加されました。	7.0(3)I2(1)	<a href="#">グレースフル挿入と削除について</a> , (267 ページ)
PCAP SNMP パーサーの使用	PCAP SNMP パーサーツールの情報が追加されました。	7.0(3)I2(1)	<a href="#">PCAP SNMP パーサーの使用</a> , (283 ページ)
<b>show monitor session</b> コマンドの出力に、送信元 VLAN のすべての方向を表示。	<b>show monitor session</b> コマンドの出力には、送信元 VLAN のすべての方向が表示されますが、フィルタ VLAN のオプションは表示されません。	7.0(3)I2(1)	<a href="#">SPAN の注意事項および制約事項</a> , (233 ページ)







# 第 3 章

## 概要

この章の内容は、次のとおりです。

- ・ [システム管理機能, 9 ページ](#)

## システム管理機能

このマニュアルに記載されているシステム管理機能について説明します。

機能	説明
スイッチ プロファイル	設定の同期を使用すると、管理者は、設定変更を1台のスイッチで行い、ピアスイッチに自動的に設定を同期させることができます。この機能により、設定ミスがなくなり、管理上のオーバーヘッドが軽減されます。  設定同期モード (config-sync) を使用すると、ローカルおよびピアスイッチを同期するためにスイッチ プロファイルを作成できます。
シスコ ファブリック サービス	Cisco MDS NX-OS ソフトウェアは、データベースを効率的に分散し、デバイスの柔軟性を高めるため、Cisco Fabric Services (CFS) インフラストラクチャを使用します。CFSにより、ファブリック内のすべてのスイッチに設定情報を自動的に配信できるため、SANのプロビジョニングが簡単になります。

機能	説明
高精度時間プロトコル	高精度時間プロトコル (PTP) はネットワークに分散したノードの時刻同期プロトコルです。そのハードウェアのタイムスタンプ機能は、ネットワーク タイム プロトコル (NTP) などの他の時刻同期プロトコルより高い精度を実現します。
ユーザ アカウントおよび RBAC	ユーザ アカウントおよびロールベース アクセス コントロール (RBAC) では、割り当てられたロールのルールを定義できます。ロールは、ユーザが管理操作にアクセスするための許可を制限します。各ユーザロールに複数のルールを含めることができ、各ユーザが複数のロールを持つことができます。
Session Manager	Session Manager を使用すると、コンフィギュレーションを作成し、すべて正しく設定されていることを確認および検証したあとでバッチモードで適用できます。
オンライン診断	Cisco Generic Online Diagnostics (GOLD) では、複数のシスコプラットフォームにまたがる診断操作の共通フレームワークを定義しています。オンライン診断フレームワークでは、中央集中システムおよび分散システムに対応する、プラットフォームに依存しない障害検出アーキテクチャを規定しています。これには共通の診断 CLI とともに、起動時および実行時に診断するための、プラットフォームに依存しない障害検出手順が含まれます。  プラットフォーム固有の診断機能は、ハードウェア固有の障害検出テストを行い、診断テストの結果に応じて適切な対策を実行できます。

機能	説明
『System Message Logging』	<p>システム メッセージ ロギングを使用して宛先を制御し、システム プロセスが生成するメッセージの重大度をフィルタリングできます。端末セッション、ログファイル、およびリモートシステム上の syslog サーバへのロギングを設定できます。</p> <p>システム メッセージ ロギングは RFC 3164 に準拠しています。システム メッセージのフォーマットおよびデバイスが生成するメッセージの詳細については、『Cisco NX-OS System Messages Reference』を参照してください。</p>
Smart Call Home	<p>Call Home は重要なシステム ポリシーを電子メールで通知します。Cisco NX-OS では、ポケットベル サービス、標準的な電子メール、または XML ベースの自動化された解析アプリケーションとの最適な互換性のために、広範なメッセージ形式が提供されています。この機能を使用して、ネットワーク サポート エンジニアや Network Operations Center を呼び出せます。また、Cisco Smart Call Home サービスを使用して、TAC でケースを自動的に生成することもできます。</p>
設定のロールバック	<p>設定のロールバック機能を使用すると、Cisco NX-OS のコンフィギュレーションのスナップショットまたはユーザチェックポイントを使用して、スイッチをリロードしなくても、いつでもそのコンフィギュレーションをスイッチに再適用できます。権限のある管理者であれば、チェックポイントで設定されている機能について専門的な知識がなくても、ロールバック機能を使用して、そのチェックポイント コンフィギュレーションを適用できます。</p>
SNMP	<p>簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) は、SNMP マネージャとエージェント間の通信用メッセージフォーマットを提供する、アプリケーションレイヤプロトコルです。SNMP では、ネットワーク内のデバイスのモニタリングと管理に使用する標準フレームワークと共通言語が提供されます。</p>

機能	説明
RMON	RMON は、各種のネットワーク エージェント およびコンソール システムがネットワーク モニタリングデータを交換できるようにするための、Internet Engineering Task Force (IETF) 標準 モニタリング仕様です。Cisco NX-OS では、Cisco NX-OS デバイスをモニタするための、RMON アラーム、イベント、およびログをサポートします。
SPAN	スイッチド ポート アナライザ (SPAN) 機能 (ポート ミラーリングまたはポート モニタリングとも呼ばれる) は、ネットワークアナライザによる分析のためにネットワークトラフィックを選択します。ネットワークアナライザは、Cisco SwitchProbe、ファイバチャネルアナライザ、またはその他のリモート モニタリング (RMON) プロブです。

機能	説明
ERSPAN	<p><b>Encapsulated Remote Switched Port Analyzer</b></p> <p>(ERSPAN) は、IP ネットワークでミラーリングされたトラフィックを転送するために使用します。ERSPAN は異なるスイッチ上の送信元ポート、送信元 VLAN、および宛先をサポートし、ネットワーク上にある複数のスイッチのリモートモニタリングを可能にします。ERSPAN は、スイッチ間でトラフィックを伝送するために、総称ルーティングカプセル化 (GRE) を使用します。</p> <p>ERSPAN は、ERSPAN 送信元セッション、ルーティング可能な ERSPAN GRE カプセル化トラフィック、および ERSPAN 宛先セッションで構成されています。異なるスイッチで ERSPAN 送信元セッションおよび宛先セッションを個別に設定します。</p> <p>ERSPAN 送信元セッションを 1 台のスイッチ上で設定するには、送信元ポートまたは VLAN のセットを、宛先 IP アドレス、ERSPAN ID 番号、および仮想ルーティングおよび転送 (VRF) 名に対応付けます。ERSPAN 宛先セッションを別のスイッチ上で設定するには、宛先を送信元 IP アドレス、ERSPAN ID 番号、および VRF 名に対応付けます。</p> <p>ERSPAN 送信元セッションは、送信元ポートまたは送信元 VLAN からのトラフィックをコピーし、このトラフィックを、ルーティング可能な GRE カプセル化パケットを使用して ERSPAN 宛先セッションに転送します。ERSPAN 宛先セッションはトラフィックを宛先へスイッチングします。</p>





## 第 4 章

# スイッチ プロファイルの設定

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [スイッチ プロファイルに関する情報, 16 ページ](#)
- [スイッチ プロファイル コンフィギュレーション モード, 16 ページ](#)
- [コンフィギュレーションの検証, 17 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルを使用したソフトウェアのアップグレードとダウングレード, 18 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルの前提条件, 19 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルの注意事項および制約事項, 19 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルの設定, 20 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルへのスイッチの追加, 22 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルのコマンドの追加または変更, 23 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルのインポート, 26 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルのコマンドの確認, 28 ページ](#)
- [ピア スイッチの分離, 29 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルの削除, 29 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルからのスイッチの削除, 30 ページ](#)
- [スイッチ プロファイル バッファの表示, 31 ページ](#)
- [スイッチのリブート後のコンフィギュレーションの同期化, 32 ページ](#)
- [スイッチ プロファイル設定の show コマンド, 33 ページ](#)
- [サポートされているスイッチ プロファイル コマンド, 33 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルの設定例, 35 ページ](#)

## スイッチ プロファイルに関する情報

Cisco NX-OS Release 6.0(2)U4(1) では、スイッチ プロファイルが導入されています。一部のアプリケーションには、ネットワーク内の Cisco Nexus シリーズ スイッチ間で整合性のある設定が必要です。コンフィギュレーションが一致しない場合、エラーやコンフィギュレーションエラーが生じる可能性があります。その結果、サービスが中断することがあります。

設定の同期 (config-sync) 機能では、1つのスイッチ プロファイルを設定し、設定を自動的にピア スイッチに同期させることができます。スイッチ プロファイルには次の利点があります。

- スイッチ間でコンフィギュレーションを同期化できます。
- 2つのスイッチ間で接続が確立されると、コンフィギュレーションがマージされます。
- どのコンフィギュレーションを同期化するかを完全に制御できます。
- マージチェックおよび相互排除チェックを使用して、ピア全体でコンフィギュレーションの一貫性を確保します。
- verify 構文および commit 構文を提供します。

## スイッチ プロファイル コンフィギュレーション モード

スイッチ プロファイル機能には、次のコンフィギュレーション モードがあります。

- コンフィギュレーション同期化モード
- スイッチ プロファイル モード
- スイッチ プロファイル インポート モード

### コンフィギュレーション同期化モード

コンフィギュレーション同期化モード (config-sync) では、マスターとして使用するローカル スイッチ上で **config sync** コマンドを使用して、スイッチ プロファイルを作成できます。プロファイルを作成後、同期するピア スイッチで **config sync** コマンドを入力できます。

### スイッチ プロファイル モード

スイッチ プロファイル モードを使用すると、後でピア スイッチと同期化するスイッチ プロファイルにサポートされているコンフィギュレーション コマンドを追加できます。スイッチ プロファイル モードで入力したコマンドは、**commit** コマンドを入力するまでバッファに格納されます。

### スイッチ プロファイル インポート モード

以前のリリースからアップグレードする場合、**import** コマンドを入力して、サポートされている実行コンフィギュレーション コマンドをスイッチ プロファイルにコピーすることができます。**import** コマンドを入力すると、スイッチ プロファイル モード (config-sync-sp) は、スイッチ プ



ロファイルインポートモード (`config-sync-sp-import`) に変わります。スイッチプロファイルインポートモードでは、実行コンフィギュレーションから既存のスイッチコンフィギュレーションをインポートし、スイッチプロファイルに含めるコマンドを指定できます。

異なるトポロジで、スイッチプロファイルに含まれる異なるコマンドが必要になるため、**import** コマンドモードでは、特定のトポロジに合うようにインポートされた一連のコマンドを変更できます。

インポートプロセスを完了し、スイッチプロファイルにコンフィギュレーションを移動するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。インポートプロセス中のコンフィギュレーション変更はサポートされていません。そのため、**commit** コマンドを入力する前に新しいコマンドを追加した場合、スイッチプロファイルは保存されていない状態であり、スイッチはスイッチプロファイルインポートモードのままになります。追加したコマンドを削除するか、インポートを中断することができます。プロセスを中断すると、保存されていないコンフィギュレーションは失われます。インポートを完了したら、新しいコマンドをスイッチプロファイルに追加できます。

## コンフィギュレーションの検証

次の2種類のコンフィギュレーション検証チェックを使用して、2種類のスイッチプロファイルエラーを識別できます。

- 相互排除チェック
- マージチェック

### 相互排除チェック

スイッチプロファイルに含まれるコンフィギュレーションが上書きされる可能性を減らすためには、相互排除 (`mutex`) でスイッチプロファイルコマンドをローカルスイッチに存在するコマンドとピアスイッチのコマンドに照合してチェックします。スイッチプロファイルに含まれるコマンドは、そのスイッチプロファイルの外部またはピアスイッチでは設定できません。この要件により、既存のコマンドが意図せずに上書きされる可能性が減少します。

ピアスイッチに到達可能である場合、`mutex` チェックは、共通プロセスの一環として両方のスイッチで行われます。それ以外の場合は、`mutex` チェックはローカルで実行されます。設定端末から行われるコンフィギュレーション変更は、ローカルスイッチのみに反映されます。

`mutex` チェックがエラーを識別すると、`mutex` の障害として報告され、手動で修正する必要があります。

相互排除ポリシーには、次の例外が適用されます。

- インターフェイス設定：ポートチャネルインターフェイスは、スイッチプロファイルモードまたはグローバルコンフィギュレーションモードで設定が済んでいる必要があります。



(注) 一部のポート チャネル サブコマンドは、スイッチ プロファイル モードで設定できません。ただしこれらのコマンドは、ポート チャネルがスイッチ プロファイル モードで作成、設定されている場合でも、グローバル コンフィギュレーション モードからであれば設定することができます。

たとえば、次のコマンドはグローバル コンフィギュレーション モードでのみ設定可能です。

```
switchport private-vlan association trunk primary-vlan secondary-vlan
```

- shutdown/no shutdown
- System QoS

### マージ チェック

マージチェックは、コンフィギュレーションを受信する側のピアスイッチで実行されます。マージチェックは、受信したコンフィギュレーションが、受信側のスイッチにすでに存在するスイッチ プロファイル コンフィギュレーションと競合しないようにします。マージチェックは、マージプロセスまたはコミットプロセス中に実行されます。エラーはマージエラーとして報告され、手動で修正する必要があります。

1つまたは両方のスイッチがリロードされ、コンフィギュレーションが初めて同期化される際には、マージチェックによって、両方のスイッチのスイッチ プロファイル コンフィギュレーションが同じであることが検証されます。スイッチ プロファイルの相違はマージエラーとして報告され、手動で修正する必要があります。

## スイッチ プロファイルを使用したソフトウェアのアップグレードとダウングレード

以前のリリースにダウングレードすると、以前のリリースではサポートされていない既存のスイッチ プロファイルを削除するように要求されます。

以前のリリースからアップグレードする場合、スイッチ プロファイルに一部の実行コンフィギュレーション コマンドを移動することを選択できます。 **import** コマンドを使用すると、関連するスイッチ プロファイル コマンドをインポートできます。バッファされた (コミットされていない) コンフィギュレーションが存在する場合でもアップグレードを実行できますが、コミットされていないコンフィギュレーションは失われます。

スイッチ プロファイルに含まれるスイッチの1つで **In Service Software Upgrade (ISSU)** を実行しても、コンフィギュレーションを同期化することはできません。これは、ピアに到達できないためです。

## スイッチ プロファイルの前提条件

スイッチ プロファイルには次の前提条件があります。

- **cfs ipv4 distribute** コマンドを入力して、両方のスイッチで **mgmt0** 上の Cisco Fabric Series over IP (CFSolP) 配信を有効にする必要があります。
- **config sync** および **switch-profile** コマンドを入力して、両方のピア スイッチで同じ名前のスイッチ プロファイルを設定する必要があります。
- **sync-peers destination** コマンドを入力して、各スイッチをピア スイッチとして設定します。

## スイッチ プロファイルの注意事項および制約事項

スイッチ プロファイルを設定する場合は、次の注意事項および制約事項を考慮してください。

- **mgmt0** インターフェイスを使用してのみ設定同期化をイネーブルにできます。
- 設定の同期は、**mgmt0** インターフェイスを使用して実行され、管理 SVI を使用して実行できません。
- 同じスイッチ プロファイル名で同期されたピアを設定する必要があります。
- スイッチ プロファイル設定で使用可能なコマンドを、設定スイッチ プロファイル (**config-sync-sp**) モードで設定できます。
- 1つのスイッチ プロファイルセッションを一度に進行できます。別のセッションの開始を試みると失敗します。
- スイッチ プロファイルセッションの進行中は、コンフィギュレーション端末モードから実行されたサポートされているコマンドの変更はブロックされます。スイッチ プロファイルセッションが進行しているときは、コンフィギュレーション端末モードからサポートされていないコマンドの変更を行わないでください。
- **commit** コマンドを入力し、ピアスイッチに到達可能である場合、設定は、両方のピアスイッチに適用されるか、いずれのスイッチにも適用されません。コミットの障害が発生した場合、コマンドは、スイッチ プロファイルバッファに残ります。その場合、必要な修正をし、コミットを再実行します。
- いったんスイッチ プロファイル モードで設定したポート チャネルを、グローバル コンフィギュレーション (**config terminal**) モードで設定することはできません。



(注) ポートチャンネルに関する一部のサブコマンドは、スイッチプロファイルモードでは設定できません。ただしこれらのコマンドは、ポートチャンネルがスイッチプロファイルモードで作成、設定されている場合でも、グローバルコンフィギュレーションモードからであれば設定することができます。

たとえば、次のコマンドはグローバルコンフィギュレーションモードでのみ設定可能です。

```
switchport private-vlan association trunk primary-vlan secondary-vlan
```

- shutdown および no shutdown は、グローバルコンフィギュレーションモードとスイッチプロファイルモードのどちらでも設定できます。
- ポートチャンネルをグローバルコンフィギュレーションモードで作成した場合は、メンバーインターフェイスを含むチャンネルグループも、グローバルコンフィギュレーションモードを使用して作成する必要があります。
- スイッチプロファイルモードで設定されたポートチャンネルには、スイッチプロファイルの内部と外部どちらからもメンバにすることができます。
- メンバーインターフェイスをスイッチプロファイルにインポートする場合は、メンバーインターフェイスを含むポートチャンネルがスイッチプロファイル内にも存在する必要があります。

#### 接続の切断後の同期化の注意事項

- mgmt0 インターフェイスの接続が失われた後の設定の同期化：mgmt0 インターフェイスの接続が失われ、設定変更が必要な場合は、スイッチプロファイルを使用して、両方のスイッチの設定変更を適用します。mgmt0 インターフェイスへの接続が復元されると、両方のスイッチが自動的に同期されます。

設定変更を1台のスイッチだけで実行する場合、マージは、mgmt0 インターフェイスが起動し、設定が他のスイッチに適用されると実行されます。

## スイッチ プロファイルの設定

スイッチプロファイルは作成および設定できます。コンフィギュレーション同期モード (config-sync) で、**switch-profile name** コマンドを入力します。

#### はじめる前に

スイッチプロファイルは、各スイッチで同じ名前を使用して作成する必要があります。また、スイッチは互いにピアとして設定する必要があります。同じアクティブなスイッチプロファイルが設定されたスイッチ間で接続が確立されると、スイッチプロファイルが同期化されます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>cfs ipv4 distribute</b>  例： switch(config)# cfs ipv4 distribute switch(config)#	ピア スイッチ間の CFS 配信をイネーブルにします。
ステップ 3	<b>config sync</b>  例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 4	<b>switch-profile name</b>  例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	<b>sync-peers destination IP-address</b>  例： switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1 switch(config-sync-sp)#	ピア スイッチを設定します。
ステップ 6	<b>show switch-profile name status</b>  例： switch(config-sync-sp)# show switch-profile abc status switch(config-sync-sp)#	(任意) ローカル スイッチのスイッチ プロファイルおよびピア スイッチ情報を表示します。
ステップ 7	<b>exit</b>  例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	スイッチ プロファイル コンフィギュレーションモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
ステップ 8	<b>copy running-config startup-config</b>  例： switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルのステータスを表示する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# cfs ipv4 distribute
switch(config-sync)# switch-profile abc
switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile abc status
Start-time: 15801 usecs after Mon Aug 23 06:21:08 2010
End-time: 6480 usecs after Mon Aug 23 06:21:13 2010

Profile-Revision: 1
Session-type: Initial-Exchange
Peer-triggered: Yes
Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.1.1.1
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):
switch(config-sync-sp)# exit
switch#
```

## スイッチ プロファイルへのスイッチの追加

スイッチプロファイル コンフィギュレーションモードで **sync-peers destination destination IP** コマンドを入力し、スイッチプロファイルにスイッチを追加します。

スイッチを追加する場合は、次の注意事項に従ってください。

- スイッチは IP アドレスで識別されます。
- 宛先 IP は同期するスイッチの IP アドレスです。
- コミットされたスイッチプロファイルは、ピア スイッチでも設定の同期が設定されている場合に、新しく追加されたピアと（オンラインの場合）同期されます。

メンバー インターフェイスをスイッチプロファイルにインポートする場合は、メンバー インターフェイスを含むポート チャネルがスイッチプロファイル内にも存在する必要があります。

### はじめる前に

ローカルスイッチでスイッチプロファイルを作成した後、同期に含まれる 2 番目のスイッチを追加する必要があります。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b>  例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	<b>switch-profile name</b>  例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>sync-peers destination destination IP</b>  例： switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1 switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルにスイッチを追加します。
ステップ 4	<b>exit</b>  例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	スイッチ プロファイル コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 5	<b>show switch-profile peer</b>  例： switch# show switch-profile peer	(任意) スイッチプロファイルのピアの設定を表示します。
ステップ 6	<b>copy running-config startup-config</b>  例： switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## スイッチ プロファイルのコマンドの追加または変更

スイッチプロファイルのコマンドを変更するには、変更されたコマンドをスイッチプロファイルに追加し、**commit** コマンドを入力してコマンドを適用し、ピアスイッチが到達可能な場合にスイッチプロファイルを同期します。

スイッチプロファイルコマンドを追加または変更するときは、次の注意事項に従ってください。

- 追加または変更されたコマンドは、**commit** コマンドを入力するまでバッファに格納されません。

- コマンドは、バッファリングされた順序で実行されます。特定のコマンドに順序の依存関係がある場合（たとえば、QoS ポリシーは適用前に定義する必要があります）、その順序を維持する必要があります。そうしないとコミットに失敗する可能性があります。**show switch-profile name buffer** コマンド、**buffer-delete** コマンド、**buffer-move** コマンドなどのユーティリティコマンドを使用して、バッファを変更し、入力済みのコマンドの順序を修正できます。

### はじめる前に

ローカルおよびピア スイッチでスイッチ プロファイルを設定したら、スイッチ プロファイルにサポートされているコマンドを追加し、コミットする必要があります。コマンドは、**commit** コマンドを入力するまでスイッチ プロファイル バッファに追加されます。**commit** コマンドは次を行います。

- **mutex** チェックとマージチェックを起動し、同期を確認します。
- ロールバック インフラストラクチャでチェックポイントを作成します。
- ローカル スイッチおよびピア スイッチのコンフィギュレーションを適用します。
- スイッチ プロファイル内の任意のスイッチでアプリケーション障害がある場合は、すべてのスイッチでロールバックを実行します。
- チェックポイントを削除します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b>  例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	<b>switch-profile name</b>  例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチ プロファイルを設定し、スイッチ プロファイルの名前を設定し、スイッチ プロファイル同期コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<i>Command argument</i>  例： switch(config-sync-sp)# interface Port-channel100 switch(config-sync-sp-if)# speed 1000 switch(config-sync-sp-if)# interface Ethernet1/1 switch(config-sync-sp-if)# speed 1000 switch(config-sync-sp-if)# channel-group 100	スイッチ プロファイルにコマンドを追加します。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>show switch-profile name buffer</b>  例： switch(config-sync-sp)# show switch-profile abc buffer switch(config-sync-sp)#	(任意) スイッチ プロファイルバッファ内のコン フィギュレーション コマンドを表示しま す。
ステップ 5	<b>verify</b>  例： switch(config-sync-sp)# verify	スイッチ プロファイル バッファ内のコマ ンドを確認します。
ステップ 6	<b>commit</b>  例： switch(config-sync-sp)# commit	スイッチ プロファイルにコマンドを保存 し、ピア スイッチと設定を同期します。
ステップ 7	<b>show switch-profile name status</b>  例： switch(config-sync-sp)# show switch-profile abc status switch(config-sync-sp)#	(任意) ローカル スイッチのスイッチ プロファ イルのステータスとピア スイッチのステ ータスを表示します。
ステップ 8	<b>exit</b>  例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	スイッチ プロファイル コンフィギュレ ーション モードを終了します。
ステップ 9	<b>copy running-config startup-config</b>  例： switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタート アップ コンフィギュレーションにコピー します。

次に、スイッチ プロファイルを作成し、ピア スイッチを設定し、スイッチ プロファイルにコマ  
ンドを追加する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# cfs ipv4 distribute
switch(config-sync)# switch-profile abc
switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1
switch(config-sync-sp)# interface port-channel100
switch(config-sync-sp-if)# speed 1000
switch(config-sync-sp-if)# interface Ethernet1/1
switch(config-sync-sp-if)# speed 1000
switch(config-sync-sp-if)# channel-group 100
switch(config-sync-sp)# verify
switch(config-sync-sp)# commit
switch(config-sync-sp)# exit
switch#
```

次に、定義されたスイッチ プロファイルがある既存のコンフィギュレーションの例を示します。2 番目の例は、スイッチ プロファイルに変更されたコマンドを追加することによって、スイッチ プロファイル コマンドを変更する方法を示します。

```
switch# show running-config
switch-profile abc
  interface Ethernet1/1
    switchport mode trunk
    switchport trunk allowed vlan 1-10

switch# config sync
switch(config-sync)# switch-profile abc
switch(config-sync-sp)# interface Ethernet1/1
switch(config-sync-sp-if)# switchport trunk allowed vlan 5-10
switch(config-sync-sp-if)# commit

switch# show running-config
switch-profile abc
  interface Ethernet1/1
    switchport mode trunk
    switchport trunk allowed vlan 5-10
```

## スイッチ プロファイルのインポート

インポートするコマンドのセットに基づいてスイッチ プロファイルをインポートできます。コンフィギュレーション ターミナル モードを使用して、次のことを実行できます。

- 選択したコマンドをスイッチ プロファイルに追加する。
- インターフェイスに指定された、サポートされているコマンドを追加する。
- サポートされているシステムレベル コマンドを追加する。
- サポートされているシステムレベル コマンドを追加する（物理インターフェイス コマンドを除く）。

スイッチ プロファイルにコマンドをインポートする場合、スイッチ プロファイルバッファが空である必要があります。

新しいコマンドがインポート中に追加されると、スイッチ プロファイルが保存されていないままになり、スイッチはスイッチ プロファイル インポート モードのままになります。**abort** コマンドを入力してインポートを停止します。スイッチ プロファイルのインポートの詳細については、「スイッチ プロファイル インポート モード」の項を参照してください。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b>  例 : switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<b>switch-profile name</b>  例： <pre>switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#</pre>	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>import {interface port/slot   running-config [exclude interface ethernet]}</b>  例： <pre>switch(config-sync-sp)# import ethernet 1/2 switch(config-sync-sp-import)#</pre>	インポートするコマンドを識別し、スイッチプロファイルインポートモードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;CR&gt; : 選択したコマンドを追加します。</li> <li>• <b>interface</b> : 指定したインターフェイスのサポートされるコマンドを追加します。</li> <li>• <b>running-config</b> : サポートされるシステムレベルコマンドを追加します。</li> <li>• <b>running-config exclude interface ethernet</b> : サポートされるシステムレベルコマンドを追加します（物理インターフェイスコマンドを除く）。</li> </ul>
ステップ 4	<b>commit</b>  例： <pre>switch(config-sync-sp-import)# commit</pre>	コマンドをインポートし、スイッチプロファイルにコマンドを保存します。
ステップ 5	<b>abort</b>  例： <pre>switch(config-sync-sp-import)# abort</pre>	(任意) インポートプロセスを中止します。
ステップ 6	<b>exit</b>  例： <pre>switch(config-sync-sp)# exit switch#</pre>	スイッチプロファイルインポートモードを終了します。
ステップ 7	<b>show switch-profile</b>  例： <pre>switch# show switch-profile</pre>	(任意) スイッチプロファイルコンフィギュレーションを表示します。
ステップ 8	<b>copy running-config startup-config</b>  例： <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

次に、sp というスイッチ プロファイルに、イーサネット インターフェイス コマンドを除く、サポートされるシステムレベル コマンドをインポートする例を示します。

```
switch(config-vlan)# conf sync
switch(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile buffer

switch-profile : sp
-----
Seq-no  Command
-----

switch(config-sync-sp)# import running-config exclude interface ethernet
switch(config-sync-sp-import)#
switch(config-sync-sp-import)# show switch-profile buffer

switch-profile : sp
-----
Seq-no  Command
-----
3       vlan 100-299
4       vlan 300
4.1    state suspend
5       vlan 301-345
6       interface port-channel100
6.1    spanning-tree port type network
7       interface port-channel105

switch(config-sync-sp-import)#
```

## スイッチ プロファイルのコマンドの確認

スイッチ プロファイル モードで **verify** コマンドを入力し、スイッチ プロファイルに含まれるコマンドを確認できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b>  例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	<b>switch-profile name</b>  例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチ プロファイルを設定し、スイッチ プロファイルの名前を設定し、スイッチ プロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>verify</b>  例： switch(config-sync-sp)# verify	スイッチ プロファイル バッファ内のコマンドを確認します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>exit</b>  例 : <pre>switch(config-sync-sp) # exit switch#</pre>	スイッチプロファイルコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 5	<b>copy running-config startup-config</b>  例 : <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## ピアスイッチの分離

スイッチプロファイルを変更するためにピアスイッチを分離できます。このプロセスは、設定の同期をブロックする場合、または設定をデバッグするときに使用できます。

ピアスイッチを分離するには、スイッチプロファイルからスイッチを削除し、スイッチプロファイルにピアスイッチを追加する必要があります。

一時的にピアスイッチを分離するには、次の手順を実行します。

- 1 スイッチプロファイルからピアスイッチを削除します。
- 2 スイッチプロファイルを変更して、変更をコミットします。
- 3 `debug` コマンドを入力します。
- 4 手順 2 でスイッチプロファイルに対して行った変更を元に戻し、コミットします。
- 5 スイッチプロファイルにピアスイッチを追加します。

## スイッチプロファイルの削除

`all-config` または `local-config` オプションを選択してスイッチプロファイルを削除できます。

- **all-config** : 両方のピアスイッチでスイッチプロファイルを削除します（両方が到達可能な場合）。このオプションを選択し、ピアの1つが到達不能である場合、ローカルスイッチプロファイルだけが削除されます。**all-config** オプションは両方のピアスイッチでスイッチプロファイルを完全に削除します。
- **local-config** : ローカルスイッチのみのスイッチプロファイルを削除します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b>  例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	<b>no switch-profile name {all-config   local-config}</b>  例： switch(config-sync)# no switch-profile abc local-config switch(config-sync-sp)#	次の手順に従って、スイッチ プロファイルを削除します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all-config</b> : ローカルスイッチおよびピアスイッチのスイッチプロファイルを削除します。ピアスイッチが到達可能でない場合は、ローカルスイッチプロファイルだけが削除されます。</li> <li>• <b>local-config</b> : スイッチプロファイルおよびローカルコンフィギュレーションを削除します。</li> </ul>
ステップ 3	<b>exit</b>  例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	コンフィギュレーション同期モードを終了します。
ステップ 4	<b>copy running-config startup-config</b>  例： switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## スイッチ プロファイルからのスイッチの削除

スイッチ プロファイルからスイッチを削除できます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b>  例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<b>switch-profile name</b>  例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>no sync-peers destination destination IP</b>  例： switch(config-sync-sp)# no sync-peers destination 10.1.1.1 switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルから指定のスイッチを削除します。
ステップ 4	<b>exit</b>  例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	スイッチプロファイル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	<b>show switch-profile</b>  例： switch# show switch-profile	(任意) スイッチプロファイル コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 6	<b>copy running-config startup-config</b>  例： switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## スイッチ プロファイル バッファの表示

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure sync</b>	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	switch(config-sync) # <b>switch-profile profile-name</b>	指定されたスイッチプロファイルに対するスイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<code>switch(config-sync-sp) # show switch-profile profile-name buffer</code>	指定されたインターフェイスに対するインターフェイス スイッチ プロファイル同期コンフィギュレーション モードを開始します。

次に、sp という名前のサービス プロファイルのスイッチ プロファイル バッファの表示例を示します。

```
switch# configure sync
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1       vlan 101
1.1    ip igmp snooping querier 10.101.1.1
2       mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop
3       interface Ethernet1/2
3.1    switchport mode trunk
3.2    switchport trunk allowed vlan 101

switch(config-sync-sp)# buffer-move 3 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1       interface Ethernet1/2
1.1    switchport mode trunk
1.2    switchport trunk allowed vlan 101
2       vlan 101
2.1    ip igmp snooping querier 10.101.1.1
3       mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop
switch(config-sync-sp)#
```

## スイッチのリブート後のコンフィギュレーションの同期化

スイッチ プロファイルを使用してピア スイッチで新しい設定をコミット中に Cisco Nexus シリーズスイッチがリブートする場合、リロード後にピア スイッチを同期するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1 リブート中にピア スイッチ上で変更された設定を再適用します。
  - ステップ 2 `commit` コマンドを入力します。
  - ステップ 3 設定が正しく適用されており、両方のピアが同期されていることを確認します。
-



## スイッチ プロファイル設定の show コマンド

次の show コマンドは、スイッチ プロファイルに関する情報を表示します。

コマンド	目的
<b>show switch-profile name</b>	スイッチ プロファイル中のコマンドを表示します。
<b>show switch-profile name buffer</b>	スイッチ プロファイル中のコミットされていないコマンド、移動されたコマンド、削除されたコマンドを表示します。
<b>show switch-profile name peer IP-address</b>	ピア スイッチの同期ステータスが表示されます。
<b>show switch-profile name session-history</b>	最後の 20 のスイッチ プロファイル セッションのステータスを表示します。
<b>show switch-profile name status</b>	ピア スイッチのコンフィギュレーション同期ステータスを表示します。
<b>show running-config exclude-provision</b>	オフラインで事前プロビジョニングされた非表示のインターフェイスの設定を表示します。
<b>show running-config switch-profile</b>	ローカルスイッチのスイッチ プロファイルの実行コンフィギュレーションを表示します。
<b>show startup-config switch-profile</b>	ローカルスイッチのスイッチ プロファイルのスタートアップコンフィギュレーションを表示します。

これらのコマンドの出力フィールドの詳細については、ご使用のプラットフォームの、システム管理コマンドのリファレンスを参照してください。

## サポートされているスイッチ プロファイル コマンド

以下のスイッチ プロファイル コマンドがサポートされています。

- **logging event link-status default**
- **[no] vlanvlan-range**
- **ip access-listacl-name**
- **policy-map type network-qos jumbo-frames**
  - **class type network-qos class-default**
  - **mtumtu value**
- **system qos**
  - **service-policy type network-qos jumbo-frames**

- **vlan configuration***vlan id*
  - **ip igmp snooping querier***ip*
- **spanning-tree port type edge default**
- **spanning-tree port type edge bpduguard default**
- **spanning-tree loopguard default**
- **no spanning-tree vlan***vlan id*
- **port-channel load-balance ethernet source-dest-port**
- **interface port-channel***number*
  - **description***text*
  - **switchport mode trunk**
  - **switchport trunk allowed vlan***vlan list*
  - **spanning-tree port type network**
  - **no negotiate auto**
  - **vpc peer-link**
- **interface port-channel***number*
  - **switchport access vlan***vlan id*
  - **spanning-tree port type edge**
  - **speed 10000**
  - **vpc***number*
- **interface ethernet***x/y*
  - **switchport access vlan***vlan id*
  - **spanning-tree port type edge**
  - **channel-group***number mode active*
- **service dhcp**
- **ip dhcp relay**
- **ipv6 dhcp relay**
- **storm-control unicast level**

# スイッチ プロファイルの設定例

## ローカルおよびピア スイッチでのスイッチ プロファイルの作成例

次に、ローカルおよびピア スイッチで正常にスイッチ プロファイル設定を作成する例を示します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ローカルおよびピア スイッチで CFSoIP 配信をイネーブルにします。  例： switch# <b>configuration terminal</b> switch(config)# <b>cfs ipv4 distribute</b>	
ステップ 2	ローカルおよびピア スイッチでスイッチ プロファイルを作成します。  例： switch(config-sync)# <b>switch-profile abc</b> switch(config-sync-sp)# <b>sync-peers destination 10.1.1.1</b>	
ステップ 3	スイッチプロファイルが、ローカルおよびピア スイッチで同じであることを確認します。  例： switch(config-sync-sp)# <b>show switch-profile abc status</b>  Start-time: 15801 usecs after Mon Aug 23 06:21:08 2010 End-time: 6480 usecs after Mon Aug 23 06:21:13 2010  Profile-Revision: 1 Session-type: Initial-Exchange Peer-triggered: Yes Profile-status: Sync Success  Local information: ----- Status: Commit Success Error(s):  Peer information: ----- IP-address: 10.1.1.1 Sync-status: In Sync. Status: Commit Success Error(s):	
ステップ 4	ローカルスイッチでスイッチプロファイルにコンフィギュレーションコマンドを追加します。コマンドがコミットされたときに、コマンドがピア スイッチに適用されます。	

	コマンドまたはアクション	目的
	例 : switch(config-sync-sp)# <b>class-map type qos c1</b>	
ステップ 5	スイッチ プロファイルのコマンドを検証します。  例 : switch(config-sync-sp-if)# <b>verify</b> Verification Successful	
ステップ 6	スイッチ プロファイルにコマンドを適用し、ローカルとピアスイッチ間の設定を同期させます。  例 : switch(config-sync-sp)# <b>commit</b> Commit Successful switch(config-sync)#	

## 同期ステータスの確認例

次に、ローカルとピア スイッチ間の同期ステータスを確認する例を示します。

```
switch(config-sync)# show switch-profile switch-profile status
Start-time: 804935 usecs after Mon Aug 23 06:41:10 2010
End-time: 956631 usecs after Mon Aug 23 06:41:20 2010

Profile-Revision: 2
Session-type: Commit
Peer-triggered: No
Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.1.1.1
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):

switch(config-sync)#
```

## 実行コンフィギュレーションの表示

次に、ローカルスイッチでスイッチプロファイルの実行コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# configure sync  
switch(config-sync)# show running-config switch-profile  
  
switch(config-sync)#
```

## ローカルスイッチとピアスイッチ間のスイッチプロファイルの同期の表示

次に、2台のピアスイッチの同期ステータスを表示する例を示します。

```
switch1# show switch-profile sp status  
  
Start-time: 491815 usecs after Thu Aug 12 11:54:51 2010  
End-time: 449475 usecs after Thu Aug 12 11:54:58 2010  
  
Profile-Revision: 1  
Session-type: Initial-Exchange  
Peer-triggered: No  
Profile-status: Sync Success  
  
Local information:  
-----  
Status: Commit Success  
Error(s):  
  
Peer information:  
-----  
IP-address: 10.193.194.52  
Sync-status: In Sync.  
Status: Commit Success  
Error(s):  
  
switch1#  
  
switch2# show switch-profile sp status  
  
Start-time: 503194 usecs after Thu Aug 12 11:54:51 2010  
End-time: 532989 usecs after Thu Aug 12 11:54:58 2010  
  
Profile-Revision: 1  
Session-type: Initial-Exchange  
Peer-triggered: Yes  
Profile-status: Sync Success  
  
Local information:  
-----  
Status: Commit Success  
Error(s):  
  
Peer information:  
-----  
IP-address: 10.193.194.51  
Sync-status: In Sync.  
Status: Commit Success  
Error(s):  
  
switch2#
```

## ローカルスイッチとピアスイッチでの確認とコミットの表示

次に、ローカルスイッチおよびピアスイッチで正常に確認とコミットを設定する例を示します。

```
switch1# configure sync
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
switch1(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch1(config-sync-sp)# interface ethernet1/1
switch1(config-sync-sp-if)# description foo
switch1(config-sync-sp-if)# verify
Verification Successful
switch1(config-sync-sp)# commit
Commit Successful
switch1(config-sync)# show running-config switch-profile
switch-profile sp
  sync-peers destination 10.193.194.52
  interface Ethernet1/1
    description foo
switch1(config-sync)# show switch-profile sp status

Start-time: 171513 usecs after Wed Aug 11 17:51:28 2010
End-time: 676451 usecs after Wed Aug 11 17:51:43 2010

Profile-Revision: 3
Session-type: Commit
Peer-triggered: No
Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.193.194.52
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):

switch1(config-sync)#

switch2# show running-config switch-profile
switch-profile sp
  sync-peers destination 10.193.194.51
  interface Ethernet1/1
    description foo
switch2# show switch-profile sp status

Start-time: 265716 usecs after Wed Aug 11 16:51:28 2010
End-time: 734702 usecs after Wed Aug 11 16:51:43 2010

Profile-Revision: 3
Session-type: Commit
Peer-triggered: Yes
Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.193.194.51
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
```

```
Error(s):
switch2#
```

## 同期の成功と失敗の例

次に、ピア スイッチにおけるスイッチ プロファイルの同期の成功例を示します。

```
switch# show switch-profile abc peer

switch# show switch-profile sp peer 10.193.194.52
Peer-sync-status      : In Sync.
Peer-status           : Commit Success
Peer-error(s)         :
switch1#
```

次に、到達不能ステータスのピアを使用した、ピア スイッチでのスイッチ プロファイルの同期の失敗例を示します。

```
switch# show switch-profile sp peer 10.193.194.52
Peer-sync-status      : Not yet merged. pending-merge:1 received_merge:0
Peer-status           : Peer not reachable
Peer-error(s)         :
switch#
```

## スイッチ プロファイル バッファの設定、バッファ移動、およびバッファの削除

次に、スイッチ プロファイル バッファの設定、バッファ移動、バッファ削除を設定する例を示します。

```
switch# configure sync
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
switch(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch(config-sync-sp)# vlan 101
switch(config-sync-sp-vlan)# ip igmp snooping querier 10.101.1.1
switch(config-sync-sp-vlan)# exit
switch(config-sync-sp)# mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop
switch(config-sync-sp)# interface ethernet1/2
switch(config-sync-sp-if)# switchport mode trunk
switch(config-sync-sp-if)# switchport trunk allowed vlan 101
switch(config-sync-sp-if)# exit
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1       vlan 101
1.1     ip igmp snooping querier 10.101.1.1
2       mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop
3       interface Ethernet1/2
3.1     switchport mode trunk
3.2     switchport trunk allowed vlan 101

switch(config-sync-sp)# buffer-move 3 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1       interface Ethernet1/2
1.1     switchport mode trunk
1.2     switchport trunk allowed vlan 101
2       vlan 101
```

```
2.1      ip igmp snooping querier 10.101.1.1
3        mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop

switch(config-sync-sp)# buffer-delete 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
2        vlan 101
2.1      ip igmp snooping querier 10.101.1.1
3        mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop

switch(config-sync-sp)# buffer-delete all
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
switch(config-sync-sp)#
```





# 第 5 章

## CFS の使用

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [CFS について, 41 ページ](#)
- [CFS 配信, 42 ページ](#)
- [アプリケーションの CFS サポート, 44 ページ](#)
- [CFS リージョン, 47 ページ](#)
- [IP を介した CFS の設定, 50 ページ](#)
- [CFS のデフォルト設定, 52 ページ](#)

## CFS について

Cisco Nexus シリーズ スイッチの一部の機能は、正常に動作するため、ネットワーク内の他のスイッチとの設定の同期化を必要とします。ネットワーク内のスイッチごとに手動設定によって同期化を行うことは、面倒で、エラーが発生しやすくなります。

CFS はネットワーク内の自動設定同期化に対して共通のインフラストラクチャを提供します。また、トランスポート機能、および機能に対する共通サービスのセットを提供します。CFS にはネットワーク内の CFS 対応スイッチを検出し、すべての CFS 対応スイッチの機能能力を検出する機能が備わっています。

Cisco Nexus シリーズ スイッチは、ファイバチャネルおよび IPv4 または IPv6 ネットワークを介した CFS メッセージ配信をサポートします。ファイバチャネルポートにスイッチがプロビジョニングされている場合、ファイバチャネルを介した CFS はデフォルトで有効になっています。これに対し、IP を介した CFS は明示的に有効にする必要があります。

CFS には次の機能があります。

- CFS レイヤでクライアント/サーバ関係を持たないピアツーピア プロトコル
- ファイバチャネルおよび IPv4 ネットワークを介した CFS メッセージ配信。

- 3 つの配信モード

- 協調型配信：ネットワーク内で同時に 1 つの配信だけが許可されます。
- 非協調型配信：協調型配信が進行中である場合を除いて、ネットワーク内で複数の同時配信を実行できます。
- 無制限の非協調型配信：既存の協調型配信がある場合でも、ネットワーク内で複数の同時配信が許可されます。無制限の非協調型配信は、他のすべての配信タイプの配信と同時に実行できます。

IP を介した CFS 配信では、次の機能がサポートされます。

- IP ネットワークを介した配信の 1 つの範囲：
  - 物理範囲：IP ネットワーク全体に配信されます。

ファイバチャネル SAN を介した CFS 配信では、次の機能がサポートされます。

- SAN ファブリックを介した配信の 3 つの範囲：
  - 論理範囲：VSAN の範囲内で配信されます。
  - 物理範囲：物理トポロジ全体に配信されます。
  - 選択した VSAN セット間：一部の機能では、一部の特定の VSAN を超えた設定の配信が必要です。これらの機能では、CFS に対して、配信を制限する VSAN のセットを指定できます。
- ファブリックの結合イベント時（2 つの独立したファブリックが結合する場合）に機能設定の結合を実現する結合プロトコルのサポート

## CFS 配信

CFS 配信機能は、下位層の転送とは無関係です。Cisco Nexus シリーズスイッチは、IP およびファイバチャネル上の CFS 配信をサポートします。CFS を使用する機能は、下位層の転送を認識しません。

## CFS の配信モード

CFS では異なる機能要件をサポートするために、3 つの配信モードをサポートします。

- 非協調型配信
- 協調型配信
- 無制限の非協調型配信

常に 1 つのモードだけを適用できます。

## 非協調型配信

非協調型配信は、ピアからの情報と競合させたくない情報を配信する場合に使用されます。1 つの機能に対して非協調的な並列配信を適用できます。

## 協調型配信

協調型配信は、いかなる時も 1 つの機能配信だけ適用できます。CFS は、ロックを使用してこの機能を強制します。ネットワーク内のいずれかの機能でロックが取得されていれば、協調型配信は開始できません。協調型配信は、次の 3 段階で構成されています。

- ネットワーク ロックが取得されます。
- 設定が配信され、コミットされます。
- ネットワーク ロックが解除されます。

協調型配信には、次の 2 種類があります。

- CFS によるもの：機能が介在することなく、機能要求に応じて CFS が各段階を実行します。
- 機能によるもの：各段階は機能によって完全に管理されます。

協調型配信は、複数のスイッチから操作および配信が可能な情報を配信するのに使用されます。たとえば、ポートセキュリティの設定です。

## 無制限の非協調型配信

無制限の非協調型配信では、既存の協調型配信がある場合にネットワーク内で複数の同時配信が許可されます。無制限の非協調型配信は、他のすべての配信タイプの配信と同時に実行できます。

## CFS 配信ステータスの確認

**show cfs status** コマンドを実行すると、スイッチの CFS 配信ステータスが表示されます。

```
switch# show cfs status
Distribution : Enabled
Distribution over IP : Enabled - mode IPv4
IPv4 multicast address : 239.255.70.83

Distribution over Ethernet : Enabled
```

# アプリケーションの CFS サポート

## CFS のアプリケーション要件

ネットワーク内のすべてのスイッチが CFS に対応している必要があります。CFS に対応していないスイッチは配信を受信できないため、ネットワークの一部が意図された配信を受信できなくなります。CFS には、次の要件があります。

- CFS の暗黙的な使用：CFS 対応アプリケーションの CFS 作業を初めて行う場合、設定変更プロセスが開始され、アプリケーションがネットワークをロックします。
- 保留データベース：保留データベースはコミットされていない情報を保持する一時的なバッファです。データベースが、ネットワーク内の他のスイッチのデータベースと確実に同期するために、コミットされていない変更はすぐには適用されません。変更をコミットすると、保留データベースはコンフィギュレーションデータベース（別名、アクティブ データベースまたは有効データベース）を上書きします。
- アプリケーション単位でイネーブル化またはディセーブル化される CFS 配信：CFS 配信ステータスのデフォルト（イネーブルまたはディセーブル）は、アプリケーション間で異なります。アプリケーションで CFS の配信がディセーブルにされている場合、そのアプリケーションは設定を配信せず、またネットワーク内のその他のスイッチからの配信も受け入れません。
- 明示的な CFS コミット - 大半のアプリケーションでは、新しいデータベースをネットワークに配信したりネットワークロックを解除したりするために、一時的なバッファ内の変更をアプリケーションデータベースにコピーする明示的なコミット操作が必要です。コミット操作を実行しないと、一時的バッファ内の変更は適用されません。

## アプリケーションの CFS のイネーブル化

すべての CFS ベースのアプリケーションでは、配信機能をイネーブルまたはディセーブルにできます。

アプリケーションでは、配信はデフォルトでイネーブルにされています。

アプリケーションで配信が明示的にイネーブルにされていない場合は、CFS はそのアプリケーションの設定を配信しません。

## アプリケーション登録ステータスの確認

**show cfs application** コマンドは、CFS に現在登録されているアプリケーションを表示します。最初のカラムには、アプリケーション名が表示されます。2 番目のカラムは、アプリケーションの配信がイネーブルであるかディセーブルであるかを示します（**enabled** または **disabled**）。最後のカラムは、アプリケーションの配信範囲を示します（論理、物理、またはその両方）。



- (注) **show cfs application** コマンドは、CFS に登録されているアプリケーションを表示するだけです。CFS を使用するコンディショナル サービスは、これらのサービスが稼働していなければ出力には示されません。

```
switch# show cfs application
```

```
-----
Application    Enabled    Scope
-----
ntp            No        Physical-all
fscm           Yes       Physical-fc
rscn           No        Logical
fctimer        No        Physical-fc
syslogd        No        Physical-all
callhome       No        Physical-all
fcdomain       Yes       Logical
device-alias   Yes       Physical-fc
Total number of entries = 8
```

**show cfs application name** コマンドは、特定のアプリケーションの詳細を表示します。表示されるのは、有効/無効の状態、CFS に登録されているタイムアウト、マージ機能（マージがサポートされるよう CFS に登録されている場合）、および配信範囲です。

```
switch# show cfs application name fscm
```

```
Enabled          : Yes
Timeout          : 100s
Merge Capable    : No
Scope            : Physical-fc
```

## ネットワークのロック

CFS インフラストラクチャを使用する機能（アプリケーション）を初めて設定する場合、この機能は CFS セッションを開始して、ネットワークをロックします。ネットワークがロックされた場合、スイッチソフトウェアでは、ロックを保持しているスイッチからのみこの機能への設定変更を行うことができます。別のスイッチから機能への設定変更を行う場合、ロックされているステータスを知らせるメッセージが、スイッチから発行されます。設定変更は、該当アプリケーションによって保留データベースに保持されます。

ネットワークロックを要求する CFS セッションを開始し、セッションを終了するのを忘れた場合は、管理者がそのセッションをクリアできます。いつでもネットワークをロックした場合、ユーザ名は再起動およびスイッチオーバーを行っても保持されます。（同じマシン上で）別のユーザが設定タスクを実行しようとしても、拒否されます。

### CFS ロック ステータスの確認

**show cfs lock** コマンドを実行すると、アプリケーションによって現在取得されているすべてのロックが表示されます。このコマンドにより、アプリケーションごとにアプリケーション名とロックの取得範囲が表示されます。

**show cfs lock name** コマンドは、指定したアプリケーションで使用されているロックの詳細情報を表示します。

## 変更のコミット

コミット操作により、すべてのアプリケーションピアの保留データベースを保存し、すべてのスイッチのロックを解除します。

コミット機能はセッションを開始しません。セッションを開始するのは、ロック機能だけです。ただし、設定変更がこれまでに行われていなければ、空のコミットが可能です。この場合、コミット操作の結果として、ロックを取得し、現在のデータベースを配信するセッションが行われます。

CFS インフラストラクチャを使用して機能への設定変更をコミットすると、次のいずれかの応答に関する通知が届きます。

- 1 つまたは複数の外部スイッチが正常なステータスを報告する場合 - アプリケーションは変更をローカルに適用し、ネットワーク ロックを解除します。
- どの外部スイッチも成功ステータスを報告しない - アプリケーションはこのステータスを失敗として認識し、ネットワーク内のどのスイッチにも変更を適用しません。ネットワークロックは解除されません。

**commit** コマンドを入力すると、指定した機能の変更をコミットできます。

## 変更の廃棄

設定変更を廃棄すると、アプリケーションは保留中のデータベースを一気に消去し、ネットワーク内のロックを解除します。中断およびコミット機能の両方を使用できるのは、ネットワークロックが取得されたスイッチだけです。

**abort** コマンドを使用すると、指定した機能の変更を廃棄できます。

## 設定の保存

まだ適用されていない変更内容（保留データベースにまだ存在する）は実行コンフィギュレーションには表示されません。変更をコミットすると、保留データベース内の設定変更が有効データベース内の設定を上書きします。



注意

変更内容は、コミットしなければ、実行コンフィギュレーションに保存されません。

## ロック済みセッションのクリア

ネットワーク内の任意のスイッチからアプリケーションが保持しているロックをクリアすると、ロックが取得されているにもかかわらず解除されていない状態から回復できます。この機能には、Admin 権限が必要になります。



注意

この機能を使用してネットワーク内のロックを解除する場合は、注意が必要です。ネットワーク内の任意のスイッチの保留中設定がフラッシュされ、内容が失われます。

## CFS リージョン

### CFS リージョンの概要

CFS リージョンは、物理配信範囲の所定の機能またはアプリケーションに対するスイッチのユーザ定義のサブセットです。ネットワークが広い範囲に及ぶ場合、場合によっては、物理的な隣接性に基づき、スイッチセット間での特定のプロファイルの配信を局所化または制限する必要があります。CFS リージョンを使用すると、ネットワーク内で特定の CFS 機能またはアプリケーションに、配信の複数アイランドができます。CFS リージョンは、機能設定の配信をネットワーク内のスイッチの特定のセットまたはグループに制限するよう設計されています。

### シナリオ例

Smart Call Home アプリケーションは、困難な状況、あるいは異常が発生した時にネットワーク管理者にアラートを送信します。ネットワークが広い地域に及び、複数のネットワーク管理者がネットワーク内のスイッチの各サブセットを担当している場合は、Smart Call Home アプリケーションは、場所に関係なく、すべてのネットワーク管理者にアラートを送信します。Smart Call Home アプリケーションで、選択したネットワーク管理者にメッセージアラートを送信するには、アプリケーションの物理範囲を微調整するか、絞り込む必要があります。CFS リージョンの実装によって、このシナリオを実現できます。

CFS リージョンは、0 ～ 200 の数字で識別されます。リージョン 0 はデフォルトリージョンとして予約されており、ネットワーク内のすべてのスイッチを含みます。1 ～ 200 のリージョンを設定できます。デフォルトリージョンでは下位互換性を維持しています。

機能が移動される、つまり、機能が新しいリージョンに割り当てられると、機能の範囲はそのリージョンに制限されます。他のすべてのリージョンは、配信やマージの対象から外されます。機能へのリージョンの割り当ては、配信において初期の物理範囲よりも優先されます。

複数の機能の設定を配信するように CFS リージョンを設定できます。ただし、特定のスイッチでは、一度に特定の機能設定を配信するように設定できる CFS リージョンは 1 つだけです。機能を CFS リージョンに割り当てた場合、この設定を別の CFS リージョン内に配信できません。

## CFS リージョンの管理

### CFS リージョンの作成

CFS リージョンを作成できます。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>cfs region</b> <i>region-id</i>	リージョンを作成します。

### CFS リージョンへのアプリケーションの割り当て

スイッチでリージョンにアプリケーションを割り当てることができます。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>cfs region</b> <i>region-id</i>	リージョンを作成します。
ステップ 3	switch(config-cfs-region)# <i>application</i>	リージョンにアプリケーションを追加します。  (注) リージョンにスイッチ上の任意の数のアプリケーションを追加できます。同じリージョンにアプリケーションを複数回追加しようとする、 <b>「Application already present in the same region」</b> というエラーメッセージが表示されます。

次に、リージョンにアプリケーションを割り当てる例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cfs region 1
switch(config-cfs-region)# ntp
switch(config-cfs-region)# callhome
```



## 別の CFS リージョンへのアプリケーションの移動

あるリージョンから別のリージョンにアプリケーションを移動できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>cfs region</b> <i>region-id</i>	CFS リージョン サブモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-cfs-region)# <i>application</i>	あるリージョンから別のリージョンに移動するアプリケーションを示します。  (注) 同じリージョンにアプリケーションを複数回移動しようとする、と、「Application already present in the same region」というエラーメッセージが表示されます。

次に、リージョン 1 に割り当てられていたアプリケーションをリージョン 2 に移動する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cfs region 2
switch(config-cfs-region)# ntp
```

## リージョンからのアプリケーションの削除

リージョンからのアプリケーションの削除は、アプリケーションをデフォルトリージョン（リージョン 0）に戻す場合と同じです。これによって、ネットワーク全体がアプリケーションの配信の範囲になります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>cfs region</b> <i>region-id</i>	CFS リージョンサブモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-cfs-region)# <b>no</b> <i>application</i>	リージョンに属しているアプリケーションを削除します。

## CFS リージョンの削除

リージョンの削除とは、リージョン定義を無効にすることです。リージョンを削除すると、リージョンによってバインドされているすべてのアプリケーションがデフォルトリージョンに戻ります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>no cfs region</b> <i>region-id</i>	リージョンを削除します。  (注) 「All the applications in the region will be moved to the default region」という警告が表示されます。

## IP を介した CFS の設定

### IPv4 を介した CFS のイネーブル化

IPv4 を介した CFS をイネーブルまたはディセーブルにできます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>cfs ipv4 distribute</b>	スイッチのすべてのアプリケーションに対して IPv4 を介した CFS をグローバルでイネーブルにします。
ステップ 3	switch(config)# <b>no cfs ipv4 distribute</b>	(任意) スイッチの IPv4 を介した CFS をディセーブルにします (デフォルト)。

## IP を介した CFS 設定の確認

次に、IP を介した CFS 設定を確認する例を示します。

```
switch# show cfs status
Distribution : Enabled
Distribution over IP : Enabled - mode IPv4
IPv4 multicast address : 239.255.70.83
```

## IP を介した CFS の IP マルチキャスト アドレスの設定

類似のマルチキャスト アドレスを持つ IP を介した CFS 対応スイッチのすべては、IP ネットワークを介した 1 つの CFS を形成します。ネットワーク トポロジ変更を検出するためのキープアライブメカニズムのような CFS プロトコル特有の配信は、IP マルチキャスト アドレスを使用して情報を送受信します。



(注) アプリケーションデータの CFS 配信はダイレクトユニキャストを使用します。

### CFS の IPv4 マルチキャスト アドレスの設定

IP を介した CFS の IPv4 のマルチキャスト アドレス値を設定できます。デフォルトの IPv4 マルチキャスト アドレスは 239.255.70.83 です。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>cfs ipv4 mcast-address</b> <i>ipv4-address</i>	IPv4 を介した CFS 配信の IPv4 マルチキャスト アドレスを設定します。有効な IPv4 アドレスの範囲は 239.255.0.0 ~ 239.255.255.255 および 239.192/16 ~ 239.251/16 です。
ステップ 3	switch(config)# <b>no cfs ipv4 mcast-address</b> <i>ipv4-address</i>	(任意) IPv4 を介した CFS 配信のデフォルトの IPv4 マルチキャスト アドレスに戻します。CFS のデフォルトの IPv4 マルチキャスト アドレスは 239.255.70.83 です。

## IP を介した CFS の IP マルチキャストアドレス設定の確認

次に、CFS over IP の IP マルチキャストアドレス設定を確認する例を示します。

```
switch# show cfs status
Fabric distribution Enabled
IP distribution Enabled mode ipv4
IPv4 multicast address : 10.1.10.100
```

## CFS のデフォルト設定

次の表に、CFS のデフォルト設定を示します。

表 1: デフォルトの CFS パラメータ

パラメータ (Parameters)	デフォルト
スイッチでの CFS 配信	イネーブル
データベース変更	最初の設定変更によって暗黙的にイネーブル化
アプリケーションの配信	アプリケーションごとに異なる
コミット	明示的な設定が必要
IP を介した CFS	ディセーブル
IPv4 マルチキャスト アドレス	239.255.70.83

CISCO-CFS-MIB には CFS 関連機能の SNMP 設定情報が含まれます。ご使用のプラットフォームの MIB リファレンスを参照してください。



## 第 6 章

# NTP の設定

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [NTP の概要, 53 ページ](#)
- [タイム サーバとしての NTP, 54 ページ](#)
- [CFS を使用した NTP の配信, 54 ページ](#)
- [クロック マネージャ, 55 ページ](#)
- [High Availability \(高可用性\) , 55 ページ](#)
- [仮想化のサポート, 55 ページ](#)
- [ライセンス要件, 55 ページ](#)
- [NTP の前提条件, 55 ページ](#)
- [NTP の注意事項と制約事項, 56 ページ](#)
- [デフォルト設定, 57 ページ](#)
- [NTP の設定, 57 ページ](#)
- [NTP の設定確認, 70 ページ](#)
- [NTP の設定例, 71 ページ](#)

## NTP の概要

ネットワークタイムプロトコル (NTP) は、分散している一連のタイムサーバとクライアント間で1日の時間を同期させ、複数のネットワーク デバイスから受信するシステム ログや時間関連のイベントを相互に関連付けられるようにします。NTP ではトランスポート プロトコルとして、ユーザ データグラム プロトコル (UDP) を使用します。すべての NTP 通信は UTC を使用します。

NTP サーバは通常、タイムサーバに接続されたラジオクロックやアトミッククロックなどの正規の時刻源から時刻を受信し、ネットワークを介してこの時刻を配信します。NTP はきわめて効率的で、毎分 1 パケット以下で 2 台のマシンを相互に 1 ミリ秒以内に同期します。

NTP では層 (stratum) を使用して、ネットワークデバイスと正規の時刻源の距離を表します。

- ストラタム 1 のタイムサーバは、信頼できる時刻源に直接接続されます (無線時計や原子時計または GPS 時刻源など)。
- ストラタム 2 の NTP サーバは、ストラタム 1 のタイムサーバから NTP を使用して時刻を受信します。

同期の前に、NTP は複数のネットワークサービスが報告した時刻を比較し、1 つの時刻が著しく異なる場合は、それが Stratum 1 であっても、同期しません。Cisco NX-OS は、無線時計や原子時計に接続できず、ストラタム 1 サーバとして動作することはできないため、インターネット上で利用できるパブリック NTP サーバを使用することを推奨します。ネットワークがインターネットから切り離されている場合、Cisco NX-OS では、NTP によって時刻が同期されていない場合でも、NTP で同期されているものとして時刻を設定できます。



(注) NTP ピア関係を作成して、サーバで障害が発生した場合に、ネットワークデバイスを同期させて、正確な時刻を維持するための時刻提供ホストを指定できます。

デバイス上の時刻は重要な情報であるため、NTP のセキュリティ機能を使用して、不正な時刻を誤って (または悪意を持って) 設定できないように保護することを強く推奨します。その方法として、アクセスリストベースの制約方式と暗号化認証方式があります。

## タイムサーバとしての NTP

他のデバイスからタイムサーバとして設定できます。デバイスを正規の NTP サーバとして動作するよう設定し、外部の時刻源と同期していないときでも時刻を配信させることもできます。

## CFS を使用した NTP の配信

Cisco Fabric Services (CFS) は、ローカル NTP コンフィギュレーションをネットワーク内のすべてのシスコデバイスに配信します。

デバイス上で CFS をイネーブルにすると、NTP コンフィギュレーションが起動された場合には常に、ネットワーク全体のロックが NTP に適用されます。NTP コンフィギュレーションを変更した後で、これらの変更を破棄することもコミットすることもできます。

いずれの場合でも、CFS のロックはこのときに NTP アプリケーションから解放されます。

## クロック マネージャ

クロックはさまざまなプロセス間で共有する必要があるリソースです。

NTP や高精度時間プロトコル (PTP) といった複数の時刻同期プロトコルがシステムで稼働している可能性があります。

## High Availability (高可用性)

NTP はステートレス リスタートをサポートします。リポート後またはスーパーバイザ スイッチ オーバー後に、実行コンフィギュレーションが適用されます。

NTP ピアを設定すると、NTP サーバ障害の発生時に冗長性が得られます。

## 仮想化のサポート

NTP は Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスを認識します。NTP サーバおよび NTP ピアに対して特定の VRF を設定していない場合、NTP はデフォルトの VRF を使用します。

## ライセンス要件

製品	ライセンス要件
Cisco NX-OS	NTP にはライセンスは不要です。ライセンス パッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システム イメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『Cisco NX-OS Licensing Guide』を参照してください。

## NTP の前提条件

NTP の前提条件は、次のとおりです。

- NTP を設定するには、NTP が動作している 1 つ以上のサーバに接続できなければなりません。

## NTP の注意事項と制約事項

NTP に関する設定時の注意事項および制約事項は、次のとおりです。

- Release 7.0(3)I2(1) 以降、**show ntp session status** CLI コマンドには、最後のアクションのタイムスタンプ、最後のアクション、最後のアクションの結果、および最後のアクションの失敗理由は表示されません。
- NTP サーバ機能はサポートされます。
- 別のデバイスとの間にピアアソシエーションを設定できるのは、使用するクロックの信頼性が確実な場合（つまり、信頼できる NTP サーバのクライアントである場合）に限られます。
- 単独で設定したピアは、サーバの役割を担いますが、バックアップとして使用する必要があります。サーバが 2 台ある場合、いくつかのデバイスが一方のサーバに接続し、残りのデバイスが他方のサーバに接続するように設定できます。その後、2 台のサーバ間にピアアソシエーションを設定すると、信頼性の高い NTP 構成になります。
- サーバが 1 台だけの場合は、すべてのデバイスをそのサーバのクライアントとして設定する必要があります。
- 設定できる NTP エンティティ（サーバおよびピア）は、最大 64 です。
- NTP に対して CFS がディセーブルになっていると、その NTP からコンフィギュレーションは配信されず、ネットワーク内の他のデバイスからの配信も受け取られません。
- NTP に対して CFS 配信をイネーブルにしても、**commit** コマンドを入力するまで、NTP コンフィギュレーションコマンドのエントリは NTP コンフィギュレーションに対してネットワークをロックします。ロック中は、ネットワーク内の（ロックを保持しているデバイス以外の）すべてのデバイスは NTP コンフィギュレーションを変更できません。
- CFS を使用して NTP をディセーブルにする場合、ネットワーク内のすべてのデバイスは、NTP に対して使用するよう設定したものと同一 VRF を持っている必要があります。
- VRF で NTP を設定する場合は、NTP サーバおよびピアが、設定された VRF を介して相互にアクセスできることを確認します。
- ネットワーク全体の NTP サーバおよび Cisco NX-OS デバイスに、NTP 認証キーを手動で配信する必要があります。
- 時刻の精度および信頼性要件が厳密ではない場合、NTP ブロードキャストまたはマルチキャストアソシエーションを使用すると、ネットワークがローカル化され、ネットワークは 20 以上のクライアントを持ちます。帯域幅、システムメモリ、または CPU リソースが限られているネットワークでは NTP ブロードキャストまたはマルチキャストアソシエーションの使用をお勧めします。



(注) 情報の流れが一方に限定されるため、NTP ブロードキャストアソシエーションでは、時刻の精度がわずかに低下します。



## デフォルト設定

次に、NTP パラメータのデフォルト設定を示します。

パラメータ (Parameters)	デフォルト
NTP	すべてのインターフェイスでイネーブル
NTP passive (アソシエーションを形成するために NTP をイネーブルにする)	イネーブル
NTP 認証	ディセーブル
NTP アクセス	イネーブル
NTP access group match all	ディセーブル
NTP broadcast server	ディセーブル
NTP multicast server	ディセーブル
NTP multicast client	ディセーブル
NTP ロギング	ディセーブル

## NTP の設定

### インターフェイスでの NTP のイネーブル化またはディセーブル化

特定のインターフェイスで NTP をイネーブルまたはディセーブルにできます。NTP は、すべてのインターフェイスでデフォルトでイネーブルに設定されています。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>interfacetypeslot/port</b>	インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<code>switch(config-if)# [no] ntp disable {ip   ipv6}</code>	指定のインターフェイスで NTP IPv4 または IPv6 をディセーブルにします。 インターフェイス上で NTP を再度イネーブルにするにはこのコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。
ステップ 4	<code>switch(config-if)# copy running-config startup-config</code>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、インターフェイスで NTP をイネーブルまたはディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 6/1
switch(config-if)# ntp disable ip
switch(config-if)# copy running-config startup-config
```

## 正規の NTP サーバとしてのデバイスの設定

デバイスを正規の NTP サーバとして動作するよう設定し、既存のタイムサーバと同期していないときでも時刻を配信させることができます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<code>[no] ntp master [stratum]</code>	正規の NTP サーバとしてデバイスを設定します。 NTP クライアントがこれらの時間を同期するのと別の階層レベルを指定できます。指定できる範囲は 1 ~ 15 です。
ステップ 3	<code>show running-config ntp</code>	(任意) NTP コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 4	<code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、正規の NTP サーバとして Cisco NX-OS デバイスを別の階層レベルで設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# ntp master 5
```

## NTP サーバおよびピアの設定

NTP サーバおよびピアを設定できます。

### はじめる前に

NTP サーバとそのピアの IP アドレスまたは DNS 名がわかっていることを確認します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>[no] ntp server</b> { <i>ip-address</i>   <i>ipv6-address</i>   <i>dns-name</i> } <b>[key</b> <i>key-id</i> <b>]</b> <b>[maxpoll</b> <i>max-poll</i> <b>]</b> <b>[minpoll</b> <i>min-poll</i> <b>]</b> <b>[prefer]</b> <b>[use-vrf</b> <i>vrf-name</i> <b>]</b>	<p>1つのサーバと1つのサーバアソシエーションを形成します。</p> <p>NTP サーバとの通信で使用するキーを設定するには、<b>key</b> キーワードを使用します。</p> <p><i>key-id</i> 引数の範囲は 1 ~ 65535 です。</p> <p>ピアをポーリングする最大および最小の間隔を設定するには、<b>maxpoll</b> および <b>minpoll</b> キーワードを使用します。 <i>max-poll</i> および <i>min-poll</i> 引数の範囲は 4 ~ 16 秒で、デフォルト値はそれぞれ 6 秒と 4 秒です。</p> <p>デバイスに対して対象の NTP サーバを優先にするには、<b>prefer keyword</b> キーワードを使用します。</p> <p>指定された VRF を介して通信するように NTP サーバを設定するには、<b>use-vrf</b> キーワードを使用します。</p> <p><i>vrf-name</i> 引数として、<b>default</b>、<b>management</b>、または大文字と小文字を区別した 32 文字までの任意の英数字の文字列を使用できます。</p> <p>(注) NTP サーバとの通信で使用するキーを設定する場合は、そのキーが、デバイス上の信頼できるキーとして存在していることを確認してください。</p>
ステップ 3	switch(config)# <b>[no] ntp peer</b> { <i>ip-address</i>   <i>ipv6-address</i>   <i>dns-name</i> }	1つのピアと1つのピアアソシエーションを形成します。複数のピアアソシエーションを指定できます。

	コマンドまたはアクション	目的
	[ <b>key</b> <i>key-id</i> ] [ <b>maxpoll</b> <i>max-poll</i> ] [ <b>minpoll</b> <i>min-poll</i> ] [ <b>prefer</b> ] [ <b>use-vrf</b> <i>vrf-name</i> ]	NTP ピアとの通信で使用するキーを設定するには、 <b>key</b> キーワードを使用します。 <i>key-id</i> 引数の範囲は 1 ~ 65535 です。 ピアをポーリングする最大および最小の間隔を設定するには、 <b>maxpoll</b> および <b>minpoll</b> キーワードを使用します。 <i>max-poll</i> および <i>min-poll</i> 引数の範囲は 4 ~ 17 秒で、デフォルト値はそれぞれ 6 秒と 4 秒です。 デバイスに対して対象の NTP ピアを優先にするには、 <b>prefer</b> キーワードを使用します。 指定された VRF を介して通信するように NTP ピアを設定するには、 <b>use-vrf</b> キーワードを使用します。 <i>vrf-name</i> 引数として、 <b>default</b> 、 <b>management</b> 、または大文字と小文字を区別した 32 文字までの任意の英数字の文字列を使用できます。
ステップ 4	switch(config)# <b>show ntp peers</b>	(任意) 設定されたサーバおよびピアを表示します。  (注) ドメイン名が解決されるのは、DNS サーバが設定されている場合だけです。
ステップ 5	switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## NTP 認証の設定

ローカルロックを同期させる時刻源を認証するようデバイスを設定できます。NTP 認証をイネーブルにすると、**ntp trusted-key** コマンドによって指定されたいずれかの認証キーを時刻源が保持している場合のみ、デバイスはその時刻源と同期します。デバイスは、認証チェックに失敗したすべてのパケットをドロップし、それらのパケットでローカルクロックがアップデートされないようにします。NTP 認証はデフォルトでディセーブルになっています。

### はじめる前に

この手順で指定する予定の認証キーによって、NTP サーバが設定されていることを確認します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# [no] <b>ntp authentication-key number md5 md5-string</b>	認証キーを定義します。デバイスが時刻源と同期するのは、時刻源がこれらの認証キーのいずれかを持ち、 <b>ntp trusted-key number</b> コマンドによってキー番号が指定されている場合だけです。
ステップ 3	switch(config)# <b>show ntp authentication-keys</b>	(任意) 設定済みの NTP 認証キーを表示します。
ステップ 4	switch(config)# [no] <b>ntp trusted-key number</b>	1 つ以上のキー (ステップ 2 で定義されているもの) を指定します。デバイスが時刻源と同期するために、時刻源はこのキーを NTP パケット内に提供する必要があります。Trusted Key の範囲は 1 ~ 65535 です。  このコマンドにより、デバイスが、信頼されていない時刻源と誤って同期する、ということが防止されます。
ステップ 5	switch(config)# <b>show ntp trusted-keys</b>	(任意) 設定済みの NTP の信頼されているキーを表示します。
ステップ 6	switch(config)# [no] <b>ntp authenticate</b>	NTP 認証機能をイネーブルまたはディセーブルにします。NTP 認証はデフォルトでディセーブルになっています。
ステップ 7	switch(config)# <b>show ntp authentication-status</b>	(任意) NTP 認証の状況を表示します。
ステップ 8	switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、NTP パケット内で認証キー 42 を提示している時刻源とだけ同期するようデバイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# ntp authentication-key 42 md5 aNiceKey
switch(config)# ntp trusted-key 42
switch(config)# ntp authenticate
switch(config)# copy running-config startup-config
```

```
[#####] 100%
switch(config)#
```

## NTP アクセス制限の設定

アクセスグループを使用して、NTP サービスへのアクセスを制御できます。具体的には、デバイスを許可する要求のタイプ、およびデバイスが応答を受け取るサーバを指定できます。

アクセスグループを設定しない場合は、すべてのデバイスにNTPアクセス権が付与されます。何らかのアクセスグループを設定した場合は、ソース IP アドレスがアクセスリストの基準をパスしたリモートデバイスに対してだけ、NTP アクセス権が付与されます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>[no] ntp access-group {peer   serve   serve-only   query-only} access-list-name</b>	<p>NTP のアクセスを制御し、基本の IP アクセスリストを適用するためのアクセスグループを作成または削除します。</p> <p>アクセスグループのオプションは、次の順序で制限の緩いものから厳しいものへとスキャンされます。ただし、ピアに設定された拒否 ACL ルールに NTP が一致した場合、ACL 処理は停止し、次のアクセスグループ オプションへと継続しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>peer</b> キーワードは、デバイスが時刻要求と NTP 制御クエリーを受信し、アクセスリストで指定されているサーバと同期するようにします。</li> <li>• <b>serve</b> キーワードは、アクセスリストに指定されているサーバからの時刻要求と NTP 制御クエリーをデバイスが受信できるようにしますが、指定されたサーバとは同期しないようにします。</li> <li>• <b>serve-only</b> キーワードは、デバイスがアクセスリストで指定されたサーバからの時刻要求だけを受信するようにします。</li> <li>• <b>query-only</b> キーワードは、デバイスがアクセスリストで指定されたサーバからの NTP 制御クエリーのみを受信するようにします。</li> </ul>
ステップ 3	switch(config)# <b>show ntp access-groups</b>	(任意) NTP アクセスグループのコンフィギュレーションを表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、アクセスグループ「accesslist1」からピアと同期できるようにデバイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ntp access-group peer accesslist1
switch(config)# show ntp access-groups
Access List Type
-----
accesslist1 Peer
switch(config)# copy running-config startup-config
[#####] 100%
switch(config)#
```

## NTP ソース IP アドレスの設定

NTP は、NTP パケットが送信されたインターフェイスのアドレスに基づいて、すべての NTP パケットにソース IP アドレスを設定します。特定のソース IP アドレスを使用するよう NTP を設定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<code>[no] ntp source ip-address</code>	すべての NTP パケットにソース IP アドレスを設定します。 <code>ip-address</code> には IPv4 または IPv6 形式を使用できます。

次に、NTP ソース IP アドレスに 192.0.2.2 を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ntp source 192.0.2.2
```

## NTP ソース インターフェイスの設定

特定のインターフェイスを使用するよう NTP を設定できます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	[no] <b>ntp source-interface interface</b>	すべての NTP パケットに対してソースインターフェイスを設定します。次のリストに、 <i>interface</i> として有効な値を示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ethernet</li> <li>• loopback</li> <li>• mgmt</li> <li>• port-channel</li> <li>• vlan</li> </ul>

次に、NTP 送信元インターフェイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ntp source-interface ethernet
```

## NTP ブロードキャスト サーバの設定

インターフェイス上で NTP IPv4 ブロードキャスト サーバを設定できます。デバイスは、そのインターフェイスを介してブロードキャスト パケットを定期的送信します。クライアントは応答を送信する必要はありません。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>interface typeslot/port</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-if)# [no] <b>ntp broadcast [destinationip-address] [keykey-id] [version number]</b>	指定されたインターフェイスの IPv4 NTP ブロードキャスト サーバをイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>destinationip-address</b> : ブロードキャスト宛先 IP アドレスを設定します。</li> </ul>



	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>keykey-id</b> : ブロードキャスト認証キー番号を設定します。有効な範囲は 1 ~ 65535 です。</li> <li>• <b>version number</b> : NTP バージョンを設定します。範囲は 2 ~ 4 です。</li> </ul>
ステップ 4	switch(config-if)# <b>exit</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	switch(config)# <b>[no] ntp broadcastdelay delay</b>	(任意) 推定のブロードキャスト ラウンドトリップ遅延をマイクロ秒単位で設定します。範囲は 1 ~ 999999 です。
ステップ 6	switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、NTP ブロードキャスト サーバを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 6/1
switch(config-if)# ntp broadcast destination 192.0.2.10
switch(config-if)# exit
switch(config)# ntp broadcastdelay 100
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## NTP マルチキャスト サーバの設定

インターフェイスに対して NTP IPv4 または IPv6 マルチキャスト サーバを設定できます。デバイスは、そのインターフェイスを介してマルチキャスト パケットを定期的送信します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>interfacetypeslot/port</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-if)# <b>[no] ntp multicast [ipv4-address   ipv6-address] [keykey-id] [ttl value] [version number]</b>	指定したインターフェイスの NTP IPv4 または IPv6 マルチキャスト サーバをイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ipv4-address</b> または <b>ipv6-address</b> : マルチキャスト IPv4 または IPv6 アドレス。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>keykey-id</b> : ブロードキャスト認証キー番号を設定します。有効な範囲は 1 ~ 65535 です。</li> <li>• <b>ttlvalue</b> : マルチキャストパケットの存続可能時間値。範囲は 1 ~ 255 です。</li> <li>• <b>version number</b> : NTP バージョン。範囲は 2 ~ 4 です。</li> </ul>
ステップ 4	<code>switch(config-if)# copy running-config startup-config</code>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、NTP マルチキャストパケットを送信するようにイーサネットインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ntp multicast FF02::1:FF0E:8C6C
switch(config-if)# copy running-config startup-config
```

## NTP マルチキャストクライアントの設定

インターフェイス上で NTP マルチキャストクライアントを設定できます。デバイスは NTP マルチキャストメッセージをリッスンし、マルチキャストが設定されていないインターフェイスからのメッセージを廃棄します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# interfacetypeslot/port</code>	インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<code>switch(config-if)# [no] ntp multicast client [ipv4-address   ipv6-address]</code>	指定されたインターフェイスが NTP マルチキャストパケットを受信できるようにします。
ステップ 4	<code>switch(config-if)# copy running-config startup-config</code>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

	コマンドまたはアクション	目的
		レーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、NTP マルチキャストパケットを受信するようにイーサネットインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/3
switch(config-if)# ntp multicast client FF02::1:FF0E:8C6C
switch(config-if)# copy running-config startup-config
```

## NTP ログिंगの設定

重要な NTP イベントでシステム ログを生成するよう、NTP ログिंगを設定できます。NTP ログングはデフォルトでディセーブルになっています。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>[no] ntp logging</b>	重要な NTP イベントでシステム ログを生成することをイネーブルまたはディセーブルにします。NTP ログングはデフォルトでディセーブルになっています。
ステップ 3	switch(config)# <b>show ntp logging-status</b>	(任意) NTP ログングのコンフィギュレーション状況を表示します。
ステップ 4	switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、重要な NTP イベントによってシステム ログを生成するよう、NTP ログングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ntp logging
switch(config)# copy running-config startup-config
[#####] 100%
switch(config)#
```

## NTP 用の CFS 配信のイネーブル化

NTP コンフィギュレーションを他の CFS 対応デバイスに配信するために、NTP 用の CFS 配信をイネーブルにできます。

### はじめる前に

デバイスの CFS 配信をイネーブルにしていることを確認します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>[no] ntp distribute</b>	CFS を介して配信される NTP コンフィギュレーションのアップデートをデバイスが受信することを、イネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 3	switch(config)# <b>show ntp status</b>	(任意) NTP CFS の配信状況を表示します。
ステップ 4	switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、デバイスが CFS を介して NTP 設定の更新を受信できるようにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ntp distribute
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## NTP 設定変更のコミット

NTP コンフィギュレーションの変更をコミットすると、保留データベースのコンフィギュレーション変更によって有効なデータベースが上書きされ、ネットワーク内のすべてのデバイスが同じコンフィギュレーションを受け取ります。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>ntp commit</b>	ネットワーク内のすべての Cisco NX-OS デバイスに NTP コンフィギュレーションの変更を配信し、CFS ロックを解放します。このコマンドは、保留データベースに対して行われた変更によって、有効なデータベースを上書きします。

## NTP 設定変更の廃棄

コンフィギュレーション変更の後で、これらの変更をコミットせずに、破棄するよう選択することもできます。変更を破棄すると、Cisco NX-OS によって保留データベースの変更が削除され、CFS ロックが解放されます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>ntp abort</b>	保留データベースで NTP コンフィギュレーションの変更を破棄して、CFS ロックを解放します。このコマンドは、NTP コンフィギュレーションを起動したデバイスで使用します。

## CFS セッション ロックの解放

NTP コンフィギュレーションを実行したが、変更をコミットまたは破棄してロックを解放し忘れた場合は、自分で、または他の管理者がネットワーク内の任意のデバイスからロックを解放できます。また、この操作では、保留データベースの変更が破棄されます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>clear ntp session</b>	保留データベースで NTP コンフィギュレーションの変更を破棄して、CFS ロックを解放します。

## NTP の設定確認

コマンド	目的
<b>show ntp access-groups</b>	NTP アクセスグループのコンフィギュレーションを表示します。
<b>show ntp authentication-keys</b>	設定済みの NTP 認証キーを表示します。
<b>show ntp authentication-status</b>	NTP 認証の状況を表示します。
<b>show ntp internal</b>	内部の NTP 情報を表示します。
<b>show ntp logging-status</b>	NTP のロギング状況を表示します。
<b>show ntp peer-status</b>	すべての NTP サーバおよびピアのステータスを表示します。
<b>show ntp peer</b>	すべての NTP ピアを表示します。
<b>show ntp pending</b>	NTP 用の一時 CFS データベースを表示します。
<b>show ntp pending-diff</b>	保留 CFS データベースと現行の NTP コンフィギュレーションの差異を表示します。
<b>show ntp rts-update</b>	RTS アップデートの状況を表示します。
<b>show ntp session status</b>	NTP CFS 配信セッションの情報を表示します。
<b>show ntp source</b>	設定済みの NTP ソース IP アドレスを表示します。

コマンド	目的
<b>show ntp source-interface</b>	設定済みの NTP ソース インターフェイスを表示します。
<b>show ntp statistics {io   local   memory   peer {ipaddr {ipv4-addr}   name peer-name}}</b>	NTP 統計情報を表示します。
<b>show ntp status</b>	NTP CFS の配信状況を表示します。
<b>show ntp trusted-keys</b>	設定済みの NTP の信頼されているキーを表示します。
<b>show running-config ntp</b>	NTP 情報を表示します。

## NTP の設定例

### NTP の設定例

次に、NTP サーバおよびピアを設定し、NTP 認証をイネーブルにして、NTP ロギングをイネーブルにした後で、そのスタートアップの設定を保存し、リブートとリスタートを通して保存されるようにする例を示します。

```
switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# ntp server 192.0.2.105 key 42
switch(config)# ntp peer 192.0.2.105
switch(config)# show ntp peers
-----
Peer IP Address Serv/Peer
-----
192.0.2.100 Peer (configured)
192.0.2.105 Server (configured)
switch(config)# ntp authentication-key 42 md5 aNiceKey
switch(config)# show ntp authentication-keys
-----
Auth key MD5 String
-----
42 aNicekey
switch(config)# ntp trusted-key 42
switch(config)# show ntp trusted-keys
Trusted Keys:
42
switch(config)# ntp authenticate
switch(config)# show ntp authentication-status
Authentication enabled.
switch(config)# ntp logging
switch(config)# show ntp logging
NTP logging enabled.
switch(config)# copy running-config startup-config
[#####] 100%
switch(config)#
```

次に、以下の制約事項のある NTP アクセス グループの設定の例を示します。

- peer の制約事項は、「peer-acl」というアクセスリストの条件を満たす IP アドレスに適用されます。
- serve の制約事項は、「serve-acl」というアクセスリストの条件を満たす IP アドレスに適用されます。
- serve-only の制約事項は、「serve-only-acl」というアクセスリストの条件を満たす IP アドレスに適用されます。
- query-only の制約事項は、「query-only-acl」というアクセスリストの条件を満たす IP アドレスに適用されます。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ntp peer 10.1.1.1
switch(config)# ntp peer 10.2.2.2
switch(config)# ntp peer 10.3.3.3
switch(config)# ntp peer 10.4.4.4
switch(config)# ntp peer 10.5.5.5
switch(config)# ntp peer 10.6.6.6
switch(config)# ntp peer 10.7.7.7
switch(config)# ntp peer 10.8.8.8
switch(config)# ntp access-group peer peer-acl
switch(config)# ntp access-group serve serve-acl
switch(config)# ntp access-group serve-only serve-only-acl
switch(config)# ntp access-group query-only query-only-acl
switch(config)# ip access-list peer-acl
switch(config-acl)# 10 permit ip host 10.1.1.1 any
switch(config-acl)# 20 permit ip host 10.8.8.8 any
switch(config)# ip access-list serve-acl
switch(config-acl)# 10 permit ip host 10.4.4.4 any
switch(config-acl)# 20 permit ip host 10.5.5.5 any
switch(config)# ip access-list serve-only-acl
switch(config-acl)# 10 permit ip host 10.6.6.6 any
switch(config-acl)# 20 permit ip host 10.7.7.7 any
switch(config)# ip access-list query-only-acl
switch(config-acl)# 10 permit ip host 10.2.2.2 any
switch(config-acl)# 20 permit ip host 10.3.3.3 any
```





## 第 7 章

# PTP の設定

この章の内容は、次のとおりです。

- [PTP に関する情報, 73 ページ](#)
- [PTP デバイス タイプ, 74 ページ](#)
- [PTP プロセス, 75 ページ](#)
- [PTP のハイアベイラビリティ, 75 ページ](#)
- [PTP のライセンス要件, 76 ページ](#)
- [PTP の注意事項および制約事項, 76 ページ](#)
- [PTP のデフォルト設定, 76 ページ](#)
- [PTP の設定, 77 ページ](#)

## PTP に関する情報

PTP はネットワークに分散したノードの時刻同期プロトコルです。そのハードウェアのタイムスタンプ機能は、ネットワークタイムプロトコル (NTP) などの他の時刻同期プロトコルよりも高い精度を実現します。

PTP システムは、PTP および非 PTP デバイスの組み合わせで構成できます。PTP デバイスには、オーディナリクロック、境界クロック、およびトランスペアレントクロックが含まれます。非 PTP デバイスには、通常のネットワークスイッチやルータなどのインフラストラクチャデバイスが含まれます。

PTP は、システムのリアルタイム PTP クロックが相互に同期する方法を指定する分散プロトコルです。これらのクロックは、グランドマスタークロック（階層の最上部にあるクロック）を持つマスター/スレーブ同期階層に編成され、システム全体の時間基準を決定します。同期は、タイミング情報を使用して階層のマスターの時刻にクロックを調整するメンバーと、PTP タイミングメッセージを交換することによって実現されます。PTP は、PTP ドメインと呼ばれる論理範囲内で動作します。

Cisco NX-OS Release 6.0(2)U3(1) 以降のリリースでは、Cisco Nexus 3100 シリーズ スイッチは PTP をサポートしていません。

## PTP デバイスタイプ

次のクロックは、一般的な PTP デバイスです。

### オーディナリ クロック

エンドホストと同様に、単一の物理ポートに基づいてネットワークと通信します。オーディナリ クロックはグラントマスター クロックとして動作できます。

### 境界クロック

通常、複数の物理ポートがあり、各ポートはオーディナリ クロックのポートのように動作します。ただし、各ポートはローカル クロックを共有し、クロックのデータセットはすべてのポートに共通です。各ポートは、境界クロックのその他すべてのポートから使用可能な最善のクロックに基づいて、個々の状態を、マスター（それに接続されている他のポートを同期する）またはスレーブ（ダウンストリーム ポートに同期する）に決定します。同期とマスター/スレーブ階層の確立に関するメッセージは、境界クロックのプロトコル エンジンで終了し、転送されません。

### トランスペアレント クロック

通常のスイッチやルータなどのすべての PTP メッセージを転送しますが、スイッチでのパケットの滞留時間（パケットがトランスペアレント クロックを通過するために要した時間）と、場合によってはパケットの入力ポートのリンク遅延を測定します。トランスペアレント クロックはグラントマスター クロックに同期する必要がないため、ポートの状態はありません。

次の 2 種類のトランスペアレント クロックがあります。

#### エンドツーエンド トランスペアレント クロック

PTP メッセージの滞留時間を測定し、PTP メッセージまたは関連付けられたフォローアップ メッセージの修正フィールドの時間を収集します。

#### ピアツーピア トランスペアレント クロック

PTP メッセージの滞留時間を測定し、各ポートと、リンクを共有する他のノードの同じように装備されたポートとの間のリンク遅延を計算します。パケットの場合、この着信リンクの遅延は、PTP メッセージまたは関連付けられたフォローアップメッセージの修正フィールドの滞留時間に追加されます。



(注) PTP は境界クロック モードのみで動作します。Grand Master Clock (10 MHz) アップストリームを導入することを推奨します。サーバには、同期する必要があり、スイッチに接続されたクロックが含まれます。

エンドツーエンド トランスペアレント クロック モードとピアツーピア トランスペアレント クロック モードはサポートされません。

## PTP プロセス

PTP プロセスは、マスター/スレーブ階層の確立とクロックの同期の 2 つのフェーズで構成されます。

PTP ドメイン内では、オーディナリ クロックまたは境界クロックの各ポートが、次のプロセスに従ってステートを決定します。

- 受信したすべての (マスター ステートのポートによって発行された) アナウンス メッセージの内容を検査します
- 外部マスターのデータ セット (アナウンス メッセージ内) とローカル クロックで、優先順位、クロック クラス、精度などを比較します
- 自身のステートがマスターまたはスレーブのいずれであるかを決定します

マスター/スレーブ階層が確立されると、クロックは次のように同期されます。

- マスターはスレーブに同期メッセージを送信し、送信された時刻を記録します。
- スレーブは同期メッセージを受信し、受信した時刻を記録します。すべての同期メッセージには、フォローアップメッセージがあります。同期メッセージの数は、フォローアップメッセージの数と同じである必要があります。
- スレーブはマスターに遅延要求メッセージを送信し、送信された時刻を記録します。
- マスターは遅延要求メッセージを受信し、受信した時刻を記録します。
- マスターはスレーブに遅延応答メッセージを送信します。遅延要求メッセージの数は、遅延応答メッセージの数と同じである必要があります。
- スレーブは、これらのタイムスタンプを使用して、クロックをマスターの時刻に調整します。

## PTP のハイ アベイラビリティ

PTP のステートフル リスタートはサポートされません。

## PTP のライセンス要件

PTP にはライセンスは不要です。ライセンス パッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システム イメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『Cisco NX-OS Licensing Guide』を参照してください。

## PTP の注意事項および制約事項

- PTP は境界クロック モードのみで動作します。エンドツーエンドトランスペアレントクロック モードとピアツーピア トランスペアレント クロック モードはサポートされません。
- PTP はユーザデータグラムプロトコル (UDP) 上の転送をサポートします。イーサネット上の転送はサポートされません。
- PTP はマルチキャスト通信だけをサポートします。ネゴシエートされたユニキャスト通信はサポートされません。
- PTP はネットワークごとに1つのドメインに制限されます。
- すべての管理メッセージはPTPがイネーブルのポートに転送されます。管理メッセージの処理はサポートされていません。
- PTP 対応ポートは、ポート上でPTPをイネーブルにしない場合、PTP パケットを識別せず、これらのパケットにタイムスタンプを適用したり、パケットをリダイレクトしたりしません。
- 1 packet per second (1 pps) 入力はサポートされていません。
- IPv6 を介した PTP はサポートされていません。
- Cisco Nexus スイッチは、-2 ~ -5 の同期化ログ間隔を使用して、隣接マスターから同期する必要があります。
- Cisco NX-OS Release 6.0(2)U3(1) 以降のリリースでは、Cisco Nexus 3100 シリーズ スイッチは PTP をサポートしていません。Cisco NX-OS Release 6.0(2)U3(1) へのアップグレード後に、**feature ptp** コマンドを実行することはできません。Cisco NX-OS Release 6.0(2)U3(1) にアップグレードする前に PTP を設定した場合、その PTP の設定は削除されます。また、PTP を無効にすると、再度有効にすることはできません。

## PTP のデフォルト設定

次の表に、PTP パラメータのデフォルト設定を示します。

表 2: デフォルトの PTP パラメータ

パラメータ (Parameters)	デフォルト
PTP	ディセーブル
PTP バージョン	2
PTP ドメイン	0
クロックをアドバタイズする場合、PTP プライオリティ 1 値	255
クロックをアドバタイズする場合、PTP プライオリティ 2 値	255
PTP アナウンス間隔	1 ログ秒
PTP 同期間隔	-2 ログ秒
PTP アナウンス タイムアウト	3 アナウンス間隔
PTP 最小遅延要求間隔	0 ログ秒
PTP VLAN	1

## PTP の設定

### PTP のグローバルな設定

デバイスで PTP をグローバルにイネーブルまたはディセーブルにできます。また、ネットワーク内のどのクロックがグランドマスターとして選択される優先順位が最も高いかを判別するために、さまざまな PTP クロック パラメータを設定できます。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # [no] <b>feature ptp</b>	デバイス上で PTP をイネーブルまたはディセーブルにします。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) スイッチの PTP をイネーブルにしても、各インターフェイスの PTP はイネーブルになりません。
ステップ 3	<code>switch(config) # [no] ptp source ip-address [vrf vrf]</code>	すべての PTP パケットのソース IP アドレスを設定します。  <i>ip-address</i> には IPv4 形式を使用できます。
ステップ 4	<code>switch(config) # [no] ptp domain number</code>	(任意) このクロックで使用するドメイン番号を設定します。PTP ドメインを使用すると、1つのネットワーク上で、複数の独立した PTP クロッキングサブドメインを使用できます。  <i>number</i> の範囲は 0 ~ 128 です。
ステップ 5	<code>switch(config) # [no] ptp priority1 value</code>	(任意) このクロックをアドバタイズするときに使用する <i>priority1</i> の値を設定します。この値はベスト マスター クロック選択のデフォルトの基準 (クロック品質、クロック クラスなど) を上書きします。低い値が優先されます。  <i>value</i> の範囲は 0 ~ 255 です。
ステップ 6	<code>switch(config) # [no] ptp priority2 value</code>	(任意) このクロックをアドバタイズするときに使用する <i>priority2</i> の値を設定します。この値は、デフォルトの基準では同等に一致する 2 台のデバイスのうち、どちらを優先するかを決めるために使用されます。たとえば、 <i>priority2</i> 値を使用して、特定のスイッチが他の同等のスイッチよりも優先されるようにすることができます。  <i>value</i> の範囲は 0 ~ 255 です。
ステップ 7	<code>switch(config) # show ptp brief</code>	(任意) PTP のステータスを表示します。
ステップ 8	<code>switch(config) # show ptp clock</code>	(任意) ローカル クロックのプロパティを表示します。
ステップ 9	<code>switch(config) # copy running-config startup-config</code>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、デバイス上で PTP をグローバルに設定し、PTP 通信の送信元 IP アドレスを指定し、クロックの優先レベルを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature ptp
switch(config)# ptp source 10.10.10.1
switch(config)# ptp priority1 1
switch(config)# ptp priority2 1
switch(config)# show ptp brief
PTP port status
-----
Port State
-----
switch(config)# show ptp clock
PTP Device Type: Boundary clock
Clock Identity : 0:22:55:ff:ff:79:a4:c1
Clock Domain: 0
Number of PTP ports: 0
Priority1 : 1
Priority2 : 1
Clock Quality:
Class : 248
Accuracy : 254
Offset (log variance) : 65535
Offset From Master : 0
Mean Path Delay : 0
Steps removed : 0
Local clock time:Sun Jul 3 14:13:24 2011
switch(config)#
```

## インターフェイスでの PTP の設定

PTP をグローバルにイネーブルにしても、デフォルトで、サポートされているすべてのインターフェイス上でイネーブルになりません。PTP インターフェイスは個別にイネーブルに設定する必要があります。

### はじめる前に

スイッチ上でグローバルに PTP をイネーブルにし、PTP 通信の送信元 IP アドレスを設定したことを確認します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>interface ethernet slot/port</b>	PTP をイネーブルにするインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<code>switch(config-if) # [no] feature ptp</code>	インターフェイスで PTP をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 4	<code>switch(config-if) # [no] ptp announce {interval log seconds   timeout count}</code>	(任意) インターフェイス上の PTP アナウンス メッセージ間の間隔またはタイムアウトがインターフェイスで発生する前の PTP 間隔の数を設定します。 PTP アナウンス間隔の範囲は 0 ~ 4 秒で、間隔のタイムアウトの範囲は 2 ~ 10 です。
ステップ 5	<code>switch(config-if) # [no] ptp delay request minimum interval log seconds</code>	(任意) ポートがマスター ステートの場合に PTP 遅延要求メッセージ間で許可される最小間隔を設定します。 範囲はログ (-6) ~ ログ (1) 秒です。ログ (-2) は、1 秒あたり 2 フレームです。
ステップ 6	<code>switch(config-if) # [no] ptp sync interval log seconds</code>	(任意) インターフェイス上の PTP 同期メッセージ間の間隔を設定します。 PTP 同期間隔の範囲は -6 ログ秒 ~ 1 秒です。
ステップ 7	<code>switch(config-if) # [no] ptp vlan vlan-id</code>	(任意) PTP をイネーブルにするインターフェイスの VLAN を指定します。インターフェイスの 1 つの VLAN でイネーブルにできるのは、1 つの PTP のみです。 指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。
ステップ 8	<code>switch(config-if) # show ptp brief</code>	(任意) PTP のステータスを表示します。
ステップ 9	<code>switch(config-if) # show ptp port interface interface slot/port</code>	(任意) PTP ポートのステータスを表示します。
ステップ 10	<code>switch(config-if) # copy running-config startup-config</code>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、インターフェイス上で PTP を設定し、アナウンス、遅延要求、および同期メッセージの間隔を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# ptp
```



```

switch(config-if)# ptp announce interval 3
switch(config-if)# ptp announce timeout 2
switch(config-if)# ptp delay-request minimum interval 4
switch(config-if)# ptp sync interval -1
switch(config-if)# show ptp brief
PTP port status
-----
Port State
-----
Eth2/1 Master
switch(config-if)# show ptp port interface ethernet 2/1
PTP Port Dataset: Eth2/1
Port identity: clock identity: 0:22:55:ff:ff:79:a4:c1
Port identity: port number: 1028
PTP version: 2
Port state: Master
Delay request interval(log mean): 4
Announce receipt time out: 2
Peer mean path delay: 0
Announce interval(log mean): 3
Sync interval(log mean): -1
Delay Mechanism: End to End
Peer delay request interval(log mean): 0
switch(config-if)#

```

## PTP 設定の確認

次のいずれかのコマンドを使用して、設定を確認します。

表 3: PTP Show コマンド

コマンド	目的
<b>show ptp brief</b>	PTP のステータスを表示します。
<b>show ptp clock</b>	ローカルクロックのプロパティ（クロック ID など）を表示します。
<b>show ptp clock foreign-masters-record</b>	PTP プロセスが認識している外部マスターの状態を表示します。外部マスターごとに、出力に、クロック ID、基本的なクロックプロパティ、およびクロックがグランドマスターとして使用されているかどうかが表示されます。
<b>show ptp corrections</b>	最後の数個の PTP 修正を表示します。
<b>show ptp parent</b>	PTP ペアレントのプロパティを表示します。
<b>show ptp port interface ethernet <i>slot/port</i></b>	スイッチの PTP ポートのステータスを表示します。





## 第 8 章

# ユーザアカウントおよび RBAC の設定

この章の内容は、次のとおりです。

- [ユーザアカウントおよび RBAC の概要, 83 ページ](#)
- [ユーザアカウントの注意事項および制約事項, 90 ページ](#)
- [ユーザアカウントの設定, 90 ページ](#)
- [RBAC の設定, 93 ページ](#)
- [ユーザアカウントと RBAC の設定の確認, 98 ページ](#)
- [ユーザアカウントおよび RBAC のユーザアカウント デフォルト設定, 98 ページ](#)

## ユーザアカウントおよび RBAC の概要

Cisco Nexus シリーズ スイッチは、ロールベース アクセス コントロール (RBAC) を使用して、ユーザがスイッチにログインするときに各ユーザが持つアクセス権の量を定義します。

RBAC では、1 つまたは複数のユーザ ロールを定義し、各ユーザ ロールがどの管理操作を実行できるかを指定します。スイッチのユーザアカウントを作成するとき、そのアカウントにユーザ ロールを関連付けます。これにより個々のユーザがスイッチで行うことができる操作が決まります。

## ユーザ ロール

ユーザ ロールには、そのロールを割り当てられたユーザが実行できる操作を定義するルールが含まれています。各ユーザ ロールに複数のルールを含めることができ、各ユーザが複数のロールを持つことができます。たとえば、`role1` では設定操作へのアクセスだけが許可されており、`role2` ではデバッグ操作へのアクセスだけが許可されている場合、`role1` と `role2` の両方に属するユーザは、設定操作とデバッグ操作にアクセスできます。特定の、VLAN、およびインターフェイスへのアクセスを制限することもできます。

スイッチには、次のデフォルト ユーザ ロールが用意されています。

**network-admin (スーパーユーザ)**

スイッチ全体に対する完全な読み取りと書き込みのアクセス権。

**ネットワーク オペレータ**

スイッチに対する完全な読み取りアクセス権。



(注) 複数のロールに属するユーザは、そのロールで許可されるすべてのコマンドの組み合わせを実行できます。コマンドへのアクセス権は、コマンドへのアクセス拒否よりも優先されます。たとえば、ユーザが、コンフィギュレーション コマンドへのアクセスが拒否されたロール A を持っていたとします。しかし、同じユーザが RoleB も持ち、このロールではコンフィギュレーション コマンドにアクセスできるとします。この場合、このユーザはコンフィギュレーション コマンドにアクセスできます。

**事前定義された SAN 管理者ユーザ ロール**

SAN 管理者ユーザ ロールは、LAN および SAN の管理タスクを分離するように設計された、編集不可能な事前定義されたユーザ ロールです。SAN 管理者ユーザ ロールを割り当てられたユーザは、すべてのイーサネット コンフィギュレーション タスクへの読み取り専用アクセスがあります。別のユーザ ロールによって割り当てられていない場合、SAN の管理者ユーザには、イーサネット機能に対する書き込みアクセスが許可されません。

SAN 管理者ユーザには、次の機能が許可されます。

- インターフェイス コンフィギュレーション
- ファイバチャネルユニファイド ポートの属性設定 (作成および削除を除く)
- VSAN の設定 (データベースやメンバーシップなど)
- FCoE 用に事前設定された VLAN の VSAN へのマッピング
- ゾーン分割設定
- SNMP コミュニティと SNMP ユーザを除く SNMP 関連パラメータの設定
- 他のすべての設定に対する読み取り専用アクセス
- 次のような SAN 機能の設定および管理 :
  - FC-SP
  - FC-PORT-SECURITY
  - FCoE
  - FCoE-NPV
  - FPORT-CHANNEL-TRUNK
  - PORT-TRACK

- FABRIC-BINDING

- 次の EXEC モード コマンドの設定および管理：

- DEBUG
- FCDOMAIN
- FCPING
- SAN-PORT-CHANNEL
- SHOW
- ZONE
- ZONESET



(注) SAN 管理者ロールは、ファイバチャネル インターフェイスだけでなく、すべてのインターフェイス タイプでの設定を許可します。事前定義された SAN 管理者ユーザロールは、イーサネット インターフェイスを含むすべてのインターフェイスへのアクセスを許可するように設計されています。そのため、SNMP の動作は妨げられません。

## ルール

ルールは、ロールの基本要素です。ルールは、そのロールがユーザにどの操作の実行を許可するかを定義します。ルールは次のパラメータで適用できます。

### コマンド

正規表現で定義されたコマンドまたはコマンドグループ

### 機能

Cisco Nexus デバイスにより提供される機能に適用されるコマンド。**show role feature** コマンドを入力すると、このパラメータに指定できる機能名が表示されます。

### 機能グループ

機能のデフォルトグループまたはユーザ定義グループ **show role feature-group** コマンドを入力すると、このパラメータに指定できるデフォルトの機能グループが表示されます。

これらのパラメータは、階層状の関係を作成します。最も基本的な制御パラメータは **command** です。次の制御パラメータは **feature** です。これは、その機能にアソシエートされているすべてのコマンドを表します。最後の制御パラメータが、**feature group** です。機能グループは、関連する機能を組み合わせたものです。機能グループによりルールを簡単に管理できます。

ロールごとに最大 256 のルールを設定できます。ルールが適用される順序は、ユーザ指定のルール番号で決まります。ルールは降順で適用されます。たとえば、1 つのロールが 3 つのルールを

持っている場合、ルール 3 がルール 2 よりも前に適用され、ルール 2 はルール 1 よりも前に適用されます。

## SAN 管理者ロール機能のルール マッピング

SAN 管理者ロールは編集不可です。次のロール機能は、設定済みのロールの一部です。事前設定されたロールには、完全な読み取りアクセス権があり、次のルールが適用されます。

表 4: SAN 管理者ユーザロールのロール機能のルール

機能	権限
copy	コピー関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
fabric-binding	ファブリックバインディング関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
fcdomain	ファイバチャネル ドメイン関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
fcfe	ファイバチャネル FE 関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
fcmgmt	ファイバチャネル管理関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
fcns	ファイバチャネル関連サービス FCNS コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
fcoe	Fibre Channel over Ethernet 関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
fesp	Fibre Channel Security Protocol (FCSP) 関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
fdmi	Fabric Device Management Interface (FDMI) 関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
fspf	Fabric Shortest Path First (FSPF) 関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限

機能	権限
interface	インターフェイス関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限です。ファイバチャネルインターフェイスだけでなく、すべてのインターフェイスが含まれます。
port-track	ポートトラック関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
port-security	ポートセキュリティ関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
rdl	Remote Domain Loopback (RDL) 関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
rmon	RMON 関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
rscn	Registered State Change Notification (RSCN) 関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
snmp	SNMP 関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
snmpTargetAddrEntry	SNMP トラップターゲット関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
snmpTargetParamsEntry	SNMP トラップターゲットパラメータ関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
span	SPAN 関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
trapRegEntry	SNMP トラップレジストリ関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
トランク	ファイバチャネルポートチャネルトランク関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
vsan	VSAN 関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限

機能	権限
vsanIfvsan	FCoE VLAN と VSAN 間マッピング コマンド関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
wwnm	World Wide Name (WWN) 関連コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限
zone	ゾーン分割コマンドに対する読み取りおよび書き込み権限

## ユーザロールポリシー

ユーザがアクセスできるスイッチリソースを制限するために、またはインターフェイスと VLAN へのアクセスを制限するために、ユーザロールポリシーを定義できます。

ユーザロールポリシーは、ロールに定義されている規則で制約されます。たとえば、特定のインターフェイスへのアクセスを許可するインターフェイスポリシーを定義した場合、**interface** コマンドを許可するコマンドルールをロールに設定しないと、ユーザはインターフェイスにアクセスできません。

コマンドルールが特定のリソース（インターフェイス、VLAN、）へのアクセスを許可した場合、ユーザがそのユーザに関連付けられたユーザロールポリシーに表示されていなくても、ユーザはこれらのリソースへのアクセスを許可されます。

## ユーザアカウントの設定の制限事項

次の語は予約済みであり、ユーザ設定に使用できません。

- adm
- bin
- daemon
- ftp
- ftpuser
- games
- gdm
- gopher
- halt
- lp
- mail



- mailnull
- man
- mtsuser
- news
- nobody
- san-admin
- シャットダウン
- sync
- sys
- uucp
- xfs

**注意**

Cisco Nexus シリーズ スイッチでは、すべて数字のユーザ名が TACACS+ または RADIUS で作成されている場合でも、すべて数字のユーザ名はサポートされません。AAA サーバに数字だけのユーザ名が登録されていて、ログイン時に入力しても、スイッチはログイン要求を拒否します。

## ユーザパスワードの要件

Cisco Nexus デバイスパスワードには大文字小文字の区別があり、英数字だけを含むことができます。ドル記号 (\$) やパーセント記号 (%) などの特殊文字は使用できません。

パスワードが脆弱な場合 (短い、解読されやすいなど)、Cisco Nexus デバイスはパスワードを拒否します。各ユーザアカウントには強力なパスワードを設定するようにしてください。強力なパスワードは、次の特性を持ちます。

- 長さが 8 文字以上である
- 複数の連続する文字 (「abcd」など) を含んでいない
- 複数の同じ文字の繰り返し (「aaabbb」など) を含んでいない
- 辞書に載っている単語を含んでいない
- 正しい名前を含んでいない
- 大文字および小文字の両方が含まれている
- 数字が含まれている

強力なパスワードの例を次に示します。

- If2CoM18

- 2009AsdfLkj30
- Cb1955S21



(注) セキュリティ上の理由から、ユーザパスワードはコンフィギュレーションファイルに表示されません。

## ユーザアカウントの注意事項および制約事項

ユーザアカウントおよびRBACを設定する場合、ユーザアカウントには次の注意事項および制約事項があります。

- Release 7.0(3)I2(1)以降では、パスワード強度をチェックするための新しい基準が実装されています。
- 最大 256 個のルールをユーザロールに追加できます。
- 最大 64 個のユーザロールをユーザアカウントに割り当てることができます。
- 1 つのユーザロールを複数のユーザアカウントに割り当てることができます。
- network-admin、network-operator、san-admin などの事前定義されたロールは編集不可です。
- ルールの追加、削除、編集は、SAN 管理者ユーザロールではサポートされません。
- インターフェイス、VLAN、または VSAN 範囲は SAN 管理者ユーザロールでは変更できません。



(注) ユーザアカウントは、少なくとも 1 つのユーザロールを持たなければなりません。

## ユーザアカウントの設定



(注) ユーザアカウントの属性に加えられた変更は、そのユーザがログインして新しいセッションを作成するまで有効になりません。

ユーザ名の最初の文字として、任意の英数字または \_ (アンダースコア) を使用できます。最初の文字にその他の特殊文字を使用することはできません。ユーザ名に許可されていない文字が含まれている場合、指定したユーザはログインできません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>show role</b>	(任意) 使用可能なユーザロールを表示します。必要に応じて、他のユーザ ロールを設定できます。
ステップ 3	switch(config) # <b>username</b> <i>user-id</i> <b>[password</b> <i>password</i> <b>]</b> <b>[expire</b> <i>date</i> <b>]</b> <b>[role</b> <i>role-name</i> <b>]</b>	ユーザ アカウントを設定します。 <i>user-id</i> は、最大 28 文字の英数字の文字列で、大文字と小文字が区別されます。 デフォルトの <i>password</i> は定義されていません。 (注) パスワードを指定しなかった場合、ユーザはスイッチにログインできない場合があります。 (注) Release 7.0(3)I2(1) 以降では、パスワード強度をチェックするための新しい内部関数が実装されています。Release 7.0(3)I2(1) の Cisco Nexus 3000 シリーズプラットフォームでパスワード強度チェックを有効にすると、以前のリリースとは異なる基準が適用されます。 <b>expire</b> <i>date</i> オプションの形式は、YYYY-MM-DD です。デフォルトでは、失効日はありません。
ステップ 4	switch(config) # <b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	switch# <b>show user-account</b>	(任意) ロール設定を表示します。
ステップ 6	switch# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

次に、ユーザ アカウントを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# username NewUser password 4Ty18Rnt
switch(config)# exit
switch# show user-account
```

次に、Release 7.0(3)I2(1) 以降でパスワード強度チェックを有効にする基準の例を示します。

```
switch(config)# username xyz password nbv12345
password is weak
Password should contain characters from at least three of the following classes: lower case
```

```

letters, upper case letters, digits and special characters.
switch(config)# username xyz password Nbv12345
password is weak
it is too simplistic/systematic
switch(config)#
    
```

## SAN 管理者ユーザの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>username user-id role san-admin password password</b>	指定したユーザに対する SAN 管理者ユーザロールのアクセス権を設定します。
ステップ 3	switch(config) # <b>show user-account</b>	(任意) ロール設定を表示します。
ステップ 4	switch(config) # <b>show snmp-user</b>	(任意) SNMP ユーザの設定を表示します。
ステップ 5	switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、SAN 管理者ユーザを設定し、ユーザ アカウントおよび SNMP ユーザ設定を表示する例を示します。

```

switch# configure terminal
switch(config)# username user1 role san-admin password xyz123
switch(config)# show user-account
user:admin
    this user account has no expiry date
    roles:network-admin
user:user1
    this user account has no expiry date
    roles:san-admin
switch(config) # show snmp user
    
```

SNMP USERS			
User	Auth	Priv(enforce)	Groups
admin	md5	des(no)	network-admin
user1	md5	des(no)	san-admin

NOTIFICATION TARGET USES (configured for sending V3 Inform)

```
User      Auth      Priv
-----  -----  -----
switch(config) #
```

# RBAC の設定

## ユーザ ロールおよびルールの作成

指定するルール番号により、ルールが適用される順番が決まります。ルールは降順で適用されます。たとえば、1つのロールが3つのルールを持っている場合、ルール3がルール2よりも前に適用され、ルール2はルール1よりも前に適用されます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>role namerole-name</b>	ユーザ ロールを指定し、ロール コンフィギュレーション モードを開始します。  <i>role-name</i> 引数は、最大 16 文字の英数字の文字列で、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	switch(config-role) # <b>rule number {deny   permit} commandcommand-string</b>	コマンド規則を設定します。  <i>command-string</i> には、スペースおよび正規表現を含めることができます。たとえば、「interface ethernet *」は、すべてのイーサネットインターフェイスが含まれます。  必要な規則の数だけこのコマンドを繰り返します。
ステップ 4	switch(config-role) # <b>rule number {deny   permit} {read   read-write}</b>	すべての操作の読み取り専用ルールまたは読み取り/書き込みルールを設定します。
ステップ 5	switch(config-role) # <b>rule number {deny   permit} {read   read-write} featurefeature-name</b>	機能に対して、読み取り専用規則か読み取りと書き込みの規則かを設定します。  機能の一覧を表示するには、 <b>show role feature</b> コマンドを使用します。  必要な規則の数だけこのコマンドを繰り返します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	<code>switch(config-role)# rule number {deny   permit} {read   read-write} feature-group group-name</code>	機能グループに対して、読み取り専用規則か読み取りと書き込みの規則かを設定します。 機能グループの一覧を表示するには、 <b>show role feature-group</b> コマンドを使用します。 必要な規則の数だけこのコマンドを繰り返します。
ステップ 7	<code>switch(config-role)# description text</code>	(任意) ロールの説明を設定します。説明にはスペースも含めることができます。
ステップ 8	<code>switch(config-role)# end</code>	ロール コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 9	<code>switch# show role</code>	(任意) ユーザ ロールの設定を表示します。
ステップ 10	<code>switch# copy running-config startup-config</code>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、ユーザ ロールを作成してルールを指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# role name UserA
switch(config-role)# rule deny command clear users
switch(config-role)# rule deny read-write
switch(config-role)# description This role does not allow users to use clear commands
switch(config-role)# end
switch(config)# show role
```

## 機能グループの作成

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config) # role feature-group group-name</code>	ユーザ ロール機能グループを指定して、ロール機能グループ コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<i>group-name</i> は、最大32文字の英数字の文字列で、大文字と小文字が区別されます。
ステップ3	switch(config) # <b>exit</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ4	switch# <b>show role feature-group</b>	(任意) ロール機能グループ設定を表示します。
ステップ5	switch# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、機能グループを作成する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # role feature-group group1
switch(config) # exit
switch# show role feature-group
switch# copy running-config startup-config
switch#
```

## ユーザロールインターフェイスポリシーの変更

ユーザロールインターフェイスポリシーを変更することで、ユーザがアクセスできるインターフェイスを制限できます。ロールがアクセスできるインターフェイスのリストを指定します。これを必要なインターフェイスの数だけ指定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ2	switch(config) # <b>role namerole-name</b>	ユーザロールを指定し、ロールコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ3	switch(config-role) # <b>interface policy deny</b>	ロールインターフェイスポリシーコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ4	switch(config-role-interface) # <b>permit interfaceinterface-list</b>	ロールがアクセスできるインターフェイスのリストを指定します。  必要なインターフェイスの数だけこのコマンドを繰り返します。

	コマンドまたはアクション	目的
		このコマンドの場合、イーサネットインターフェイスを指定できます。
ステップ 5	switch(config-role-interface) # <b>exit</b>	ロールインターフェイスポリシーコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 6	switch(config-role) # <b>show role</b>	(任意) ロール設定を表示します。
ステップ 7	switch(config-role) # <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

次に、ユーザがアクセスできるインターフェイスを制限するために、ユーザロールインターフェイスポリシーを変更する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# role name UserB
switch(config-role)# interface policy deny
switch(config-role-interface)# permit interface ethernet 2/1
switch(config-role-interface)# permit interface fc 3/1
switch(config-role-interface)# permit interface vfc 30/1
```

## ユーザロールVLANポリシーの変更

ユーザロールVLANポリシーを変更することで、ユーザがアクセスできるVLANを制限できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>role namerole-name</b>	ユーザロールを指定し、ロールコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-role) # <b>vlan policy deny</b>	ロールVLANポリシーコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	switch(config-role-vlan) # <b>permit vlanvlan-list</b>	ロールがアクセスできるVLANの範囲を指定します。  必要なVLANの数だけこのコマンドを繰り返します。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	switch(config-role-vlan) # <b>exit</b>	ロール VLAN ポリシー コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 6	switch# <b>show role</b>	(任意) ロール設定を表示します。
ステップ 7	switch# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## ユーザ ロール VSAN ポリシーの変更

ユーザ ロール VSAN ポリシーを変更して、ユーザがアクセスできる VSAN を制限できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config-role) # <b>role namerole-name</b>	ユーザ ロールを指定し、ロール コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-role) # <b>vsan policy deny</b>	ロール VSAN ポリシー コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	switch(config-role-vsan) # <b>permit vsanvsan-list</b>	ロールがアクセスできる VSAN 範囲を指定します。  必要な VSAN の数だけ、このコマンドを繰り返します。
ステップ 5	switch(config-role-vsan) # <b>exit</b>	ロール VSAN ポリシー コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 6	switch# <b>show role</b>	(任意) ロール設定を表示します。
ステップ 7	switch# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

	コマンドまたはアクション	目的
		ションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## ユーザアカウントとRBACの設定の確認

次のいずれかのコマンドを使用して、設定を確認します。

コマンド	目的
<code>show role [role-name]</code>	ユーザ ロールの設定を表示します。
<code>show role feature</code>	機能リストを表示します。
<code>show role feature-group</code>	機能グループの設定を表示します。
<code>show startup-config security</code>	スタートアップコンフィギュレーションのユーザアカウント設定を表示します。
<code>show running-config security [all]</code>	実行コンフィギュレーションのユーザアカウント設定を表示します。 <b>all</b> キーワードを指定すると、ユーザアカウントのデフォルト値が表示されます。
<code>show user-account</code>	ユーザアカウント情報を表示します。

## ユーザアカウントおよびRBACのユーザアカウントデフォルト設定

次の表に、ユーザアカウントおよびRBACパラメータのデフォルト設定を示します。

表 5: デフォルトのユーザアカウントおよびRBACパラメータ

パラメータ (Parameters)	デフォルト
ユーザアカウントパスワード	未定義
ユーザアカウントの有効期限	なし。

パラメータ (Parameters)	デフォルト
インターフェイス ポリシー	すべてのインターフェイスがアクセス可能
VLAN ポリシー	すべての VLAN がアクセス可能
VFC ポリシー	すべての VFC にアクセス可能。
VETH ポリシー	すべての VETH にアクセス可能。





# 第 9 章

## Session Manager の設定

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [Session Manager の概要](#), 101 ページ
- [Session Manager の注意事項および制約事項](#), 102 ページ
- [Session Manager の設定](#), 102 ページ
- [Session Manager 設定の確認](#), 104 ページ

## Session Manager の概要

Session Manager を使用すると、設定変更をバッチモードで実行できます。Session Manager は次のフェーズで機能します。

- **コンフィギュレーションセッション**：セッション マネージャ モードで実行するコマンドのリストを作成します。
- **検証**：設定の基本的なセマンティック チェックを行います。Cisco NX-OS は、設定の一部でセマンティクス検査が失敗した場合にエラーを返します。
- **検証**：既存のハードウェア設定、ソフトウェア設定、およびリソースに基づいて、設定全体を確認します。Cisco NX-OS は、設定がこの確認フェーズで合格しなかった場合にエラーを返します。
- **コミット**：Cisco NX-OS は設定全体を確認して、デバイスに対する変更をアトミックに実行します。エラーが発生すると、Cisco NX-OS は元の設定に戻ります。
- **打ち切り**：設定変更を実行しないで廃棄します。

任意で、変更をコミットしないでコンフィギュレーションセッションを終了できます。また、コンフィギュレーションセッションを保存することもできます。

## Session Manager の注意事項および制約事項

Session Manager には、次の注意事項および制限事項があります。

- Session Manager は、アクセス コントロール リスト (ACL) 機能のみサポートします。
- 作成できるコンフィギュレーションセッションの最大数は 32 です。
- すべてのセッションで設定できるコマンドの最大数は 20,000 です。

## Session Manager の設定

### セッションの作成

作成できるコンフィギュレーションセッションの最大数は 32 です。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure sessionname</b>	コンフィギュレーションセッションを作成し、セッション コンフィギュレーション モードを開始します。名前は任意の英数字ストリングです。セッションの内容を表示します。
ステップ 2	switch(config-s)# <b>show configuration session [name]</b>	(任意) セッションの内容を表示します。
ステップ 3	switch(config-s)# <b>savelocation</b>	(任意) セッションをファイルに保存します。保存場所には、bootflash または volatile を指定できます。

### セッションでの ACL の設定

コンフィギュレーションセッションで ACL を設定できます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure sessionname</b>	コンフィギュレーションセッションを作成し、セッション コンフィギュレーション モードを開始します。名前は任意の英数字 ストリングです。
ステップ 2	switch(config-s)# <b>ip access-listname</b>	ACL を作成します。
ステップ 3	switch(config-s-acl)# <b>permitprotocol source destination</b>	(任意) ACL に許可文を追加します。
ステップ 4	switch(config-s-acl)# <b>interfaceinterface-type number</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	switch(config-s-if)# <b>ip port access-groupnamein</b>	インターフェイスにポートアクセスグループを追加します。
ステップ 6	switch# <b>show configuration session [name]</b>	(任意) セッションの内容を表示します。

## セッションの確認

セッションを確認するには、セッション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch(config-s)# <b>verify [verbose]</b>	コンフィギュレーションセッションのコマンドを確認します。

## セッションのコミット

セッションをコミットするには、セッション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch(config-s)# <b>commit [verbose]</b>	コンフィギュレーションセッションのコマンドをコミットします。

## セッションの保存

セッションを保存するには、セッションモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch(config-s)# <b>savelocation</b>	(任意) セッションをファイルに保存します。保存場所には、bootflash または volatile を指定できます。

## セッションの廃棄

セッションを廃棄するには、セッションモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch(config-s)# <b>abort</b>	コマンドを適用しないで、コンフィギュレーションセッションを廃棄します。

## Session Manager のコンフィギュレーション例

次に、ACL 用のコンフィギュレーションセッションを作成する例を示します。

```
switch# configure session name test2
switch(config-s)# ip access-list acl2
switch(config-s-acl)# permit tcp any any
switch(config-s-acl)# exit
switch(config-s)# interface Ethernet 1/4
switch(config-s-ip)# ip port access-group acl2 in
switch(config-s-ip)# exit
switch(config-s)# verify
switch(config-s)# exit
switch# show configuration session test2
```

## Session Manager 設定の確認

セッションマネージャの設定情報を確認するには、次の作業のいずれかを行います。

コマンド	目的
<b>show configuration session [name]</b>	コンフィギュレーションファイルの内容を表示します。



コマンド	目的
<b>show configuration session status</b> <i>[name]</i>	コンフィギュレーションセッションのステータスを表示します。
<b>show configuration session summary</b>	すべてのコンフィギュレーションセッションのサマリーを表示します。





# 第 10 章

## スケジューラの設定

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [スケジューラの概要, 107 ページ](#)
- [スケジューラのライセンス要件, 109 ページ](#)
- [スケジューラの注意事項および制約事項, 109 ページ](#)
- [スケジューラのデフォルト設定, 109 ページ](#)
- [スケジューラの設定, 110 ページ](#)
- [スケジューラの設定確認, 117 ページ](#)
- [スケジューラの設定例, 117 ページ](#)
- [スケジューラの標準, 118 ページ](#)

## スケジューラの概要

スケジューラを使用すると、次のようなメンテナンス作業のタイムテーブルを定義し、設定することができます。

- QoS (Quality of Service) ポリシーの変更
- データのバックアップ
- 設定の保存

ジョブは、定期的な作業を定義する単一または複数のコマンドで構成されています。ジョブは、1 回だけ、または定期的な間隔でスケジューリングすることができます。

スケジューラでは、ジョブと、そのタイムテーブルを次のように定義できます。

## ジョブ

コマンドリストとして定義され、指定されたスケジューラに従って実行される定期的なタスク。

## スケジューラ

ジョブを実行するためのタイムテーブル。1つのスケジューラに複数のジョブを割り当てることができます。

1つのスケジューラは、定期的、または1回だけ実行するように定義されます。

- 定期モード：ジョブを削除するまで続行される繰り返しの間隔。次のタイプの定期的な間隔を設定できます。
  - Daily：ジョブは1日1回実行されます。
  - Weekly：ジョブは毎週1回実行されます。
  - Monthly：ジョブは毎月1回実行されます。
  - Delta：ジョブは、指定した時間に開始され、以後、指定した間隔（days:hours:minutes）で実行されます。
- 1回限定モード：ジョブは、指定した時間に1回だけ実行されます。

## リモートユーザ認証

ジョブの開始前に、スケジューラはジョブを作成したユーザを認証します。リモート認証からのユーザクレデンシャルは、スケジューラされたジョブをサポートできるだけの十分に長い時間保持されないため、ジョブを作成するユーザの認証パスワードをローカルで設定する必要があります。これらのパスワードは、スケジューラのコンフィギュレーションに含まれ、ローカル設定のユーザとは見なされません。

ジョブを開始する前に、スケジューラはローカルパスワードとリモート認証サーバに保存されたパスワードを照合します。

## スケジューラ ログ ファイル

スケジューラは、ジョブ出力を含むログファイルを管理します。ジョブ出力のサイズがログファイルのサイズより大きい場合、出力内容は切り捨てられます。

## スケジュールのライセンス要件

この機能には、ライセンスは必要ありません。ライセンスパッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システムイメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『Cisco NX-OS Licensing Guide』を参照してください。

## スケジュールの注意事項および制約事項

- ジョブの実行中に次のいずれかの状況が発生した場合、スケジュールは失敗する可能性があります。
  - 機能ライセンスが、その機能のジョブがスケジュールされている時間に期限切れになった場合。
  - 機能が、その機能を使用するジョブがスケジュールされている時間にディセーブルになっている場合。
- 時刻が設定されていることを確認します。スケジュールはデフォルトのタイムテーブルを適用しません。スケジュールを作成し、ジョブを割り当てても、時刻を設定しなければ、ジョブは開始されません。
- ジョブは開始されると非インタラクティブ方式で実行されるため、ジョブの定義中、インタラクティブなコマンドや中断を伴うコマンド（例：**copy bootflash:file ftp:URI**、**write erase**、その他類似のコマンド）が指定されていないことを確認してください。

## スケジュールのデフォルト設定

表 6: コマンドスケジュールのパラメータのデフォルト

パラメータ (Parameters)	デフォルト
スケジュールの状態	ディセーブル
ログファイルサイズ	16 KB

# スケジューラの設定

## スケジューラのイネーブル化

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>feature scheduler</b>	スケジューラをイネーブルにします。
ステップ 3	switch(config) # <b>show scheduler config</b>	(任意) スケジューラ設定を表示します。
ステップ 4	switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、スケジューラをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # feature scheduler
switch(config) # show scheduler config
config terminal
    feature scheduler
        scheduler logfile size 16
end
switch(config) #
```

## スケジューラ ログ ファイル サイズの定義

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>scheduler logfile size value</b>	スケジューラ ログ ファイル サイズをキロバイト (KB) で定義します。

	コマンドまたはアクション	目的
		範囲は 16 ～ 1024 です。デフォルトのログ ファイルサイズは 16 です。 (注) ジョブ出力のサイズがログファイルのサイズより大きい場合、出力内容は切り捨てられます。
ステップ 3	<b>switch(config)# copy running-config startup-config</b>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、スケジューラ ログ ファイルのサイズを定義する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# scheduler logfile size 1024
switch(config)#
```

## リモート ユーザ認証の設定

リモートユーザは、ジョブを作成および設定する前に、クリアテキストパスワードを使用して認証する必要があります。

**show running-config** コマンドの出力では、リモートユーザパスワードは常に暗号化された状態で表示されます。コマンドの暗号化オプション (7) は、ASCII デバイス設定をサポートします。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>switch# configure terminal</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<b>switch(config) # scheduler aaa-authentication password [0   7] password</b>	現在ログインしているユーザのパスワードを設定します。  クリアテキストパスワードを設定するには、 <b>0</b> を入力します。  暗号化されたパスワードを設定するには、 <b>7</b> を入力します。
ステップ 3	<b>switch(config) # scheduler aaa-authentication username name password [0   7] password</b>	リモートユーザのクリアテキストパスワードを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<code>switch(config)# show running-config</code> <code>  include "scheduler</code> <code>aaa-authentication"</code>	(任意) スケジューラのパスワード情報を表示します。
ステップ 5	<code>switch(config)# copy running-config</code> <code>startup-config</code>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、NewUser という名前のリモート ユーザのクリア テキスト パスワードを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # scheduler aaa-authentication
username NewUser password z98y76x54b
switch(config) # copy running-config startup-config
switch(config) #
```

## ジョブの定義

一旦ジョブを定義すると、コマンドの変更、削除はできません。ジョブを変更するには、そのジョブを削除して新しいジョブを作成する必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config) # scheduler job</code> <code>name name</code>	ジョブを指定された名前で作成し、ジョブコンフィギュレーションモードを開始します。 <i>name</i> は 31 文字までに制限されています。
ステップ 3	<code>switch(config-job) # command1</code> <code> ; [command2 ;command3 ; ...</code>	特定のジョブに対応するコマンドシーケンスを定義します。コマンドはスペースとセミコロン (;) で区切ります。  ファイル名は現在のタイムスタンプとスイッチ名を使用して作成されます。
ステップ 4	<code>switch(config-job) # show</code> <code>scheduler job [name]</code>	(任意) ジョブ情報を表示します。 <i>name</i> は 31 文字までに制限されています。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<code>switch(config-job) # copy running-config startup-config</code>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、`backup-cfg` という名前のスケジューラジョブを作成し、実行コンフィギュレーションをブートフラッシュ内のファイルに保存し、そのファイルをブートフラッシュから TFTP サーバにコピーし、変更をスタートアップコンフィギュレーションに保存する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # scheduler job name backup-cfg
switch(config-job) # cli var name timestamp
$(timestamp) ;copy running-config
bootflash:/$ (SWITCHNAME)-cfg.$ (timestamp) ;copy
bootflash:/$ (SWITCHNAME)-cfg.$ (timestamp)
tftp://1.2.3.4/ vrf management
switch(config-job) # copy running-config startup-config
```

## ジョブの削除

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config) # no scheduler job name name</code>	特定のジョブおよびそこで定義されたすべてのコマンドを削除します。 <i>name</i> は 31 文字までに制限されています。
ステップ 3	<code>switch(config-job) # show scheduler job [name]</code>	(任意) ジョブ情報を表示します。
ステップ 4	<code>switch(config-job) # copy running-config startup-config</code>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、`configsave` という名前のジョブを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # no scheduler job name configsave
```

```
switch(config-job)# copy running-config startup-config
switch(config-job)#
```

## タイムテーブルの定義

タイムテーブルを設定する必要があります。設定しないと、ジョブがスケジューリングされません。

**time** コマンドで時刻を設定しない場合は、スケジューラは現在の時刻を使用します。たとえば、現在の時刻が 2008 年 3 月 24 日の 22 時 00 分である場合、ジョブは次のように開始されます。

- スケジューラは、**time start 23:00 repeat 4:00:00** コマンドの開始時刻が、2008 年 3 月 24 日 23 時 00 分であると見なします。
- スケジューラは、**time daily 55** コマンドの開始時刻が、毎日 22 時 55 分であると見なします。
- スケジューラは、**time weekly 23:00** コマンドの開始時刻が、毎週金曜日の 23 時 00 分であると見なします。
- スケジューラは、**time monthly 23:00** コマンドの開始時刻が、毎月 24 日の 23 時 00 分であると見なします。



(注) スケジューラは、1つ前のジョブが完了しない限り、次のジョブを開始しません。たとえば、1分間隔で実行するジョブを 22 時 00 分に開始するようジョブをスケジューリングしたが、ジョブを完了するには2分間必要である場合、ジョブは次のように実行されます。スケジューラは 22 時 00 分に最初のジョブを開始し、22 時 02 分に完了します。次に 1 分間待機し、22 時 03 分に次のジョブを開始します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>scheduler schedule name name</b>	新しいスケジューラを作成し、そのスケジュールのスケジュール コンフィギュレーション モードを開始します。  <i>name</i> は 31 文字までに制限されています。
ステップ 3	switch(config-schedule) # <b>job name name</b>	このスケジュールにジョブを関連付けます。1つのスケジュールに複数のジョブを追加できます。  <i>name</i> は 31 文字までに制限されています。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<code>switch(config-schedule) # time daily time</code>	ジョブが毎日 HH:MM の形式で指定された時刻に開始することを意味します。
ステップ 5	<code>switch(config-schedule) # time weekly [[day-of-week:] HH:] MM</code>	ジョブが週の指定された曜日に開始することを意味します。  曜日は整数（たとえば、日曜日は <b>1</b> 、月曜日は <b>2</b> ）または略語（たとえば、 <b>sun</b> 、 <b>mon</b> ）で表します。  引数全体の最大長は 10 文字です。
ステップ 6	<code>switch(config-schedule) # time monthly [[day-of-month:] HH:] MM</code>	ジョブが月の特定の日に開始することを意味します。  29、30 または 31 のいずれかを指定した場合、そのジョブは各月の最終日に開始されます。
ステップ 7	<code>switch(config-schedule) # time start {now repeat repeat-interval   delta-time [repeat repeat-interval]}</code>	ジョブが定期的に開始することを意味します。  start-time の形式は [[[[yyyy:]mmm:]dd:]HH]:MM です。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>delta-time</i> : スケジュールの設定後、ジョブの開始までの待機時間を指定します。</li> <li>• <i>now</i> : ジョブが今から 2 分後に開始することを指定します。</li> <li>• <i>repeat repeat-interval</i> : ジョブを反復する頻度を指定します。</li> </ul>
ステップ 8	<code>switch(config-schedule) # show scheduler config</code>	(任意) スケジュールの情報を表示します。
ステップ 9	<code>switch(config-schedule) # copy running-config startup-config</code>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、ジョブが毎月 28 日の 23 時 00 分に開始するタイムテーブルを定義する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# scheduler schedule name weekendbackupqos
switch(config-scheduler)# job name offpeakzoning
switch(config-scheduler)# time monthly 28:23:00
switch(config-scheduler)# copy running-config startup-config
switch(config-scheduler)#
```

## スケジューラ ログ ファイルの消去

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>clear scheduler logfile</b>	スケジューラ ログ ファイルの消去

次に、スケジューラ ログ ファイルを消去する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # clear scheduler logfile
```

## スケジューラのディセーブル化

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>no feature scheduler</b>	スケジューラをディセーブルにします。
ステップ 3	switch(config) # <b>show scheduler config</b>	(任意) スケジューラ設定を表示します。
ステップ 4	switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、スケジューラをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # no feature scheduler
switch(config) # copy running-config startup-config
switch(config) #
```

## スケジュールの設定確認

次のいずれかのコマンドを使用して、設定を確認します。

表 7: スケジュールの *show* コマンド

コマンド	目的
<b>show scheduler config</b>	スケジュール設定を表示します。
<b>show scheduler job [name name]</b>	設定されているジョブを表示します。
<b>show scheduler logfile</b>	スケジュール ログ ファイルの内容を表示します。
<b>show scheduler schedule [name name]</b>	設定されているスケジュールを表示します。

## スケジュールの設定例

### スケジュール ジョブの作成

次に、実行中のコンフィギュレーションを `bootflash` 内のファイルに保存し、ファイルを `bootflash` から TFTP サーバにコピーするスケジュール ジョブを作成する例を示します（ファイル名は、現在のタイム スタンプとスイッチ名を使用して作成されます）。

```
switch# configure terminal
switch(config)# scheduler job name backup-cfg
switch(config-job)# cli var name timestamp $(TIMESTAMP) ;copy running-config
bootflash:/${SWITCHNAME}-cfg.${timestamp} ;copy bootflash:/${SWITCHNAME}-cfg.${timestamp}
tftp://1.2.3.4/ vrf management
switch(config-job)# end
switch(config)#
```

### スケジュール ジョブのスケジュールリング

次に、`backup-cfg` という名前のスケジュール ジョブを、毎日午前 1 時に実行するようスケジュールリングする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# scheduler schedule name daily
switch(config-schedule)# job name backup-cfg
switch(config-schedule)# time daily 1:00
switch(config-schedule)# end
switch(config)#
```

## ジョブスケジュールの表示

次に、ジョブスケジュールを表示する例を示します。

```
switch# show scheduler schedule
Schedule Name      : daily
-----
User Name          : admin
Schedule Type     : Run every day at 1 Hrs 00 Mins
Last Execution Time : Fri Jan 2 1:00:00 2009
Last Completion Time: Fri Jan 2 1:00:01 2009
Execution count    : 2
-----
      Job Name          Last Execution Status
-----
back-cfg              Success (0)
switch(config)#
```

## スケジューラ ジョブの実行結果の表示

次に、スケジューラによって実行されたスケジューラ ジョブの結果を表示する例を示します。

```
switch# show scheduler logfile
Job Name           : back-cfg                      Job Status: Failed (1)
Schedule Name      : daily                        User Name : admin
Completion time:   Fri Jan 1  1:00:01 2009
----- Job Output -----
`cli var name timestamp 2009-01-01-01.00.00`
`copy running-config bootflash:${(HOSTNAME)}-cfg.${(timestamp)}`
`copy bootflash:/switch-cfg.2009-01-01-01.00.00 tftp://1.2.3.4/ vrf management `
copy: cannot access file '/bootflash/switch-cfg.2009-01-01-01.00.00'
=====
Job Name           : back-cfg                      Job Status: Success (0)
Schedule Name      : daily                        User Name : admin
Completion time:   Fri Jan 2  1:00:01 2009
----- Job Output -----
`cli var name timestamp 2009-01-02-01.00.00`
`copy running-config bootflash:/switch-cfg.2009-01-02-01.00.00`
`copy bootflash:/switch-cfg.2009--01-02-01.00.00 tftp://1.2.3.4/ vrf management `
Connection to Server Established.
[                               ] 0.50KBTrying to connect to tftp server.....
[#####] 24.50KB
TFTP put operation was successful
=====
switch#
```

## スケジューラの標準

この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。



# 第 11 章

## オンライン診断の設定

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [オンライン診断について](#), 119 ページ
- [オンライン診断の設定](#), 122 ページ
- [オンライン診断設定の確認](#), 123 ページ
- [オンライン診断のデフォルト設定](#), 123 ページ
- [パリティエラーの診断](#), 124 ページ

## オンライン診断について

オンライン診断では、スイッチの起動時またはリセット時にハードウェアコンポーネントを確認し、通常の動作時にはハードウェアの状態を監視します。

Cisco Nexus シリーズスイッチは、起動時診断および実行時診断をサポートします。起動時診断には、システム起動時とリセット時に実行する、中断を伴うテストおよび非中断テストが含まれます。

実行時診断（ヘルスモニタリング診断）には、スイッチの通常の動作時にバックグラウンドで実行する非中断テストが含まれます。

## ブートアップ診断

起動時診断は、スイッチをオンラインにする前にハードウェアの障害を検出します。起動診断では、スーパーバイザと ASIC の間のデータパスと制御パスの接続も確認します。次の表に、スイッチの起動時またはリセット時にだけ実行される診断を示します。

表 8: ブートアップ診断

診断	説明
PCIe	PCI express (PCIe) アクセスをテストします。
NVRAM	NVRAM (不揮発性 RAM) の整合性を確認します。
インバンド ポート	インバンドポートとスーパーバイザの接続をテストします。
管理ポート	管理ポートをテストします。
メモリ	DRAM の整合性を確認します。

起動時診断には、ヘルスマニタリング診断と共通するテストセットも含まれます。

起動時診断では、オンボード障害ロギング (OBFL) システムに障害を記録します。また、障害により LED が表示され、診断テストのステータス (on、off、pass、または fail) を示します。

起動診断テストをバイパスするように Cisco Nexus デバイスを設定することも、またはすべての起動診断テストを実行するように設定することもできます。

## ヘルスマニタリング診断

ヘルスマニタリング診断では、スイッチの状態に関する情報を提供します。実行時のハードウェアエラー、メモリエラー、ソフトウェア障害、およびリソースの不足を検出します。

ヘルスマニタリング診断は中断されずにバックグラウンドで実行され、ライブネットワークトラフィックを処理するスイッチの状態を確認します。

次の表に、スイッチのヘルスマニタリング診断を示します。

表 9: ヘルスマニタリング診断テスト

診断	説明
LED	ポートおよびシステムのステータス LED を監視します。
電源モジュール	電源装置のヘルスマニタリングステータスを監視します。
温度センサー	温度センサーの読み取り値を監視します。
テストファン	ファンの速度およびファンの制御をモニタリングします。





(注) スイッチが吸気温度のしきい値に達し、120 秒の制限内には温度が低下しない場合、スイッチを復旧するには、スイッチの電源をオフにして、電源装置を再装着する必要があります。

次の表に、システム起動時とリセット時にも実行されるヘルス モニタリング診断を示します。

表 10: ヘルス モニタリングおよび起動時診断テスト

診断	説明
SPROM	バックプレーンとスーパーバイザ SPROM の整合性を確認します。
ファブリック エンジン	スイッチファブリック ASIC をテストします。
ファブリック ポート	スイッチファブリック ASIC 上のポートをテストします。
転送エンジン	転送エンジン ASIC をテストします。
転送エンジン ポート	転送エンジン ASIC 上のポートをテストします。
前面ポート	前面ポート上のコンポーネント (PHY および MAC など) をテストします。



(注) スイッチが 40 度 (摂氏) の吸気温度しきい値を超え、120 秒のしきい値の範囲内では温度が低下しない場合、スイッチを復旧するには、スイッチの電源をオフにして、電源装置を再装着する必要があります。

## 拡張モジュール診断

スイッチの起動時またはリセット時の起動時診断には、スイッチのインサービス拡張モジュールのテストが含まれます。

稼働中のスイッチに拡張モジュールを挿入すると、診断テストセットが実行されます。次の表に、拡張モジュールの起動時診断を示します。これらのテストは、起動時診断と共通です。起動時診断が失敗した場合、拡張モジュールはサービス状態になりません。

表 11: 拡張モジュールの起動時診断およびヘルス モニタリング診断

診断	説明
SPROM	バックプレーンとスーパーバイザ SPROM の整合性を確認します。
ファブリック エンジン	スイッチファブリック ASIC をテストします。
ファブリック ポート	スイッチファブリック ASIC 上のポートをテストします。
転送エンジン	転送エンジン ASIC をテストします。
転送エンジン ポート	転送エンジン ASIC 上のポートをテストします。
前面ポート	前面ポート上のコンポーネント (PHY および MAC など) をテストします。

ヘルス モニタリング診断は、IS 拡張モジュールで実行されます。次の表で、拡張モジュールのヘルス モニタリング診断に固有の追加のテストについて説明します。

表 12: 拡張モジュールのヘルス モニタリング診断

診断	説明
LED	ポートおよびシステムのステータス LED を監視します。
温度センサー	温度センサーの読み取り値を監視します。

## オンライン診断の設定

完全なテストセットを実行するよう起動時診断を設定できます。もしくは、高速モジュール起動時のすべての起動時診断テストをバイパスできます。



(注) 起動時オンライン診断レベルを **complete** に設定することを推奨します。起動時オンライン診断をバイパスすることは推奨しません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>diagnostic bootup level [complete   bypass]</b>	デバイスの起動時に診断を実行するよう起動時診断レベルを次のように設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>complete</b> : すべての起動時診断を実行します。これはデフォルト値です。</li> <li>• <b>bypass</b> : 起動時診断を実行しません。</li> </ul>
ステップ 3	switch# <b>show diagnostic bootup level</b>	(任意) 現在、スイッチで実行されている起動時診断レベル (bypass または complete) を表示します。

次に、完全な診断を実行するよう起動時診断レベルを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# diagnostic bootup level complete
```

## オンライン診断設定の確認

オンライン診断の設定情報を確認するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<b>show diagnostic bootup level</b>	起動時診断レベルを表示します。
<b>show diagnostic result moduleslot</b>	診断テストの結果を表示します。

## オンライン診断のデフォルト設定

次の表に、オンライン診断パラメータのデフォルト設定を示します。

表 13: デフォルトのオンライン診断パラメータ

パラメータ (Parameters)	デフォルト
起動時診断レベル	complete

# パリティ エラーの診断

## パリティ エラーのクリア

**hardware profile parity-error {I2-table | I3-table} clear** コマンドを使用して、パリティ エラーが検出された場合、対応するレイヤ2またはレイヤ3テーブルエントリ（0付き）をクリアできます。このコマンドは、実行コンフィギュレーションでのシステムの起動時に有効です。また、このコマンドは有効にする必要があるため、設定を保存後、システムを再起動してコマンドを有効にします。



### 重要

このコマンドは、Cisco NX-OS Release 6.0(2)U2(1) 以降のバージョンではサポートされていません。

次のガイドラインが適用されます。

- **I2\_entry** テーブルにこのコマンドが使用されている場合、トラフィック パターンのためにクリアされたエントリを再学習する必要があります。
- **I3\_entry\_only**（ホスト） テーブルにこのコマンドが使用されている場合、クリアされたエントリは再学習されません。

このコマンドは、次のお客様の設定で役立ちます。

- **L2\_Entry** テーブル（スタティック **L2\_entry** テーブル エントリなし）  
**L2\_Entry** テーブル エントリがクリアされている場合、エントリはトラフィック パターンから動的に学習する必要があります。IGMPやマルチキャストから学習することはできません。
- **L3\_Entry\_only**（ホスト） テーブル  
 お客様はホスト テーブルを使用できません。 **hardware profile unicast enable-host-ecmp** コマンドを有効にする必要があります。この場合、カスタマー ノードの **L3\_Entry\_only** テーブルには有効なエントリが存在しないため、**L3\_Entry\_only** エントリ テーブルをクリアしても何の影響も生じません。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<code>switch(config)# hardware profile parity-error l2-table clear</code>	レイヤ 2 テーブルのパリティ エラー エントリをクリアします。
ステップ 3	<code>switch(config)# hardware profile parity-error l3-table clear</code>	レイヤ 3 テーブルのパリティ エラー エントリをクリアします。

次に、レイヤ 2 テーブルのパリティ エラーをクリアする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# hardware profile parity-error l2-table clear
switch(config)# copy running-config startup-config
switch(config)# reload
```

次に、レイヤ 3 テーブルのパリティ エラーをクリアする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# hardware profile parity-error l3-table clear
switch(config)# copy running-config startup-config
switch(config)# reload
```

## ソフトエラーリカバリ

Cisco NX-OS Release 6.0(2)U2(1) には、フォワーディング エンジンの内蔵メモリ テーブルにおけるソフトエラーに対するソフトウェア エラーリカバリ (SER) が導入されています。この機能は、デフォルトでイネーブルにされています。

フォワーディング エンジンの内蔵コントロール テーブルとパケット メモリは、エラー訂正コード (ECC) 、パリティ保護、またはテーブルのパリティチェックに基づいたソフトウェア スキャンなど、さまざまなメカニズムによって保護されます。ソフトウェアのキャッシュは、大部分のハードウェア テーブルで保持されます。パリティエラーおよび ECC エラーは、トラフィックが影響を受けているエンタリにヒットすると検出されます。Ternary Content Addressable Memory (TCAM) の場合、CPU によってソフトウェア シャドウ エントリとハードウェア エントリが比較されるときにエラーが検出されます。これらのいずれかのタイプのエラーが検出されると、そのメモリのエラーを報告するための割り込みが発生します。

修正メカニズムは、ハードウェア テーブルごとに異なります。ソフトウェア シャドウがあるハードウェア テーブルの場合は、影響を受けているエンタリがソフトウェア キャッシュからコピーされて、割り込みがクリアされます。レイヤ 3 ホスト ルックアップ テーブルや ACL TCAM テーブルなどのハードウェア テーブルは、この方法で検出されて修正されます。ソフトウェア シャドウがないハードウェア テーブルの場合は、影響を受けているエンタリがクリアされるか、またはゼロ設定されます。ハードウェア 学習されたレイヤ 2 エントリ テーブルなどのハードウェア テーブルおよびカウンタのメモリは、この方法で検出されて修正されます。

パケットのフォワーディング ルックアップ時にハードウェア でパリティエラーが発生すると、パリティエラーが発生したテーブルによってはパケットがドロップされます。パリティエラーの検出から修正までのリカバリ時間は、この場合、1 エントリで 600 マイクロ秒以上かかります。トラフィックがこのエンタリにヒットしている場合、この期間のトラフィックは失われます。

パリティ保護されていないTCAMテーブルの場合、パリティエラーを検出するために、テーブル エントリに対する定期的なソフトウェア スキャンが実行されます。パリティエラーが検出された場合、影響を受けているメモリ位置がソフトウェア シャドウからコピーされて、エラーが修正されます。ソフトウェア 起動のスキャンは 10 秒ごとに行われ、1 回のスキャンで 4,000 エントリが スキャンされます。フォワーディング エンジンには、スキャン対象の TCAM エントリが約 36,000 あります。最悪の場合、これらのテーブルのパリティ エラーを検出して修正するのに 90 秒以上 かかります。リカバリ時間は、システムの負荷に基づき算出されます。

回復不能なパリティ エラーの場合、次の例のような、syslog イベント通知が生成されます。

```
2013 Nov 14 12:37:32 switch %USER-3-SYSTEM_MSG: bcm_usd_isr_switch_event_cb_log:658: slot_num
 0, event 2, memory error type: Detection(0x1), table name: Ingress ACL result
table(0x830004b5), index: 1790 - bcm_usd
```

## メモリ テーブルの状態の確認

ASIC メモリ テーブルで発生したパリティ エラー数の概要を表示するには、次のコマンドを実行 します。

コマンド	目的
<b>show hardware forwarding memory health summary</b>	ASIC メモリ テーブルのパリティ エラー数の概 要を表示します。

次に、ASIC メモリ テーブルのパリティ エラー数の概要を表示する例を示します。

```
switch# show hardware forwarding memory health summary
Parity error counters:
Total parity error detections: 7
Total parity error corrections: 7
Total TCAM table parity error detections: 1
Total TCAM table parity error corrections: 1
Total SRAM table parity error detections: 6
Total SRAM table parity error corrections: 6
Parity error summary:
Table ID: L2 table      Detections: 1  Corrections: 1
Table ID: L3 Host table Detections: 1  Corrections: 1
Table ID: L3 LPM table  Detections: 1  Corrections: 1
Table ID: L3 LPM result table Detections: 1  Corrections: 1
Table ID: Ingress pre-lookup ACL result table Detections: 1  Corrections: 1
Table ID: Ingress ACL result table Detections: 1  Corrections: 1
Table ID: Egress ACL result table Detections: 1  Corrections: 1
```



# 第 12 章

## Embedded Event Manager の設定

この章の内容は、次のとおりです。

- [Embedded Event Manager](#) について, 127 ページ
- [Embedded Event Manager](#) の設定, 132 ページ
- [Embedded Event Manager](#) の設定確認, 143 ページ
- [Embedded Event Manager](#) の設定例, 144 ページ
- [その他の参考資料](#), 145 ページ
- [EEM の機能の履歴](#), 145 ページ

### Embedded Event Manager について

Cisco NX-OS システム内のクリティカルイベントを検出して処理する機能は、ハイ アベイラビリティにとって重要です。Embedded Event Manager (EEM) は、デバイス上で発生するイベントをモニタし、設定に基づいてこれらのイベントを回復またはトラブルシューティングするためのアクションを実行することによってシステム内のイベントを検出して処理する、中央のポリシー駆動型のフレームワークを提供します。

EEM は次の 3 種類の主要コンポーネントからなります。

#### イベント文

何らかのアクション、回避策、または通知が必要になる可能性のある、別の Cisco NX-OS コンポーネントからモニタするイベント。

#### アクション文

電子メールの送信やインターフェイスのディセーブル化などの、イベントから回復するために EEM が実行できるアクション。

## ポリシー

イベントのトラブルシューティングまたはイベントからの回復を目的とした1つまたは複数のアクションとペアになったイベント。

EEM を使用しない場合は、個々のコンポーネントが独自のイベントの検出および処理を行います。たとえば、ポートでフラップが頻繁に発生する場合は、「errDisable ステートにする」のポリシーが ETHPM に組み込まれます。

## Embedded Event Manager ポリシー

EEM ポリシーは、イベント文および1つまたは複数のアクション文からなります。イベント文では、探すイベントとともに、イベントのフィルタリング特性を定義します。アクション文では、イベントの発生時に EEM が実行するアクションを定義します。

たとえば、いつカードがデバイスから取り外されたかを識別し、カードの取り外しに関する詳細を記録する EEM ポリシーを設定できます。カードの取り外しのインスタンスすべてを探るようにシステムに指示するイベント文および詳細を記録するようにシステムに指示するアクション文を設定します。

コマンドライン インターフェイス (CLI) または VSH スクリプトを使用して EEM ポリシーを設定できます。

EEM からデバイス全体のポリシー管理ビューが得られます。EEM ポリシーが設定されると、対応するアクションがトリガーされます。トリガーされたイベントのすべてのアクション (システムまたはユーザ設定) がシステムによって追跡され、管理されます。

### 設定済みのシステム ポリシー

Cisco NX-OS には、設定済みのさまざまなシステム ポリシーがあります。これらのシステム ポリシーでは、デバイスに関連する多数の一般的なイベントおよびアクションが定義されています。システム ポリシー名は、2 個の下線記号 (\_\_) から始まります。

一部のシステム ポリシーは上書きできます。このような場合、イベントまたはアクションに対する上書きを設定できます。設定した上書き変更がシステム ポリシーの代わりになります。



(注) 上書きポリシーにはイベント文を含める必要があります。イベント文が含まれていない上書きポリシーは、システム ポリシーで想定されるすべてのイベントを上書きします。

設定済みのシステムポリシーを表示し、上書きできるポリシーを決定するには、**show event manager system-policy** コマンドを使用します。

### ユーザ作成ポリシー

ユーザ作成ポリシーを使用すると、ネットワークの EEM ポリシーをカスタマイズできます。ユーザポリシーがイベントに対して作成されると、ポリシーのアクションは、EEM が同じイベントに関連するシステム ポリシー アクションをトリガーした後にのみトリガーされます。



## ログ ファイル

EEM ポリシーの一致に関連するデータが格納されたログ ファイルは、`/log/event_archive_1` ディレクトリにある `event_archive_1` ログ ファイルで維持されます。

# イベント文

対応策、通知など、一部のアクションが実行されるデバイスアクティビティは、EEMによってイベントと見なされます。イベントは通常、インターフェイスやファンの誤動作といったデバイスの障害に関連します。

イベント文は、どのイベントがポリシー実行のトリガーになるかを指定します。



## ヒント

ポリシー内に複数の EEM イベントを作成し、区別してから、カスタムアクションをトリガーするためのイベントの組み合わせを定義することで、イベントの組み合わせに基づいた EEM ポリシーをトリガーするように EEM を設定できます。

EEM ではイベントフィルタを定義して、クリティカル イベントまたは指定された時間内で繰り返し発生したイベントだけが関連付けられたアクションのトリガーになるようにします。

一部のコマンドまたは内部イベントが他のコマンドを内部的にトリガーします。これらのコマンドは表示されませんが、引き続きアクションをトリガーするイベント指定と一致します。これらのコマンドがアクションをトリガーするのを防ぐことはできませんが、どのイベントがアクションを引き起こしたかを確認できます。

## サポートされるイベント

EEM はイベント文で次のイベントをサポートします。

- カウンタ イベント
- ファン欠損イベント
- ファン不良イベント
- メモリしきい値イベント
- 上書きされたシステム ポリシーで使用されるイベント
- SNMP 通知イベント
- syslog イベント
- システム マネージャ イベント
- 温度イベント
- 追跡イベント

## アクションステートメント

アクション文では、イベントが発生したときに、ポリシーによってトリガーされるアクションを記述します。各ポリシーに複数のアクション文を設定できます。ポリシーにアクションを関連付けなかった場合、EEM はイベント観察を続けますが、アクションは実行されません。

トリガーされたイベントがデフォルトアクションを処理するために、デフォルトアクションを許可する EEM ポリシーを設定する必要があります。たとえば、一致文で CLI コマンドを照合する場合、EEM ポリシーに `event-default` アクション文を追加する必要があります。この文がないと、EEM ではコマンドを実行できません。



(注) ユーザ ポリシーまたは上書きポリシー内のアクション文を設定する場合、アクション文が、相互に否定したり、関連付けられたシステム ポリシーに悪影響を与えるようなことがないように確認することが重要です。

### サポートされるアクション

EEM がアクション文でサポートするアクションは、次のとおりです。

- CLI コマンドの実行
- カウンタのアップデート
- デバイスをリロードします。
- syslog メッセージの生成
- SNMP 通知の生成
- システム ポリシー用デフォルトアクションの使用

## VSH スクリプト ポリシー

テキスト エディタを使用して、VSH スクリプトでポリシーを作成できます。VSH スクリプトを使用して作成されたポリシーには、他のポリシーと同様にイベント文とアクション文が含まれます。また、これらのポリシーはシステム ポリシーを拡張するか、または無効にすることができます。

VSH スクリプト ポリシーを定義したら、それをデバイスにコピーしてアクティブにします。

## Embedded Event Manager のライセンス要件

この機能には、ライセンスは必要ありません。ライセンス パッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システムイメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『Cisco NX-OS Licensing Guide』を参照してください。

## Embedded Event Manager の前提条件

EEM を設定するには、network-admin の権限が必要です。

## Embedded Event Manager の注意事項および制約事項

EEM の設定を計画するときは、次の点を考慮します。

- 設定可能な EEM ポリシーの最大数は 500 です。
- ユーザポリシーまたは上書きポリシー内のアクション文が、相互に否定したり、関連付けられたシステム ポリシーに悪影響を与えたりするようなことがないようにする必要があります。
- 発生したイベントでデフォルトのアクションを処理できるようにする場合は、デフォルトのアクションを許可する EEM ポリシーを設定する必要があります。たとえば、一致文でコマンドを照合する場合、EEM ポリシーに **event-default** アクション文を追加する必要があります。この文がないと、EEM ではコマンドを実行できません。
- イベント文が指定されていて、アクション文が指定されていない上書きポリシーを設定した場合、アクションは開始されません。また、障害も通知されません。
- 上書きポリシーにイベント文が含まれていないと、システムポリシーで可能性のあるイベントがすべて上書きされます。
- 通常コマンドの表現の場合：すべてのキーワードを拡張する必要があり、アスタリスク (\*) 記号のみが引数の置換に使用できます。
- EEM イベント相関は 1 つのポリシーに最大 4 つのイベント文をサポートします。イベントタイプは同じでも別でもかまいませんが、サポートされるイベントタイプは、cli、カウンタ、snmp、syslog、追跡だけです。
- 複数のイベント文が EEM ポリシーに存在する場合は、各イベント文に **tag** キーワードと一意な tag 引数が必要です。
- EEM イベント相関はシステムのデフォルト ポリシーを上書きしません。
- デフォルトアクション実行は、タグ付きのイベントで設定されているポリシーではサポートされません。
- イベント指定が CLI のパターンと一致する場合、SSH 形式のワイルドカード文字を使用できます。たとえば、すべての show コマンドを照合する場合は、**show \*** コマンドを入力します。**show .\*** コマンドを入力しても機能しません。
- イベント指定が一致する syslog メッセージの正規表現の場合、適切な正規表現を使用できます。たとえば、syslog が生成されているポート上で ADMIN\_DOWN イベントを検出するには、**.ADMIN\_DOWN.** を使用します。**ADMIN\_DOWN** コマンドを入力しても機能しません。

- syslog のイベント指定では、正規表現は、EEM ポリシーのアクションとして生成される syslog メッセージとは一致しません。
- EEM イベントが CLI の **show** コマンドと一致し、画面に表示するために（および EEM ポリシーによってブロックされないために）**show** コマンドの出力が必要な場合は、EEM ポリシーの最初のアクションに対して、**event-default** コマンドを指定する必要があります。

## Embedded Event Manager のデフォルト設定

表 14: デフォルトの EEM パラメータ

パラメータ (Parameters)	デフォルト
システム ポリシー	Active

## Embedded Event Manager の設定

### 環境変数の定義

環境変数の定義はオプションの手順ですが、複数のポリシーで繰り返し使用する共通の値を設定する場合に役立ちます。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例: <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>event manager environment variable-name variable-value</b>  例: <pre>switch(config) # event manager environment emailto "admin@anyplace.com"</pre>	EEM 用の環境変数を作成します。  <i>variable-name</i> は大文字と小文字を区別し、最大 29 文字の英数字を使用できます。  <i>variable-value</i> は大文字と小文字が区別され、引用符で囲んだ最大 39 文字の英数字を使用できます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>show event manager environment</b> { <i>variable-name</i>   all}  例 : switch(config) # show event manager environment all	(任意) 設定した環境変数に関する情報を表示します。
ステップ 4	<b>copy running-config startup-config</b>  例 : switch(config) # copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 次の作業

ユーザポリシーを設定します。

## CLI によるユーザポリシーの定義

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例 : switch# configure terminal switch(config)#	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<b>event manager applet <i>applet-name</i></b>  例 : switch(config)# event manager applet monitorShutdown switch(config-applet)#	EEM にアプレットを登録し、アプレットコンフィギュレーションモードを開始します。 <b>applet-name</b> は大文字と小文字を区別し、最大 29 文字の英数字を使用できます。
ステップ 3	<b>description <i>policy-description</i></b>  例 : switch(config-applet)# description "Monitors interface shutdown."	(任意) ポリシーの説明になるストリングを設定します。 <b>string</b> には最大 80 文字の英数字を使用できます。ストリングは引用符で囲みます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>event event-statement</b>  例： switch(config-applet)# event cli match "shutdown"	ポリシーのイベント文を設定します。
ステップ 5	<b>tag tag {and   andnot   or} tag [and   andnot   or {tag}] {happens occurs in seconds}</b>  例： switch(config-applet)# tag one or two happens 1 in 10000	(任意) ポリシー内の複数のイベントを相互に関連付けます。  <i>occurs</i> 引数の範囲は 1 ~ 4294967295 です。 <i>seconds</i> 引数の範囲は 0~4294967295 秒です。
ステップ 6	<b>action number[.number2] action-statement</b>  例： switch(config-applet)# action 1.0 cli show interface e 3/1	ポリシーのアクション文を設定します。アクション文が複数ある場合、このステップを繰り返します。
ステップ 7	<b>show event manager policy-state name [module module-id]</b>  例： switch(config-applet)# show event manager policy-state monitorShutdown	(任意) 設定したポリシーの状態に関する情報を表示します。
ステップ 8	<b>copy running-config startup-config</b>  例： switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 次の作業

イベント文およびアクション文を設定します。

## イベント文の設定

イベント文を設定するには、EEM コンフィギュレーションモード (config-applet) で次のいずれかのコマンドを使用します。

### はじめる前に

ユーザ ポリシーを定義します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><b>event cli</b> [<b>tag tag</b>] <b>match</b> <i>expression</i> [<b>count repeats</b>   <b>time seconds</b>]</p> <p>例： switch(config-applet) # event cli match "shutdown"</p>	<p>正規表現と一致するコマンドが入力された場合に、イベントを発生させます。</p> <p><b>tag tag</b> キーワードと引数のペアは、複数のイベントがポリシーに含まれている場合、この特定のイベントを識別します。</p> <p><i>repeats</i> の範囲は 1 ~ 65000 です。</p> <p><i>time</i> の範囲は 0 ~ 4294967295 です。0 は無制限を示します。</p>
ステップ 2	<p><b>event counter</b> [<b>tag tag</b>] <b>name counter</b> <b>entry-val entry entry-op</b> {<b>eq</b>   <b>ge</b>   <b>gt</b>   <b>le</b>   <b>lt</b>   <b>ne</b>} {<b>exit-val exit exit-op</b> {<b>eq</b>   <b>ge</b>   <b>gt</b>   <b>le</b>   <b>lt</b>   <b>ne</b>}</p> <p>例： switch(config-applet) # event counter name mycounter entry-val 20 gt</p>	<p>カウンタが、開始演算子に基づいて開始のしきい値を超えた場合にイベントを発生させます。イベントはただちにリセットされます。任意で、カウンタが終了のしきい値を超えたあとでリセットされるように、イベントを設定できます。</p> <p><b>tag tag</b> キーワードと引数のペアは、複数のイベントがポリシーに含まれている場合、この特定のイベントを識別します。</p> <p><i>counter name</i> は大文字と小文字を区別し、最大 28 の英数字を使用できます。</p> <p><i>entry</i> および <i>exit</i> の値の範囲は 0 ~ 2147483647 です。</p>
ステップ 3	<p><b>event fanabsent</b> [<b>fan number</b>] <b>time</b> <i>seconds</i></p> <p>例： switch(config-applet) # event fanabsent time 300</p>	<p>秒数で設定された時間を超えて、ファンがデバイスから取り外されている場合に、イベントを発生させます。</p> <p><i>number</i> の範囲はモジュールに依存します。</p> <p><i>repeats</i> の範囲は 10 ~ 64000 です。</p>
ステップ 4	<p><b>event fanbad</b> [<b>fan number</b>] <b>time</b> <i>seconds</i></p> <p>例： switch(config-applet) # event fanbad time 3000</p>	<p>秒数で設定された時間を超えて、ファンが故障状態の場合に、イベントを発生させます。</p> <p><i>number</i> の範囲はモジュールに依存します。</p> <p><i>repeats</i> の範囲は 10 ~ 64000 です。</p>
ステップ 5	<p><b>event memory</b> {<b>critical</b>   <b>minor</b>   <b>severe</b>}</p> <p>例： switch(config-applet) # event memory critical</p>	<p>メモリのしきい値を超えた場合にイベントを発生させます。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	<b>event policy-default count <i>repeats</i> [time <i>seconds</i>]</b>  例： <pre>switch(config-applet) # event policy-default count 3</pre>	システムポリシーで設定されているイベントを使用します。このオプションは、ポリシーを上書きする場合に使用します。  <i>repeats</i> の範囲は 1 ~ 65000 です。  <i>seconds</i> の範囲は 0 ~ 4294967295 秒です。0 は無制限を示します。
ステップ 7	<b>event snmp [tag <i>tag</i>] oid <i>oid</i> get-type {exact   next} entry-op {eq   ge   gt   le   lt   ne} entry-val <i>entry</i> [exit-comb {and   or}] exit-op {eq   ge   gt   le   lt   ne} exit-val <i>exit</i> exit-time <i>time</i> polling-interval <i>interval</i></b>  例： <pre>switch(config-applet) # event snmp oid 1.3.6.1.2.1.31.1.1.1.6 get-type next entry-op lt 300 entry-val 0 exit-op eq 400 exit-time 30 polling-interval 300</pre>	SNMP OID が、開始演算子に基づいて開始のしきい値を超えた場合にイベントを発生させます。イベントはただちにリセットされます。または任意で、カウンタが終了のしきい値を超えたあとでリセットされるように、イベントを設定できます。OID はドット付き10進表記です。  <b>tag tag</b> キーワードと引数のペアは、複数のイベントがポリシーに含まれている場合、この特定のイベントを識別します。  <i>entry</i> および <i>exit</i> の値の範囲は 0 ~ 18446744073709551615 です。  <i>time</i> の範囲は 0 ~ 2147483647 秒です。  <i>interval</i> の範囲は 0 ~ 2147483647 秒です。
ステップ 8	<b>event sysmgr memory [module <i>module-num</i>] major <i>major-percent</i> minor <i>minor-percent</i> clear <i>clear-percent</i></b>  例： <pre>switch(config-applet) # event sysmgr memory minor 80</pre>	指定したシステムマネージャのメモリのしきい値を超えた場合にイベントを発生させます。  <i>percent</i> の範囲は 1 ~ 99 です。
ステップ 9	<b>event temperature [module <i>slot</i>] [sensor <i>number</i>] threshold {any   down   up}</b>  例： <pre>switch(config-applet) # event temperature module 2 threshold any</pre>	温度センサーが設定されたしきい値を超えた場合に、イベントを発生させます。  <i>sensor</i> の範囲は 1 ~ 18 です。
ステップ 10	<b>event track [tag <i>tag</i>] object-number <i>state</i> {any   down   up}</b>  例： <pre>switch(config-applet) # event track 1 state down</pre>	トラッキング対象オブジェクトが設定された状態になった場合に、イベントを発生させます。  <b>tag tag</b> キーワードと引数のペアは、複数のイベントがポリシーに含まれている場合、この特定のイベントを識別します。



	コマンドまたはアクション	目的
		指定できる <i>object-number</i> の範囲は 1 ~ 500 です。

### 次の作業

アクション文を設定します。

すでにアクション文を設定した場合、または設定しないことを選択した場合は、次のオプション作業のいずれかを実行します。

- VSH スクリプトを使用してポリシーを定義します。その後、VSH スクリプト ポリシーを登録し、アクティブにします。
- メモリのしきい値を設定します。
- EEM パブリッシャとして `syslog` を設定します。
- EEM 設定を確認します。

## アクション文の設定

EEM のコンフィギュレーション モード (`config-applet`) で次のいずれかのコマンドを使用して、アクションを設定できます。



(注) 発生したイベントでデフォルトのアクションを処理できるようにする場合は、デフォルトのアクションを許可する EEM ポリシーを設定する必要があります。

たとえば、一致文でコマンドを照合する場合、EEM ポリシーに `event-default` アクション文を追加する必要があります。この文がないと、EEM ではコマンドを実行できません。**terminal event-manager bypass** コマンドを使用すると、一致するすべての EEM ポリシーでコマンドを実行できます。

### はじめる前に

ユーザ ポリシーを定義します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><b>action number[.number2] cli command1[command2.][local]</b></p> <p>例： switch(config-applet) # action 1.0 cli "show interface e 3/1"</p>	<p>設定済みコマンドを実行します。任意で、イベントが発生したモジュール上でコマンドを実行できます。</p> <p>アクションラベルのフォーマットはnumber1.number2です。</p> <p>numberには1～16桁の任意の番号を指定できます。</p> <p>number2の範囲は0～9です。</p>
ステップ 2	<p><b>action number[.number2] counter name counter value val op {dec   inc   nop   set}</b></p> <p>例： switch(config-applet) # action 2.0 counter name mycounter value 20 op inc</p>	<p>設定された値および操作でカウンタを変更します。</p> <p>アクションラベルのフォーマットはnumber1.number2です。</p> <p>numberには1～16桁の任意の番号を指定できます。</p> <p>number2の範囲は0～9です。</p> <p>counterは大文字と小文字を区別し、最大28文字の英数字を使用できます。</p> <p>valには0～2147483647の整数または置換パラメータを指定できます。</p>
ステップ 3	<p><b>action number[.number2] event-default</b></p> <p>例： switch(config-applet) # action 1.0 event-default</p>	<p>関連付けられたイベントのデフォルトアクションを実行します。</p> <p>アクションラベルのフォーマットはnumber1.number2です。</p> <p>numberには1～16桁の任意の番号を指定できます。</p> <p>number2の範囲は0～9です。</p>
ステップ 4	<p><b>action number[.number2] policy-default</b></p> <p>例： switch(config-applet) # action 1.0 policy-default</p>	<p>上書きしているポリシーのデフォルトアクションを実行します。</p> <p>アクションラベルのフォーマットはnumber1.number2です。</p> <p>numberには1～16桁の任意の番号を指定できます。</p> <p>number2の範囲は0～9です。</p>
ステップ 5	<p><b>action number[.number2] reload [module slot [- slot]]</b></p> <p>例： switch(config-applet) # action 1.0 reload module 3-5</p>	<p>システム全体に1つ以上のモジュールをリロードします。</p> <p>アクションラベルのフォーマットはnumber1.number2です。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<i>number</i> には 1 ~ 16 桁の任意の番号を指定できます。 <i>number2</i> の範囲は 0 ~ 9 です。
ステップ 6	<b>action <i>number</i>[.<i>number2</i>] snmp-trap [<i>intdata1 integer-data1</i>] [<i>intdata2 integer-data2</i>] [<i>strdata string-data</i>]</b>  例 : <pre>switch(config-applet) # action 1.0 snmp-trap strdata "temperature problem"</pre>	設定されたデータを使用して SNMP トラップを送信します。アクションラベルのフォーマットは <i>number1.number2</i> です。  <i>number</i> には 1 ~ 16 桁の任意の番号を指定できます。  <i>number2</i> の範囲は 0 ~ 9 です。  <i>data</i> 要素には 80 桁までの任意の数を指定できます。  <i>string</i> には最大 80 文字の英数字を使用できます。
ステップ 7	<b>action <i>number</i>[.<i>number2</i>] syslog [<i>priority prio-val</i>] msg <i>error-message</i></b>  例 : <pre>switch(config-applet) # action 1.0 syslog priority notifications msg "cpu high"</pre>	設定されたプライオリティで、カスタマイズした syslog メッセージを送信します。  アクションラベルのフォーマットは <i>number1.number2</i> です。  <i>number</i> には 1 ~ 16 桁の任意の番号を指定できます。  <i>number2</i> の範囲は 0 ~ 9 です。  <i>error-message</i> には最大 80 文字の英数字を引用符で囲んで使用できます。

### 次の作業

イベント文を設定します。

すでにイベント文を設定した場合、または設定しないことを選択した場合は、次のオプション作業のいずれかを実行します。

- VSH スクリプトを使用してポリシーを定義します。その後、VSH スクリプトポリシーを登録し、アクティブにします。
- メモリのしきい値を設定します。
- EEM パブリッシャとして syslog を設定します。
- EEM 設定を確認します。

## VSH スクリプトによるポリシーの定義

これはオプションのタスクです。VSH スクリプトを使用して EEM ポリシーを記述する場合は、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** テキスト エディタで、ポリシーを定義するコマンド リストを指定します。
- ステップ 2** テキスト ファイルに名前をつけて保存します。
- ステップ 3** 次のシステム ディレクトリにファイルをコピーします。 `bootflash://eem/user_script_policies`
- 

## 次の作業

VSH スクリプト ポリシーを登録してアクティブにします。

## VSH スクリプト ポリシーの登録およびアクティブ化

これはオプションのタスクです。VSH スクリプトを使用して EEM ポリシーを記述する場合は、次の手順を実行します。

## はじめる前に

ポリシーを VSH スクリプトを使用して定義し、システム ディレクトリにファイルをコピーします。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>event manager policy <i>policy-script</i></b>  例： switch(config)# event manager policy moduleScript	EEM スクリプト ポリシーを登録してアクティブにします。  <i>policy-script</i> は大文字と小文字を区別し、最大 29 文字の英数字を使用できます。
ステップ 3	<b>event manager policy internal <i>name</i></b>  例： switch(config)# event manager policy internal moduleScript	(任意) EEM スクリプト ポリシーを登録してアクティブにします。  <i>policy-script</i> は大文字と小文字を区別し、最大 29 の英数字を使用できます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>copy running-config startup-config</b>  例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

#### 次の作業

システム要件に応じて、次のいずれかを実行します。

- メモリのしきい値を設定します。
- EEM パブリッシャとして `syslog` を設定します。
- EEM 設定を確認します。

## システム ポリシーの上書き

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>show event manager policy-state system-policy</b>  例 : <pre>switch(config-applet)# show event manager policy-state __ethpm_link_flap Policy __ethpm_link_flap   Cfg count : 5   Cfg time interval : 10.000000 (seconds)   Hash default, Count 0</pre>	(任意) 上書きするシステム ポリシーの情報をしきい値を含めて表示します。システムポリシー名を突き止めるには、 <b>show event manager system-policy</b> コマンドを使用します。
ステップ 3	<b>event manager applet <i>applet-name</i> override system-policy</b>  例 : <pre>switch(config-applet)# event manager applet</pre>	システム ポリシーを上書きし、アプレット コンフィギュレーション モードを開始します。  <i>applet-name</i> は大文字と小文字を区別し、最大 80 文字の英数字を使用できます。

	コマンドまたはアクション	目的
	<code>ethport override __ethpm_link_flap switch(config-applet)#</code>	<i>system-policy</i> は、システム ポリシーの 1 つにする必要があります。
ステップ 4	<b>description <i>policy-description</i></b>  例： <code>switch(config-applet)# description "Overrides link flap policy"</code>	ポリシーの説明になるストリングを設定します。  <i>policy-description</i> は大文字と小文字を区別し、最大 80 文字の英数字を使用できますが、引用符で囲む必要があります。
ステップ 5	<b>event <i>event-statement</i></b>  例： <code>switch(config-applet)# event policy-default count 2 time 1000</code>	ポリシーのイベント文を設定します。
ステップ 6	<b>section number <i>action-statement</i></b>  例： <code>switch(config-applet)# action 1.0 syslog priority warnings msg "Link is flapping."</code>	ポリシーのアクション文を設定します。複数のアクション文では、この手順を繰り返します。
ステップ 7	<b>show event manager policy-state <i>name</i></b>  例： <code>switch(config-applet)# show event manager policy-state ethport</code>	(任意) 設定したポリシーに関する情報を表示します。
ステップ 8	<b>copy running-config startup-config</b>  例： <code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## EEM パブリッシャとしての syslog の設定

EEM パブリッシャとして syslog を設定すると、スイッチから syslog メッセージをモニタできます。



(注) syslog メッセージをモニタする検索文字列の最大数は 10 です。

はじめる前に

- EEM が syslog による登録で利用できることを確認します。

- syslog デーモンが設定され、実行されていることを確認します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>event manager applet <i>applet-name</i></b>  例： switch(config)# event manager applet abc switch (config-applet)#	EEM にアプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>event syslog [tag <i>tag</i>] {occurs <i>number</i>   period <i>seconds</i>   pattern <i>msg-text</i>   priority <i>priority</i>}</b>  例： switch(config-applet)# event syslog occurs 10	EEM にアプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>copy running-config startup-config</b>  例： switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## 次の作業

EEM 設定を確認します。

## Embedded Event Manager の設定確認

次のいずれかのコマンドを使用して、設定を確認します。

コマンド	目的
<b>show event manager environment</b> [ <i>variable-name</i>   <b>all</b> ]	イベントマネージャの環境変数に関する情報を表示します。
<b>show event manager event-types</b> [ <i>event</i>   <b>all</b>   <b>module <i>slot</i></b> ]	イベント マネージャのイベント タイプに関する情報を表示します。

コマンド	目的
<code>show event manager history events [detail] [maximum num-events] [severity {catastrophic   minor   moderate   severe}]</code>	すべてのポリシーについて、イベント履歴を表示します。
<code>show event manager policy internal [policy-name] [inactive]</code>	設定したポリシーに関する情報を表示します。
<code>show event manager policy-state policy-name</code>	しきい値を含め、ポリシーの状態に関する情報を表示します。
<code>show event manager script system [policy-name   all]</code>	スクリプト ポリシーに関する情報を表示します。
<code>show event manager system-policy [all]</code>	定義済みシステムポリシーに関する情報を表示します。
<code>show running-config eem</code>	EEMの実行コンフィギュレーションに関する情報を表示します。
<code>show startup-config eem</code>	EEMのスタートアップコンフィギュレーションに関する情報を表示します。

## Embedded Event Manager の設定例

次に、モジュール3の中断のないアップグレードの障害のしきい値だけを変更することによって、`__lcm_module_failure` システムポリシーを上書きする例を示します。また、syslogメッセージも送信します。その他のすべての場合、システムポリシー `__lcm_module_failure` の設定値が適用されます。

```
event manager applet example2 override __lcm_module_failure
event module-failure type hitless-upgrade-failure module 3 count 2
  action 1 syslog priority errors msg module 3 "upgrade is not a hitless upgrade!"
  action 2 policy-default
```

次に、`__ethpm_link_flap` システムポリシーを上書きし、インターフェイスをシャットダウンする例を示します。

```
event manager applet ethport override __ethpm_link_flap
event policy-default count 2 time 1000
  action 1 cli conf t
  action 2 cli int et1/1
  action 3 cli no shut
```

次に、ユーザがデバイスでコンフィギュレーションモードを開始すると、コマンドを実行できるが、SNMP通知をトリガーするEEMポリシーを作成する例を示します。

```
event manager applet TEST
event cli match "conf t"
  action 1.0 snmp-trap strdata "Configuration change"
  action 2.0 event-default
```





- (注) EEM ポリシーに **event-default** アクション文を追加する必要があります。この文がないと、EEM ではコマンドを実行できません。

次に、EEM ポリシーの複数イベントを関連付け、イベントトリガーの組み合わせに基づいてポリシーを実行する例を示します。この例では、EEM ポリシーは、指定された **syslog** パターンのいずれかが 120 秒以内に発生したときにトリガーされます。

```
event manager applet eem-correlate
  event syslog tag one pattern "copy bootflash:.* running-config.*"
  event syslog tag two pattern "copy run start"
  event syslog tag three pattern "hello"
  tag one or two or three happens 1 in 120
  action 1.0 reload module 1
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
EEM コマンド	『Cisco Nexus 3000 Series NX-OS System Management Command Reference』

### 標準

この機能では、新規の標準がサポートされることも、一部変更された標準がサポートされることもありません。また、既存の標準に対するサポートが変更されることもありません。

## EEM の機能の履歴

表 15: EEM の機能の履歴

機能名	リリース	機能情報
組み込みイベント マネージャ (EEM)	5.0(3)U3(1)	機能が追加されました。





# 第 13 章

## システム メッセージ ログिंगの設定

この章の内容は、次のとおりです。

- システム メッセージ ログिंगの概要, 147 ページ
- システム メッセージ ログिंगのライセンス要件, 149 ページ
- システム メッセージ ログिंगの注意事項および制約事項, 149 ページ
- システム メッセージ ログिंगのデフォルト設定, 149 ページ
- システム メッセージ ログिंगの設定, 150 ページ
- システム メッセージ ログिंगの設定確認, 165 ページ

### システム メッセージ ログिंगの概要

システム メッセージ ログングを使用して宛先を制御し、システム プロセスが生成するメッセージの重大度をフィルタリングできます。端末セッション、ログファイル、およびリモートシステム上の Syslog サーバへのログングを設定できます。

システム メッセージ ログングは RFC 3164 に準拠しています。システム メッセージのフォーマットおよびデバイスが生成するメッセージの詳細については、『Cisco NX-OS System Messages Reference』を参照してください。

デフォルトでは、Cisco Nexus デバイスはメッセージをターミナルセッションへ出力します。

デフォルトでは、スイッチはシステム メッセージをログ ファイルに記録します。

次の表に、システム メッセージで使用されている重大度を示します。重大度を設定する場合、システムはそのレベル以下のメッセージを出力します。

表 16：システム メッセージの重大度

レベル	説明
0：緊急	システムが使用不可

レベル	説明
1：アラート	即時処理が必要
2：クリティカル	クリティカル状態
3：エラー	エラー状態
4：警告	警告状態
5：通知	正常だが注意を要する状態
6：情報	単なる情報メッセージ
7：デバッグ	デバッグ実行時にのみ表示

重大度 0、1、または 2 の最新のメッセージを 100 個まで不揮発性 RAM (NVRAM) ログに記録します。NVRAM へのロギングは設定できません。

メッセージを生成したファシリティと重大度に基づいて記録するシステムメッセージを設定できます。

## syslog サーバ

syslog サーバは、syslog プロトコルに基づいてシステムメッセージを記録するよう設定されたリモートシステムで稼働します。最大 8 台の syslog サーバにログを送信するように Cisco Nexus シリーズスイッチを設定できます。

ファブリック内のすべてのスイッチで syslog サーバの同じ設定をサポートするために、Cisco Fabric Services (CFS) を使用して syslog サーバ設定を配布できます。



(注) スイッチを最初に初期化する場合、ネットワークが初期化されてからメッセージが Syslog サーバに送信されます。

## システムメッセージログgingsのライセンス要件

製品	ライセンス要件
Cisco NX-OS	システムメッセージログgingsにライセンスは不要です。ライセンスパッケージに含まれていない機能はすべてCisco NX-OS システムイメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『Cisco NX-OS Licensing Guide』を参照してください。

## システムメッセージログgingsの注意事項および制約事項

システムメッセージログgingsには、次の注意事項と制約事項があります。

- システムメッセージは、デフォルトでコンソールおよびログファイルに記録されます。
- Release 7.0(3)I2(1) よりも前のリリースでは、MAC の衝突イベントを示す syslog メッセージはありませんでした。7.0(3)I2(1) 以降、Cisco Nexus 3000 シリーズのプラットフォームには、MAC の衝突イベントを示す新しい syslog が追加されています。syslog メッセージには、送信元 MAC アドレス、VLAN、内部ポートの番号情報などの詳細が含まれています。さまざまなセットアップで観察されるように、テーブルの使用率が約 75% になると、MAC の衝突は普通に発生し、予想されるものです。次の syslog の例を参照してください。2015 Mar 26 06:20:37 switch%-SLOT1-5-BCM\_L2\_HASH\_COLLISION: L2 ENTRY unit=0 mac=00:11:11:f7:46:40 vlan=1998 port=0x0800082e.

## システムメッセージログgingsのデフォルト設定

次の表に、システムメッセージログgingsパラメータのデフォルト設定を示します。

表 17: デフォルトのシステムメッセージログgingsパラメータ

パラメータ (Parameters)	デフォルト
コンソールログgings	重大度 2 でイネーブル
モニタログgings	重大度 2 でイネーブル
ログファイルログgings	重大度 5 のメッセージログgingsがイネーブル
モジュールログgings	重大度 5 でイネーブル

パラメータ (Parameters)	デフォルト
ファシリティ ログ	イネーブル
タイムスタンプ単位	Seconds
Syslog サーバ ログ	ディセーブル
Syslog サーバ設定の配布	ディセーブル

## システムメッセージログの設定

### ターミナルセッションへのシステムメッセージログの設定

コンソール、Telnet、およびセキュアシェルセッションに対する重大度によって、メッセージを記録するようスイッチを設定できます。

デフォルトでは、ターミナルセッションでログはイネーブルです。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>terminal monitor</b>	コンソールから現在の端末セッションに syslog メッセージをコピーします。
ステップ 2	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config)# <b>logging console</b> [ <i>severity-level</i> ]	指定された重大度（またはそれ以上）に基づくコンソールセッションへのメッセージの記録をイネーブルにします（数字が小さいほうが大きい重大度を示します）。重大度は 0～7 の範囲です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0：緊急</li> <li>• 1：アラート</li> <li>• 2：クリティカル</li> <li>• 3：エラー</li> <li>• 4：警告</li> <li>• 5：通知</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 6: 情報</li> <li>• 7: デバッグ</li> </ul> <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの2が使用されます。</p>
ステップ 4	<code>switch(config)# no logging console [severity-level]</code>	(任意) コンソールへのログメッセージをディセーブルにします。
ステップ 5	<code>switch(config)# logging monitor [severity-level]</code>	<p>指定された重大度（またはそれ以上）に基づくモニタへのメッセージの記録をイネーブルにします（数字が小さいほうが大きい重大度を示します）。重大度は0～7の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: 緊急</li> <li>• 1: アラート</li> <li>• 2: クリティカル</li> <li>• 3: エラー</li> <li>• 4: 警告</li> <li>• 5: 通知</li> <li>• 6: 情報</li> <li>• 7: デバッグ</li> </ul> <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの2が使用されます。</p> <p>設定はTelnetおよびSSHセッションに適用されます。</p>
ステップ 6	<code>switch(config)# no logging monitor [severity-level]</code>	(任意) Telnet および SSH セッションへのメッセージログをディセーブルにします。
ステップ 7	<code>switch# show logging console</code>	(任意) コンソール ログ設定を表示します。
ステップ 8	<code>switch# show logging monitor</code>	(任意) モニタ ログ設定を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	switch# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

次に、コンソールのロギングレベルを3に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging console 3
```

次に、コンソールのロギングの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging console
Logging console:                enabled (Severity: error)
```

次に、コンソールのロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no logging console
```

次に、ターミナルセッションのログレベルを4に設定する例を示します。

```
switch# terminal monitor
switch# configure terminal
switch(config)# logging monitor 4
```

次に、ターミナルセッションのロギングの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging monitor
Logging monitor:                enabled (Severity: warning)
```

次に、ターミナルセッションのロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no logging monitor
```

## ファイルへのシステムメッセージロギングの設定

システムメッセージをファイルに記録するようスイッチを設定できます。デフォルトでは、システムメッセージはファイル log:messages に記録されます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>logging logfilelogfile-nameseverity-level [sizebytes]</b>	システムメッセージを保存するのに使用するログファイルの名前と、記録する最小重大度を設定します。任意で最大ファイルサイズを指定できます。デフォルト



	コマンドまたはアクション	目的
		<p>トの重大度は5です。ファイルサイズは4194304です。</p> <p>重大度は0～7の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: 緊急</li> <li>• 1: アラート</li> <li>• 2: クリティカル</li> <li>• 3: エラー</li> <li>• 4: 警告</li> <li>• 5: 通知</li> <li>• 6: 情報</li> <li>• 7: デバッグ</li> </ul> <p>ファイルサイズは4096～10485760バイトです。</p>
ステップ3	<code>switch(config)# no logging logfile [logfile-name severity-level [sizebytes]]</code>	<p>(任意)</p> <p>ログファイルへのログギングをディセーブルにします。任意で最大ファイルサイズを指定できます。デフォルトの重大度は5です。ファイルサイズは4194304です。</p>
ステップ4	<code>switch# show logging info</code>	<p>(任意)</p> <p>ログギング設定を表示します。任意で最大ファイルサイズを指定できます。デフォルトの重大度は5です。ファイルサイズは4194304です。</p>
ステップ5	<code>switch# copy running-config startup-config</code>	<p>(任意)</p> <p>実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。</p>

次に、システムメッセージをファイルに記録するようスイッチを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging logfile my_log 6 size 4194304
```

次の例は、ログギング設定の表示方法を示しています（簡潔にするため、一部の出力が削除されています）。

```
switch# show logging info
Logging console:          enabled (Severity: debugging)
Logging monitor:         enabled (Severity: debugging)

Logging timestamp:       Seconds
Logging server:          disabled
```

```

Logging logfile:                               enabled
Name - my_log: Severity - informational Size - 4194304
Facility      Default Severity      Current Session Severity
-----
aaa           3
aclmgr       3      3
afm          3
altos       3
auth        0
authpriv    3
bootvar     5
callhome    2
capability  2
cdp         2
cert_enroll  2
...

```

## モジュールおよびファシリティメッセージのログの設定

モジュールおよびファシリティに基づいて記録するメッセージの重大度およびタイムスタンプの単位を設定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# logging module [severity-level]</code>	<p>指定された重大度またはそれ以上の重大度であるモジュールログメッセージをイネーブルにします。重大度は 0 ~ 7 の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : 緊急</li> <li>• 1 : アラート</li> <li>• 2 : クリティカル</li> <li>• 3 : エラー</li> <li>• 4 : 警告</li> <li>• 5 : 通知</li> <li>• 6 : 情報</li> <li>• 7 : デバッグ</li> </ul> <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの 5 が使用されます。</p>
ステップ 3	<code>switch(config)# logging level facility severity-level</code>	指定された重大度またはそれ以上の重大度である指定のファシリティからのログメッセージをイネーブルにします。重大度は 0 ~ 7 です。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : 緊急</li> <li>• 1 : アラート</li> <li>• 2 : クリティカル</li> <li>• 3 : エラー</li> <li>• 4 : 警告</li> <li>• 5 : 通知</li> <li>• 6 : 情報</li> <li>• 7 : デバッグ</li> </ul> <p>同じ重大度をすべてのファシリティに適用するには、all ファシリティを使用します。デフォルト値については、<b>show logging level</b> コマンドを参照してください。</p> <p>(注) Release 7.0(3)I2(1)以降、BCM_USD、ETHPC、FWM、およびNOHMS プロセスのログレベルは設定できません。BCM_USD プロセスの場合、<b>attach module 1</b> コマンドを使用して、ログレベルを設定します。</p>
ステップ 4	switch(config)# <b>no logging module</b> [severity-level]	(任意) モジュール ログ メッセージをディセーブルにします。
ステップ 5	switch(config)# <b>no logging level</b> [facility severity-level]	(任意) 指定されたファシリティのログギング重大度をデフォルトレベルにリセットします。ファシリティおよび重大度を指定しないと、スイッチはすべてのファシリティをデフォルトレベルにリセットします。
ステップ 6	switch# <b>show logging module</b>	(任意) モジュール ログギング設定を表示します。
ステップ 7	switch# <b>show logging level</b> [facility]	(任意) ファシリティごとに、ログギングレベル設定およびシステムのデフォルトレベルを表示します。ファシリティを指定しないと、スイッチはすべてのファシリティのレベルを表示します。
ステップ 8	switch# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

次に、モジュールおよび特定のファシリティメッセージの重大度を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging module 3
switch(config)# logging level aaa 2
```

## ロギングタイムスタンプの設定

Cisco Nexus シリーズスイッチによって記録されるメッセージのタイムスタンプの単位を設定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>logging timestamp</b> { <b>microseconds</b>   <b>milliseconds</b>   <b>seconds</b> }	ロギングタイムスタンプ単位を設定します。デフォルトでは、単位は秒です。
ステップ 3	switch(config)# <b>no logging timestamp</b> { <b>microseconds</b>   <b>milliseconds</b>   <b>seconds</b> }	(任意) ロギングタイムスタンプ単位をデフォルトの秒にリセットします。
ステップ 4	switch# <b>show logging timestamp</b>	(任意) 設定されたロギングタイムスタンプ単位を表示します。
ステップ 5	switch# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

次に、メッセージのタイムスタンプ単位を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging timestamp milliseconds
switch(config)# exit
switch# show logging timestamp
Logging timestamp: Milliseconds
```

## ACL ロギング キャッシュの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>logging ip access-list cache entries num_entries</b>	ソフトウェア内にキャッシュする最大ログエントリ数を設定します。範囲は 0 ~ 1000000 エントリです。デフォルト値は 8000 エントリです。
ステップ 3	switch(config)# <b>logging ip access-list cache interval seconds</b>	ログの更新の間隔を秒数で設定します。この時間中エントリが非アクティブの場合、キャッシュから削除されます。範囲は 5 ~ 86400 秒です。デフォルト値は 300 秒です。
ステップ 4	switch(config)# <b>logging ip access-list cache threshold num_packets</b>	エントリがログに記録されるまでに一致するパケット数を設定します。範囲は 0 ~ 1000000 パケットです。デフォルト値は 0 パケットです。つまり、パケットの一致数によってロギングはトリガーされません。
ステップ 5	switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、ログエントリの最大数を 5000、間隔を 120 秒、しきい値を 500000 に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging ip access-list cache entries 5000
switch(config)# logging ip access-list cache interval 120
switch(config)# logging ip access-list cache threshold 500000
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## インターフェイスへの ACL ロギングの適用

### はじめる前に

- ロギング用に設定された少なくとも 1 つのアクセス コントロール エントリ (ACE) で IP アクセス リストを作成します。
- ACL ロギング キャッシュを設定します。

- ACL ログの一致レベルを設定します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>interface mgmt0</b>	mgmt0 インターフェイスを指定します。
ステップ 3	switch(config-if)# <b>ip access-group name in</b>	指定したインターフェイスの入力トラフィックで ACL ロギングをイネーブルにします。
ステップ 4	switch(config-if)# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、すべての入力トラフィックに対して `acl1` で指定されたロギングに `mgmt0` インターフェイスを適用する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface mgmt0
switch(config-if)# ip access-group acl1 in
switch(config-if)# copy running-config startup-config
```

## Source-Interface ロギングの設定

syslog メッセージがどのインターフェイスを使用してルータを出るかにかかわらず、syslog サーバに送信されるすべてのシステム ロギング (syslog) メッセージに、送信元アドレスと同じ IP アドレスを含めるように設定できます。送信元インターフェイスで指定されている syslog パケットにユーザ設定の送信元 IP を設定できます。



- (注) 有効な IP アドレスが割り当てられていない場合、syslog が作成され、メッセージが出口インターフェイス IP アドレスとともに送信されます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	switch(config)# <b>[no] logging source-interface</b> [ethernet slot/port   loopback interface-number   mgmt interface-number   port-channel port channel-number   vlan interface-number   tunnel interface-number]	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ethernet</b> : イーサネット オプションの送信元インターフェイスの範囲は 1 ~ 253 です。</li> <li>• <b>loopback</b> : ループバック オプションの送信元インターフェイスの範囲は 1 ~ 1023 です。</li> <li>• <b>mgmt</b> : 管理オプションの送信元インターフェイスのインターフェイス番号は 0 です。</li> <li>• <b>port-channel</b> : ポートチャネルオプションの送信元インターフェイスの範囲は 1 ~ 4096 です。</li> </ul>
ステップ 3	switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、送信元インターフェイスをイーサネットインターフェイスとして設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging source-interface ethernet 2/1
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## ACL ログの一致レベルの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<code>switch(config)# <b>aclog</b> <b>match-log-level</b> <i>number</i></code>	ACL ログ (aclog) で記録するエントリと一致するようにログレベルを指定します。 <i>number</i> は 0～7 までの値です。デフォルト値は 6 です。 (注) ログに入力するログメッセージでは、ACL ログファシリティ (aclog) のログレベルとログファイルのロギング重大度は、ACL ログの一致ログレベル設定よりも大きいか、同じです。詳細については、「 <a href="#">モジュールおよびファシリティメッセージのロギングの設定, (154 ページ)</a> 」および「 <a href="#">ファイルへのシステムメッセージロギングの設定, (152 ページ)</a> 」を参照してください。
ステップ 3	<code>switch(config)# <b>copy</b> <b>running-config</b> <b>startup-config</b></code>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## syslog サーバの設定

システムメッセージを記録する、リモートシステムを参照する syslog サーバを最大で 8 台設定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code><b>configure terminal</b></code>  例： <code>switch# configure terminal switch(config)#</code>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<code><b>logging server</b><i>host</i> [<i>severity-level</i> [<b>use-vrf</b><i>vrf-name</i> [<i>facility</i><i>facility</i>]]]</code>  例： <code>switch(config)# logging server 172.28.254.254 5 use-vrf default facility local3</code>	ホストが syslog メッセージを受信するように設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li><i>host</i> 引数は、syslog サーバホストのホスト名または IPv4 または IPv6 アドレスを示します。</li><li><i>severity-level</i> 引数は、指定したレベルに syslog サーバへのメッセージのロギングを制限します。重大度は 0～7 の範囲です。「<a href="#">表 16：システムメッセージの重大度, (147 ページ)</a>」を参照してください。</li></ul>



	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>use vrf</b> <i>vrf-name</i> キーワードと引数は、Virtual Routing and Forwarding (VRF) 名の <i>default</i> または <i>management</i> 値を示します。特定の VRF が指定されない場合は、<i>management</i> がデフォルトです。ただし、<i>management</i> が設定されているときは、それがデフォルトであるため、<b>show running</b> コマンドの出力には表示されません。特定の VRF が設定されている場合、<b>show-running</b> コマンドの出力には、各サーバの VRF が表示されます。</li> </ul> <p>(注) 現在の Cisco Fabric Services (CFS) 配信では VRF をサポートしていません。CFS 配信がイネーブルの場合、デフォルト VRF で設定されているロギングサーバは管理 VRF として配布されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>facility</b> 引数は <b>syslog</b> ファシリティタイプを指定します。デフォルトの発信ファシリティは <i>local7</i> です。</li> </ul> <p>ファシリティは、使用している Cisco Nexus シリーズソフトウェアのコマンドリファレンスに記載されています。</p> <p>(注) デバッグは CLI ファシリティですが、デバッグの <b>syslog</b> はサーバに送信されません。</p>
ステップ 3	<b>no logging serverhost</b>  例 : <pre>switch(config)# no logging server 172.28.254.254 5</pre>	(任意) 指定されたホストのロギングサーバを削除します。
ステップ 4	<b>show logging server</b>  例 : <pre>switch# show logging server</pre>	(任意) Syslog サーバ設定を表示します。
ステップ 5	<b>copy running-config startup-config</b>  例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

次に、syslog サーバを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server 172.28.254.254 5
use-vrf default facility local3

switch# configure terminal
switch(config)# logging server 172.28.254.254 5 use-vrf management facility local3
```

## UNIX または Linux システムでの syslog の設定

/etc/syslog.conf ファイルに次の行を追加して、UNIX または Linux システム上に Syslog サーバを設定できます。

```
facility.level <five tab characters> action
```

次の表に、設定可能な syslog フィールドを示します。

表 18: *syslog.conf* の *syslog* フィールド

フィールド	説明
ファシリティ	メッセージの作成者。auth、authpriv、cron、daemon、kern、lpr、mail、mark、news、syslog、user、local0 ~ local7 です。アスタリスク (*) を使用するとすべてを指定します。これらのファシリティ指定により、発信元に基づいてメッセージの宛先を制御できます。  (注) ローカルファシリティを使用する前に設定をチェックします。
レベル	メッセージを記録する最小重大度。debug、info、notice、warning、err、crit、alert、emerg です。アスタリスク (*) を使用するとすべてを指定します。none を使用するとファシリティをディセーブルにできます。
Action	メッセージの宛先。ファイル名、前にアットマーク (@) が付いたホスト名、カンマで区切られたユーザリストです。アスタリスク (*) を使用するとすべてのログインユーザを指定します。

## 手順

- ステップ 1** /etc/syslog.conf ファイルに次の行を追加して、ファイル /var/log/myfile.log に local7 ファシリティのデバッグメッセージを記録します。
- ```
debug.local7 /var/log/myfile.log
```
- ステップ 2** シェルプロンプトで次のコマンドを入力して、ログファイルを作成します。
- ```
$ touch /var/log/myfile.log
$ chmod 666 /var/log/myfile.log
```
- ステップ 3** 次のコマンドを入力して、システムメッセージロギングデーモンが myfile.log をチェックして、新しい変更を取得するようにします。
- ```
$ kill -HUP ~cat /etc/syslog.pid~
```

## syslog サーバ設定の配布の設定

Cisco Fabric Services (CFS) インフラストラクチャを使用して、ネットワーク内の他のスイッチへ Syslog サーバ設定を配布できます。

Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにすると、配布設定をコミットする前に Syslog サーバ設定を変更し、保留中の変更を表示できます。配布がイネーブルである限り、スイッチは Syslog サーバ設定に対する保留中の変更を維持します。



- (注) スイッチを再起動すると、揮発性メモリに保存されている syslog サーバ設定の変更は失われることがあります。

### はじめる前に

1 つまたは複数の syslog サーバを設定しておく必要があります。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                              | 目的                                                                              |
|--------|-------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>         | グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。                                                      |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>logging distribute</b> | CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワークスイッチへの syslog サーバ設定の配布をイネーブルにします。デフォルトでは、配布はディセーブルです。 |

|        | コマンドまたはアクション                                      | 目的                                                                                                                                                                                  |
|--------|---------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 3 | switch(config)# <b>logging commit</b>             | ファブリック内のスイッチへ配布するための Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をコミットします。                                                                                                                                |
| ステップ 4 | switch(config)# <b>logging abort</b>              | Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をキャンセルします。                                                                                                                                                    |
| ステップ 5 | switch(config)# <b>no logging distribute</b>      | (任意)<br>CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワークスイッチへの syslog サーバ設定の配布をディセーブルにします。設定変更が保留中の場合は、配布をディセーブルにできません。 <b>logging commit</b> および <b>logging abort</b> コマンドを参照してください。デフォルトでは、配布はディセーブルです。 |
| ステップ 6 | switch# <b>show logging pending</b>               | (任意)<br>Syslog サーバ設定に対する保留中の変更を表示します。                                                                                                                                               |
| ステップ 7 | switch# <b>show logging pending-diff</b>          | (任意)<br>syslog サーバ設定の保留中の変更に対して、現在の syslog サーバ設定との違いを表示します。                                                                                                                         |
| ステップ 8 | switch# <b>show logging internal info</b>         | (任意)<br>syslog サーバ配布の現在の状態と最後に実行したアクションに関する情報を表示します。                                                                                                                                |
| ステップ 9 | switch# <b>copy running-config startup-config</b> | (任意)<br>実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。                                                                                                                                   |

## ログファイルの表示およびクリア

ログファイルおよび NVRAM のメッセージを表示したり消去したりできます。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                 | 目的                                             |
|--------|----------------------------------------------|------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>show logging lastnumber-lines</b> | ロギングファイルの最終行番号を表示します。最終行番号には 1 ~ 9999 を指定できます。 |

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                     | 目的                                                                                                     |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 2 | switch# <b>show logging logfile</b><br>[start-time <code>yyyymm dd</code><br><code>hh:mm:ss</code> ] [end-time <code>yyyymm dd</code><br><code>hh:mm:ss</code> ] | 入力されたスパン内にタイムスタンプがあるログファイルのメッセージを表示します。終了時間を入力しないと、現在の時間が使用されます。月の時間フィールドには3文字を、年と日の時間フィールドには数値を入力します。 |
| ステップ 3 | switch# <b>show logging nvram</b><br>[lastnumber-lines]                                                                                                          | NVRAMのメッセージを表示します。表示される行数を制限するには、表示する最終行番号を入力できます。最終行番号には1～100を指定できます。                                 |
| ステップ 4 | switch# <b>clear logging logfile</b>                                                                                                                             | ログファイルの内容をクリアします。                                                                                      |
| ステップ 5 | switch# <b>clear logging nvram</b>                                                                                                                               | NVRAMの記録されたメッセージをクリアします。                                                                               |

次に、ログファイルのメッセージを表示する例を示します。

```
switch# show logging last 40
switch# show logging logfile start-time 2007 nov 1 15:10:0
switch# show logging nvram last 10
```

次に、ログファイルのメッセージをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging logfile
switch# clear logging nvram
```

## システムメッセージロギングの設定確認

システムメッセージのロギング設定情報を確認するには、次のコマンドを使用します。

| コマンド                                            | 目的                            |
|-------------------------------------------------|-------------------------------|
| <b>show logging console</b>                     | コンソールロギング設定を表示します。            |
| <b>show logging info</b>                        | ロギング設定を表示します。                 |
| <b>show logging internal info</b>               | Syslog配布情報を表示します。             |
| <b>show logging ip access-list cache</b>        | IPアクセスリストキャッシュを表示します。         |
| <b>show logging ip access-list cache detail</b> | IPアクセスリストキャッシュに関する詳細情報を表示します。 |

| コマンド                                                                                      | 目的                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| <b>show logging ip access-list status</b>                                                 | IP アクセスリスト キャッシュのステータスを表示します。   |
| <b>show logging lastnumber-lines</b>                                                      | ログ ファイルの末尾から指定行数を表示します。         |
| <b>show logging level [facility]</b>                                                      | ファシリティ ログ重大度設定を表示します。           |
| <b>show logging logfile</b><br>[start-timeyyyymmddhh:mm:ss]<br>[end-timeyyyymmddhh:mm:ss] | ログ ファイルのメッセージを表示します。            |
| <b>show logging module</b>                                                                | モジュール ログ設定を表示します。               |
| <b>show logging monitor</b>                                                               | モニタ ログ設定を表示します。                 |
| <b>show logging nvram [lastnumber-lines]</b>                                              | NVRAM ログのメッセージを表示します。           |
| <b>show logging pending</b>                                                               | Syslog サーバの保留中の配布設定を表示します。      |
| <b>show logging pending-diff</b>                                                          | Syslog サーバの保留中の配布設定の違いを表示します。   |
| <b>show logging server</b>                                                                | Syslog サーバ設定を表示します。             |
| <b>show logging session</b>                                                               | ログ セッションのステータスを表示します。           |
| <b>show logging status</b>                                                                | ログ ステータスを表示します。                 |
| <b>show logging timestamp</b>                                                             | ログ タイムスタンプ単位設定を表示します。           |
| <b>show running-config acllog</b>                                                         | ACL ログファイルの実行コンフィギュレーションを表示します。 |



# 第 14 章

## Smart Call Home の設定

この章の内容は、次のとおりです。

- [Smart Call Home に関する情報, 167 ページ](#)
- [Smart Call Home の注意事項および制約事項, 177 ページ](#)
- [Smart Call Home の前提条件, 178 ページ](#)
- [Call Home のデフォルト設定, 178 ページ](#)
- [Smart Call Home の設定, 179 ページ](#)
- [Smart Call Home 設定の確認, 190 ページ](#)
- [フルテキスト形式での syslog アラート通知の例, 191 ページ](#)
- [XML 形式での syslog アラート通知の例, 191 ページ](#)

## Smart Call Home に関する情報

Smart Call Home は電子メールを使用して、重要なシステム イベントを通知します。Cisco Nexus シリーズ スイッチは、幅広いメッセージフォーマットを提供し、ポケットベル サービス、標準 Eメール、または XML ベースの自動解析アプリケーションと最適な互換性を保てます。この機能を使用して、ネットワーク サポート エンジニアや Network Operations Center を呼び出せます。また、Cisco Smart Call Home サービスを使用して、TAC でケースを自動的に生成することもできます。

シスコと直接サービス契約を結んでいる場合は、Smart Call Home サービス用のデバイスを登録できます。Smart Call Home は、ご使用のデバイスから送信された Smart Call Home メッセージを分析し、背景情報および推奨事項を提供して、システムの問題を迅速に解決します。既知と特定できる問題、特に GOLD 診断エラーについては、シスコ TAC によって自動サービス リクエストが生成されます。

Smart Call Home には、次の機能があります。

- 継続的なデバイス ヘルス モニタリングとリアルタイムの診断アラート。

- ご使用のデバイスからの Smart Call Home メッセージの分析と、必要に応じた自動サービスリクエストの生成は、問題を迅速に解決するための詳細な診断情報とともに、適切な TAC チームにルーティングされます。
- セキュアなメッセージ転送が、ご使用のデバイスから直接、またはダウンロード可能な Transport Gateway (TG) 集約ポイントを経由して行われます。複数のデバイスでサポートを必要としている場合、またはセキュリティ要件の関係でご使用のデバイスをインターネットに直接接続できない場合は、TG 集約ポイントを使用できます。
- Smart Call Home メッセージと推奨事項、すべての Smart Call Home デバイスのインベントリおよび設定情報、および Field Notice、セキュリティ勧告、およびサポート終了日情報への Web ベースのアクセス。

## Smart Call Home の概要

Smart Call Home を使用すると、重要なイベントがデバイスで発生した場合に外部エンティティに通知できます。Smart Call Home では、ユーザが宛先プロファイルに設定する複数の受信者にアラートが配信されます。

Smart Call Home には、スイッチで事前に定義された一連のアラートが含まれます。これらのアラートはアラートグループにグループ化され、アラートグループのアラートが発生したときに実行する CLI コマンドが割り当てられています。スイッチには、転送された Smart Call Home メッセージのコマンド出力が含まれます。

Smart Call Home 機能には、次のものがあります。

- 関連する CLI コマンド出力の実行および添付が自動化されます。
- 次のような、複数のメッセージフォーマットオプションがあります。
  - ショートテキスト：ポケットベルまたは印刷されたレポートに適している文字。
  - フルテキスト：人間が判読しやすいように完全にフォーマットされたメッセージ情報です。
  - XML：Extensible Markup Language (XML) および Adaptive Messaging Language (AML) XML スキーマ定義 (XSD) を使用した、判読可能なフォーマットです。XML 形式では、シスコ TAC と通信できます。
- 複数のメッセージ宛先への同時配信が可能。各宛先プロファイルには最大 50 件の電子メール宛先アドレスを設定できます。

## Smart Call Home 宛先プロファイル

Smart Call Home 宛先プロファイルには、次の情報が含まれています。

- 1 つ以上のアラートグループ：アラートの発生時に、特定の Smart Call Home メッセージを送信するアラートのグループ。



- 1 つ以上の電子メール宛先：この宛先プロファイルに割り当てられたアラート グループによって生成された Smart Call Home メッセージの受信者リスト。
- メッセージフォーマット：Smart Call Home メッセージのフォーマット（ショートテキスト、フルテキスト、または XML）。
- メッセージ重大度：スイッチが宛先プロファイル内のすべての電子メールアドレスに対して Smart Call Home メッセージを生成するまで、アラートが満たす必要がある Smart Call Home 重大度。アラートの Smart Call Home 重大度が、宛先プロファイルに設定されたメッセージ重大度よりも低い場合、スイッチはアラートを生成しません。

定期メッセージを日別、週別、月別で送信するコンポーネントアラートグループを使用して、定期的なコンポーネントアップデートメッセージを許可するよう宛先プロファイルを設定することもできます。

Cisco Nexus スイッチは、次の定義済み宛先プロファイルをサポートします。

- CiscoTAC-1：XML メッセージフォーマットの Cisco-TAC アラート グループをサポートします。
- full-text-destination：フルテキストメッセージフォーマットをサポートします。
- short-text-destination：ショートテキストメッセージフォーマットをサポートします。

## Smart Call Home アラート グループ

アラートグループは、すべての Cisco Nexus デバイスでサポートされる Smart Call Home アラートの定義済みサブセットです。アラートグループを使用すると、定義済みまたはカスタム宛先プロファイルに送信する一連の Smart Call Home アラートを選択できます。Smart Call Home アラートが宛先プロファイルにアソシエートされたいずれかのアラートグループに属する場合、およびアラートで、Smart Call Home メッセージ重大度が宛先プロファイルに設定されているメッセージ重大度と同じか、それ以上である場合のみ、スイッチは Smart Call Home アラートを宛先プロファイルの電子メールの宛先に送信します。

次の表に、サポートされるアラートグループと、アラートグループ用に生成された Smart Call Home メッセージに含まれるデフォルトの CLI コマンド出力を示します。

表 19：アラートグループおよび実行されるコマンド

| アラートグループ  | 説明                                               | 実行されるコマンド                         |
|-----------|--------------------------------------------------|-----------------------------------|
| Cisco-TAC | Smart Call Home 宛ての、他のアラートグループからのすべてのクリティカルアラート。 | アラートを発信するアラートグループに基づいてコマンドを実行します。 |

| アラートグループ           | 説明                                                                                                  | 実行されるコマンド                                                                                                                                             |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 診断                 | 診断によって生成されたイベント。                                                                                    | <b>show diagnostic result module all detail</b><br><b>show moduleshow version</b><br><b>show tech-support platform callhome</b>                       |
| スーパーバイザハードウェア      | スーパーバイザモジュールに関連するイベント。                                                                              | <b>show diagnostic result module all detail</b><br><b>show moduleshow version</b><br><b>show tech-support platform callhome</b>                       |
| ラインカードハードウェア       | 標準またはインテリジェントスイッチングモジュールに関連するイベント。                                                                  | <b>show diagnostic result module all detail</b><br><b>show moduleshow version</b><br><b>show tech-support platform callhome</b>                       |
| 設定 (Configuration) | 設定に関連した定期的なイベント。                                                                                    | <b>show version</b><br><b>show module</b><br><b>show running-config all</b><br><b>show startup-config</b>                                             |
| システム               | 装置の動作に重要なソフトウェアシステムの障害によって生成されるイベント                                                                 | <b>show system redundancy status</b><br><b>show tech-support</b>                                                                                      |
| Environmental      | 電源、ファン、および温度アラームなどの環境検知要素に関連するイベント。                                                                 | <b>show environment</b><br><b>show logging last 1000</b><br><b>show module show version</b><br><b>show tech-support platform callhome</b>             |
| インベントリ             | 装置がコールドブートした場合、またはFRUの取り付けまたは取り外しを行った場合に示されるコンポーネントステータス。このアラートは重要でないイベントであり、情報はステータスおよび使用権に使用されます。 | <b>show module</b><br><b>show version</b><br><b>show license usage</b><br><b>show inventory</b><br><b>show sprom all</b><br><b>show system uptime</b> |

Smart Call Home は、syslog の重大度を、syslog ポート グループ メッセージの対応する Smart Call Home の重大度に対応させます。

特定のイベントが発生し、Smart Call Home メッセージを含む **show** 出力を送信した場合に、追加の **show** コマンドを実行するために、定義済みのアラート グループをカスタマイズできます。

**show** コマンドは、フルテキストおよびXML 宛先プロファイルにのみ追加できます。ショートテキスト宛先プロファイルは、128 バイトのテキストに制限されているため、追加の **show** コマンドをサポートしていません。

## Smart Call Home のメッセージ レベル

Smart Call Home を使用すると、緊急度に基づいてメッセージをフィルタリングできます。各宛先プロファイル（定義済みおよびユーザ定義）を、Smart Call Home メッセージレベルしきい値にアソシエートすることができます。宛先プロファイルのこのしきい値よりも小さい値を持つ Smart Call Home メッセージは、スイッチによって生成されません。Smart Call Home メッセージレベルの範囲は0（緊急度が最小）～9（緊急度が最大）です。デフォルトは0です（スイッチはすべてのメッセージを送信します）。

syslog アラート グループに送信される Smart Call Home メッセージでは、syslog の重大度が Smart Call Home のメッセージ レベルにマッピングされます。



(注) Smart Call Home は、メッセージテキストで syslog メッセージ レベルを変更しません。

次の表に、各 Smart Call Home メッセージ レベルのキーワードと、syslog ポート アラート グループの対応する syslog レベルを示します。

表 20: 重大度と *syslog* レベルのマッピング

| Smart Call Home レベル | キーワード        | Syslog レベル | 説明                         |
|---------------------|--------------|------------|----------------------------|
| 9                   | Catastrophic | 該当なし       | ネットワーク全体に壊滅的な障害が発生しています。   |
| 8                   | Disaster     | 該当なし       | ネットワークに重大な影響が及びます。         |
| 7                   | Fatal        | 緊急 (0)     | システムが使用不可能な状態。             |
| 6                   | Critical     | アラート (1)   | クリティカルな状況で、すぐに対応する必要があります。 |
| 5                   | Major        | 重要 (2)     | 重大な状態。                     |

| Smart Call Home レベル | キーワード     | Syslog レベル | 説明                    |
|---------------------|-----------|------------|-----------------------|
| 4                   | Minor     | エラー (3)    | 軽微な状態。                |
| 3                   | 警告        | 警告 (4)     | 警告状態。                 |
| 2                   | 通知        | 通知 (5)     | 基本的な通知および情報メッセージです。   |
| 1                   | 標準        | 情報 (6)     | 標準状態に戻ることを示す標準イベントです。 |
| 0                   | Debugging | デバッグ (7)   | デバッグメッセージ。            |

## Call Home のメッセージ形式

Call Home では、次のメッセージフォーマットがサポートされます。

- ショートテキストメッセージフォーマット
- すべてのフルテキストと XML メッセージに共通のフィールド
- 対処的または予防的イベントメッセージに挿入されるフィールド
- コンポーネント イベントメッセージの挿入フィールド
- ユーザが作成したテストメッセージの挿入フィールド

次の表に、すべてのメッセージタイプのショートテキスト書式設定オプションを示します。

表 21: ショートテキストメッセージフォーマット

| データ項目      | 説明                       |
|------------|--------------------------|
| デバイス ID    | 設定されたデバイス名               |
| 日時スタンプ     | 起動イベントのタイムスタンプ           |
| エラー判別メッセージ | 起動イベントの簡単な説明 (英語)        |
| アラームの緊急度   | システムメッセージに適用されるようなエラーレベル |

次の表に、フルテキストまたは XML の共通するイベントメッセージ形式について説明します。

表 22: すべてのフルテキストと XML メッセージに共通のフィールド

| データ項目 (プレーンテキストおよび XML) | 説明 (プレーンテキストおよび XML)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | XML タグ (XML のみ)       |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| Time stamp              | ISO 時刻通知でのイベントの日付/タイムスタンプ<br>YYYY-MM-DDHH:MM:SS<br>GMT+HH:MM                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | /aml/header/time      |
| メッセージ名                  | メッセージの名前。特定のイベント名は上記の表に記載。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | /aml/header/name      |
| メッセージタイプ                | リアクティブまたはプロアクティブなどのメッセージタイプの名前                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | /aml/header/type      |
| メッセージグループ               | Syslog などのアラートグループの名前                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | /aml/header/group     |
| 重大度                     | メッセージの重大度。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | /aml/header/level     |
| 送信元 ID                  | ルーティングのための製品タイプ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | /aml/header/source    |
| デバイス ID                 | <p>メッセージを生成したエンドデバイスの固有デバイス識別情報 (UDI)。メッセージがデバイスに対して固有でない場合は、このフィールドを空にする必要があります。形式は、<i>type@Sid@serial</i>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>type</i> は、バックプレーン IDPROM からの製品の型番。</li> <li>• <i>@</i> は区切り文字です。</li> <li>• <i>Sid</i> は C で、シリアル ID をシャーシシリアル番号として特定します。</li> <li>• <i>serial</i> は、Sid フィールドによって識別される番号です。</li> </ul> <p>例: WS-C6509@C@12345678</p> | /aml/ header/deviceID |

| データ項目 (プレーンテキストおよびXML) | 説明 (プレーンテキストおよびXML)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | XML タグ (XML のみ)          |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| Customer ID            | サポート サービスによって契約情報やその他の ID に使用されるオプションのユーザ設定可能なフィールド。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | /aml/ header/customerID  |
| 契約 ID                  | サポート サービスによって契約情報やその他の ID に使用されるオプションのユーザ設定可能なフィールド。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | /aml/ header /contractID |
| サイト ID                 | シスコが提供したサイト ID または別のサポート サービスにとって意味のあるその他のデータに使用されるオプションのユーザ設定可能なフィールド。                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | /aml/ header/siteID      |
| サーバ ID                 | <p>デバイスからメッセージが生成された場合、これはデバイスの Unique Device Identifier (UDI) フォーマットです。</p> <p>形式は、<i>type@Sid@serial</i>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>type</i> は、バックプレーン IDPROM からの製品の型番。</li> <li>• <i>@</i> は区切り文字です。</li> <li>• <i>Sid</i> は C で、シリアル ID をシャーシシリアル番号として特定します。</li> <li>• <i>serial</i> は、Sid フィールドによって識別される番号です。</li> </ul> <p>例 : WS-C6509@C@12345678</p> | /aml/header/serverID     |
| メッセージの説明               | エラーを説明するショートテキスト                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | /aml/body/msgDesc        |
| デバイス名                  | イベントが発生したノード (デバイスのホスト名)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | /aml/body/sysName        |

| データ項目（プレーンテキストおよびXML）                                     | 説明（プレーンテキストおよびXML）                      | XML タグ（XML のみ）                     |
|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------|
| 担当者名                                                      | イベントが発生したノード関連の問題について問い合わせる担当者名         | /aml/body/sysContact               |
| 連絡先 E メール                                                 | この装置の担当者の E メールアドレス                     | /aml/body/sysContactEmail          |
| Contact phone number                                      | このユニットの連絡先である人物の電話番号。                   | /aml/body/sysContactPhoneNumber    |
| 住所                                                        | この装置関連の返品許可（RMA）部品の送付先住所を保存するオプションフィールド | /aml/body/sysStreetAddress         |
| モデル名                                                      | デバイスのモデル名（製品ファミリー名に含まれる具体的なモデル）         | /aml/body/chassis/name             |
| Serial number                                             | ユニットのシャーシのシリアル番号。                       | /aml/body/chassis/serialNo         |
| シャーシの部品番号                                                 | シャーシの最上アセンブリ番号。                         | /aml/body/chassis/partNo           |
| 特定のアラート グループ メッセージの固有のフィールドは、ここに挿入されます。                   |                                         |                                    |
| このアラート グループに対して複数の CLI コマンドが実行されると、次のフィールドが繰り返される場合があります。 |                                         |                                    |
| コマンド出力名                                                   | 実行された CLI コマンドの正確な名前                    | /aml/attachments/attachment/name   |
| 添付タイプ                                                     | 特定のコマンド出力                               | /aml/attachments/attachment/type   |
| MIME タイプ                                                  | プレーンテキストまたは符号化タイプ                       | /aml/attachments/attachment/mime   |
| コマンド出力テキスト                                                | 自動的に実行されるコマンドの出力。                       | /aml/attachments/attachment/atdata |

次の表に、フルテキストまたは XML のリアクティブ イベントメッセージ形式について説明します。

表 23: 対処的または予防的イベントメッセージに挿入されるフィールド

| データ項目 (プレーンテキストおよび XML)   | 説明 (プレーンテキストおよび XML)       | XML タグ (XML のみ)             |
|---------------------------|----------------------------|-----------------------------|
| シャーシのハードウェアバージョン          | シャーシのハードウェアバージョン。          | /aml/body/chassis/hwVersion |
| スーパーバイザ モジュール ソフトウェアバージョン | 最上レベルのソフトウェアバージョン。         | /aml/body/chassis/swVersion |
| 影響のある FRU の名前             | イベントメッセージを生成する関連 FRU の名前   | /aml/body/fru/name          |
| 影響のある FRU のシリアル番号         | 関連 FRU のシリアル番号             | /aml/body/fru/serialNo      |
| 影響のある FRU の製品番号           | 関連 FRU の部品番号               | /aml/body/fru/partNo        |
| FRU スロット                  | イベントメッセージを生成する FRU のスロット番号 | /aml/body/fru/slot          |
| FRU ハードウェアバージョン           | 関連 FRU のハードウェアバージョン        | /aml/body/fru/hwVersion     |
| FRU ソフトウェアバージョン           | 関連 FRU で稼働しているソフトウェアバージョン  | /aml/body/fru/swVersion     |

次の表に、フルテキストまたは XML のコンポーネント イベントメッセージ形式について説明します。

表 24: コンポーネント イベントメッセージの挿入フィールド

| データ項目 (プレーンテキストおよび XML)   | 説明 (プレーンテキストおよび XML) | XML タグ (XML のみ)             |
|---------------------------|----------------------|-----------------------------|
| シャーシのハードウェアバージョン          | シャーシのハードウェアバージョン     | /aml/body/chassis/hwVersion |
| スーパーバイザ モジュール ソフトウェアバージョン | 最上レベルのソフトウェアバージョン。   | /aml/body/chassis/swVersion |



| データ項目（プレーンテキストおよび XML） | 説明（プレーンテキストおよび XML）       | XML タグ（XML のみ）          |
|------------------------|---------------------------|-------------------------|
| FRU name               | イベント メッセージを生成する関連 FRU の名前 | /aml/body/fru/name      |
| FRU s/n                | FRU のシリアル番号               | /aml/body/fru/serialNo  |
| FRU 製品番号               | FRU の部品番号                 | /aml/body/fru/partNo    |
| FRU スロット               | FRU のスロット番号               | /aml/body/fru/slot      |
| FRU ハードウェア バージョン       | FRU のハードウェア バージョン         | /aml/body/fru/hwVersion |
| FRU ソフトウェア バージョン       | FRU で稼働しているソフトウェア バージョン   | /aml/body/fru/swVersion |

次の表に、フルテキストまたは XML のユーザが作成したテストメッセージ形式について説明します。

表 25: ユーザが作成したテストメッセージの挿入フィールド

| データ項目（プレーンテキストおよび XML） | 説明（プレーンテキストおよび XML） | XML タグ（XML のみ）                 |
|------------------------|---------------------|--------------------------------|
| プロセス ID                | 固有のプロセス ID。         | /aml/body/process/id           |
| Process state          | プロセスの状態（実行中、中止など）。  | /aml/body/process/processState |
| Process exception      | 原因コードの例外。           | /aml/body/process/exception    |

## Smart Call Home の注意事項および制約事項

- IP 接続がない場合、またはプロファイル宛先への仮想ルーティングおよびフォワーディング（VRF）インスタンス内のインターフェイスがダウンしている場合、スイッチは Smart Call Home メッセージを送信できません。
- 任意の SMTP 電子メール サーバで動作します。



(注) Release 7.0(3)I2(1) 以降、SNMP sysContact は、デフォルトでは設定されていません。明示的に `snmp-server contact<sys-contact>` コマンドを使用して、SNMP sysContact を設定する必要があります。このコマンドを設定すると、callhome 機能が有効になります。

## Smart Call Home の前提条件

- 電子メール サーバに接続できる必要があります。
- コンタクト名 (SNMP サーバのコンタクト)、電話番号、および住所情報へアクセスできる必要があります。
- スイッチと電子メール サーバ間に IP 接続が必要です。
- 設定するデバイスに対して有効なサービス契約が必要です。

## Call Home のデフォルト設定

表 26: デフォルトの Call Home パラメータ

| パラメータ (Parameters)                  | デフォルト                                                                                    |
|-------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| フルテキストフォーマットで送信するメッセージの宛先メッセージサイズ   | 4000000                                                                                  |
| XML フォーマットで送信するメッセージの宛先メッセージサイズ     | 4000000                                                                                  |
| ショートテキストフォーマットで送信するメッセージの宛先メッセージサイズ | 4000                                                                                     |
| ポートを指定しなかった場合の SMTP サーバポート          | 25                                                                                       |
| プロファイルとアラート グループの関連付け               | フルテキスト宛先プロファイルおよびショートテキスト宛先プロファイルの場合はすべて。<br>CiscoTAC-1 宛先プロファイルの場合は cisco-tac アラート グループ |
| フォーマット タイプ                          | XML                                                                                      |
| Call Home のメッセージ レベル                | 0 (ゼロ)                                                                                   |

# Smart Call Home の設定

## Smart Call Home の登録

### はじめる前に

- ご使用のスイッチの sMARTnet 契約番号を確認してください
- 電子メールアドレスを確認してください
- Cisco.com ID を確認してください

### 手順

- 
- ステップ 1** ブラウザで、Smart Call Home Web ページに移動します。  
<http://www.cisco.com/go/smartcall/>
- ステップ 2** [Getting Started] で、Smart Call Home の登録指示に従ってください。
- 

### 次の作業

連絡先情報を設定します。

## 担当者情報の設定

Smart Call Home には、電子メール、電話番号、住所の各情報を指定する必要があります。契約 ID、カスタマー ID、サイト ID、およびスイッチプライオリティ情報を任意で指定できます。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                   | 目的                                    |
|--------|----------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                              | グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。           |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>snmp-server<br/>contact sys-contact</b>     | SNMP sysContact を設定します。               |
| ステップ 3 | switch(config)# <b>callhome</b>                                | Smart Call Home コンフィギュレーションモードを開始します。 |
| ステップ 4 | switch(config-callhome)#<br><b>email-contact email-address</b> | スイッチの担当者の電子メールアドレスを設定します。             |

|         | コマンドまたはアクション                                                                              | 目的                                                                                                                                                                                 |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         |                                                                                           | <p><i>email-address</i> には、電子メールアドレスの形式で、最大 255 の英数字を使用できます。</p> <p>(注) 任意の有効な E メールアドレスを使用できます。アドレスには、空白を含めることはできません。</p>                                                         |
| ステップ 5  | <pre>switch(config-callhome)# <b>phone-contact</b><i>international-phone-number</i></pre> | <p>デバイスの担当者の電話番号を国際電話フォーマットで設定します。</p> <p><i>international-phone-number</i> は、最大 17 文字の英数字で、国際電話フォーマットにする必要があります。</p> <p>(注) 電話番号には、空白を含めることはできません。番号の前にプラス (+) プレフィックスを使用します。</p> |
| ステップ 6  | <pre>switch(config-callhome)# <b>streetaddress</b><i>address</i></pre>                    | <p>スイッチの主担当者の住所を設定します。</p> <p><i>address</i> には、最大 255 の英数字を使用できます。スペースを使用できます。</p>                                                                                                |
| ステップ 7  | <pre>switch(config-callhome)# <b>contract-id</b><i>contract-number</i></pre>              | <p>(任意)</p> <p>サービス契約からこのスイッチの契約番号を設定します。</p> <p><i>contract-number</i> には最大 255 の英数字を使用できます。</p>                                                                                  |
| ステップ 8  | <pre>switch(config-callhome)# <b>customer-id</b><i>customer-number</i></pre>              | <p>(任意)</p> <p>サービス契約からこのスイッチの顧客番号を設定します。</p> <p><i>customer-number</i> には最大 255 の英数字を使用できます。</p>                                                                                  |
| ステップ 9  | <pre>switch(config-callhome)# <b>site-id</b><i>site-number</i></pre>                      | <p>(任意)</p> <p>このスイッチのサイト番号を設定します。</p> <p><i>site-number</i> は、最大 255 文字の英数字を自由なフォーマットで指定できます。</p>                                                                                 |
| ステップ 10 | <pre>switch(config-callhome)# <b>switch-priority</b><i>number</i></pre>                   | <p>(任意)</p> <p>このスイッチのスイッチプライオリティを設定します。</p> <p>指定できる範囲は 0～7 です。0 は最高のプライオリティを、7 は最低のプライオリティを示します。デフォルト値は 7 です。</p>                                                                |

|         | コマンドまたはアクション                                              | 目的                                                                          |
|---------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 11 | switch# <b>show callhome</b>                              | (任意)<br>Smart Call Home コンフィギュレーションの概要を表示します。                               |
| ステップ 12 | switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b> | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。 |

次に、Call Home に関する担当者情報を設定する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# snmp-server contact personname@companyname.com
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# email-contact personname@companyname.com
switch(config-callhome)# phone-contact +1-800-123-4567
switch(config-callhome)# street-address 123 Anystreet St., Anycity, Anywhere
```

#### 次の作業

宛先プロファイルを作成します。

## 宛先プロファイルの作成

ユーザ定義の宛先プロファイルを作成し、新しい宛先プロファイルにメッセージフォーマットを設定する必要があります。

#### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                | 目的                                                                                                                           |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                                                                                                                                           | グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。                                                                                                   |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>callhome</b>                                                                                                                                                             | Smart Call Home コンフィギュレーションモードを開始します。                                                                                        |
| ステップ 3 | switch(config-callhome)# <b>destination-profile</b><br>{ciscoTAC-1 {alert-groupgroup  <br>email-addraddress   httpURL  <br>transport-method {email   http}}  <br>filename {alert-groupgroup | 新しい宛先プロファイルを作成し、そのプロファイルのメッセージフォーマットを設定します。プロファイル名は、最大 31 文字の英数字で指定できます。<br><br>このコマンドについての詳細は、プラットフォームのコマンドリファレンスを参照してください。 |

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 目的                                                                         |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
|        | <b>email-addraddress   format {XML   full-txt   short-txt}   httpURL   message-level/level   message-sizesize   transport-method {email   http}}   full-txt-destination {alert-groupgroup   email-addraddress   httpURL   message-level/level   message-sizesize   transport-method {email   http}}   short-txt-destination {alert-groupgroup   email-addraddress   httpURL   message-level/level   message-sizesize   transport-method {email   http}}}</b> |                                                                            |
| ステップ 4 | <b>switch# show callhome destination-profile [profilename]</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | (任意)<br>1 つまたは複数の宛先プロファイルに関する情報を表示します。                                     |
| ステップ 5 | <b>switch(config)# copy running-config startup-config</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。 |

次に、Smart Call Home の宛先プロファイルを作成する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile Noc101 format full-text
```

## 宛先プロファイルの変更

定義済みまたはユーザ定義の宛先プロファイルの次の属性を変更できます。

- 宛先アドレス：アラートの送信先となる実際のアドレス（トランスポートメカニズムに関係します）。
- メッセージフォーマット：アラート送信に使用されるメッセージフォーマット（フルテキスト、ショートテキスト、または XML）。
- メッセージレベル：この宛先プロファイルの Call Home メッセージの重大度
- メッセージサイズ：この宛先プロファイルの E メールアドレスに送信された Call Home メッセージの長さ



(注) CiscoTAC-1 宛先プロフィールは変更または削除できません。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                    | 目的                                                                                                                                                                                          |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                                                                                                               | グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。                                                                                                                                                                  |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>callhome</b>                                                                                                                                 | Smart Call Home コンフィギュレーションモードを開始します。                                                                                                                                                       |
| ステップ 3 | switch(config-callhome)#<br><b>destination-profile</b> {name  <br><b>full-txt-destination</b>  <br><b>short-txt-destination</b> }<br><b>email-addr</b> address  | ユーザ定義または定義済みの宛先プロフィールに E メールアドレスを設定します。宛先プロフィールには、最大 50 個の E メールアドレスを設定できます。                                                                                                                |
| ステップ 4 | <b>destination-profile</b> {name  <br><b>full-txt-destination</b>  <br><b>short-txt-destination</b> }<br><b>message-level</b> number                            | この宛先プロフィールの Smart Call Home メッセージの重大度を設定します。Smart Call Home 重大度が一致する、またはそれ以上であるアラートのみが、このプロフィールの宛先に送信されます。<br>number に指定できる範囲は 0 ~ 9 です。9 は最大の重大度を示します。                                     |
| ステップ 5 | switch(config-callhome)#<br><b>destination-profile</b> {name  <br><b>full-txt-destination</b>  <br><b>short-txt-destination</b> }<br><b>message-size</b> number | この宛先プロフィールの最大メッセージサイズを設定します。full-txt-destination の値の範囲は 0 ~ 5000000 で、デフォルトは 2500000 です。<br>short-txt-destination の値の範囲は 0 ~ 100000 で、デフォルトは 4000 です。CiscoTAC-1 では、値は 5000000 で、これは変更不可能です。 |
| ステップ 6 | switch# <b>show callhome</b><br><b>destination-profile</b> [profilename]                                                                                        | (任意)<br>1 つまたは複数の宛先プロフィールに関する情報を表示します。                                                                                                                                                      |
| ステップ 7 | switch(config)# <b>copy</b><br><b>running-config startup-config</b>                                                                                             | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。                                                                                                                  |

次に、Smart Call Home の宛先プロフィールを変更する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile full-text-destination email-addr
person@example.com
```

```
switch(config-callhome)# destination-profile full-text-destination message-level 5
switch(config-callhome)# destination-profile full-text-destination message-size 10000
switch(config-callhome)#
```

### 次の作業

アラートグループと宛先プロファイルをアソシエートします。

## アラートグループと宛先プロファイルの関連付け

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 目的                                                                                      |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                            |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>callhome</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。                                                  |
| ステップ 3 | switch(config-callhome)#<br><b>destination-profile</b> alert-group<br>{ <b>All</b>   <b>Cisco-TAC</b>   <b>Configuration</b>  <br><b>Diagnostic</b>   <b>Environmental</b>   <b>Inventory</b>  <br><b>License</b>   <b>Linecard-Hardware</b>  <br><b>Supervisor-Hardware</b>  <br><b>Syslog-group-port</b>   <b>System</b>   <b>Test</b> } | アラートグループをこの宛先プロファイルにアソシエートします。キーワード <b>All</b> を使用して、すべてのアラートグループをこの宛先プロファイルにアソシエートします。 |
| ステップ 4 | switch# <b>show callhome</b><br><b>destination-profile</b> [profilename]                                                                                                                                                                                                                                                                   | (任意)<br>1 つまたは複数の宛先プロファイルに関する情報を表示します。                                                  |
| ステップ 5 | switch(config)# <b>copy running-config</b><br><b>startup-config</b>                                                                                                                                                                                                                                                                        | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。              |

次に、すべてのアラートグループを宛先プロファイルNoc101にアソシエートする例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile Noc101 alert-group All
switch(config-callhome)#
```

### 次の作業

オプションで **show** コマンドをアラートグループに追加し、SMTP 電子メール サーバを設定することができます。



## アラートグループへの show コマンドの追加

1 つのアラートグループには、最大 5 個のユーザ定義 **show** コマンドを割り当てることができます。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                              | 目的                                                                                                                                                            |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                                                                                                                                                                         | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                  |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>callhome</b>                                                                                                                                                                                           | Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                        |
| ステップ 3 | switch(config-callhome)# <b>alert-group {Configuration   Diagnostic   Environmental   Inventory   License   Linecard-Hardware   Supervisor-Hardware   Syslog-group-port   System   Test} user-def-cmd</b> <i>show-cmd</i> | <b>show</b> コマンド出力を、このアラートグループに送信された Call Home メッセージに追加します。有効な <b>show</b> コマンドだけが受け入れられます。<br><br>(注) CiscoTAC-1 宛先プロファイルには、ユーザ定義の <b>show</b> コマンドを追加できません。 |
| ステップ 4 | switch# <b>show callhome user-def-cmds</b>                                                                                                                                                                                | (任意)<br>アラートグループに追加されたすべてのユーザ定義 <b>show</b> コマンドに関する情報を表示します。                                                                                                 |
| ステップ 5 | switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>                                                                                                                                                                 | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。                                                                                    |

次に、**show ip routing** コマンドを Cisco-TAC アラートグループに追加する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# alert-group Configuration user-def-cmd show ip routing
switch(config-callhome)#
```

### 次の作業

SMTP 電子メール サーバに接続するように Smart Call Home を設定します。

## 電子メール サーバの詳細の設定

Smart Call Home 機能が動作するよう SMTP サーバアドレスを設定します。送信元および返信先 E メールアドレスも設定できます。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                  | 目的                                                                                                                                                              |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                                                                             | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                    |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>callhome</b>                                                                                               | Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                          |
| ステップ 3 | switch(config-callhome)#<br><b>transport email</b><br><b>smtp-server ip-address</b><br><b>[portnumber] [use-vrf vrf-name]</b> | SMTP サーバを、ドメインネームサーバ (DNS) 名、IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスのいずれかとして設定します。<br>番号の範囲は 1 ~ 65535 です。デフォルトのポート番号は 25 です。<br>この SMTP サーバと通信する際に使用するよう任意で VRF インスタンスを設定できます。 |
| ステップ 4 | switch(config-callhome)#<br><b>transport email</b><br><b>from email-address</b>                                               | (任意)<br>Smart Call Home メッセージの送信元電子メールフィールドを設定します。                                                                                                              |
| ステップ 5 | switch(config-callhome)#<br><b>transport email</b><br><b>reply-to email-address</b>                                           | (任意)<br>Smart Call Home メッセージの返信先電子メールフィールドを設定します。                                                                                                              |
| ステップ 6 | switch# <b>show callhome</b><br><b>transport-email</b>                                                                        | (任意)<br>Smart Call Home の電子メール設定に関する情報を表示します。                                                                                                                   |
| ステップ 7 | switch(config)# <b>copy</b><br><b>running-config startup-config</b>                                                           | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。                                                                                      |

次に、Smart Call Home メッセージの電子メール オプションを設定する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# transport email smtp-server 192.0.2.10 use-vrf Red
switch(config-callhome)# transport email from person@example.com
```

```
switch(config-callhome)# transport email reply-to person@example.com
switch(config-callhome)#
```

### 次の作業

定期的なインベントリ通知を設定します。

## 定期的なインベントリ通知の設定

ハードウェアのインベントリ情報に加えて、デバイス上で現在イネーブルになっているすべてのソフトウェア サービスおよび実行中のすべてのソフトウェア サービスのインベントリに関するメッセージを定期的送信するようにスイッチを設定できます。スイッチは2つの Smart Call Home 通知（定期的な設定メッセージと定期的なインベントリ メッセージ）を生成します。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                           | 目的                                                                                                                           |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                                                                      | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                 |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>callhome</b>                                                                                        | Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                       |
| ステップ 3 | switch(config-callhome)#<br><b>periodic-inventory notification</b><br>[ <b>interval</b> days] [ <b>timeofday</b> time] | 定期的なインベントリ メッセージを設定します。<br><b>interval</b> days の範囲は 1 ~ 30 日です。<br>デフォルトは 7 日です。<br><b>timeofday</b> time は HH:MM フォーマットです。 |
| ステップ 4 | switch# <b>show callhome</b>                                                                                           | (任意)<br>Smart Call Home に関する情報を表示します。                                                                                        |
| ステップ 5 | switch(config)# <b>copy</b><br><b>running-config startup-config</b>                                                    | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。                                                  |

次に、定期的なインベントリ メッセージを 20 日ごとに生成するよう設定する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# periodic-inventory notification interval 20
switch(config-callhome)#
```

### 次の作業

重複メッセージ抑制をディセーブルにします。

## 重複メッセージ抑制のディセーブル化

同じイベントについて受信する重複メッセージの数を制限できます。デフォルトでは、スイッチは同じイベントについて受信する重複メッセージの数を制限します。2 時間の時間枠内で送信された重複メッセージの数が 30 メッセージを超えると、スイッチは同じアラートタイプの以降のメッセージを廃棄します。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                   | 目的                                                                          |
|--------|----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                              | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>callhome</b>                                | Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。                                      |
| ステップ 3 | switch(config-callhome) # <b>no duplicate-message throttle</b> | Smart Call Home の重複メッセージ抑制をディセーブルにします。<br>重複メッセージ抑制はデフォルトでイネーブルです。          |
| ステップ 4 | switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>      | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。 |

次に、重複メッセージ抑制をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# no duplicate-message throttle
switch(config-callhome)#
```

### 次の作業

Smart Call Home をイネーブルにします。

## Smart Call Home のイネーブル化またはディセーブル化

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                              | 目的                                                                          |
|--------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                         | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>callhome</b>                           | Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。                                      |
| ステップ 3 | switch(config-callhome) # <b>[no] enable</b>              | Smart Call Home をイネーブルまたはディセーブルにします。<br>Smart Call Home は、デフォルトでディセーブルです。   |
| ステップ 4 | switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b> | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。 |

次の例は、Smart Call Home をイネーブルにする方法を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# enable
switch(config-callhome)#
```

### 次の作業

任意でテスト メッセージを生成します。

## Smart Call Home 設定のテスト

### はじめる前に

宛先プロファイルのメッセージ レベルが 2 以下に設定されていることを確認します。



#### 重要

Smart Call Home のテストは、宛先プロファイルのメッセージ レベルが 3 以上に設定されている場合は失敗します。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                  | 目的                                                                         |
|--------|---------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                             | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                               |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>callhome</b>                               | Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。                                     |
| ステップ 3 | switch(config-callhome) #<br><b>callhome send diagnostic</b>  | 設定されたすべての宛先に指定の Smart Call Home テスト メッセージを送信します。                           |
| ステップ 4 | switch(config-callhome) #<br><b>callhome test</b>             | 設定されたすべての宛先にテストメッセージを送信します。                                                |
| ステップ 5 | switch(config)# <b>copy<br/>running-config startup-config</b> | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。 |

次の例は、Smart Call Home をイネーブルにする方法を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# callhome send diagnostic
switch(config-callhome)# callhome test
switch(config-callhome)#
```

## Smart Call Home 設定の確認

次のいずれかのコマンドを使用して、設定を確認します。

| コマンド                                         | 目的                                                        |
|----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| <b>show callhome</b>                         | Smart Call Home のステータスを表示します。                             |
| <b>show callhome destination-profilename</b> | 1つまたは複数の Smart Call Home 宛先プロファイルを表示します。                  |
| <b>show callhome pending-diff</b>            | 保留中の Smart Call Home 設定と実行中の Smart Call Home 設定の違いを表示します。 |
| <b>show callhome status</b>                  | Smart Call Home ステータスを表示します。                              |

| コマンド                                                 | 目的                                         |
|------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| <b>show callhome transport-email</b>                 | Smart Call Home の電子メール設定を表示します。            |
| <b>show callhome user-def-cmds</b>                   | 任意のアラートグループに追加された CLI コマンドを表示します。          |
| <b>show running-config [callhome   callhome-all]</b> | Smart Call Home の実行コンフィギュレーションを表示します。      |
| <b>show startup-config callhome</b>                  | Smart Call Home のスタートアップコンフィギュレーションを表示します。 |
| <b>show tech-support callhome</b>                    | Smart Call Home のテクニカル サポート出力を表示します。       |

## フルテキスト形式での syslog アラート通知の例

次の例では、Syslog ポート アラート グループ通知のフルテキスト形式を示します。

```
source:MDS9000
Switch Priority:7
Device Id:WS-C6509@C@FG@07120011
Customer Id:Example.com
Contract Id:123
Site Id:San Jose
Server Id:WS-C6509@C@FG@07120011
Time of Event:2004-10-08T11:10:44
Message Name:SYSLOG_ALERT
Message Type:Syslog
Severity Level:2
System Name:10.76.100.177
Contact Name:User Name
Contact Email:person@example.com
Contact Phone:+1-408-555-1212
Street Address:#1234 Any Street, Any City, Any State, 12345
Event Description:2006 Oct 8 11:10:44 10.76.100.177 %PORT-5-IF_TRUNK_UP:
%$VLAN 1%$ Interface e2/5, vlan 1 is up
syslog_facility:PORT
start chassis information:
Affected Chassis:WS-C6509
Affected Chassis Serial Number:FG@07120011
Affected Chassis Hardware Version:0.104
Affected Chassis Software Version:3.1(1)
Affected Chassis Part No:73-8607-01
end chassis information:
```

## XML 形式での syslog アラート通知の例

次の例では、Syslog ポート アラート グループ通知の XML を示します。

```
From: example
Sent: Wednesday, April 25, 2007 7:20 AM
```

```

To: User (user)
Subject: System Notification From Router - syslog - 2007-04-25 14:19:55
GMT+00:00
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<soap-env:Envelope xmlns:soap-env="http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope">
<soap-env:Header>
<aml-session:Session xmlns:aml-session="http://www.example.com/2004/01/aml-session"
soap-env:mustUnderstand="true" soap-env:role=
"http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope/role/next">
<aml-session:To>http://tools.example.com/services/DDCEService</aml-session:To>
<aml-session:Path>
<aml-session:Via>http://www.example.com/appliance/uri</aml-session:Via>
</aml-session:Path>
<aml-session:From>http://www.example.com/appliance/uri</aml-session:From>
<aml-session:MessageId>M2:69000101:C9D9E20B</aml-session:MessageId>
</aml-session:Session>
</soap-env:Header>
<soap-env:Body>
<aml-block:Block xmlns:aml-block="http://www.example.com/2004/01/aml-block">
<aml-block:Header>
<aml-block:Type>http://www.example.com/2005/05/callhome/syslog</aml-block:Type>
<aml-block:CreationDate>2007-04-25 14:19:55 GMT+00:00</aml-block:CreationDate>
<aml-block:Builder>
<aml-block:Name>Cat6500</aml-block:Name>
<aml-block:Version>2.0</aml-block:Version>
</aml-block:Builder>
<aml-block:BlockGroup>
<aml-block:GroupId>G3:69000101:C9F9E20C</aml-block:GroupId>
<aml-block:Number>0</aml-block:Number>
<aml-block:IsLast>true</aml-block:IsLast>
<aml-block:IsPrimary>true</aml-block:IsPrimary>
<aml-block:WaitForPrimary>false</aml-block:WaitForPrimary>
</aml-block:BlockGroup>
<aml-block:Severity>2</aml-block:Severity>
</aml-block:Header>
<aml-block:Content>
<ch:Call Home xmlns:ch="http://www.example.com/2005/05/callhome" version="1.0">
<ch:EventTime>2007-04-25 14:19:55 GMT+00:00</ch:EventTime>
<ch:MessageDescription>03:29:29: %CLEAR-5-COUNTERS: Clear counter on all
interfaces by console</ch:MessageDescription>
<ch:Event>
<ch>Type>syslog</ch>Type>
<ch:SubType>
</ch:SubType>
<ch:Brand>Cisco Systems</ch:Brand>
<ch:Series>Catalyst 6500 Series Switches</ch:Series>
</ch:Event>
<ch:CustomerData>
<ch:UserData>
<ch:Email>person@example.com</ch:Email>
</ch:UserData>
<ch:ContractData>
<ch:CustomerId>12345</ch:CustomerId>
<ch:SiteId>building 1</ch:SiteId>
<ch:ContractId>abcdefg12345</ch:ContractId>
<ch:DeviceId>WS-C6509@C@69000101</ch:DeviceId>
</ch:ContractData>
<ch:SystemInfo>
<ch:Name>Router</ch:Name>
<ch>Contact>
</ch>Contact>
<ch>ContactEmail>user@example.com</ch>ContactEmail>
<ch>ContactPhoneNumber>+1-408-555-1212</ch>ContactPhoneNumber>
<ch:StreetAddress>#1234 Any Street, Any City, Any State, 12345
</ch:StreetAddress>
</ch:SystemInfo>
</ch:CustomerData>
<ch:Device>
<rme:Chassis xmlns:rme="http://www.example.com/rme/4.0">
<rme:Model>WS-C6509</rme:Model>
<rme:HardwareVersion>1.0</rme:HardwareVersion>
<rme:SerialNumber>69000101</rme:SerialNumber>
<rme:AdditionalInformation>

```



```

<rme:AD name="PartNumber" value="73-3438-03 01" />
<rme:AD name="SoftwareVersion" value="4.0(20080421:012711)" />
</rme:AdditionalInformation>
</rme:Chassis>
</ch:Device>
</ch:Call Home>
</aml-block:Content>
<aml-block:Attachments>
<aml-block:Attachment type="inline">
<aml-block:Name>show logging</aml-block:Name>
<aml-block:Data encoding="plain">
Syslog logging: enabled (0 messages dropped, 0 messages
rate-limited, 0 flushes, 0 overruns, xml disabled, filtering disabled)
  Console logging: level debugging, 53 messages logged, xml disabled,
filtering disabled  Monitor logging: level debugging, 0 messages logged,
xml disabled,filtering disabled  Buffer logging: level debugging,
53 messages logged, xml disabled,      filtering disabled  Exception
Logging: size (4096 bytes)  Count and timestamp logging messages: disabled
  Trap logging: level informational, 72 message lines logged
Log Buffer (8192 bytes):
00:00:54: curr is 0x20000
00:00:54: RP: Currently running ROMMON from F2 region
00:01:05: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from memory by console
00:01:09: %SYS-5-RESTART: System restarted --Cisco IOS Software,
s72033_rp Software (s72033_rp-ADVENTERPRISEK9_DBG-VM), Experimental
Version 12.2(20070421:012711) Copyright (c) 1986-2007 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-07 15:54 by xxx
Firmware compiled 11-Apr-07 03:34 by integ Build [100]00:01:01: %PFREDUN-6-ACTIVE:
  Initializing as ACTIVE processor for this switch00:01:01: %SYS-3-LOGGER_FLUSHED:
System was paused for 00:00:00 to ensure console debugging output.00:03:00: SP: SP:
  Currently running ROMMON from F1 region00:03:07: %C6K_PLATFORM-SP-4-CONFREG_BREAK
_ENABLED: The default factory setting for config register is 0x2102.It is advisable
  to retain 1 in 0x2102 as it prevents returning to ROMMON when break is issued.00:03:18:
%SYS-5-RESTART: System restarted --Cisco IOS Software, s72033_sp Software
(s72033_sp-ADVENTERPRISEK9_DBG-VM), Experimental Version 12.2(20070421:012711)Copyright
(c) 1986-2007 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-07 18:00 by xxx
00:03:18: %SYS-SP-6-BOOTTIME: Time taken to reboot after reload = 339 seconds
00:03:18: %OIR-SP-6-INSPS: Power supply inserted in slot 1
00:03:18: %C6KPWR-SP-4-PSOK: power supply 1 turned on.
00:03:18: %OIR-SP-6-INSPS: Power supply inserted in slot00:01:09: %SSH-5-ENABLED:
  SSH 1.99 has been enabled
00:03:18: %C6KPWR-SP-4-PSOK: power supply 2 turned on.
00:03:18: %C6KPWR-SP-4-PSREDUNDANTMISMATCH: power supplies rated outputs do not match.
00:03:18: %C6KPWR-SP-4-PSREDUNDANTBOTHSUPPLY: in power-redundancy mode, system is
operating on both power supplies.
00:01:10: %CRYPTO-6-ISAKMP_ON_OFF: ISAKMP is OFF
00:01:10: %CRYPTO-6-ISAKMP_ON_OFF: ISAKMP is OFF
00:03:20: %C6KENV-SP-4-FANHIOUTPUT: Version 2 high-output fan-tray is in effect
00:03:22: %C6KPWR-SP-4-PSNOREDUNDANCY: Power supplies are not in full redundancy,
power usage exceeds lower capacity supply
00:03:26: %FABRIC-SP-5-FABRIC_MODULE_ACTIVE: The Switch Fabric Module in slot 6
became active.
00:03:28: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 6: Running Minimal Diagnostics...
00:03:50: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 6: Passed Online Diagnostics
00:03:50: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 6, interfaces are now online
00:03:51: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 3: Running Minimal Diagnostics...
00:03:51: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 7: Running Minimal Diagnostics...
00:03:51: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 9: Running Minimal Diagnostics...
00:01:51: %MFIB_CONST_RP-6-REPLICATION_MODE_CHANGE: Replication Mode Change Detected.
  Current system replication mode is Ingress
00:04:01: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 3: Passed Online Diagnostics
00:04:01: %OIR-SP-6-DOWNGRADE: Fabric capable module 3 not at an appropriate hardware
revision level, and can only run in flowthrough mode
00:04:02: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 3, interfaces are now online
00:04:11: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 7: Passed Online Diagnostics
00:04:14: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 7, interfaces are now online
00:04:35: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 9: Passed Online Diagnostics
00:04:37: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 9, interfaces are now online
00:00:09: DaughterBoard (Distributed Forwarding Card 3)
Firmware compiled 11-Apr-07 03:34 by integ Build [100]
00:00:22: %SYS-DFC4-5-RESTART: System restarted --
Cisco DCOS Software, c6lc2 Software (c6lc2-SPDBG-VM), Experimental Version 4.0

```

```

(20080421:012711)Copyright (c) 1986-2008 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-08 17:20 by xxx
00:00:23: DFC4: Currently running ROMMON from F2 region
00:00:25: %SYS-DFC2-5-RESTART: System restarted --
Cisco IOS Software, c6slc Software (c6slc-SPDBG-VM), Experimental Version 12.2
(20070421:012711)Copyright (c) 1986-2007 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-08 16:40 by username1
00:00:26: DFC2: Currently running ROMMON from F2 region
00:04:56: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 4: Running Minimal Diagnostics...
00:00:09: DaughterBoard (Distributed Forwarding Card 3)
Firmware compiled 11-Apr-08 03:34 by integ Build [100]
slot_id is 8
00:00:31: %FLASHFS_HES-DFC8-3-BADCARD: /bootflash:: The flash card seems to
be corrupted
00:00:31: %SYS-DFC8-5-RESTART: System restarted --
Cisco DCOS Software, c6lc2 Software (c6lc2-SPDBG-VM), Experimental Version 4.0
(20080421:012711)Copyright (c) 1986-2008 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-08 17:20 by username1
00:00:31: DFC8: Currently running ROMMON from S (Gold) region
00:04:59: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 2: Running Minimal Diagnostics...
00:05:12: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 8: Running Minimal Diagnostics...
00:05:13: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 1: Running Minimal Diagnostics...
00:00:24: %SYS-DFC1-5-RESTART: System restarted --
Cisco DCOS Software, c6slc Software (c6slc-SPDBG-VM), Experimental Version 4.0
(20080421:012711)Copyright (c) 1986-2008 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-08 16:40 by username1
00:00:25: DFC1: Currently running ROMMON from F2 region
00:05:30: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 4: Passed Online Diagnostics
00:05:31: %SPAN-SP-6-SPAN_EGRESS_REPLICATION_MODE_CHANGE: Span Egress HW
Replication Mode Change Detected. Current replication mode for unused asic
session 0 is Centralized
00:05:31: %SPAN-SP-6-SPAN_EGRESS_REPLICATION_MODE_CHANGE: Span Egress HW
Replication Mode Change Detected. Current replication mode for unused asic
session 1 is Centralized
00:05:31: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 4, interfaces are now online
00:06:02: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 1: Passed Online Diagnostics
00:06:03: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 1, interfaces are now online
00:06:31: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 2: Passed Online Diagnostics
00:06:33: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 2, interfaces are now online
00:04:30: %XDR-6-XDRIPCNOTIFY: Message not sent to slot 4/0 (4) because of IPC
error timeout. Disabling linecard. (Expected during linecard OIR)
00:06:59: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 8: Passed Online Diagnostics
00:06:59: %OIR-SP-6-DOWNGRADE_EARL: Module 8 DFC installed is not identical to
system PFC and will perform at current system operating mode.
00:07:06: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 8, interfaces are now online
Router#
</aml-block:Data>
</aml-block:Attachment>
</aml-block:Attachments>
</aml-block:Block>
</soap-env:Body>
</soap-env:Envelope>

```



# 第 15 章

## ロールバックの設定

この章の内容は、次のとおりです。

- [ロールバックについて](#), 195 ページ
- [ロールバックの注意事項と制約事項](#), 195 ページ
- [チェックポイントの作成](#), 196 ページ
- [ロールバックの実装](#), 197 ページ
- [ロールバック コンフィギュレーションの確認](#), 198 ページ

### ロールバックについて

ロールバック機能を使用すると、Cisco NX-OS のコンフィギュレーションのスナップショットまたはユーザ チェックポイントを使用して、スイッチをリロードしなくても、いつでもそのコンフィギュレーションをスイッチに再適用できます。権限のある管理者であれば、チェックポイントで設定されている機能について専門的な知識がなくても、ロールバック機能を使用して、そのチェックポイント コンフィギュレーションを適用できます。

いつでも、現在の実行コンフィギュレーションのチェックポイントコピーを作成できます。Cisco NX-OS はこのチェックポイントを ASCII ファイルとして保存するので、将来、そのファイルを使用して、実行コンフィギュレーションをチェックポイント コンフィギュレーションにロールバックできます。複数のチェックポイントを作成すると、実行コンフィギュレーションのさまざまなバージョンを保存できます。

実行コンフィギュレーションをロールバックするとき、**atomic** ロールバックを発生させることができます。**atomic** ロールバックでは、エラーが発生しなかった場合に限り、ロールバックを実行します。

### ロールバックの注意事項と制約事項

ロールバックに関する設定時の注意事項および制約事項は、次のとおりです。

- 作成できるチェックポイント コピーの最大数は 10 です。
- あるスイッチのチェックポイント ファイルを別のスイッチに適用することはできません。
- チェックポイント ファイル名の長さは、最大 75 文字です。
- チェックポイントのファイル名の先頭を `system` にすることはできません。
- チェックポイントのファイル名の先頭を `auto` にすることができます。
- チェックポイントのファイル名を、`summary` または `summary` の略語にすることができます。
- チェックポイント、ロールバック、または実行コンフィギュレーションからスタートアップコンフィギュレーションへのコピーを同時に実行できるのは、1 ユーザだけです。
- `write erase` および `reload` コマンドを入力すると、チェックポイントが削除されます。`clear checkpoint database` コマンドを使用すると、すべてのチェックポイント ファイルを削除できます。
- ブートフラッシュでチェックポイントを作成した場合、ロールバックの実行前は実行システムコンフィギュレーションとの違いは実行できず、「変更なし」と報告されます。
- チェックポイントはスイッチに対してローカルです。
- `checkpoint` および `checkpoint checkpoint_name` コマンドを使用して作成されたチェックポイントは、すべてのスイッチの 1 つのスイッチオーバーに対して存在します。
- ブートフラッシュ時のファイルへのロールバックは、`checkpoint checkpoint_name` コマンドを使用して作成されたファイルでのみサポートされます。他の ASCII タイプのファイルではサポートされません。
- チェックポイントの名前は一意にする必要があります。以前に保存したチェックポイントと同じ名前を上書きすることはできません。
- Cisco NX-OS コマンドは Cisco IOS コマンドと異なる場合があります。

## チェックポイントの作成

1 台のスイッチで作成できるコンフィギュレーションの最大チェックポイント数は 10 です。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                     | 目的                                                                                                                                                       |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <pre>switch# <b>checkpoint</b> { [cp-name] [<b>description descr</b>] [<b>filefile-name</b>  例 : switch# checkpoint stable</pre> | ユーザチェックポイント名またはファイルのいずれかに対して、実行中のコンフィギュレーションのチェックポイントを作成します。チェックポイント名には最大 80 文字の任意の英数字を使用できますが、スペースを含めることはできません。チェックポイント名を指定しなかった場合、Cisco NX-OS はチェックポイン |

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                            | 目的                                                                                                                                                            |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        |                                                                                                                         | ト名を <code>user-checkpoint-&lt;number&gt;</code> に設定します。ここで <code>number</code> は 1 ~ 10 の値です。<br><br><code>description</code> には、スペースも含めて最大 80 文字の英数字を指定できます。 |
| ステップ 2 | <code>switch# no checkpoint cp-name</code><br><br>例：<br><code>switch# no checkpoint stable</code>                       | (任意)<br><b>checkpoint</b> コマンドの <b>no</b> 形式を使用すると、チェックポイント名を削除できます。<br><br><b>delete</b> コマンドを使用して、チェックポイントファイルを削除できます。                                      |
| ステップ 3 | <code>switch# show checkpoint cp-name</code><br><br>例：<br>[ <b>all</b> ]<br><code>switch# show checkpoint stable</code> | (任意) チェックポイント名の内容を表示します。                                                                                                                                      |

## ロールバックの実装

チェックポイント名またはファイルにロールバックを実装できます。ロールバックを実装する前に、現在のコンフィギュレーションまたは保存されているコンフィギュレーションを参照しているソースと宛先のチェックポイント間の差異を表示できます。



(注) `atomic` ロールバック中に設定を変更すると、ロールバックは失敗します。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 目的                         |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| ステップ 1 | <code>show diff rollback-patch {checkpoint src-cp-name   running-config   startup-config   file source-file} {checkpoint dest-cp-name   running-config   startup-config   file dest-file}</code><br><br>例：<br><code>switch# show diff rollback-patch checkpoint stable running-config</code> | ソースと宛先のチェックポイント間の差異を表示します。 |

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                      | 目的                                                              |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| ステップ 2 | <b>rollback running-config {checkpoint <i>cp-name</i>   file <i>cp-file</i>} atomic</b><br><br>例：<br><pre>switch# rollback running-config checkpoint stable</pre> | エラーが発生しなければ、指定されたチェックポイント名またはファイルへの <b>atomic</b> ロールバックを作成します。 |

チェックポイントファイルを作成し、次に、ユーザチェックポイント名への **atomic** ロールバックを実装する例を以下に示します。

```
switch# checkpoint stable
switch# rollback running-config checkpoint stable atomic
```

## ロールバック コンフィギュレーションの確認

ロールバックの設定を確認するには、次のコマンドを使用します。

| コマンド                                                                                                                                                                                                                   | 目的                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| <b>show checkpoint <i>name</i> [ all]</b>                                                                                                                                                                              | チェックポイント名の内容を表示します。                                                             |
| <b>show checkpoint all [user   system]</b>                                                                                                                                                                             | 現行のスイッチ内のすべてのチェックポイントの内容を表示します。表示されるチェックポイントを、ユーザまたはシステムで生成されるチェックポイントに限定できます。  |
| <b>show checkpoint summary [user   system]</b>                                                                                                                                                                         | 現在のスイッチ内のすべてのチェックポイントのリストを表示します。表示されるチェックポイントを、ユーザまたはシステムで生成されるチェックポイントに限定できます。 |
| <b>show diff rollback-patch {checkpoint <i>src-cp-name</i>   running-config   startup-config   file <i>source-file</i>} {checkpoint <i>dest-cp-name</i>   running-config   startup-config   file <i>dest-file</i>}</b> | ソースと宛先のチェックポイント間の差異を表示します。                                                      |
| <b>show rollback log [exec   verify]</b>                                                                                                                                                                               | ロールバック ログの内容を表示します。                                                             |



(注) すべてのチェックポイント ファイルを削除するには、**clear checkpoint database** コマンドを使用します。



# 第 16 章

## DNS の設定

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [DNS クライアントに関する情報, 199 ページ](#)
- [DNS クライアントの前提条件, 200 ページ](#)
- [DNS クライアントのライセンス要件, 200 ページ](#)
- [DNS クライアントのデフォルト設定, 201 ページ](#)
- [DNS 送信元インターフェイスの設定, 201 ページ](#)
- [DNS クライアントの設定, 202 ページ](#)

## DNS クライアントに関する情報

自分で名前の割り当てを管理していないネットワーク内のデバイスとの接続を、ネットワーク デバイスが必要とする場合は、DNS を使用して、ネットワーク間でデバイスを特定する一意のデバイス名を割り当てることができます。DNS は、階層方式を使用して、ネットワーク ノードのホスト名を確立します。これにより、クライアントサーバ方式によるネットワークのセグメントのローカル制御が可能となります。DNS システムは、デバイスのホスト名をその関連する IP アドレスに変換することで、ネットワーク デバイスを検出できます。

インターネット上のドメインは、組織のタイプや場所に基づく一般的なネットワークのグループを表す命名階層ツリーの一部です。ドメイン名は、ピリオド (.) を区切り文字として使用して構成されています。たとえば、シスコは、インターネットでは **com** ドメインで表される営利団体であるため、そのドメイン名は **cisco.com** です。このドメイン内の特定のホスト名、たとえばファイル転送プロトコル (FTP) システムは **ftp.cisco.com** で識別されます。

## ネーム サーバ

ネームサーバはドメイン名の動向を把握し、自身が完全な情報を持っているドメインツリーの部分を認識しています。ネームサーバは、ドメインツリーの他の部分の情報を格納している場合も

あります。Cisco NX-OS 内の IP アドレスにドメイン名をマッピングするには、最初にホスト名を示し、その後にネーム サーバを指定して、DNS サービスをイネーブルにする必要があります。

Cisco NX-OS では、スタティックに IP アドレスをドメイン名にマッピングできます。また、1つ以上のドメイン ネーム サーバを使用してホスト名の IP アドレスを見つけるよう、Cisco NX-OS を設定することもできます。

## DNS の動作

ネーム サーバは、次に示すように、特定のゾーン内でローカルに定義されるホストの DNS サーバに対してクライアントが発行したクエリーを処理します。

- 権限ネーム サーバは、その権限ゾーン内のドメイン名を求める DNS ユーザ照会に、自身のホストテーブル内にキャッシュされた永久的なエントリを使用して応答します。照会で求められているのが、自身の権限ゾーン内であるが、設定情報が登録されていないドメイン名の場合、権限ネーム サーバはその情報が存在しないと応答します。
- 権限ネーム サーバとして設定されていないネーム サーバは、以前に受信した照会への返信からキャッシュした情報を使用して、DNS ユーザ照会に応答します。ゾーンの権限ネーム サーバとして設定されたルータがない場合は、ローカルに定義されたホストを求める DNS サーバへの照会には、正規の応答は送信されません。

ネーム サーバは、特定のドメインに設定された転送パラメータおよびルックアップパラメータに従って、DNS 照会に応答します（着信 DNS 照会を転送するか、内部的に生成された DNS 照会を解決します）。

## High Availability（高可用性）

Cisco NX-OS は、DNS クライアントのステートレス リスタートをサポートします。リブートまたはスーパーバイザ スイッチオーバーの後、Cisco NX-OS は実行コンフィギュレーションを適用します。

## DNS クライアントの前提条件

DNS クライアントには次の前提条件があります。

- ネットワーク上に DNS ネーム サーバが必要です。

## DNS クライアントのライセンス要件

次の表に、この機能のライセンス要件を示します。



| 製品          | ライセンス要件                                                                                                                                                |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Cisco NX-OS | DNS にはライセンスは不要です。ライセンス パッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システム イメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『Cisco NX-OS Licensing Guide』を参照してください。 |

## DNS クライアントのデフォルト設定

次の表に、DNS クライアント パラメータのデフォルト設定を示します。

| パラメータ      | デフォルト |
|------------|-------|
| DNS クライアント | イネーブル |

## DNS 送信元インターフェイスの設定

特定のインターフェイスを使用するように DNS を設定できます。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                  | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                             | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| ステップ 2 | switch(config)#<br><b>ipdnssource-interface typeslot/port</b> | すべての DNS パケットの送信元インターフェイスを設定します。次のリストに、 <i>interface</i> として有効な値を示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ethernet</li> <li>• loopback</li> <li>• mgmt</li> <li>• port-channel</li> <li>• vlan</li> </ul> <p>(注) DNS の送信元インターフェイスを設定する場合、サーバから開始される SCP コピー操作は失敗します。サーバからの SCP コピー操作を実行するには、DNS 送信元インターフェイスの設定を削除します。</p> |

|        | コマンドまたはアクション                                        | 目的                           |
|--------|-----------------------------------------------------|------------------------------|
| ステップ 3 | switch(config)# <b>show ip dns source-interface</b> | 設定済みの DNS 送信元インターフェイスを表示します。 |

次に、DNS 送信元インターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# ip dns source-interface ethernet 1/8
switch(config)# show ip dns source-interface
VRF Name                               Interface
default                                 Ethernet1/8
```

## DNS クライアントの設定

ネットワーク上の DNS サーバを使用するよう、DNS クライアントを設定できます。

はじめる前に

- ネットワーク上にドメイン ネーム サーバがあることを確認します。

手順

|        | コマンドまたはアクション                                                       | 目的                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------|--------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configuration terminal</b>                              | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                                                                                                                    |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>vrf context managment</b>                       | 設定可能な仮想およびルーティング (VRF) 名を指定します。                                                                                                                                                                                                                                 |
| ステップ 3 | switch(config)# <b>ip hostname address1 [address2... address6]</b> | ホスト名キャッシュに、6つまでのスタティックホスト名/アドレス マッピングを定義します。                                                                                                                                                                                                                    |
| ステップ 4 | switch(config)# <b>ip domain namename [use-vrfvrf-name]</b>        | <p>(任意)</p> <p>Cisco NX-OS が非完全修飾ホスト名に使用するデフォルトのドメイン ネーム サーバを定義します。このドメイン名を設定した VRF でこのドメインネーム サーバを解決できない場合は、任意で、Cisco NX-OS がこのドメイン ネーム サーバを解決するために使用する VRF を定義することもできます。</p> <p>Cisco NX-OS は、ドメイン名ルックアップを開始する前に、完全なドメイン名を含まないあらゆるホスト名にデフォルト ドメイン名を追加します。</p> |

|         | コマンドまたはアクション                                                                                                       | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 5  | <code>switch(config)# ip domain-listname [use-vrfrvf-name]</code>                                                  | <p>(任意)</p> <p>Cisco NX-OS が非完全修飾ホスト名に使用できる追加のドメイン ネーム サーバを定義します。このドメイン名を設定した VRF でこのドメイン ネーム サーバを解決できない場合は、任意で、Cisco NX-OS がこのドメイン ネーム サーバを解決するために使用する VRF を定義することもできます。</p> <p>Cisco NX-OS はドメインリスト内の各エントリを使用して、ドメイン名ルックアップを開始する前に、完全なドメイン名を含まないあらゆるホスト名にこのドメイン名を追加します。Cisco NX-OS は、一致するものが見つかるまで、ドメインリストの各エントリにこれを実行します。</p> |
| ステップ 6  | <code>switch(config)# ip name-server server-address1 [server-address2... server-address6]/[use-vrfrvf-name]</code> | <p>(任意)</p> <p>最大 6 台のネーム サーバを定義します。使用可能なアドレスは、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスです。</p> <p>このネーム サーバを設定した VRF でこのネーム サーバに到達できない場合は、任意で、Cisco NX-OS がこのネームサーバに到達するために使用する VRF を定義することもできます。</p>                                                                                                                                              |
| ステップ 7  | <code>switch(config)# ip domain-lookup</code>                                                                      | <p>(任意)</p> <p>DNS ベースのアドレス変換をイネーブルにします。この機能は、デフォルトでイネーブルにされています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                            |
| ステップ 8  | <code>switch(config)# show hosts</code>                                                                            | <p>(任意)</p> <p>DNS に関する情報を表示します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| ステップ 9  | <code>switch(config)# exit</code>                                                                                  | <p>コンフィギュレーションモードを終了し、EXEC モードに戻ります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| ステップ 10 | <code>switch# copy running-config startup-config</code>                                                            | <p>(任意)</p> <p>実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                     |

次に、デフォルト ドメイン名を設定し、DNS ルックアップをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# vrf context management
switch(config)# ip domain-name mycompany.com
switch(config)# ip name-server 172.68.0.10
switch(config)# ip domain-lookup
```





# 第 17 章

## SNMP の設定

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [SNMP について, 205 ページ](#)
- [SNMP のライセンス要件, 210 ページ](#)
- [SNMP の注意事項および制約事項, 210 ページ](#)
- [SNMP のデフォルト設定, 210 ページ](#)
- [SNMP の設定, 211 ページ](#)
- [SNMP のディセーブル化, 224 ページ](#)
- [SNMP 設定の確認, 224 ページ](#)

## SNMP について

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) は、SNMP マネージャとエージェント間の通信用メッセージフォーマットを提供する、アプリケーションレイヤプロトコルです。SNMP では、ネットワーク内のデバイスのモニタリングと管理に使用する標準フレームワークと共通言語が提供されます。

## SNMP 機能の概要

SNMP フレームワークは 3 つの部分で構成されます。

- **SNMP マネージャ**：SNMP を使用してネットワーク デバイスのアクティビティを制御し、モニタリングするシステム
- **SNMP エージェント**：デバイスのデータを維持し、必要に応じてこれらのデータを管理システムに報告する、管理対象デバイス内のソフトウェア コンポーネント。Cisco Nexus デバイスはエージェントおよびMIBをサポートします。SNMP エージェントをイネーブルにするには、マネージャとエージェントの関係を定義する必要があります。

- 管理情報ベース (Management Information Base) : SNMP エージェントの管理対象オブジェクトのコレクション



(注) Cisco NX-OS は、イーサネット MIB の SNMP セットをサポートしません。

Cisco Nexus デバイスは、SNMPv1、SNMPv2c、および SNMPv3 をサポートします。SNMPv1 および SNMPv2c はどちらも、コミュニティベース形式のセキュリティを使用します。

SNMP は、RFC 3410 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3410>)、RFC 3411 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3411>)、RFC 3412 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3412>)、RFC 3413 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3413>)、RFC 3414 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3414>)、RFC 3415 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3415>)、RFC 3416 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3416>)、RFC 3417 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3417>)、RFC 3418 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3418>)、および RFC 3584 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3584>) で定義されています。

## SNMP 通知

SNMP の重要な機能の 1 つは、SNMP エージェントから通知を生成できることです。これらの通知では、要求を SNMP マネージャから送信する必要はありません。通知は、不正なユーザ認証、再起動、接続の切断、隣接ルータとの接続の切断、その他の重要なイベントを表示します。

Cisco NX-OS は、トラップまたはインフォームとして SNMP 通知を生成します。トラップは、エージェントからホスト レシーバテーブルで指定された SNMP マネージャに送信される、非同期の非確認応答メッセージです。応答要求は、SNMP エージェントから SNMP マネージャに送信される非同期メッセージで、マネージャは受信したという確認応答が必要です。

トラップの信頼性はインフォームより低くなります。SNMP マネージャはトラップを受信しても確認応答 (ACK) を送信しないからです。このため、トラップが受信されたかどうかをスイッチが判断できません。インフォーム要求を受信する SNMP マネージャは、SNMP 応答プロトコル データユニット (PDU) でメッセージの受信を確認応答します。Cisco Nexus デバイスが応答を受信しない場合、インフォーム要求を再び送信できます。

複数のホスト レシーバーに通知を送信するよう Cisco NX-OS を設定できます。

## SNMPv3

SNMPv3 は、ネットワーク経由のフレームの認証と暗号化を組み合わせることによって、デバイスへのセキュアアクセスを実現します。SNMPv3 が提供するセキュリティ機能は次のとおりです。

- メッセージの完全性：パケットが伝送中に改ざんされていないことを保証します。
- 認証：メッセージのソースが有効かどうかを判別します。
- 暗号化：許可されていないソースにより判読されないように、パケットの内容のスクランブルを行います。

SNMPv3 では、セキュリティ モデルとセキュリティ レベルの両方が提供されています。セキュリティ モデルは、ユーザおよびユーザが属するロールを設定する認証方式です。セキュリティ レベルとは、セキュリティ モデル内で許可されるセキュリティのレベルです。セキュリティ モデルとセキュリティ レベルの組み合わせにより、SNMP パケット処理中に採用されるセキュリティ メカニズムが決まります。

## SNMPv1、SNMPv2、SNMPv3 のセキュリティ モデルおよびセキュリティ レベル

セキュリティ レベルは、SNMP メッセージを開示から保護する必要があるかどうか、およびメッセージを認証するかどうか判断します。セキュリティ モデル内のさまざまなセキュリティ レベルは、次のとおりです。

- **noAuthNoPriv** : 認証または暗号化を実行しないセキュリティ レベル。このレベルは、SNMPv3 ではサポートされていません。
- **authNoPriv** : 認証は実行するが、暗号化を実行しないセキュリティ レベル。
- **authPriv** : 認証と暗号化両方を実行するセキュリティ レベル。

SNMPv1、SNMPv2c、および SNMPv3 の 3 つのセキュリティ モデルを使用できます。セキュリティ モデルとセキュリティ レベルの組み合わせにより、SNMP メッセージの処理中に適用されるセキュリティ メカニズムが決まります。

表 27 : **SNMP** セキュリティ モデルおよびセキュリティ レベル

| モデル | レベル          | 認証          | 暗号化 | 結果                        |
|-----|--------------|-------------|-----|---------------------------|
| v1  | noAuthNoPriv | コミュニティストリング | No  | コミュニティストリングの照合を使用して認証します。 |
| v2c | noAuthNoPriv | コミュニティストリング | No  | コミュニティストリングの照合を使用して認証します。 |

| モデル | レベル        | 認証                    | 暗号化 | 結果                                                                                                                             |
|-----|------------|-----------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| v3  | authNoPriv | HMAC-MD5 または HMAC-SHA | No  | Hash-Based Message Authentication Code (HMAC) メッセージダイジェスト 5 (MD5) アルゴリズムまたは HMAC Secure Hash Algorithm (SHA) アルゴリズムに基づいて認証します。 |
| v3  | authPriv   | HMAC-MD5 または HMAC-SHA | DES | HMAC-MD5 アルゴリズムまたは HMAC-SHA アルゴリズムに基づいて認証します。データ暗号規格 (DES) の 56 ビット暗号化、および暗号ブロック連鎖 (CBC) DES (DES-56) 標準に基づいて認証します。            |

## ユーザベースのセキュリティ モデル

SNMPv3 ユーザベースセキュリティモデル (USM) は SNMP メッセージレベルセキュリティを参照し、次のサービスを提供します。

- メッセージの完全性：メッセージが不正な方法で変更または破壊されず、データシーケンスが悪意なく起こり得る範囲を超えて変更されていないことを保証します。
- メッセージの発信元の認証：データを受信したユーザが提示した ID の発信元を確認します。
- メッセージの機密性：情報が使用不可であること、または不正なユーザ、エンティティ、またはプロセスに開示されないことを保証します。

SNMPv3 は、設定済みユーザによる管理動作のみを許可し、SNMP メッセージを暗号化します。

Cisco NX-OSは、次の 2 つの SNMPv3 認証プロトコルを使用します。

- HMAC-MD5-96 認証プロトコル



- HMAC-SHA-96 認証プロトコル

Cisco NX-OS は、SNMPv3 メッセージ暗号化用プライバシー プロトコルの 1 つとして、Advanced Encryption Standard (AES) を使用し、RFC 3826 に準拠します。

**priv** オプションで、SNMP セキュリティ暗号化方式として、DES または 128 ビット AES 暗号化を選択できます。**priv** オプションと **aes-128** トークンを併用すると、このプライバシー パスワードは 128 ビットの AES キー番号を生成するためのパスワードになります。AES **priv** パスワードは、8 文字以上の長さにできます。パスフレーズをクリアテキストで指定する場合、最大 64 文字を指定できます。ローカライズド キーを使用する場合は、最大 130 文字を指定できます。



(注) 外部の AAA サーバを使用して SNMPv3 を使う場合、外部 AAA サーバのユーザ設定でプライバシー プロトコルに AES を指定する必要があります。

## CLI および SNMP ユーザの同期

SNMPv3 ユーザ管理は、Access Authentication and Accounting (AAA) サーバ レベルで集中化できます。この中央集中型ユーザ管理により、Cisco NX-OS の SNMP エージェントは AAA サーバのユーザ認証サービスを利用できます。ユーザ認証が検証されると、SNMP PDU の処理が進行します。AAA サーバはユーザグループ名の格納にも使用されます。SNMP はグループ名を使用して、スイッチでローカルに使用できるアクセス ポリシーまたはロール ポリシーを適用します。

ユーザグループ、ロール、またはパスワードの設定が変更されると、SNMP と AAA の両方のデータベースが同期化されます。

Cisco NX-OS は、次のようにユーザ設定を同期化します。

- **snmp-server user** コマンドで指定された **auth** パスフレーズは、CLI ユーザのパスワードになります。
- **username** コマンドで指定されたパスワードは、SNMP ユーザの **auth** および **priv** パスフレーズになります。
- SNMP または CLI を使用してユーザを作成または削除すると、SNMP と CLI の両方でユーザが作成または削除されます。
- ユーザとロールの対応関係の変更は、SNMP と CLI で同期化されます。
- ロール変更 (CLI からの削除または変更) は、SNMP と同期化されます。



(注) パスフレーズまたはパスワードをローカライズしたキーおよび暗号形式で設定した場合、Cisco NX-OS はユーザ情報 (パスワード、ルールなど) を同期させません。

## グループベースの SNMP アクセス



- (注) グループは業界全体で使用されている標準的な SNMP 用語なので、SNMP に関する説明では、「ロール」ではなく「グループ」を使用します。

SNMP アクセス権は、グループ別に編成されます。SNMP 内の各グループは、CLI を使用する場合のロールに似ています。各グループは 3 つのアクセス権により定義されます。つまり、読み取りアクセス、書き込みアクセス、および通知アクセスです。それぞれのアクセスを、各グループでイネーブ爾またはディセーブ爾に設定できます。

ユーザ名が作成され、ユーザのロールが管理者によって設定され、ユーザがそのロールに追加されていれば、そのユーザはエージェントとの通信を開始できます。

## SNMP のライセンス要件

この機能には、ライセンスは必要ありません。ライセンスパッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システムイメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『*Cisco NX-OS Licensing Guide*』を参照してください。

## SNMP の注意事項および制約事項

Cisco NX-OS は、イーサネット MIB への読み取り専用アクセスをサポートします。

サポートされる MIB の詳細については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/public/sw-center/netmgmt/cmtk/mibs.shtml>

Cisco NX-OS では、SNMPv3 noAuthNoPriv セキュリティ レベルはサポートされていません。

## SNMP のデフォルト設定

表 28: デフォルトの SNMP パラメータ

| パラメータ (Parameters) | デフォルト         |
|--------------------|---------------|
| ライセンス通知            | イネーブ爾         |
| linkUp/Down 通知タイプ  | ietf-extended |

# SNMP の設定

## SNMP 送信元インターフェイスの設定

特定のインターフェイスを使用するように SNMP を設定できます。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                            | 目的                                                                                                                                                                                                               |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                                                       | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                                                                     |
| ステップ 2 | switch(config)#<br><b>snmp-server source-interface</b><br>{ <b>inform   trap</b> } <i>typeslot/port</i> | すべての SNMP パケットの送信元インターフェイスを設定します。次のリストに、 <i>interface</i> として有効な値を示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ethernet</li> <li>• loopback</li> <li>• mgmt</li> <li>• port-channel</li> <li>• vlan</li> </ul> |
| ステップ 3 | switch(config)# <b>show snmp source-interface</b>                                                       | 設定済みの SNMP 送信元インターフェイスを表示します。                                                                                                                                                                                    |

次に、SNMP 送信元インターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
switch(config)# snmp-server source-interface inform ethernet 1/10
switch(config)# snmp-server source-interface trap ethernet 1/10
switch(config)# show snmp source-interface
-----
Notification                               source-interface
-----
trap   Ethernet1/10
inform                                       Ethernet1/10
-----
```

## SNMP ユーザの設定



(注) Cisco NX-OS で SNMP ユーザを設定するために使用するコマンドは、Cisco IOS でユーザを設定するために使用されるものとは異なります。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                  | 目的                                                                                                                                                                                                                         |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <b>configure terminal</b><br><br>例 :<br>switch# configure terminal<br>switch(config)#                                                                                                                                         | グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。                                                                                                                                                                                                 |
| ステップ 2 | <b>switch(config)# snmp-server username [auth {md5   sha} passphrase [auto] [priv [aes-128] passphrase] [engineIDid] [localizedkey]]</b><br><br>例 :<br>switch(config)# snmp-server user Admin auth sha abcd1234 priv abcdefgh | 認証およびプライバシー パラメータのある SNMP ユーザを設定します。<br><br>パスワードには最大 64 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字が区別されます。<br><br><b>localizedkey</b> キーワードを使用する場合は、パスワードに大文字と小文字を区別した英数字を 130 文字まで使用できます。<br><br><b>engineID</b> の形式は、12 桁のコロンで区切った 10 進数字です。 |
| ステップ 3 | <b>switch# show snmp user</b><br><br>例 :<br>switch(config) # show snmp user                                                                                                                                                   | (任意)<br>1 人または複数の SNMP ユーザに関する情報を表示します。                                                                                                                                                                                    |
| ステップ 4 | <b>copy running-config startup-config</b><br><br>例 :<br>switch(config)# copy running-config startup-config                                                                                                                    | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。                                                                                                                                                 |

次に、SNMP ユーザを設定する例を示します。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# snmp-server user Admin auth sha abcd1234 priv abcdefgh
```

## SNMP メッセージ暗号化の適用

着信要求に認証または暗号化が必要となるよう SNMP を設定できます。デフォルトでは、SNMP エージェントは認証および暗号化を行わないでも SNMPv3 メッセージを受け付けます。プライバシーを適用する場合、Cisco NX-OS は、**noAuthNoPriv** または **authNoPriv** のいずれかのセキュリティ レベル パラメータを使用するすべての SNMPv3 PDU 要求に対して、認証エラーで応答します。

SNMP メッセージの暗号化を特定のユーザに強制するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

| コマンド                                                   | 目的                             |
|--------------------------------------------------------|--------------------------------|
| switch(config)# <b>snmp-server usernameenforcePriv</b> | このユーザに対して SNMP メッセージ暗号化を適用します。 |

SNMP メッセージの暗号化をすべてのユーザに強制するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

| コマンド                                                 | 目的                               |
|------------------------------------------------------|----------------------------------|
| switch(config)# <b>snmp-server globalEnforcePriv</b> | すべてのユーザに対して SNMP メッセージ暗号化を適用します。 |

## SNMPv3 ユーザに対する複数のロールの割り当て

SNMP ユーザを作成した後で、そのユーザに複数のロールを割り当てることができます。



(注) 他のユーザにロールを割り当てることができるのは、**network-admin** ロールに属するユーザだけです。

| コマンド                                             | 目的                                  |
|--------------------------------------------------|-------------------------------------|
| switch(config)# <b>snmp-server usernamegroup</b> | この SNMP ユーザと設定されたユーザ ロールをアソシエートします。 |

## SNMP コミュニティの作成

SNMPv1 または SNMPv2c の SNMP コミュニティを作成できます。

| コマンド                                                                | 目的                      |
|---------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| switch(config)# snmp-server community <i>namegroup</i><br>{ro   rw} | SNMP コミュニティストリングを作成します。 |

## SNMP 要求のフィルタリング

アクセス コントロール リスト (ACL) をコミュニティに割り当てて、着信 SNMP 要求にフィルタを適用できます。割り当てた ACL により着信要求パケットが許可される場合、SNMP はその要求を処理します。ACL により要求が拒否される場合、SNMP はその要求を廃棄して、システムメッセージを送信します。

ACL は次のパラメータで作成します。

- 送信元 IP アドレス
- 宛先 IP アドレス
- 送信元ポート
- 宛先ポート
- プロトコル (UDP または TCP)

ACL は、UDP および TCP を介する IPv4 および IPv6 の両方に適用されます。ACL を作成したら、ACL を SNMP コミュニティに割り当てます。



### ヒント

ACL の作成の詳細については、使用している Cisco Nexus シリーズ ソフトウェアの NX-OS セキュリティ コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

ACL をコミュニティに割り当てて SNMP 要求をフィルタするには、グローバルコンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

| コマンド                                                                                                                                                                      | 目的                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|
| switch(config)# snmp-server community <i>community name use-acl acl-name</i><br><b>Example:</b><br>switch(config)# snmp-server community public use-acl my_acl_for_public | ACL を SNMP コミュニティに割り当てて SNMP 要求をフィルタします。 |

## SNMP 通知レシーバの設定

複数のホスト レシーバーに対して SNMP 通知を生成するよう Cisco NX-OS を設定できます。

グローバル コンフィギュレーション モードで SNMPv1 トラップのホスト レシーバを設定できます。

| コマンド                                                                                                | 目的                                                                                                                                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <code>switch(config)# snmp-server host ip-address traps version 1 community [udp_portnumber]</code> | SNMPv1 トラップのホストレシーバを設定します。 <i>ip-address</i> は IPv4 または IPv6 アドレスを使用できます。コミュニティは、最大 255 文字の英数字で指定できます。UDP ポート番号の範囲は 0 ~ 65535 です。 |

グローバルコンフィギュレーションモードで SNMPv2c トラップまたはインフォームのホストレシーバを設定できます。

| コマンド                                                                                                             | 目的                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <code>switch(config)# snmp-server host ip-address {traps   informs} version 2c community [udp_portnumber]</code> | SNMPv2c トラップまたはインフォームのホストレシーバを設定します。 <i>ip-address</i> は IPv4 または IPv6 アドレスを使用できます。コミュニティは、最大 255 文字の英数字で指定できます。UDP ポート番号の範囲は 0 ~ 65535 です。 |

グローバルコンフィギュレーションモードで SNMPv3 トラップまたはインフォームのホストレシーバを設定できます。

| コマンド                                                                                                                                  | 目的                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <code>switch(config)# snmp-server host ip-address {traps   informs} version 3 {auth   noauth   priv} username [udp_portnumber]</code> | SNMPv2c トラップまたはインフォームのホストレシーバを設定します。 <i>ip-address</i> は IPv4 または IPv6 アドレスを使用できます。ユーザ名は、最大 255 文字の英数字で指定できます。UDP ポート番号の範囲は 0 ~ 65535 です。 |



- (注) SNMP マネージャは、SNMPv3 メッセージを認証し暗号解除するため、Cisco Nexus デバイスの SNMP engineID に基づくユーザ クレデンシアル (authKey/PrivKey) を認識していなければなりません。

次に、SNMPv1 トラップのホストレシーバを設定する例を示します。

```
switch(config)# snmp-server host 192.0.2.1 traps version 1 public
```

次に、SNMPv2 インフォームのホストレシーバを設定する例を示します。

```
switch(config)# snmp-server host 192.0.2.1 informs version 2c public
```

次に、SNMPv3 インフォームのホストレシーバを設定する例を示します。

```
switch(config)# snmp-server host 192.0.2.1 informs version 3 auth NMS
```

## VRF を使用する SNMP 通知レシーバの設定

設定された VRF をホスト レシーバに接続するように Cisco NX-OS を設定できます。SNMP 通知レシーバの VRF 到達可能性およびフィルタリング オプションを設定すると、SNMP によって CISCO-SNMP-TARGET-EXT-MIB の cExtSnmptargetVrfTable にエントリが追加されます。



(注) VRF 到達可能性またはフィルタリング オプションを設定する前に、ホストを設定する必要があります。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                            | 目的                                                                                                                                                                                                          |
|--------|-------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                       | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                                                                |
| ステップ 2 | switch#snmp-server<br>hostip-addressuse-vrfvrf_name<br>[udp_portnumber] | 特定の VRF を使用してホスト レシーバと通信するように SNMP を設定します。IP アドレスは、IPv4 または IPv6 アドレスを使用できます。VRF 名には最大 255 の英数字を使用できます。UDP ポート番号の範囲は 0 ~ 65535 です。このコマンドによって、CISCO-SNMP-TARGET-EXT-MB の ExtSnmptargetVrfTable にエントリが追加されます。 |
| ステップ 3 | switch(config)# <b>copy<br/>running-config startup-config</b>           | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。                                                                                                                                  |

次に、IP アドレス 192.0.2.1 の SNMP サーバホストを「Blue」という名前の VRF を使用するよう  
に設定する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# snmp-server host 192.0.2.1 use-vrf Blue
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## VRF に基づく SNMP 通知のフィルタリング

通知が発生した VRF に基づいて、Cisco NX-OS 通知をフィルタリングするように設定できます。



## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                 | 目的                                                                                                                                                                                                                        |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                                            | グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。                                                                                                                                                                                                |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>snmp-server<br/>hostip-addressfilter-vrfvrf_name<br/>[udp_portnumber]</b> | 設定された VRF に基づいて、通知ホストレシーバへの通知をフィルタリングします。IP アドレスは、IPv4 または IPv6 アドレスを使用できます。VRF 名には最大 255 の英数字を使用できます。UDP ポート番号の範囲は 0 ~ 65535 です。<br><br>このコマンドによって、<br>CISCO-SNMP-TARGET-EXT-MB の<br>ExtSnmptargetVrfTable にエンタリが追加されます。 |
| ステップ 3 | switch(config)# <b>copy<br/>running-config startup-config</b>                                | (任意)<br>リポートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。                                                                                                                                               |

次に、VRF に基づいて SNMP 通知のフィルタリングを設定する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# snmp-server host 192.0.2.1 filter-vrf Red
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## インバンド アクセスのための SNMP の設定

次のものを使用して、インバンドアクセス用に SNMP を設定できます。

- コンテキストのない SNMP v2 の使用：コンテキストにマッピングされたコミュニティを使用できます。この場合、SNMP クライアントはコンテキストについて認識する必要はありません。
- コンテキストのある SNMP v2 の使用：SNMP クライアントはコミュニティ、たとえば、<community>@<context> を指定して、コンテキストを指定する必要があります。
- SNMP v3 の使用：コンテキストを指定できます。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                             | 目的                                                                                        |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configuration terminal</b>                                                    | グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。                                                                |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>snmp-server context context-name vrf vrf-name</b>                     | 管理 VRF またはデフォルト VRF に SNMP コンテキストをマッピングします。カスタム VRF はサポートされません。<br>名前には最大 32 の英数字を使用できます。 |
| ステップ 3 | switch(config)# <b>snmp-server community community-name group group-name</b>             | SNMPv2c コミュニティと SNMP コンテキストにマッピングし、コミュニティが属するグループを識別します。名前には最大 32 の英数字を使用できます。            |
| ステップ 4 | switch(config)# <b>snmp-server mib community-map community-name context context-name</b> | SNMPv2c コミュニティを SNMP コンテキストにマッピングします。名前には最大 32 の英数字を使用できます。                               |

次の SNMPv2 の例は、コンテキストに snmpdefault という名前のコミュニティをマッピングする方法を示しています。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# snmp-server context def vrf default
switch(config)# snmp-server community snmpdefault group network-admin
switch(config)# snmp-server mib community-map snmpdefault context def
switch(config)#
```

次の SNMPv2 の例は、マッピングされていないコミュニティ comm を設定し、インバンドアクセスする方法を示しています。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# snmp-server context def vrf default
switch(config)# snmp-server community comm group network-admin
switch(config)#
```

次の SNMPv3 の例は、v3 ユーザ名とパスワードを使用する方法を示しています。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# snmp-server context def vrf default
switch(config)#
```

## SNMP 通知のイネーブル化

通知をイネーブルまたはディセーブルにできます。通知名を指定しないと、Cisco NX-OS は通知をすべてイネーブルにします。



(注) **snmp-server enable traps** CLI コマンドを使用すると、設定通知ホストレシーバーによっては、トラップとインフォームの両方をイネーブルにできます。

次の表に、Cisco NX-OS MIB の通知をイネーブルにする CLI コマンドを示します。

表 29: **SNMP** 通知のイネーブル化

| MIB                                                                     | 関連コマンド                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| すべての通知                                                                  | <b>snmp-server enable traps</b>                                                                              |
| BRIDGE-MIB                                                              | <b>snmp-server enable traps bridge newroot</b><br><b>snmp-server enable traps bridge topologychange</b>      |
| CISCO-AAA-SERVER-MIB                                                    | <b>snmp-server enable traps aaa</b>                                                                          |
| ENTITY-MIB、<br>CISCO-ENTITY-FRU-CONTROL-MIB、<br>CISCO-ENTITY-SENSOR-MIB | <b>snmp-server enable traps entity</b><br><b>snmp-server enable traps entity fru</b>                         |
| CISCO-LICENSE-MGR-MIB                                                   | <b>snmp-server enable traps license</b>                                                                      |
| IF-MIB                                                                  | <b>snmp-server enable traps link</b>                                                                         |
| CISCO-PSM-MIB                                                           | <b>snmp-server enable traps port-security</b>                                                                |
| SNMPv2-MIB                                                              | <b>snmp-server enable traps snmp</b><br><b>snmp-server enable traps snmp authentication</b>                  |
| CISCO-FCC-MIB                                                           | <b>snmp-server enable traps fcc</b>                                                                          |
| CISCO-DM-MIB                                                            | <b>snmp-server enable traps fcdomain</b>                                                                     |
| CISCO-NS-MIB                                                            | <b>snmp-server enable traps fens</b>                                                                         |
| CISCO-FCS-MIB                                                           | <b>snmp-server enable traps fcs discovery-complete</b><br><b>snmp-server enable traps fcs request-reject</b> |
| CISCO-FDMI-MIB                                                          | <b>snmp-server enable traps fdmi</b>                                                                         |
| CISCO-FSPF-MIB                                                          | <b>snmp-server enable traps fspf</b>                                                                         |
| CISCO-PSM-MIB                                                           | <b>snmp-server enable traps port-security</b>                                                                |

| MIB                                                                                 | 関連コマンド                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| CISCO-RSCN-MIB                                                                      | <b>snmp-server enable traps rscn</b><br><b>snmp-server enable traps rscn els</b><br><b>snmp-server enable traps rscn ils</b>                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| CISCO-ZS-MIB                                                                        | <b>snmp-server enable traps zone</b><br><b>snmp-server enable traps zone default-zone-behavior-change</b><br><b>snmp-server enable traps zone enhanced-zone-db-change</b><br><b>snmp-server enable traps zone merge-failure</b><br><b>snmp-server enable traps zone merge-success</b><br><b>snmp-server enable traps zone request-reject</b><br><b>snmp-server enable traps zone unsupp-mem</b> |
| CISCO-CONFIG-MAN-MIB<br>(注) ccmCLIRunningConfigChanged 通知を除き、MIB オブジェクトをサポートしていません。 | <b>snmp-server enable traps config</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |



(注) ライセンス通知は、デフォルトではイネーブルです。

グローバルコンフィギュレーションモードで指定の通知をイネーブルにするには、次の作業を行います。

| コマンド                                                                      | 目的                            |
|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| switch(config)# <b>snmp-server enable traps</b>                           | すべての SNMP 通知をイネーブルにします。       |
| switch(config)# <b>snmp-server enable traps aaa [server-state-change]</b> | AAA SNMP 通知をイネーブルにします。        |
| switch(config)# <b>snmp-server enable traps entity [fru]</b>              | ENTITY-MIB SNMP 通知をイネーブルにします。 |
| switch(config)# <b>snmp-server enable traps license</b>                   | ライセンス SNMP 通知をイネーブルにします。      |
| switch(config)# <b>snmp-server enable traps port-security</b>             | ポートセキュリティ SNMP 通知をイネーブルにします。  |
| switch(config)# <b>snmp-server enable traps snmp [authentication]</b>     | SNMP エージェント通知をイネーブルにします。      |

## リンクの通知の設定

デバイスに対して、イネーブルにする linkUp/linkDown 通知を設定できます。次のタイプの linkUp/linkDown 通知をイネーブルにできます。

- cieLinkDown : シスコ拡張リンク ステート ダウン通知をイネーブルにします。
- cieLinkUp : シスコ拡張リンク ステート アップ通知をイネーブルにします。
- cisco-xcvr-mon-status-chg : シスコ インターフェイス トランシーバ モニタ ステータス変更通知をイネーブルにします。
- delayed-link-state-change : 遅延リンク ステート変更をイネーブルにします。
- extended-linkUp : IETF 拡張リンク ステート アップ通知をイネーブルにします。
- extended-linkDown : IETF 拡張リンク ステート ダウン通知をイネーブルにします。
- linkDown : IETF リンク ステート ダウン通知をイネーブルにします。
- linkUp : IETF リンク ステート アップ通知をイネーブルにします。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                                                 | 目的                           |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| ステップ 1 | <b>configure terminal</b><br><br>例 :<br>switch# configure terminal<br>switch(config)#                                                                                                                                                                        | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。 |
| ステップ 2 | <b>snmp-server enable traps link [cieLinkDown   cieLinkUp   cisco-xcvr-mon-status-chg   delayed-link-state-change]   extended-linkUp   extended-linkDown   linkDown   linkUp]</b><br><br>例 :<br>switch(config)# snmp-server enable traps link<br>cieLinkDown | リンク SNMP 通知をイネーブルにします。       |

## インターフェイスでのリンク通知のディセーブル化

個別のインターフェイスで linkUp および linkDown 通知をディセーブルにできます。これにより、フラッピング インターフェイス（アップとダウン間の移行を繰り返しているインターフェイス）に関する通知を制限できます。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                       | 目的                                                               |
|--------|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                  | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                     |
| ステップ 2 | switch(config)#<br><b>interfacetypeslot/port</b>   | 変更するインターフェイスを指定します。                                              |
| ステップ 3 | switch(config-if)# <b>no snmp trap link-status</b> | インターフェイスの SNMP リンクステータス ラップをディセーブルにします。この機能は、デフォルトでイネーブルにされています。 |

## TCP での SNMP に対するワンタイム認証のイネーブル化

TCP セッション上で SNMP に対するワンタイム認証をイネーブルにできます。

| コマンド                                                  | 目的                                                             |
|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| switch(config)# <b>snmp-server tcp-session [auth]</b> | TCP セッション上で SNMP に対するワンタイム認証をイネーブルにします。この機能はデフォルトで無効に設定されています。 |

## SNMP スイッチの連絡先および場所の情報の割り当て

スイッチの連絡先情報（スペースを含めず、最大32文字まで）およびスイッチの場所を割り当てることができます。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                    | 目的                              |
|--------|-------------------------------------------------|---------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configuration terminal</b>           | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。    |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>snmp-server contactname</b>  | sysContact（SNMP 担当者名）を設定します。    |
| ステップ 3 | switch(config)# <b>snmp-server locationname</b> | sysLocation（SNMP ロケーション）を設定します。 |

|        | コマンドまたはアクション                                      | 目的                                    |
|--------|---------------------------------------------------|---------------------------------------|
| ステップ 4 | switch# <b>show snmp</b>                          | (任意)<br>1つまたは複数の宛先プロファイルに関する情報を表示します。 |
| ステップ 5 | switch# <b>copy running-config startup-config</b> | (任意)<br>この設定変更を保存します。                 |

## コンテキストとネットワーク エンティティ間のマッピング設定

プロトコルインスタンス、VRF などの論理ネットワーク エンティティに対する SNMP コンテキストのマッピングを設定できます。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                | 目的                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configuration terminal</b>                                                                                       | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                                                                                                   |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>snmp-server context context-name [instance instance-name] [vrf vrf-name] [topology topology-name]</b>    | SNMP コンテキストをプロトコルインスタンス、VRF、またはトポロジにマッピングします。名前には最大 32 の英数字を使用できます。                                                                                                                                                                            |
| ステップ 3 | switch(config)# <b>snmp-server mib community-map community-name context context-name</b>                                    | SNMPv2c コミュニティを SNMP コンテキストにマッピングします。名前には最大 32 の英数字を使用できます。                                                                                                                                                                                    |
| ステップ 4 | switch(config)# <b>no snmp-server context context-name [instance instance-name] [vrf vrf-name] [topology topology-name]</b> | (任意)<br>SNMP コンテキストとプロトコルインスタンス、VRF、またはトポロジ間のマッピングを削除します。名前には最大 32 の英数字を使用できます。<br><br>(注) コンテキスト マッピングを削除する目的で、インスタンス、VRF、またはトポロジを入力しないでください。<br><b>instance</b> 、 <b>vrf</b> 、または <b>topology</b> キーワードを使用すると、コンテキストとゼロ長ストリング間のマッピングが設定されます。 |

## SNMP のディセーブル化

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                 | 目的                                                   |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <b>configure terminal</b><br><br>例：<br><pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>                 | グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。                           |
| ステップ 2 | <pre>switch(config)# no snmp-server protocol enable</pre><br>例：<br><pre>no snmp-server protocol enable</pre> | SNMP をディセーブルにします。<br><br>SNMP は、デフォルトでディセーブルになっています。 |

## SNMP 設定の確認

SNMP 設定情報を表示するには、次の作業を行います。

| コマンド                       | 目的                               |
|----------------------------|----------------------------------|
| <b>show snmp</b>           | SNMP ステータスを表示します。                |
| <b>show snmp community</b> | SNMP コミュニティストリングを表示します。          |
| <b>show snmp engineID</b>  | SNMP engineID を表示します。            |
| <b>show snmp group</b>     | SNMP ロールを表示します。                  |
| <b>show snmp sessions</b>  | SNMP セッションを表示します。                |
| <b>show snmp trap</b>      | イネーブルまたはディセーブルである SNMP 通知を表示します。 |
| <b>show snmp user</b>      | SNMPv3 ユーザを表示します。                |





# 第 18 章

## RMON の設定

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [RMON について, 225 ページ](#)
- [RMON の設定時の注意事項および制約事項, 227 ページ](#)
- [RMON 設定の確認, 227 ページ](#)
- [デフォルトの RMON 設定, 227 ページ](#)
- [RMON アラームの設定, 228 ページ](#)
- [RMON イベントの設定, 229 ページ](#)

## RMON について

RMON は、各種のネットワーク エージェントおよびコンソール システムがネットワーク モニタリング データを交換できるようにするための、Internet Engineering Task Force (IETF) 標準モニタリング仕様です。Cisco NX-OS は、Cisco Nexus デバイスをモニタリングするための RMON アラーム、イベント、およびログをサポートします。

RMON アラームは、指定された期間、特定の管理情報ベース (MIB) オブジェクトをモニタリングし、指定されたしきい値でアラームを発生させ、別のしきい値でアラームをリセットします。アラームと RMON イベントを組み合わせで使用し、RMON アラームが発生したときにログ エントリまたは SNMP 通知を生成できます。

Cisco Nexus デバイスでは RMON はデフォルトでディセーブルに設定されており、イベントまたはアラームは設定されていません。RMON アラームおよびイベントを設定するには、CLI または SNMP 互換ネットワーク管理ステーションを使用します。

## RMON アラーム

SNMP INTEGER タイプの解決を行う任意の MIB オブジェクトにアラームを設定できます。指定されたオブジェクトは、標準のドット付き表記（たとえば、1.3.6.1.2.1.2.2.1.17 は ifOutOctets.17 を表します）の既存の SNMP MIB オブジェクトでなければなりません。

アラームを作成する場合、次のパラメータを指定します。

- モニタリングする MIB オブジェクト
- サンプリング間隔：MIB オブジェクトのサンプル値を収集するのに Cisco Nexus デバイスが使用する間隔
- サンプルタイプ：絶対サンプルでは、MIB オブジェクト値の現在のスナップショットを使用します。デルタ サンプルは連続した 2 つのサンプルを使用し、これらの差を計算します。
- 上限しきい値：Cisco Nexus デバイスが上限アラームを発生させる、または下限アラームをリセットするときの値
- 下限しきい値：Cisco Nexus デバイスが下限アラームを発生させる、または上限アラームをリセットするときの値
- イベント：アラーム（上限または下限）の発生時に Cisco Nexus デバイスが実行するアクション



(注) hcalarms オプションを使用して、アラームを 64 ビットの整数の MIB オブジェクトに設定します。

たとえば、エラーカウンタ MIB オブジェクトにデルタ タイプ上限アラームを設定できます。エラーカウンタ デルタがこの値を超えた場合、SNMP 通知を送信し、上限アラーム イベントを記録するイベントを発生させることができます。この上限アラームは、エラーカウンタのデルタサンプルが下限しきい値を下回るまで再度発生しません。



(注) 下限しきい値には、上限しきい値よりも小さな値を指定してください。

## RMON イベント

特定のイベントを各 RMON アラームにアソシエートさせることができます。RMON は次のイベントタイプをサポートします。

- SNMP 通知：関連したアラームが発生したときに、SNMP risingAlarm または fallingAlarm 通知を送信します。
- ログ：関連したアラームが発生した場合、RMON ログ テーブルにエントリを追加します。

- 両方：関連したアラームが発生した場合、SNMP 通知を送信し、RMON ログテーブルにエントリを追加します。

下限アラームおよび上限アラームに異なるイベントを指定できます。

## RMON の設定時の注意事項および制約事項

RMON には、次の注意事項および制限事項があります。

- SNMP 通知イベントタイプを使用するには、SNMP ユーザおよび通知レシーバを設定する必要があります。
- 整数になる MIB オブジェクトに、RMON アラームのみを設定できます。

## RMON 設定の確認

RMON の設定情報を確認するには、次のコマンドを使用します。

| コマンド                            | 目的                        |
|---------------------------------|---------------------------|
| <code>show rmon alarms</code>   | RMON アラームに関する情報を表示します。    |
| <code>show rmon events</code>   | RMON イベントに関する情報を表示します。    |
| <code>show rmon hcalarms</code> | RMON 高容量アラームに関する情報を表示します。 |
| <code>show rmon logs</code>     | RMON ログに関する情報を表示します。      |

## デフォルトの RMON 設定

次の表に、RMON パラメータのデフォルト設定を示します。

表 30: デフォルトの RMON パラメータ

| パラメータ (Parameters) | デフォルト |
|--------------------|-------|
| アラーム               | 未設定   |
| Event              | 未設定   |

## RMON アラームの設定

任意の整数の SNMP MIB オブジェクトに RMON アラームを設定できます。

次のパラメータを任意で指定することもできます。

- 上限および下限しきい値が指定値を超えた場合に発生させるイベント番号。
- アラームのオーナー

SNMP ユーザが設定され、SNMP 通知がイネーブルであることを確認します。

### はじめる前に

SNMP ユーザが設定され、SNMP 通知がイネーブルであることを確認します。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 目的                                                                                              |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。                                                                      |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>rmon alarm</b> <i>index mib-object</i><br><i>sample-interval {absolute   delta} rising-thresholdvalue</i><br><i>[event-index] falling-thresholdvalue [event-index]</i><br><i>[ownername]</i>                                                                                                                        | RMON アラームを作成します。値の範囲は -2147483647 ~ 2147483647 です。オーナー名は任意の英数字ストリングです。                          |
| ステップ 3 | switch(config)# <b>rmon hcalarm</b> <i>index mib-object</i><br><i>sample-interval {absolute   delta}</i><br><b>rising-threshold-highvalue</b> <b>rising-threshold-lowvalue</b><br><i>[event-index]</i><br><b>falling-threshold-highvalue</b> <b>falling-threshold-lowvalue</b><br><i>[event-index] [ownername] [storage type type]</i> | RMON 高容量アラームを作成します。値の範囲は -2147483647 ~ 2147483647 です。オーナー名は任意の英数字ストリングです。ストレージタイプの範囲は 1 ~ 5 です。 |
| ステップ 4 | switch# <b>show rmon</b> {alarms   hcalarms}                                                                                                                                                                                                                                                                                           | (任意)<br>RMON アラームまたは高容量アラームに関する情報を表示します。                                                        |
| ステップ 5 | switch# <b>copy running-config startup-config</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                      | (任意)<br>この設定変更を保存します。                                                                           |

次に、RMON アラームを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# rmon alarm 1 1.3.6.1.2.1.2.2.1.17.83886080 5 delta rising-threshold 5 1
falling-threshold 0 owner test
switch(config)# exit
switch# show rmon alarms
Alarm 1 is active, owned by test
Monitors 1.3.6.1.2.1.2.2.1.17.83886080 every 5 second(s)
Taking delta samples, last value was 0
Rising threshold is 5, assigned to event 1
Falling threshold is 0, assigned to event 0
On startup enable rising or falling alarm
```

## RMON イベントの設定

RMON アラームとアソシエートするよう RMON イベントを設定できます。複数の RMON アラームで同じイベントを再利用できます。

SNMP ユーザが設定され、SNMP 通知がイネーブルであることを確認します。

はじめる前に

SNMP ユーザが設定され、SNMP 通知がイネーブルであることを確認します。

手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                  | 目的                                               |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                                                                             | グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。                       |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>rmon eventindex</b><br>[ <b>descriptionstring</b> ] [ <b>log</b> ] [ <b>trap</b> ]<br>[ <b>ownername</b> ] | RMON イベントを設定します。説明のストリングおよびオーナー名は、任意の英数字ストリングです。 |
| ステップ 3 | switch(config)# <b>show rmon {alarms</b><br>  <b>hcalarms}</b>                                                                | (任意)<br>RMON アラームまたは高容量アラームに関する情報を表示します。         |
| ステップ 4 | switch# <b>copy running-config</b><br><b>startup-config</b>                                                                   | (任意)<br>この設定変更を保存します。                            |





# 第 19 章

## SPAN の設定

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [SPAN に関する情報, 231 ページ](#)
- [SPAN 送信元, 232 ページ](#)
- [送信元ポートの特性, 232 ページ](#)
- [SPAN 宛先, 233 ページ](#)
- [宛先ポートの特性, 233 ページ](#)
- [SPAN の注意事項および制約事項, 233 ページ](#)
- [SPAN セッションの作成または削除, 234 ページ](#)
- [イーサネット宛先ポートの設定, 235 ページ](#)
- [送信元ポートの設定, 236 ページ](#)
- [送信元ポート チャネルまたは VLAN の設定, 236 ページ](#)
- [SPAN セッションの説明の設定, 237 ページ](#)
- [SPAN セッションのアクティブ化, 238 ページ](#)
- [SPAN セッションの一時停止, 238 ページ](#)
- [SPAN 情報の表示, 239 ページ](#)
- [SPAN のコンフィギュレーション例, 240 ページ](#)

## SPAN に関する情報

スイッチドポートアナライザ (SPAN) 機能 (ポートミラーリングまたはポートモニタリングとも呼ばれる) は、ネットワークアナライザによる分析のためにネットワークトラフィックを選択します。ネットワークアナライザは、Cisco SwitchProbe またはその他のリモートモニタリング (RMON) プロブです。

## SPAN 送信元

SPAN送信元とは、トラフィックをモニタリングできるインターフェイスを表します。Cisco Nexus デバイスは、SPAN 送信元として、イーサネット、ポート チャネル、および VLAN をサポートします。VLAN では、指定された VLAN でサポートされているすべてのインターフェイスが SPAN 送信元として含まれます。イーサネット、の送信元インターフェイスで、入力方向、出力方向、または両方向の SPAN トラフィックを選択できます。

- 入力送信元 (Rx) : この送信元ポートを介してデバイスに入るトラフィックは、SPAN 宛先ポートにコピーされます。
- 出力送信元 (Tx) : この送信元ポートを介してデバイスから出るトラフィックは、SPAN 宛先ポートにコピーされます。

アクセスコントロールリスト (ACL) を使用し、入力トラフィック (Rx) をフィルタ処理するように SPAN 送信元セッションを設定することもできます。

## 送信元ポートの特性

送信元ポート (モニタリング対象ポートとも呼ばれる) は、ネットワークトラフィック分析のためにモニタリングするスイッチドインターフェイスです。スイッチは、任意の数の入力送信元ポート (スイッチで使用できる最大数のポート) と任意の数の送信元 VLAN をサポートします。

送信元ポートの特性は、次のとおりです。

- イーサネット、ポートチャネル、または VLAN ポートタイプにできます。
- ACL フィルタが設定されていない場合、方向または SPAN 宛先のいずれかが異なっていれば、複数のセッションに対して同じ送信元を設定することができます。ただし、各 SPAN RX の送信元は、ACL フィルタを使用して、1 つの SPAN セッションにのみ設定する必要があります。
- 宛先ポートには設定できません。
- モニタする方向 (入力、出力、または両方) を設定できます。VLAN 送信元の場合、モニタリング方向は入力のみであり、グループ内のすべての物理ポートに適用されます。RX と TX のオプションは、VLAN の SPAN セッションでは使用できません。
- ACL を使用して入力トラフィックをフィルタし、ACL 基準に一致する情報のパケットのみがミラーリングされるようにすることができます。
- 同じまたは別の VLAN に設定できます。



## SPAN 宛先

SPAN 宛先とは、送信元ポートをモニタリングするインターフェイスを表します。Cisco Nexus シリーズ デバイスは、SPAN 宛先として、イーサネット インターフェイス インターフェイスをサポートします。

## 宛先ポートの特性

各ローカル SPAN セッションには、送信元ポートまたは VLAN からトラフィックのコピーを受信する宛先ポート（モニタリングポートとも呼ばれる）が必要です。宛先ポートの特性は、次のとおりです。

- すべての物理ポートが可能です。送信元イーサネットおよび FCoE ポートは、宛先ポートにできません。
- ソース ポートにはなれません。
- ポート チャネルにはできません。
- SPAN セッションがアクティブなときは、スパニングツリーに参加しません。
- 任意の SPAN セッションのソース VLAN に属する場合、送信元リストから除外され、モニタリングされません。
- すべてのモニタリング対象送信元ポートの送受信トラフィックのコピーを受信します。

## SPAN の注意事項および制約事項

SPAN には、次の注意事項と制限事項があります。

- Cisco Nexus N3100 シリーズ スイッチ インターフェイスのアクセス ポートの出力 SPAN コピーには、常に dot1q ヘッダーがあります。
- 以前のリリースでは、**show monitor session** コマンドの出力には Tx 情報のみ表示されていました。Release 7.0(3)I2(1)以降、**show monitor session** コマンドの出力には、送信元 VLAN のすべての方向が表示され、フィルタ VLAN のオプションは表示されません。
- Release 7.0(3)I2(1)以降、送信元 VLAN が同じで宛先が異なる 2 つのモニタ セッションを設定できます。
- Release NX-OS 5.0(3)U2(2) をインストールしてからソフトウェアを以前のバージョンにダウングレードすると、SPAN の設定は失われます。

Release NX-OS 5.0(3)U2(2) にアップグレードする前に設定を保存し、ダウングレード後にローカル SPAN の設定を再適用する必要があります。

同様の ERSPAN の制約事項については、を参照してください。「[ERSPAN の注意事項および制約事項](#)、(246 ページ)」

- ACL フィルタリングは、Rx SPAN に対してのみサポートされます。Tx SPAN は、送信元インターフェイスで出力されるすべてのトラフィックをミラーリングします。
- ACL フィルタリングは、TCAM (Ternary Content Addressable Memory) 幅の制限により、IPv6 および MAC ACL ではサポートされていません。
- SPAN TCAM サイズは、ASIC に応じて 128 または 256 です。1 つのエントリがデフォルトでインストールされ、4 つは ERSPAN 用に予約されます。
- 同じ送信元が複数の SPAN セッションで設定されていて、各セッションに ACL フィルタが設定されている場合、送信元インターフェイスは、最初のアクティブ SPAN セッションに対してのみプログラムされます。その他のセッションの ACE にプログラムされているハードウェア エントリは、この送信元インターフェイスには含まれません。
- 許可と拒否の両方のアクセスコントロールエントリ (ACE) は、同様に処理されます。ACE と一致するパケットは、ACL の許可エントリまたは拒否エントリを含んでいるかどうかに関係なく、ミラーリングされます。



(注) 拒否 ACE により、パケットがドロップされることはありません。SPAN セッションに設定されている ACL によってのみ、パケットをミラーリングするかどうかが決まります。

## SPAN セッションの作成または削除

**monitor session** コマンドを使用してセッション番号を割り当てることによって、SPAN セッションを作成できます。セッションがすでに存在する場合、既存のセッションにさらに設定情報が追加されます。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                 | 目的                                                      |
|--------|--------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                            | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                            |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>monitor session</b> <i>session-number</i> | モニタ コンフィギュレーション モードを開始します。既存のセッション設定に新しいセッション設定が追加されます。 |

次に、SPAN モニタ セッションを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # monitor session 2
switch(config) #
```

# イーサネット宛先ポートの設定

SPAN 宛先ポートとしてイーサネットインターフェイスを設定できます。



(注) SPAN 宛先ポートは、スイッチ上の物理ポートにのみ設定できます。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                            | 目的                                                                                                                                                                             |
|--------|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                       | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                                   |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>interface ethernet</b> slot/port                     | 指定されたスロットとポートでイーサネットインターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。<br><br>(注) 仮想イーサネット ポートで <b>switchport monitor</b> コマンドを有効にするには、 <b>interface vethernet</b> slot/port コマンドを使用します。 |
| ステップ 3 | switch(config-if)# <b>switchport monitor</b>                            | 指定されたイーサネット インターフェイスのモニタ モードを開始します。ポートが SPAN 宛先として設定されている場合、プライオリティ フロー制御はディセーブルです。                                                                                            |
| ステップ 4 | switch(config-if)# <b>exit</b>                                          | グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。                                                                                                                                                    |
| ステップ 5 | switch(config)# <b>monitor session</b> session-number                   | 指定した SPAN セッションのモニタ コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                     |
| ステップ 6 | switch(config-monitor)# <b>destination interface ethernet</b> slot/port | イーサネット SPAN 宛先ポートを設定します。<br><br>(注) モニタ コンフィギュレーションで宛先インターフェイスとして仮想イーサネット ポートを有効にするには、 <b>destination interface vethernet</b> slot/port コマンドを使用します。                            |

次に、イーサネット SPAN 宛先ポート (HIF) を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet100/1/24
switch(config-if)# switchport monitor
switch(config-if)# exit
switch(config)# monitor session 1
```

```
switch(config-monitor)# destination interface ethernet100/1/24
switch(config-monitor)#
```

次に、仮想イーサネット（VETH）SPAN 宛先ポートを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vethernet10
switch(config-if)# switchport monitor
switch(config-if)# exit
switch(config)# monitor session 2
switch(config-monitor)# destination interface vethernet10
switch(config-monitor)#
```

## 送信元ポートの設定

送信元ポートは、イーサネットポートのみに設定できます。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                    | 目的                                                                                                                                                               |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                               | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                     |
| ステップ 2 | switch(config) # <b>monitor session session-number</b>                          | 指定したモニタリングセッションのモニタ コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                       |
| ステップ 3 | switch(config-monitor) # <b>source interface typeslot/port [rx   tx   both]</b> | イーサネット SPAN の送信元ポートを追加し、パケットを複製するトラフィック方向を指定します。イーサネット、ファイバチャネル、または仮想ファイバチャネルのポート範囲を入力できます。複製するトラフィック方向を、入力 (Rx)、出力 (Tx)、または両方向 (both) として指定できます。デフォルトは both です。 |

次に、イーサネット SPAN 送信元ポートを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 2
switch(config-monitor)# filter access-group acl1
switch(config-monitor)# source interface ethernet 1/16
switch(config-monitor)#
```

## 送信元ポート チャネルまたは VLAN の設定

SPAN セッションに送信元チャネルを設定できます。これらのポートは、ポートチャネル、および VLAN に設定できます。モニタリング方向は入力、出力、またはその両方に設定でき、グループ内のすべての物理ポートに適用されます。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                        | 目的                                                                                                                                  |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                                                                   | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                        |
| ステップ 2 | switch(config) # <b>monitor session session-number</b>                                                              | 指定した SPAN セッションのモニタ コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                          |
| ステップ 3 | switch(config-monitor) # <b>filter access-group acl-name</b>                                                        | ACL リストに基づいて、送信元ポートで入力トラフィックをフィルタリングします。アクセスリストに一致するパケットのみがスパニングされます。 <i>acl-name</i> として IP アクセスリストを使用することはできますが、アクセス マップは使用できません。 |
| ステップ 4 | switch(config-monitor) # <b>source {interface {port-channel} channel-number [rx   tx   both]   vlan vlan-range}</b> | ポート チャネルまたは VLAN 送信元を設定します。VLAN 送信元の場合、モニタリング方向は暗黙的です。                                                                              |

次に、ポート チャネル SPAN 送信元を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 2
switch(config-monitor)# filter access-group acl1
switch(config-monitor)# source interface port-channel 1 rx
switch(config-monitor)# source interface port-channel 3 tx
switch(config-monitor)# source interface port-channel 5 both
switch(config-monitor)#
```

次に、VLAN SPAN 送信元を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 2
switch(config-monitor)# filter access-group acl1
switch(config-monitor)# source vlan 1
switch(config-monitor)#
```

## SPAN セッションの説明の設定

参照しやすいように、SPAN セッションにわかりやすい名前を付けることができます。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                      | 目的                           |
|--------|-----------------------------------|------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b> | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。 |

|        | コマンドまたはアクション                                                      | 目的                                        |
|--------|-------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| ステップ 2 | switch(config) # <b>monitor session</b><br><i>session-number</i>  | 指定した SPAN セッションのモニタ コンフィギュレーションモードを開始します。 |
| ステップ 3 | switch(config-monitor) # <b>description</b><br><i>description</i> | SPAN セッションのわかりやすい名前を作成します。                |

次に、SPAN セッションの説明を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # monitor session 2
switch(config-monitor) # description monitoring ports eth2/2-eth2/4
switch(config-monitor) #
```

## SPAN セッションのアクティブ化

デフォルトでは、セッションステータスは **shut** のままになります。送信元から宛先へパケットをコピーするセッションを開くことができます。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                     | 目的                                  |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                                | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。        |
| ステップ 2 | switch(config) # <b>no monitor session {all</b><br><i>  session-number} shut</i> | 指定された SPAN セッションまたはすべてのセッションを開始します。 |

次に、SPAN セッションをアクティブにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # no monitor session 3 shut
```

## SPAN セッションの一時停止

デフォルトでは、セッション状態は **shut** です。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                        | 目的                                    |
|--------|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                   | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。          |
| ステップ 2 | switch(config) # <b>monitor session {all   session-number} shut</b> | 指定された SPAN セッションまたはすべてのセッションを一時停止します。 |

次に、SPAN セッションを一時停止する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # monitor session 3 shut
switch(config) #
```

## SPAN 情報の表示

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                              | 目的             |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| ステップ 1 | switch# <b>show monitor [session {all   session-number   rangesession-range} [brief]]</b> | SPAN 設定を表示します。 |

次に、SPAN セッションの情報を表示する例を示します。

```
switch# show monitor
SESSION STATE REASON DESCRIPTION
-----
2 up The session is up
3 down Session suspended
4 down No hardware resource
```

次に、SPAN セッションの詳細を表示する例を示します。

```
switch# show monitor session 2
session 2
-----
type : local
state : up

source intf :

source VLANs :
  rx : 100
  tx :
  both :
filter VLANs : filter not specified
destination ports : Eth3/1
```

# SPAN のコンフィギュレーション例

## SPAN セッションのコンフィギュレーション例

SPAN セッションを設定する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** アクセス モードで宛先ポートを設定し、SPAN モニタリングをイネーブルにします。

例 :

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/5
switch(config-if)# switchport
switch(config-if)# switchport monitor
switch(config-if)# no shut
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

**ステップ 2** SPAN セッションを設定します。

例 :

```
switch(config)# no monitor session 3
switch(config)# monitor session 3
switch(config-monitor)# source interface ethernet 2/1-3, ethernet 3/1 rx
switch(config-monitor)# source interface port-channel 2
switch(config-monitor)# source interface sup-eth 0 both
switch(config-monitor)# source vlan 3, 6-8 rx
switch(config-monitor)# source interface ethernet 101/1/1-3
switch(config-monitor)# filter vlan 3-5, 7
switch(config-monitor)# destination interface ethernet 2/5
switch(config-monitor)# no shut
switch(config-monitor)# exit
switch(config)# show monitor session 3
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## 単一方向 SPAN セッションの設定例

単一方向 SPAN セッションを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** アクセス モードで宛先ポートを設定し、SPAN モニタリングをイネーブルにします。



例 :

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/5
switch(config-if)# switchport
switch(config-if)# switchport monitor
switch(config-if)# no shut
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

**ステップ 2** SPAN セッションを設定します。

例 :

```
switch(config)# no monitor session 3
switch(config)# monitor session 3 rx
switch(config-monitor)# source interface ethernet 2/1-3, ethernet 3/1 rx
switch(config-monitor)# filter vlan 3-5, 7
switch(config-monitor)# destination interface ethernet 2/5
switch(config-monitor)# no shut
switch(config-monitor)# exit
switch(config)# show monitor session 3
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## SPAN ACL の設定例

次に、SPAN ACL を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip access-list match_11_pkts
switch(config-acl)# permit ip 11.0.0.0 0.255.255.255 any
switch(config-acl)# exit
switch(config)# ip access-list match_12_pkts
switch(config-acl)# permit ip 12.0.0.0 0.255.255.255 any
switch(config-acl)# exit
switch(config)# vlan access-map span_filter 5
switch(config-access-map)# match ip address match_11_pkts
switch(config-access-map)# action forward
switch(config-access-map)# exit
switch(config)# vlan access-map span_filter 10
switch(config-access-map)# match ip address match_12_pkts
switch(config-access-map)# action forward
switch(config-access-map)# exit
switch(config)# monitor session 1
switch(config-erspan-src)# filter access_group span_filter
```

## UDF ベース SPAN の設定例

次に、以下の一致基準を使用して、カプセル化された IP-in-IP パケットの内部 TCP フラグで照合する UDF ベース SPAN を設定する例を示します。

- 外部送信元 IP アドレス : 10.0.0.2
- 内部 TCP フラグ : 緊急 TCP フラグを設定

- バイト : Eth Hdr (14) + 外部 IP (20) + 内部 IP (20) + 内部 TCP (20、ただし、13 番目のバイトの TCP フラグ)
- パケットの先頭からのオフセット :  $14 + 20 + 20 + 13 = 67$
- UDF の照合値 : 0x20
- UDF マスク : 0xFF

```

udf udf_tcpflags packet-start 67 1
hardware access-list tcam region racl qualify udf udf_tcpflags
copy running-config startup-config
reload
ip access-list acl-udf
  permit ip 10.0.0.2/32 any udf udf_tcpflags 0x20 0xff
monitor session 1
  source interface Ethernet 1/1
  filter access-group acl-udf

```

次に、以下の一致基準を使用して、レイヤ 4 ヘッダーの先頭から 6 バイト目のパケット署名 (DEADBEEF) と通常の IP パケットを照合する UDF ベース SPAN を設定する例を示します。

- 外部送信元 IP アドレス : 10.0.0.2
- 内部 TCP フラグ : 緊急 TCP フラグを設定
- バイト : Eth Hdr (14) + IP (20) + TCP (20) + ペイロード : 112233445566DEADBEEF7788
- レイヤ 4 ヘッダーの先頭からのオフセット :  $20 + 6 = 26$
- UDF の照合値 : 0xDEADBEEF (2 バイトのチャンクおよび 2 つの UDF に分割)
- UDF マスク : 0xFFFFFFFF

```

udf udf_pktsig_msb header outer 13 26 2
udf udf_pktsig_lsb header outer 13 28 2
hardware access-list tcam region racl qualify udf udf_pktsig_msb udf_pktsig_lsb
copy running-config startup-config
reload
ip access-list acl-udf-pktsig
  permit udf udf_pktsig_msb 0xDEAD 0xFFFF udf udf_pktsig_lsb 0xBEEF 0xFFFF
monitor session 1
  source interface Ethernet 1/1
  filter access-group acl-udf-pktsig

```



## 第 20 章

# ローカル SPAN および ERSPAN の設定

この章の内容は、次のとおりです。

- [ERSPAN に関する情報, 243 ページ](#)
- [ERSPAN のライセンス要件, 245 ページ](#)
- [ERSPAN の前提条件, 246 ページ](#)
- [ERSPAN の注意事項および制約事項, 246 ページ](#)
- [ERSPAN のデフォルト設定, 250 ページ](#)
- [ERSPAN の設定, 250 ページ](#)
- [ERSPAN の設定例, 264 ページ](#)
- [その他の参考資料, 266 ページ](#)

## ERSPAN に関する情報

Cisco NX-OS システムは、発信元および宛先ポートの両方で Encapsulated Remote Switching Port Analyzer (ERSPAN) 機能をサポートします。ERSPAN は、IP ネットワークでミラーリングされたトラフィックを転送します。トラフィックは、送信元ルータでカプセル化され、ネットワーク間を転送されます。パケットは宛先ルータでカプセル化解除され、宛先インターフェイスに送信されます。

ERSPAN は、ERSPAN 送信元セッション、ルーティング可能な ERSPAN 総称ルーティング カプセル化 (GRE) カプセル化トラフィック、および ERSPAN 宛先セッションで構成されています。異なるスイッチで ERSPAN 送信元セッションおよび宛先セッションを個別に設定することができます。ACL を使用し、入力トラフィックをフィルタ処理するように ERSPAN 送信元セッションを設定することもできます。

## ERSPAN 送信元

トラフィックをモニタできるモニタ元インターフェイスのことを ERSPAN ソースと呼びます。送信元では、監視するトラフィックを指定し、さらに入力、出力、または両方向のトラフィックをコピーするかどうかを指定します。ERSPAN 送信元には次のものが含まれます。

- イーサネット ポートおよびポート チャネル。
- VLAN : VLAN が ERSPAN 送信元として指定されている場合、VLAN でサポートされているすべてのインターフェイスが ERSPAN 送信元となります。

ERSPAN 送信元ポートには、次の特性があります。

- 送信元ポートとして設定されたポートを宛先ポートとしても設定することはできません。
- ERSPAN は送信元に関係なく、スーパーバイザによって生成されるパケットをモニタしません。
- ACL を使用して送信元ポートで入力トラフィックをフィルタし、ACL 基準に一致する情報のパケットのみがミラーリングされるようにすることができます。

## ERSPAN 宛先

ERSPAN 宛先セッションは、イーサネットポートまたはポートチャネル上の ERSPAN 送信元セッションで送信されたパケットを取得し、宛先ポートに送信します。宛先ポートは ERSPAN 送信元からコピーされたトラフィックを受信します。

ERSPAN 宛先セッションは、設定された送信元 IP アドレスおよび ERSPAN ID によって識別されます。これにより、複数の送信元セッションが ERSPAN トラフィックを同じ宛先 IP および ERSPAN ID に送信できるようになり、1 つの宛先で同時に終端する複数の送信元を持つことができます。

ERSPAN 宛先元ポートには、次の特性があります。

- 宛先ポートとして設定されたポートを送信元ポートとしても設定することはできません。
- 宛先ポートはスパニングツリー インスタンスまたはレイヤ 3 プロトコルに参加しません。
- 入力および入力学習オプションは、モニタ宛先ポートではサポートされていません。
- ホスト インターフェイス (HIF) ポートチャネルおよびファブリック ポートチャネルポートは、SPAN 宛先ポートとしてはサポートされていません。

## ERSPAN セッション

モニタする送信元と宛先を指定する ERSPAN セッションを作成できます。

ERSPAN 送信元セッションを設定する場合、宛先 IP アドレスを設定する必要があります。ERSPAN 宛先セッションを設定する場合、送信元 IP アドレスを設定する必要があります。送信元セッショ

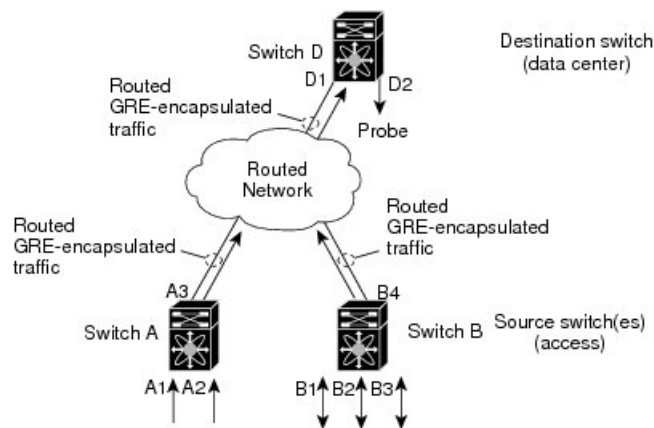
ンのプロパティについては「[ERSPAN 宛先, \(244 ページ\)](#)」、宛先セッションのプロパティについては「[ERSPAN 送信元, \(244 ページ\)](#)」を参照してください。



(注) 2 つの ERSPAN または SPAN 送信元セッションのみをすべてのスイッチで同時に実行できません。23 個の ERSPAN 宛先セッションのみをすべてのスイッチで同時に実行できます。

次の図は、ERSPAN 設定を示します。

図 1: ERSPAN の設定



## マルチ ERSPAN セッション

最大 18 個の ERSPAN セッションを定義できますが、同時に作動できるのは最大 4 個の ERSPAN または SPAN セッションのみです。受信ソースと送信ソースの両方が同じセッションに設定されている場合、同時に作動できるのは 2 つの ERSPAN または SPAN セッションのみです。未使用の ERSPAN セッションはシャットダウンもできます。

ERSPAN セッションのシャットダウンについては、[ERSPAN セッションのシャットダウンまたはアクティブ化, \(261 ページ\)](#) を参照してください。

## High Availability (高可用性)

ERSPAN 機能はステートレスおよびステートフルリスタートをサポートします。リブートまたはスーパーバイザ スイッチオーバー後に、実行コンフィギュレーションが適用されます。

## ERSPAN のライセンス要件

次の表に、この機能のライセンス要件を示します。

| 製品          | ライセンス要件                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Cisco NX-OS | ERSPANにはライセンスは不要です。ライセンスパッケージに含まれていない機能はすべてCisco NX-OS システムイメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。Cisco NX-OS のライセンススキームの詳細は、Cisco NX-OS ソフトウェアのライセンスおよび著作権情報は、次の URL から入手できます。 <a href="http://www.cisco.com/en/US/docs/switches/datacenter/sw/4_0/nx-os/license_agreement/nx-oss_w_lisns.html">http://www.cisco.com/en/US/docs/switches/datacenter/sw/4_0/nx-os/license_agreement/nx-oss_w_lisns.html</a> |

## ERSPAN の前提条件

ERSPAN の前提条件は、次のとおりです。

- 所定の ERSPAN 設定をサポートするには、まず各デバイス上でポートのイーサネットインターフェイスを設定する必要があります。詳細については、お使いのプラットフォームのインターフェイス コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

## ERSPAN の注意事項および制約事項

ERSPAN 設定時の注意事項と制約事項は次のとおりです。

- ERSPAN は次をサポートしています。
  - 4～6 個のトンネル
  - トンネルなしパケット
  - IP-in-IP トンネル
  - IPv4 トンネル (制限あり)
  - ERSPAN 送信元セッションタイプ (パケットは、Generic Routing Encapsulation (GRE) トンネルパケットとしてカプセル化され、IP ネットワークで送信されます。ただし、他のシスコデバイスとは異なり、ERSPAN ヘッダーはパケットに追加されません)。
  - ERSPAN 宛先セッションタイプ (ただし、ERSPAN パケットのカプセル化を解除するためのサポートは使用できません。カプセル化されたパケット全体は、ERSPAN 終端ポイントの前面パネルポートにスパンされます)。
- ERSPAN パケットは、カプセル化されたミラーパケットがレイヤ 2 MTU のチェックに失敗した場合、ドロップされます。

- 出力カプセルでは 112 バイトの制限があります。この制限を超えるパケットはドロップされます。このシナリオは、トンネルとミラーリングが混在する場合に発生することがあります。
- ERSPAN セッションは複数のローカルセッションで共有されます。最大 18 セッションが設定できます。ただし、同時に動作できるのは最大 4 セッションのみです。受信ソースと送信ソースの両方が同じセッションで設定されている場合、2 セッションのみが動作できます。
- NX-OS 5.0(3)U2(2) をインストールして ERSPAN を設定し、その後でソフトウェアを以前のバージョンにダウングレードすると、ERSPAN の設定は失われます。これは、ERSPAN が NX-OS 5.0(3)U2(2) よりも前のバージョンでサポートされていないためです。  
同様の SPAN の制約事項については、「[SPAN の注意事項および制約事項](#)、(233 ページ)」を参照してください。
- ERSPAN および ERSPAN ACL は、スーパーバイザが生成したパケットではサポートされません。
- ERSPAN および ERSPAN (ACL フィルタリングあり) は、スーパーバイザが生成したパケットではサポートされません。
- ACL フィルタリングは、Rx ERSPAN に対してのみサポートされます。Tx ERSPAN は、送信元インターフェイスで出力されるすべてのトラフィックをミラーリングします。
- ACL フィルタリングは、TCAM 幅の制限があるため、IPv6 および MAC ACL ではサポートされません。
- 同じ送信元が複数の ERSPAN セッションで設定されていて、各セッションに ACL フィルタが設定されている場合、送信元インターフェイスは、最初のアクティブ ERSPAN セッションに対してのみプログラムされます。その他のセッションに属する ACE には、この送信元インターフェイスはプログラムされません。
- 許可 ACE と拒否 ACE は、どちらも同様に処理されます。ACE と一致するパケットは、ACL の許可エントリまたは拒否エントリを含んでいるかどうかに関係なく、ミラーリングされません。
- ERSPAN は、管理ポートではサポートされません。
- 宛先ポートは、一度に 1 つの ERSPAN セッションだけで設定できます。
- ポートをソースポートと宛先ポートの両方として設定することはできません。
- 1 つの ERSPAN セッションに、次の送信元を組み合わせ使用できます。
  - イーサネットポートまたはポートチャネル (サブインターフェイスを除く)。
  - ポートチャネルサブインターフェイスに割り当てることができる VLAN またはポートチャネル。
  - コントロールプレーン CPU へのポートチャネル。



(注) ERSPAN は送信元に関係なく、スーパーバイザによって生成されるパケットをモニタしません。

- 宛先ポートはスパンニングツリー インスタンスまたはレイヤ 3 プロトコルに参加しません。
- ERSPAN セッションに、送信方向または送受信方向でモニタされている送信元ポートが含まれている場合、パケットが実際にはその送信元ポートで送信されなくても、これらのポートを受け取るパケットが ERSPAN の宛先ポートに複製される可能性があります。ソースポート上でのこの動作の例を、次に示します。
  - フラディングから発生するトラフィック
  - ブロードキャストおよびマルチキャスト トラフィック
- 入力と出力の両方が設定されている VLAN ERSPAN セッションでは、パケットが同じ VLAN 上でスイッチングされる場合に、宛先ポートから 2 つのパケット（入力側から 1 つ、出力側から 1 つ）が転送されます。
- VLAN ERSPAN がモニタするのは、VLAN のレイヤ 2 ポートを入出力するトラフィックだけです。
- Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチが ERSPAN 宛先の場合、GRE ヘッダーは、終端ポイントからミラー パケットが送信される前には削除されません。パケットは、GRE パケットである GRE ヘッダー、および GRE ペイロードである元のパケットとともに送信されます。
- ERSPAN 送信元セッションの出力インターフェイスは、**show monitor session <session-number>** CLI コマンドの出力に表示されるようになりました。出力インターフェイスには、物理ポートまたは port-channel を指定できます。ECMP の場合、ECMP メンバー内の 1 つのインターフェイスが出力に表示されます。この特定のインターフェイスがトラフィックの出力に使用されます。
- SPAN/ERSPAN ACL 統計情報は、**show monitor filter-list** コマンドを使用して表示できます。このコマンドの出力には、SPAN TCAM の統計情報とともにすべてのエントリが表示されます。ACL 名は表示されず、エントリのみ出力に表示されます。統計情報は、**clear monitor filter-list statistics** コマンドを使用してクリアできます。出力は、**show ip access-list** コマンドの出力と同様です。Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチは、ACL レベルごとの統計情報をサポートしていません。この機能強化は、ローカル SPAN および ERSPAN の両方でサポートされています。
- CPU とやりとりされるトラフィックはスパンニングされます。その他のインターフェイス SPAN に似ています。この機能強化は、ローカル SPAN でのみサポートされています。ACL 送信元ではサポートされていません。Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチは、CPU から送信される (RCPU.dest\_port != 0) ヘッダー付きのパケットはスパンニングしません。
- SPAN 転送ドロップトラフィックの場合、フォワーディングプレーンにおけるさまざまな原因でドロップされるパケットのみ SPAN されます。この機能強化は、ERSPAN 送信元セッションでのみサポートされています。SPANACL、送信元 VLAN、および送信元インターフェ



イスとともにサポートされません。SPAN のドロップトラフィックには、3つの ACL エントリがインストールされます。ドロップエントリに優先度を設定して、その他のモニタセッションの SPAN ACL エントリや VLAN SPAN エントリよりも高いまたは低い優先度にすることができます。デフォルトでは、ドロップエントリの優先度の方が高くなります。

- SPAN UDF (ユーザ定義フィールド) ベースの ACL サポート
  - パケットの最初の 128 バイトのパケットヘッダーまたはペイロード (一定の長さ制限あり) を照合できます。
  - 照合のために、特定のオフセットと長さを指定して UDF を定義できます。
  - 1 バイトまたは 2 バイトの長さのみ照合できます。
  - 最大 8 個の UDF がサポートされます。
  - 追加の UDF 一致基準が ACL に追加されます。
  - UDF 一致基準は、SPAN ACL に対してのみ設定できます。この機能強化は、その他の ACL 機能 (RACL、PACL、および VACL) ではサポートされていません。
  - ACE ごとに最大 8 個の UDF 一致基準を指定できます。
  - UDF および HTTP リダイレクト設定を、同じ ACL に共存させることはできません。
  - UDF 名は、SPAN TCAM に適合している必要があります。
  - UDF は、SPAN TCAM によって認定されている場合のみ有効です。
  - UDF 定義の設定および SPAN TCAM での UDF 名の認定では、**copy r s** コマンドを使用して、リロードする必要があります。
  - UDF の照合は、ローカル SPAN と ERSPAN 送信元セッションの両方でサポートされています。
  - UDF 名の長さは最大 16 文字です。
  - UDF のオフセットは 0 (ゼロ) から始まります。オフセットが奇数で指定されている場合、ソフトウェアの 1 つの UDF 定義に対して、ハードウェアで 2 つの UDF が使用されます。ハードウェアで使用している UDF の数が 8 を超えると、その設定は拒否されます。
  - UDF の照合では、SPAN TCAM リージョンが倍幅になる必要があります。そのため、その他の TCAM リージョンのサイズを減らして、SPAN の領域を確保する必要があります。
  - SPAN UDF は、タップ アグリゲーション モードではサポートされていません。
- `erspan-src` セッションに `sup-eth` 送信元インターフェイスが設定されている場合、`acl-span` を送信元としてそのセッションに追加することはできません (その逆も同様) 。

## ERSPAN のデフォルト設定

次の表に、ERSPAN パラメータのデフォルト設定を示します。

表 31: デフォルトの ERSPAN パラメータ

| パラメータ (Parameters) | デフォルト             |
|--------------------|-------------------|
| ERSPAN セッション       | シャット ステートで作成されます。 |

## ERSPAN の設定

### ERSPAN 送信元セッションの設定

ERSPAN セッションを設定できるのはローカル デバイス上だけです。デフォルトでは、ERSPAN セッションはシャット ステートで作成されます。

送信元には、イーサネット ポート、ポート チャネル、および VLAN を指定できます。単一の ERSPAN セッションには、イーサネット ポートまたは VLAN を組み合わせた送信元を使用できません。



(注) ERSPAN は送信元に関係なく、スーパーバイザによって生成されるパケットをモニタしません。

#### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                            | 目的                               |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| ステップ 1 | <b>configure terminal</b><br><br>例：<br>switch# config t<br>switch(config)#                                                              | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。     |
| ステップ 2 | <b>monitor erspan origin ip-address ip-address global</b><br><br>例：<br>switch(config)# monitor erspan origin ip-address 10.0.0.1 global | ERSPAN のグローバルな送信元 IP アドレスを設定します。 |

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 3 | <b>no monitor session</b> { <i>session-number</i>   <b>all</b> }<br><br>例：<br><pre>switch(config)# no monitor session 3</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 指定した ERSPAN セッションの設定を消去します。新しいセッションコンフィギュレーションは、既存のセッションコンフィギュレーションに追加されます。                                                                                                                                                                                                                                                       |
| ステップ 4 | <b>monitor session</b> { <i>session-number</i>   <b>all</b> }<br><b>type erspan-source</b><br><br>例：<br><pre>switch(config)# monitor session 3 type erspan-source switch(config-erspan-src)#</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | ERSPAN 送信元セッションを設定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| ステップ 5 | <b>description</b> <i>description</i><br><br>例：<br><pre>switch(config-erspan-src)# description erspan_src_session_3</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | セッションの説明を設定します。デフォルトでは、説明は定義されません。説明には最大 32 の英数字を使用できます。                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| ステップ 6 | <b>filter access-group</b> <i>acl-name</i><br><br>例：<br><pre>switch(config-erspan-src)# filter access-group acl1</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | ACL リストに基づいて、送信元ポートで入力トラフィックをフィルタリングします。アクセスリストに一致するパケットのみがスパンニングされます。 <i>acl-name</i> には、IP アクセスリストを指定できますが、アクセスマップは指定できません。                                                                                                                                                                                                     |
| ステップ 7 | <b>source</b> { <i>interfacetype</i> [ <b>rx</b>   <b>tx</b>   <b>both</b> ]   <b>vlan</b> { <i>number</i>   <i>range</i> } [ <b>rx</b> ]}<br><br>例：<br><pre>switch(config-erspan-src)# source interface ethernet 2/1-3, ethernet 3/1 rx</pre><br>例：<br><pre>switch(config-erspan-src)# source interface port-channel 2</pre><br>例：<br><pre>switch(config-erspan-src)# source interface sup-eth 0 both</pre><br>例：<br><pre>switch(config-erspan-src)# source vlan 3, 6-8 tx</pre><br>例：<br><pre>switch(config-monitor)# source interface ethernet 101/1/1-3</pre> | <p>送信元およびパケットをコピーするトラフィックの方向を設定します。イーサネットポート範囲、ポートチャネル、または VLAN 範囲を入力できます。</p> <p>送信元は1つ設定することも、またはカンマで区切った一連のエントリとして、または番号の範囲として、複数設定することもできます。最大 128 のインターフェイスを指定できます。VLAN の範囲については、『Cisco Nexus 3000 Series NX-OS Layer 2 Switching Configuration Guide』を参照してください。</p> <p>コピーするトラフィックの方向には、入力、出力、または両方を指定できます。デフォルトは双方向です。</p> |

|         | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                          | 目的                                                                                                                                                           |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 8  | ステップ 6 を繰り返して、すべての ERSPAN 送信元を設定します。                                                                                                                                  | (任意)<br>—                                                                                                                                                    |
| ステップ 9  | <b>filter access-group</b> <i>acl-filter</i><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# filter access-group ACL1                                                         | (任意)<br>ACL を ERSPAN セッションにアソシエートします。<br>(注) 標準の ACL 設定プロセスを使用して ACL を作成できます。詳細については、ご使用のプラットフォームの『Cisco Nexus NX-OS Security Configuration Guide』を参照してください。 |
| ステップ 10 | <b>destination ip</b> <i>ip-address</i><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# destination ip 10.1.1.1                                                               | ERSPAN セッションの宛先 IP アドレスを設定します。ERSPAN 送信元セッションごとに 1 つの宛先 IP アドレスのみがサポートされます。                                                                                  |
| ステップ 11 | <b>vrf</b> <i>vrf-name</i><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# vrf default                                                                                        | ERSPAN 送信元セッションがトラフィックの転送に使用する VRF を設定します。                                                                                                                   |
| ステップ 12 | <b>ip ttl</b> <i>ttl-number</i><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# ip ttl 25                                                                                     | (任意)<br>ERSPAN トラフィックの IP 存続可能時間 (TTL) 値を設定します。範囲は 1 ~ 255 です。                                                                                               |
| ステップ 13 | <b>ip dscp</b> <i>dscp-number</i><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# ip dscp 42                                                                                  | (任意)<br>ERSPAN トラフィックのパケットの DiffServ コードポイント (DSCP) 値を設定します。範囲は 0 ~ 63 です。                                                                                   |
| ステップ 14 | <b>no shut</b><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# no shut                                                                                                        | ERSPAN 送信元セッションをイネーブルにします。デフォルトでは、セッションはシャット状態で作成されます。<br>(注) 同時に実行できる ERSPAN 送信元セッションは 2 つだけです。                                                             |
| ステップ 15 | <b>show monitor session</b> { <b>all</b>   <i>session-number</i>   <b>range</b> <i>session-range</i> }<br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# show monitor session 3 | (任意)<br>ERSPAN セッション設定を表示します。                                                                                                                                |

|         | コマンドまたはアクション                                                                                                         | 目的                                                 |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| ステップ 16 | <b>show running-config monitor</b><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# show running-config monitor               | (任意)<br>ERSPAN の実行コンフィギュレーションを表示します。               |
| ステップ 17 | <b>show startup-config monitor</b><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# show startup-config monitor               | (任意)<br>ERSPAN のスタートアップ コンフィギュレーションを表示します。         |
| ステップ 18 | <b>copy running-config startup-config</b><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# copy running-config startup-config | (任意)<br>実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。 |

## ERSPAN 送信元セッションの SPAN 転送ドロップトラフィックの設定

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                     | 目的                                                                          |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <b>configure terminal</b><br><br>例：<br>switch# config t<br>switch(config)#                                                                                       | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                |
| ステップ 2 | <b>monitor session {session-number   all} type erspan-source</b><br><br>例：<br>switch(config)# monitor session 1 type erspan-source<br>switch(config-erspan-src)# | ERSPAN 送信元セッションを設定します。                                                      |
| ステップ 3 | <b>vrfvrf-name</b><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# vrf default                                                                                           | ERSPAN 送信元セッションがトラフィックの転送に使用する VRF を設定します。                                  |
| ステップ 4 | <b>destination ipip-address</b><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# destination ip 10.1.1.1                                                                  | ERSPAN セッションの宛先 IP アドレスを設定します。ERSPAN 送信元セッションごとに 1 つの宛先 IP アドレスのみがサポートされます。 |

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                      | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 5 | <b>source forward-drops rx</b><br><i>[priority-low]</i><br><br>例：<br><pre>switch(config-erspan-src)# source forward-drops rx [priority-low]</pre> | ERSPAN 送信元セッションの SPAN 転送ドロップトラフィックを設定します。低い優先度に設定されている場合、この SPAN ACE の一致ドロップ条件は、ACL SPAN または VLAN ACL SPAN インターフェイスによって設定されているその他の SPAN ACE よりも優先度が低くなります。priority-low キーワードを指定しない場合、これらのドロップ ACE は、標準インターフェイスや VLAN SPAN ACL よりも優先度が高くなります。優先度は、パケットの一致ドロップ ACE およびインターフェイス/VLAN SPAN ACL が設定されている場合のみ問題になります。 |
| ステップ 6 | <b>no shut</b><br><br>例：<br><pre>switch(config-erspan-src)# no shut</pre>                                                                         | ERSPAN 送信元セッションをイネーブルにします。デフォルトでは、セッションはシャットステートで作成されます。<br>(注) 同時に実行できる ERSPAN 送信元セッションは 2 つだけです。                                                                                                                                                                                                              |
| ステップ 7 | <b>show monitor session {all   session-number   rangesession-range}</b><br><br>例：<br><pre>switch(config-erspan-src)# show monitor session 3</pre> | (任意)<br>ERSPAN セッション設定を表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

```
switch# config t
switch(config)# monitor session 1 type erspan-source
switch(config-erspan-src)# vrf default
switch(config-erspan-src)# destination ip 40.1.1.1
switch(config-erspan-src)# source forward-drops rx
switch(config-erspan-src)# no shut
switch(config-erspan-src)# show monitor session 1

switch# config t
switch(config)# monitor session 1 type erspan-source
switch(config-erspan-src)# vrf default
switch(config-erspan-src)# destination ip 40.1.1.1
switch(config-erspan-src)# source forward-drops rx priority-low
switch(config-erspan-src)# no shut
switch(config-erspan-src)# show monitor session 1
```

## ERSPAN ACL の設定

デバイスに IPv4 ERSPAN ACL を作成して、ルールを追加できます。

## はじめる前に

DSCP 値または GRE プロトコルを変更するには、新しい宛先モニタセッションを割り当てる必要があります。最大 4 つの宛先モニタセッションがサポートされます。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                                               | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <b>configure terminal</b><br><br>例 :<br><pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>                                                                                                                                                              | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ステップ 2 | <b>ipaccess-listacl-name</b><br><br>例 :<br><pre>switch(config)# ip access-list erspan-acl switch(config-acl)#</pre>                                                                                                                                        | ERSPAN ACL を作成して、IP ACL コンフィギュレーション モードを開始します。 <i>acl-name</i> 引数は 64 文字以内で指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| ステップ 3 | <pre>[sequence-number] {permit   deny} protocolsourcedestination [set-erspan-dscpdscp-value] [set-erspan-gre-protoprotocol-value]</pre><br>例 :<br><pre>switch(config-acl)# permit ip 192.168.2.0/24 any set-erspan-dscp 40 set-erspan-gre-proto 5555</pre> | <p>ERSPAN ACL 内にルールを作成します。多数のルールを作成できます。 <i>sequence-number</i> 引数には、1 ~ 4294967295 の整数を指定します。</p> <p><b>permit</b> コマンドと <b>deny</b> コマンドには、トラフィックを識別するための多くの方法が用意されています。</p> <p><b>set-erspan-dscp</b> オプションは、ERSPAN 外部 IP ヘッダーに DSCP 値を設定します。DSCP 値の範囲は 0 ~ 63 です。ERSPAN ACL に設定された DSCP 値でモニタセッションに設定されている値が上書きされます。ERSPAN ACL にこのオプションを含めない場合、0 またはモニタセッションで設定されている DSCP 値が設定されます。</p> <p><b>set-erspan-gre-proto</b> オプションは、ERSPAN GRE ヘッダーにプロトコル値を設定します。プロトコル値の範囲は 0 ~ 65535 です。ERSPAN ACL にこのオプションを含めない場合、ERSPAN カプセル化パケットの GRE ヘッダーのプロトコルとしてデフォルト値の 0x88be が設定されます。</p> <p><b>set-erspan-gre-proto</b> または <b>set-erspan-dscp</b> アクションが設定されている各アクセス コントロール エントリ (ACE) は、1 つの宛先モニタセッションを使用します。ERSPAN ACL ごとに、これらのアクションのいずれかが設定されている最大 3 つの ACE が</p> |

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                       | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        |                                                                                                                                                                                    | <p>サポートされます。たとえば、次のいずれかを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>set-erspan-gre-proto</b> または <b>set-erspan-dscp</b> アクションが設定された最大3つの ACE がある ACL が設定されている 1つの ERSPAN セッション</li> <li>• <b>set-erspan-gre-proto</b> または <b>set-erspan-dscp</b> アクションと 1つの追加のローカルまたは ERSPAN セッションが設定された2つの ACE がある ACL が設定されている 1つの ERSPAN セッション</li> <li>• <b>set-erspan-gre-proto</b> または <b>set-erspan-dscp</b> アクションが設定された 1つの ACE がある ACL が設定されている最大2つの ERSPAN セッション</li> </ul> |
| ステップ 4 | <p><b>show ip access-lists</b><i>name</i></p> <p>例：<br/>switch(config-acl)# show ip access-lists erspan-acl</p>                                                                    | <p>(任意)<br/>ERSPAN ACL の設定を表示します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| ステップ 5 | <p><b>show monitor session</b> {<b>all</b>   <i>session-number</i>   <b>range</b><i>session-range</i>} [<b>brief</b>]</p> <p>例：<br/>switch(config-acl)# show monitor session 1</p> | <p>(任意)<br/>ERSPAN セッション設定を表示します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| ステップ 6 | <p><b>copy running-config startup-config</b></p> <p>例：<br/>switch(config-acl)# copy running-config startup-config</p>                                                              | <p>(任意)<br/>実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

## ユーザ定義フィールド (UDF) ベースの ACL サポートの設定

Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチにユーザ定義フィールド (UDF) ベースの ACL のサポートを設定できます。次の手順を参照して、UDF に基づく ERSPAN を設定します。詳細については、「ERSPAN の注意事項および制約事項」を参照してください。



## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>udf</b> < udf-name><packet start><offset><length><br><br>例 :<br>(config)# udf udf1 packet-start 10 2<br>(config)# udf udf2 packet-start 50 2                                                                                                                                                                       | UDF を定義します。<br>(注) 複数の UDF を定義できますが、必要な UDF のみ設定することを推奨します。UDF は、TCAM カービング時 (ブートアップ時) にリージョンの修飾子セットに追加されるため、この設定は、UDF を TCAM リージョンにアタッチして、ボックスを再起動した後でのみ有効になります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| ステップ 3 | switch(config)# <b>udf</b> < udf-name> header <Layer3/Layer4><offset><length><br><br>例 :<br>(config)# <b>udf udf3 header outer 14 0 1</b><br>(config)# <b>udf udf3 header outer 14 10 2</b><br>(config)# <b>udf udf3 header outer 14 50 1</b>                                                                                         | UDF を定義します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| ステップ 4 | switch(config)# <b>hardware profile tcam region span qualify udf</b> <name1>..... <name8><br><br>例 :<br>(config)# <b>hardware profile tcam region span qualify udf udf1 udf2 udf3 udf4 udf5</b><br>[SUCCESS] Changes to UDF qualifier set will be applicable only after reboot. You need to 'copy run start' and 'reload'<br>config)# | SPAN TCAM に UDF 認定を設定します。TCAM カービング時 (ブートアップ時) に UDF を TCAM リージョンの修飾子セットに追加します。この設定では、SPAN リージョンにアタッチできる最大 4 つの UDF を許可できます。UDF はすべて、リージョンの単一コマンドでリストされます。リージョンの新しい設定により、既存の設定が置き換わりますが、設定を有効にするには再起動する必要があります。<br><br>UDF 修飾子が SPAN TCAM に追加されると、TCAM リージョンはシングル幅から倍幅に拡大します。拡大に使用できる十分な空き領域 (128 以上のシングル幅エントリ) があることを確認します。十分な領域がない場合、コマンドは拒否されます。未使用リージョンの TCAM 領域を削減して領域を確保したら、コマンドを再入力します。 <b>no hardware profile tcam region span qualify udf</b> <name1>.. <b>&lt;name8&gt;</b> コマンドを使用して UDF が SPAN/TCAM リージョンからデタッチされると、SPAN TCAM |

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 目的                                                                                                                                 |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | リージョンはシングル幅エントリであると見なされます。                                                                                                         |
| ステップ 5 | <pre>switch(config)# permit ..... &lt;regular ACE match criteria&gt; udf&lt;name1&gt;&lt; val &gt;&lt;mask&gt; ..... &lt;name8&gt;&lt; val &gt;&lt;mask&gt;</pre> <p>例 :</p> <pre>(config)# ip access-list test 10 permit ip any any udf udf1 0x1234 0xffff udf3 0x56 0xff 30 permit ip any any dscp af11 udf udf5 0x22 0x22 config)#</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | UDF と一致する ACL を設定します。                                                                                                              |
| ステップ 6 | <pre>switch(config)# show monitor session&lt;session-number&gt;</pre> <p>例 :</p> <pre>(config)# show monitor session 1 session 1 ----- type                : erspan-source state               : up vrf-name            : default destination-ip      : 40.1.1.1 ip-ttl              : 255 ip-dscp             : 0 acl-name            : test origin-ip           : 100.1.1.10 (global) source intf         :   rx                : Eth1/20   tx                : Eth1/20   both              : Eth1/20 source VLANs        : filter VLANs        : filter not specified   rx                : source fwd drops    : egress-intf         : Eth1/23 switch# config)#</pre> | <b>show monitor session &lt;session-number&gt;</b> コマンドを使用して、ACL を表示します。BCM SHELL コマンドを使用して、SPAN/TCAM リージョンがカービングされているかどうかを確認できます。 |

## ERSPAN 宛先セッションの設定

送信元 IP アドレスからローカルデバイス上の宛先ポートにパケットをコピーするように ERSPAN 宛先セッションを設定できます。デフォルトでは、ERSPAN 宛先セッションはシャットステートで作成されます。

### はじめる前に

すでにモニタ モードで宛先ポートが設定されていることを確認します。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                        | 目的                                                                                                                                                          |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <b>config t</b><br><br>例：<br>switch# config t<br>switch(config)#                                                    | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                |
| ステップ 2 | <b>interface ethernetslot/port[-port]</b><br><br>例：<br>switch(config)# interface ethernet 2/5<br>switch(config-if)# | 選択したスロットおよびポートまたはポート範囲で、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                     |
| ステップ 3 | <b>switchport</b><br><br>例：<br>switch(config-if)# switchport                                                        | 選択したスロットおよびポートまたはポート範囲でスイッチポート パラメータを設定します。                                                                                                                 |
| ステップ 4 | <b>switchport mode [access   trunk]</b><br><br>例：<br>switch(config-if)# switchport mode trunk                       | 選択したスロットおよびポートまたはポート範囲で次のスイッチポート モードを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• アクセス</li> <li>• トランク</li> </ul>                                        |
| ステップ 5 | <b>switchport monitor</b><br><br>例：<br>switch(config-if)# switchport monitor                                        | モニタ モードでスイッチ インターフェイスを設定します。<br><br>( <b>destination interface ethernetinterface</b> コマンドを使用して) インターフェイスを ERSPAN または SPAN 宛先に設定するには、最初にモニタ モードで設定する必要があります。 |
| ステップ 6 | ステップ 2～5 を繰り返して、追加の ERSPAN 宛先でモニタリングを設定します。                                                                         | —                                                                                                                                                           |
| ステップ 7 | <b>no monitor session {session-number   all}</b><br><br>例：<br>switch(config-if)# no monitor session 3               | 指定した ERSPAN セッションの設定を消去します。新しいセッションコンフィギュレーションは、既存のセッションコンフィギュレーションに追加されます。                                                                                 |
| ステップ 8 | <b>monitor session {session-number   all} type erspan-destination</b>                                               | ERSPAN 宛先セッションを設定します。                                                                                                                                       |

|         | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                                    | 目的                                                                                                                                                  |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         | 例 :<br><pre>switch(config-if)# monitor session 3 type erspan-destination switch(config-erspan-dst)#</pre>                                                                                                                                       |                                                                                                                                                     |
| ステップ 9  | <b>description</b> <i>description</i><br><br>例 :<br><pre>switch(config-erspan-dst)# description erspan_dst_session_3</pre>                                                                                                                      | セッションの説明を設定します。デフォルトでは、説明は定義されません。説明には最大 32 の英数字を使用できます。                                                                                            |
| ステップ 10 | <b>source</b> <i>ip-address</i><br><br>例 :<br><pre>switch(config-erspan-dst)# source ip 10.1.1.1</pre>                                                                                                                                          | ERSPAN セッションの送信元 IP アドレスを設定します。ERSPAN 宛先セッションごとに 1 つの送信元 IP アドレスのみがサポートされます。<br><br>この IP アドレスは、対応する ERSPAN 送信元セッションに設定されている宛先 IP アドレスと一致する必要があります。 |
| ステップ 11 | <b>destination</b> {[ <b>interface</b> [ <i>type slot/port[-port]</i> , [ <i>type slot/port [port]</i> ]] [ <b>port-channel</b> <i>channel-number</i> ]}<br><br>例 :<br><pre>switch(config-erspan-dst)# destination interface ethernet 2/5</pre> | コピーされたソース パケットの宛先を設定します。宛先として、インターフェイスのみ設定できます。<br>(注) 宛先ポートをトランクポートとして設定できます。                                                                      |
| ステップ 12 | <b>vrf</b> <i>default</i><br><br>例 :<br><pre>switch(config-erspan-dst)# vrf default</pre>                                                                                                                                                       | ERSPAN 宛先セッションがトラフィックの転送に使用する VRF インスタンスを設定します。<br><br>ERSPAN 宛先セッションは、デフォルトの VRF のみをサポートします。                                                       |
| ステップ 13 | <b>no shut</b><br><br>例 :<br><pre>switch(config)# no shut</pre>                                                                                                                                                                                 | ERSPAN 宛先セッションをイネーブルにします。デフォルトでは、セッションはシャット状態で作成されます。<br>(注) 同時に実行できるアクティブな ERSPAN 宛先セッションは 16 個だけです。                                               |
| ステップ 14 | <b>show monitor session</b> { <b>all</b>   <i>session-number</i>   <b>range</b> <i>session-range</i> }<br><br>例 :<br><pre>switch(config)# show monitor session 3</pre>                                                                          | (任意)<br>ERSPAN セッション設定を表示します。                                                                                                                       |

|         | コマンドまたはアクション                                                                                                         | 目的                                                 |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| ステップ 15 | <b>show running-config monitor</b><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# show running-config monitor               | (任意)<br>ERSPAN の実行コンフィギュレーションを表示します。               |
| ステップ 16 | <b>show startup-config monitor</b><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# show startup-config monitor               | (任意)<br>ERSPAN のスタートアップ コンフィギュレーションを表示します。         |
| ステップ 17 | <b>copy running-config startup-config</b><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# copy running-config startup-config | (任意)<br>実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。 |

## ERSPAN セッションのシャットダウンまたはアクティブ化

ERSPAN セッションをシャットダウンすると、送信元から宛先へのパケットのコピーを切断できます。同時に実行できる ERSPAN セッション数は限定されているため、あるセッションをシャットダウンしてハードウェアリソースを解放することによって、別のセッションが使用できるようになります。デフォルトでは、ERSPAN セッションはシャット ステートで作成されます。

ERSPAN セッションをイネーブルにすると、送信元から宛先へのパケットのコピーをアクティブ化できます。すでにイネーブルになっていて、動作状況がダウンの ERSPAN セッションをイネーブルにするには、そのセッションをいったんシャットダウンしてから、改めてイネーブルにする必要があります。ERSPAN セッション ステートをシャットダウンおよびイネーブルにするには、グローバルまたはモニタ コンフィギュレーションモードのいずれかのコマンドを使用できます。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                          | 目的                                                                                                |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <b>configuration terminal</b><br><br>例：<br>switch# configuration terminal<br>switch(config)#          | グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。                                                                       |
| ステップ 2 | <b>monitor session {session-range   all} shut</b><br><br>例：<br>switch(config)# monitor session 3 shut | 指定の ERSPAN セッションをシャットダウンします。セッションの範囲は 1～18 です。デフォルトでは、セッションはシャットステートで作成されます。単方向の 4 つのセッション、または双方向 |

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                      | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        |                                                                                                                                                                   | <p>の 2 つのセッションを同時にアクティブにすることができます。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Nexus 5000 および 5500 プラットフォームでは、2 つのセッションを同時に実行できます。</li> <li>• Cisco Nexus 5600 および 6000 プラットフォームでは、16 のセッションを同時に実行できます。</li> </ul>                                                          |
| ステップ 3 | <p><b>no monitor session {session-range   all} shut</b></p> <p>例：<br/>switch(config)# no monitor session 3 shut</p>                                               | <p>指定の ERSPAN セッションを再開（イネーブルに）します。セッションの範囲は 1～18 です。デフォルトでは、セッションはシャットステートで作成されます。単方向の 4 つのセッション、または双方向の 2 つのセッションを同時にアクティブにすることができます。</p> <p>(注) モニタセッションがイネーブルで動作状況がダウンの場合、セッションをイネーブルにするには、最初に <b>monitor session shut</b> コマンドを指定してから、<b>no monitor session shut</b> コマンドを続ける必要があります。</p> |
| ステップ 4 | <p><b>monitor session session-number type erspan-source</b></p> <p>例：<br/>switch(config)# monitor session 3 type erspan-source<br/>switch(config-erspan-src)#</p> | ERSPAN 送信元タイプのモニタ コンフィギュレーションモードを開始します。新しいセッションコンフィギュレーションは、既存のセッションコンフィギュレーションに追加されます。                                                                                                                                                                                                       |
| ステップ 5 | <p><b>monitor session session-number type erspan-destination</b></p> <p>例：<br/>switch(config-erspan-src)# monitor session 3 type erspan-destination</p>           | ERSPAN 宛先タイプのモニタ コンフィギュレーションモードを開始します。                                                                                                                                                                                                                                                        |
| ステップ 6 | <p><b>shut</b></p> <p>例：<br/>switch(config-erspan-src)# shut</p>                                                                                                  | ERSPAN セッションをシャットダウンします。デフォルトでは、セッションはシャットステートで作成されます。                                                                                                                                                                                                                                        |

|         | コマンドまたはアクション                                                                                                         | 目的                                                  |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| ステップ 7  | <b>no shut</b><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# no shut                                                       | ERSPAN セッションをイネーブルにします。デフォルトでは、セッションはシャット状態で作成されます。 |
| ステップ 8  | <b>show monitor session all</b><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# show monitor session all                     | (任意)<br>ERSPAN セッションのステータスを表示します。                   |
| ステップ 9  | <b>show running-config monitor</b><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# show running-config monitor               | (任意)<br>ERSPAN の実行コンフィギュレーションを表示します。                |
| ステップ 10 | <b>show startup-config monitor</b><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# show startup-config monitor               | (任意)<br>ERSPAN のスタートアップコンフィギュレーションを表示します。           |
| ステップ 11 | <b>copy running-config startup-config</b><br><br>例：<br>switch(config-erspan-src)# copy running-config startup-config | (任意)<br>実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。   |

## ERSPAN 設定の確認

ERSPAN の設定情報を確認するには、次のコマンドを使用します。

| コマンド                                                                    | 目的                                |
|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| <b>show monitor session</b> {all   session-number   rangesession-range} | ERSPAN セッション設定を表示します。             |
| <b>show running-config monitor</b>                                      | ERSPAN の実行コンフィギュレーションを表示します。      |
| <b>show startup-config monitor</b>                                      | ERSPAN のスタートアップコンフィギュレーションを表示します。 |

# ERSPAN の設定例

## ERSPAN 送信元セッションの設定例

次に、ERSPAN 送信元セッションを設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface e14/30
switch(config-if)# no shut
switch(config-if)# exit
switch(config)# monitor erspan origin ip-address 3.3.3.3 global
switch(config)# monitor session 1 type erspan-source
switch(config-erspan-src)# filter access-group acl1
switch(config-erspan-src)# source interface e14/30
switch(config-erspan-src)# ip ttl 16
switch(config-erspan-src)# ip dscp 5
switch(config-erspan-src)# vrf default
switch(config-erspan-src)# destination ip 9.1.1.2
switch(config-erspan-src)# no shut
switch(config-erspan-src)# exit
switch(config)# show monitor session 1
```

## ERSPAN 宛先セッションの設定例

次に、ERSPAN 宛先セッションを設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface e14/29
switch(config-if)# no shut
switch(config-if)# switchport
switch(config-if)# switchport monitor
switch(config-if)# exit
switch(config)# monitor session 2 type erspan-destination
switch(config-erspan-dst)# source ip 9.1.1.2
switch(config-erspan-dst)# destination interface e14/29
switch(config-erspan-dst)# erspan-id 1
switch(config-erspan-dst)# vrf default
switch(config-erspan-dst)# no shut
switch(config-erspan-dst)# exit
switch(config)# show monitor session 2
switch# config t
switch(config)# interface e14/29
switch(config-if)# no shut
switch(config-if)# switchport
switch(config-if)# switchport monitor
switch(config-if)# exit
switch(config)# monitor session 2 type erspan-destination
switch(config-erspan-dst)# source ip 9.1.1.2
switch(config-erspan-dst)# destination interface e14/29
switch(config-erspan-dst)# erspan-id 1
switch(config-erspan-dst)# no shut
switch(config-erspan-dst)# exit
switch(config)# show monitor session 2
```



## ERSPAN ACL の設定例

次に、ERSPAN ACL を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip access-list match_11_pkts
switch(config-acl)# permit ip 11.0.0.0 0.255.255.255 any
switch(config-acl)# exit
switch(config)# ip access-list match_12_pkts
switch(config-acl)# permit ip 12.0.0.0 0.255.255.255 any
switch(config-acl)# exit
switch(config)# vlan access-map erspan_filter 5
switch(config-access-map)# match ip address match_11_pkts
switch(config-access-map)# action forward
switch(config-access-map)# exit
switch(config)# vlan access-map erspan_filter 10
switch(config-access-map)# match ip address match_12_pkts
switch(config-access-map)# action forward
switch(config-access-map)# exit
switch(config)# monitor session 1 type erspan-source
switch(config-erspan-src)# filter access_group erspan_filter
```

## UDF ベース ERSPAN の設定例

次に、以下の一致基準を使用して、カプセル化された IP-in-IP パケットの内部 TCP フラグで照合する UDF ベース ERSPAN を設定する例を示します。

- 外部送信元 IP アドレス : 10.0.0.2
- 内部 TCP フラグ : 緊急 TCP フラグを設定
- バイト : Eth Hdr (14) + 外部 IP (20) + 内部 IP (20) + 内部 TCP (20、ただし、13 番目のバイトの TCP フラグ)
- パケットの先頭からのオフセット :  $14 + 20 + 20 + 13 = 67$
- UDF の照合値 : 0x20
- UDF マスク : 0xFF

```
udf udf_tcpflags packet-start 67 1
hardware access-list tcam region racl qualify udf udf_tcpflags
copy running-config startup-config
reload
ip access-list acl-udf
 permit ip 10.0.0.2/32 any udf udf_tcpflags 0x20 0xff
monitor session 1 type erspan-source
 source interface Ethernet 1/1
 filter access-group acl-udf
```

次に、以下の一致基準を使用して、レイヤ 4 ヘッダーの先頭から 6 バイト目のパケット署名 (DEADBEEF) と通常の IP パケットを照合する UDF ベース ERSPAN を設定する例を示します。

- 外部送信元 IP アドレス : 10.0.0.2
- 内部 TCP フラグ : 緊急 TCP フラグを設定
- バイト : Eth Hdr (14) + IP (20) + TCP (20) + ペイロード : 112233445566DEADBEEF7788

- レイヤ 4 ヘッダーの先頭からのオフセット :  $20 + 6 = 26$
- UDF の照合値 : 0xDEADBEEF (2 バイトのチャンクおよび 2 つの UDF に分割)
- UDF マスク : 0xFFFFFFFF

```

udf udf_pktsig_msb header outer 13 26 2
udf udf_pktsig_lsb header outer 13 28 2
hardware access-list tcam region racl qualify udf udf_pktsig_msb udf_pktsig_lsb
copy running-config startup-config
reload
ip access-list acl-udf-pktsig
  permit udf udf_pktsig_msb 0xDEAD 0xFFFF udf udf_pktsig_lsb 0xBEEF 0xFFFF
monitor session 1 type erspan-source
  source interface Ethernet 1/1
  filter access-group acl-udf-pktsig

```

## その他の参考資料

### 関連資料

| 関連項目                                                       | マニュアルタイトル                                                                     |
|------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| ERSPAN コマンド : コマンド構文の詳細、コマンドモード、コマンド履歴、デフォルト、使用上の注意事項、および例 | ご使用プラットフォームの『 <i>Cisco Nexus NX-OS System Management Command Reference</i> 』。 |



## 第 21 章

# グレースフル挿入と削除の設定

この章では、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチでグレースフル挿入と削除（GIR）を設定する方法について説明します。

- [グレースフル挿入と削除について, 267 ページ](#)
- [GIR のライセンス要件, 270 ページ](#)
- [GIR のワークフロー, 270 ページ](#)
- [メンテナンス モード プロファイルの設定, 270 ページ](#)
- [通常モード プロファイルの設定, 272 ページ](#)
- [スナップショットの作成, 273 ページ](#)
- [スナップショットへの show コマンドの追加, 275 ページ](#)
- [グレースフル削除のトリガー, 277 ページ](#)
- [グレースフル挿入のトリガー, 279 ページ](#)
- [GIR 設定の確認, 280 ページ](#)

## グレースフル挿入と削除について

グレースフル挿入と削除を使用してスイッチを正常に取り出し、そのスイッチをネットワークから分離して、デバッグ操作やアップグレード操作を実行することができます。スイッチは、最小限のトラフィックの中断だけで、通常の転送パスから取り外されます。デバッグ操作やアップグレード操作の実行が終了したら、グレースフル挿入を使用して、そのスイッチを完全な運用（通常）モードに戻すことができます。

グレースフル削除では、すべてのプロトコルと vPC ドメインが正常に停止し、スイッチはネットワークから分離されます。グレースフル挿入では、すべてのプロトコルと vPC ドメインが復元されます。

次のプロトコルは、IPv4 と IPv6 両方のアドレス ファミリでサポートされます。

- Border Gateway Protocol (BGP)
- Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP)
- Intermediate System-to-Intermediate System (ISIS)
- Open Shortest Path First (OSPF)
- プロトコルに依存しないマルチキャスト (PIM)
- ルーティング情報プロトコル (RIP)



(注) グレースフル挿入と削除の場合、PIM プロトコルは vPC 環境にのみ適用できます。グレースフル削除の間、vPC 転送ロールがマルチキャストトラフィックのすべてのノースパウンド送信元に対する vPC ピアに転送されます。

## プロファイル

デフォルトでは、すべての有効なプロトコルは、グレースフル削除中に分離され、グレースフル挿入時に復元されます。プロトコルは、定義済みの順序で分離および復元されます。

プロトコルを個別に分離、シャットダウン、または復元する（あるいは追加の設定を実施する）場合は、グレースフル削除またはグレースフル挿入時に適用できる設定コマンドを使用して、プロファイルを作成できます。ただし、プロトコルの順序が正しいことを確認し、すべての依存関係を考慮する必要があります。

スイッチは、次のプロファイルをサポートしています。

- メンテナンスモードプロファイル：スイッチがメンテナンスモードになったときに、グレースフル削除中に実行されるすべてのコマンドが含まれます。
- 通常モードプロファイル：スイッチが通常モードに戻ったときに、グレースフル挿入中に実行されるすべてのコマンドが含まれます。

プロファイルでは、次のコマンド（および任意の設定コマンド）がサポートされています。

| コマンド              | 説明                                   |
|-------------------|--------------------------------------|
| <b>isolate</b>    | プロトコルをスイッチから分離し、プロトコルをメンテナンスモードにします。 |
| <b>no isolate</b> | プロトコルを復元し、プロトコルを通常モードにします。           |
| シャットダウン           | プロトコルまたは vPC ドメインをシャットダウンします。        |

| コマンド                                                                                                                        | 説明                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>no shutdown</b>                                                                                                          | プロトコルまたは vPC ドメインを起動します。                                                                                            |
| <b>system interface shutdown [exclude fex-fabric]</b>                                                                       | システムインターフェイスをシャットダウンします (管理インターフェイスを除く)。                                                                            |
| <b>no system interface shutdown [exclude fex-fabric]</b>                                                                    | システム インターフェイスを起動します。                                                                                                |
| <b>sleep instance</b> <i>instance-number seconds</i>                                                                        | 指定の秒数だけコマンドの実行を遅延させます。コマンドの複数のインスタンスを遅延できます。<br><i>instance-number</i> および <i>seconds</i> 引数の範囲は、0 ~ 2177483647 です。 |
| <b>python instance</b> <i>instance-number uri [python-arguments]</i><br>例 : <b>python instance 1 bootflash://script1.py</b> | Python スクリプトの呼び出しをプロファイルに設定します。コマンドの複数の呼び出しをプロファイルに追加できます。<br><br>Python 引数には最大 32 文字の英数字を入力できます。                   |

## スナップショット

Cisco NX-OS では、スナップショットは選択した機能の実行状態をキャプチャし、永続ストレージメディアに保存するプロセスです。

スナップショットは、グレースフル削除前とグレースフル挿入後のスイッチの状態を比較する場合に役立ちます。スナップショット プロセスは、次の 3 つの部分で構成されます。

- 事前に選択したスイッチの一部機能の状態のスナップショットを作成し、永続ストレージメディアに保存する
- さまざまな時間間隔で取得したスナップショットを一覧にして、管理する
- スナップショットを比較して、機能間の相違を表示する

## GIR のライセンス要件

| 製品          | ライセンス要件                                                                                                                                                        |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Cisco NX-OS | グレースフル挿入と削除（GIR）にはライセンスは不要です。ライセンスパッケージに含まれていない機能は nx-os イメージにバンドルされており、無料で提供されます。Cisco NX-OS ライセンス方式の詳細については、『 <i>Cisco NX-OS Licensing Guide</i> 』を参照してください。 |

## GIR のワークフロー

グレースフル挿入と削除（GIR）のワークフローを完了する手順は、次のとおりです。

- 1 （任意）メンテナンスモードプロファイルを作成します（「[メンテナンスモードプロファイルの設定](#)、[\(270 ページ\)](#)」を参照）。
- 2 （任意）通常モードプロファイルを作成します（[通常モードプロファイルの設定](#)、[\(272 ページ\)](#)を参照）。
- 3 グレースフル削除をトリガーする前のスナップショットを取得します（[スナップショットの作成](#)、[\(273 ページ\)](#)を参照）。
- 4 グレースフル削除をトリガーして、スイッチをメンテナンスモードにします（[グレースフル削除のトリガー](#)、[\(277 ページ\)](#)を参照）。
- 5 グレースフル挿入をトリガーして、スイッチを通常モードに戻します（[グレースフル挿入のトリガー](#)、[\(279 ページ\)](#)を参照）。
- 6 グレースフル挿入をトリガーした後のスナップショットを取得します（[スナップショットの作成](#)、[\(273 ページ\)](#)を参照）。
- 7 **show snapshots compare** コマンドを使用して、グレースフル削除と挿入の前後のスイッチの運用データを比較して、すべてが想定どおりに動作していることを確認します（[GIR 設定の確認](#)、[\(280 ページ\)](#)を参照）。

## メンテナンスモードプロファイルの設定

グレースフル削除またはグレースフル挿入時に適用できる設定コマンドを使用して、メンテナンスモードプロファイルを作成できます。

手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                            | 目的                                                                                                                                                           |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <b>configure maintenance profile maintenance-mode</b><br><br>例：<br>switch# configure maintenance profile maintenance-mode<br>Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.<br>switch(config-mm-profile)# | メンテナンスモードプロファイルのコンフィギュレーションセッションを開始します。<br><br>設定しているプロトコルに応じて、プロトコルを停止する適切なコマンドを入力する必要があります。サポートされるコマンドの一覧については、 <a href="#">プロファイル</a> 、(268ページ)を参照してください。 |
| ステップ 2 | <b>end</b><br><br>例：<br>switch(config-mm-profile)# end<br>switch#                                                                                                                                                       | メンテナンスモードプロファイルを終了します。                                                                                                                                       |
| ステップ 3 | <b>show maintenance profile maintenance-mode</b><br><br>例：<br>switch# show maintenance profile maintenance-mode                                                                                                         | メンテナンスモードプロファイルの詳細を表示します。                                                                                                                                    |

次に、メンテナンスモードプロファイルを作成する例を示します。

```

switch# configure maintenance profile maintenance-mode
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config-mm-profile)# ip pim isolate
switch(config-mm-profile)# vpc domain 10
switch(config-mm-profile-config-vpc-domain)# shutdown
switch(config-mm-profile-router)# router bgp 100
switch(config-mm-profile-router)# shutdown
switch(config-mm-profile-router)# router eigrp 10
switch(config-mm-profile-router)# shutdown
switch(config-mm-profile-router)# address-family ipv6 unicast
switch(config-mm-profile-router-af)# shutdown
switch(config-mm-profile)# system interface shutdown
switch(config-mm-profile)# end
Exit maintenance profile mode.
switch# show maintenance profile maintenance-mode
[Maintenance Mode]
ip pim isolate
vpc domain 10
  shutdown
router bgp 100
  shutdown
router eigrp 10
  shutdown
  address-family ipv6 unicast
    shutdown
system interface shutdown
    
```

# 通常モード プロファイルの設定

グレースフル削除またはグレースフル挿入時に適用できる設定コマンドを使用して、通常モードプロファイルを作成できます。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                       | 目的                                                                                                                                                           |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <b>configure maintenance profile normal-mode</b><br><br>例：<br><pre>switch# configure maintenance profile normal-mode Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch(config-mm-profile)#</pre> | 通常モードプロファイルのコンフィギュレーションセッションを開始します。<br><br>設定しているプロトコルに応じて、プロトコルを起動する適切なコマンドを入力する必要があります。サポートされるコマンドの一覧については、「 <a href="#">プロファイル, (268 ページ)</a> 」を参照してください。 |
| ステップ 2 | <b>end</b><br><br>例：<br><pre>switch(config-mm-profile)# end switch#</pre>                                                                                                                                          | 通常モードプロファイルを終了します。                                                                                                                                           |
| ステップ 3 | <b>show maintenance profile normal-mode</b><br><br>例：<br><pre>switch# show maintenance profile normal-mode</pre>                                                                                                   | 通常モードプロファイルの詳細を表示します。                                                                                                                                        |

次に、通常モードプロファイルを作成する例を示します。

```
switch# configure maintenance profile normal-mode
switch(config-mm-profile)# no system interface shutdown
switch(config-mm-profile)# router eigrp 10
switch(config-mm-profile-router)# no shutdown
switch(config-mm-profile-router)# address-family ipv6 unicast
switch(config-mm-profile-router-af)# no shutdown
switch(config-mm-profile)# router bgp 100
switch(config-mm-profile-router)# no shutdown
switch(config-mm-profile)# vpc domain 10
switch(config-mm-profile-config-vpc-domain)# no shutdown
switch(config-mm-profile)# no ip pim isolate
switch(config-mm-profile)# end
Exit maintenance profile mode.
switch# show maintenance profile normal-mode
[Normal Mode]
no system interface shutdown
router eigrp 10
  no shutdown
  address-family ipv6 unicast
    no shutdown
router bgp 100
  no shutdown
vpc domain 10
  no shutdown
```



```
no ip pim isolate
```

## スナップショットの作成

選択した機能の実行状態のスナップショットを作成できます。スナップショットを作成する場合、定義済みの一連の **show** コマンドが実行され、出力が保存されます。

### 手順

|       | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 目的                                                                                                                                                                                                                |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ1 | <p><b>snapshot create</b> <i>snapshot-name description</i></p> <p>例 :</p> <pre>switch# snapshot create snap_before_maintenance Taken before maintenance Executing 'show interface'... Done Executing 'show ip route summary vrf all'... Done Executing 'show ipv6 route summary vrf all'... Done Executing 'show bgp sessions vrf all'... Done Executing 'show ip eigrp topology summary'... Done Executing 'show ipv6 eigrp topology summary'... Done Feature 'vpc' not enabled, skipping... Executing 'show ip ospf vrf all'... Done Feature 'ospfv3' not enabled, skipping... Feature 'isis' not enabled, skipping... Feature 'rip' not enabled, skipping... Snapshot 'snap_before_maintenance' created</pre> | <p>選択した機能の実行状態または運用データをキャプチャし、データを永続ストレージメディアに保存します。</p> <p>最大 64 文字の英数字のスナップショット名と最大 254 文字の英数字の説明を入力できます。</p> <p>すべてのスナップショットまたは特定のスナップショットを削除するには、<b>snapshot delete {all   snapshot-name}</b> コマンドを使用します。</p> |
| ステップ2 | <p><b>show snapshots</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch# show snapshots Snapshot Name                               Time                               Description</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <p>スイッチ上に存在するスナップショット</p>                                                                                                                                                                                         |

|       | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                    | 目的                                                                                                                                                                                              |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | -----<br>snap_before_maintenance Wed Aug 19 13:53:28 2015 Taken before maintenance                                                                                                                                              | トを表示します。                                                                                                                                                                                        |
| ステップ3 | <p><b>show snapshots compare</b><i>snapshot-name-1 snapshot-name-2</i> [<b>summary</b>   <b>ipv4routes</b>   <b>ipv6routes</b>]</p> <p>例：<br/>switch# show snapshots compare snap_before_maintenance snap_after_maintenance</p> | <p>2つのスナップショットの比較を表示します。</p> <p><b>summary</b> オプションは、2つのスナップショット間の全体的な変更を確認するのに十分な情報のみ表示します。</p> <p><b>ipv4routes</b> および <b>ipv6routes</b> オプションは、2つのスナップショット間のIPv4 およびIPv6 ルートの変更を表示します。</p> |

次に、2つのスナップショット間の変更の概要の例を示します。

```
switch# show snapshots compare snapshot1 snapshot2 summary
feature                               snapshot1  snapshot2  changed
-----
basic summary
  # of interfaces                     16         12         *
  # of vlans                           10         4          *
  # of ipv4 routes                     33         3          *
.....

interfaces
  # of eth interfaces                  3          0          *
  # of eth interfaces up                2          0          *
  # of eth interfaces down              1          0          *
  # of eth interfaces other             0          0

  # of vlan interfaces                 3          1          *
  # of vlan interfaces up               3          1          *
  # of vlan interfaces down             0          0
  # of vlan interfaces other            0          1          *
.....
```

次に、2つのスナップショット間のIPv4ルートの変更の例を示します。

```
switch# show snapshots compare snapshot1 snapshot2 ipv4routes
metric                snapshot1      snapshot2      changed
# of routes           33           3              *
# of adjacencies      10           4              *

Prefix                Changed Attribute
-----
23.0.0.0/8            not in snapshot2
10.10.10.1/32         not in snapshot2
21.1.2.3/8            adjacency index has changed from 29 (snapshot1) to 38 (snapshot2)
.....

There were 28 attribute changes detected
```

## スナップショットへの show コマンドの追加

スナップショットでキャプチャされる追加の show コマンドを指定できます。それらの show コマンドは、ユーザ指定のスナップショットセクションで定義されます。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <p><b>snapshot section addsection</b><br/> <i>"show-command" row-id element-key1 [element-key2]</i></p> <p>例：<br/>                     switch# snapshot section add myshow "show ip interface brief" ROW_intf intf-name</p> | <p>ユーザ指定のセクションをスナップショットに追加します。 <i>section</i> は、 <b>show</b> コマンドの出力に名前を付けるために使用されます。任意の単語を使用して、セクションに名前を付けることができます。</p> <p><b>show</b> コマンドは、引用符で囲む必要があります。 <b>show</b> 以外のコマンドは拒否されます。</p> <p><i>row-id</i> 引数では、 <b>show</b> コマンドの XML 出力の各行エントリのタグを指定します。 <i>element-key1</i> および <i>element-key2</i> 引数では、行エントリ間を区別するために使用されるタグを指定します。ほとんどの場合、行エントリ間を区別するために指定する必要があるのは <i>element-key1</i> 引数だけです。</p> <p>(注) スナップショットからユーザ指定のセクションを削除するには、 <b>snapshot section deletesection</b> コマンドを使用します。</p> |
| ステップ 2 | <p><b>show snapshots sections</b></p> <p>例：<br/>                     switch# show snapshots sections</p>                                                                                                                    | <p>ユーザ指定のスナップショットセクションを表示します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| ステップ 3 | <p><b>show snapshots comparesnapshot-name-1</b></p>                                                                                                                                                                         | <p>2つのスナップショットの比較を表示します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

|  | コマンドまたはアクション                                                                                                                   | 目的                                                                                                                                                               |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p><b>snapshot-name-2 [summary   ipv4routes   ipv6routes]</b></p> <p>例：<br/>switch# show snapshots<br/>compare snap1 snap2</p> | <p><b>summary</b> オプションは、2つのスナップショット間の全体的な変更を確認するのに十分な情報のみ表示します。</p> <p><b>ipv4routes</b> および <b>ipv6routes</b> オプションは、2つのスナップショット間のIPv4およびIPv6ルートの変更を表示します。</p> |

次に、**show ip interface brief** コマンドを myshow スナップショットセクションに追加する例を示します。この例では、2つのスナップショット (snap1 および snap2) が比較され、両方のスナップショットにユーザ指定のセクションが表示されます。

```
switch# snapshot section add myshow "show ip interface brief" ROW_intf intf-name
switch# show snapshots sections
user-specified snapshot sections
-----
[myshow]
  cmd: show ip interface brief
  row: ROW_intf
  key1: intf-name
  key2: -

[sect2]
  cmd: show ip ospf vrf all
  row: ROW_ctx
  key1: instance_number
  key2: cname

switch# show snapshots compare snap1 snap2
=====
Feature                Tag                snap1                snap2
=====
[bgp]
-----
[interface]
-----

      [interface:mgmt0]
                vdc_lvl_in_pkts                692310                **692317**
                vdc_lvl_in_mcast                575281                **575287**
                vdc_lvl_in_bcast                77209                 **77210**
                vdc_lvl_in_bytes                63293252             **63293714**
                vdc_lvl_out_pkts                41197                 **41198**
                vdc_lvl_out_ucast                33966                 **33967**
                vdc_lvl_out_bytes                6419714              **6419788**
-----
[ospf]
-----
[myshow]
-----

      [interface:Ethernet1/1]
                state                up                **down**
                admin_state            up                **down**
```

# グレースフル削除のトリガー

デバッグ操作やアップグレード操作を実行するために、スイッチのグレースフル削除をトリガーして、スイッチを取り出し、ネットワークからそのスイッチを分離できます。

## はじめる前に

作成するメンテナンスモードプロファイルをシステムに使用させる場合は、「[メンテナンスモードプロファイルの設定](#)、(270 ページ)」を参照してください。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <b>configure terminal</b><br><br>例：<br><pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| ステップ 2 | <b>system mode maintenance [dont-generate-profile   timeoutvalue   shutdown   on-reload reset-reasonreason]</b><br><br>例：<br><pre>switch(config)# system mode maintenance Following configuration will be applied:  ip pim isolate router bgp 65502     isolate router ospf p1     isolate router ospfv3 p1     isolate  Do you want to continue (y/n)? [no] <b>y</b>  Generating a snapshot before going into maintenance mode  Starting to apply commands...  Applying : ip pim isolate Applying : router bgp 65502 Applying : isolate Applying : router ospf p1 Applying : isolate Applying : router ospfv3 p1 Applying : isolate</pre> | すべての有効なプロトコルをメンテナンスモードにします ( <b>isolate</b> コマンドを使用)。<br><br>次のオプションを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>dont-generate-profile</b> : 有効なプロトコルの動的な検索が回避され、メンテナンス モードプロファイルに設定されているコマンドが実行されます。作成したメンテナンス モードプロファイルをシステムに使用させる場合は、このオプションを使用します。</li> <li>• <b>timeoutvalue</b> : 指定した分数の間、スイッチをメンテナンスモードのままにします。範囲は5～65535です。設定した時間が経過すると、スイッチは自動的に通常モードに戻ります。 <b>no system mode maintenance timeout</b> コマンドは、タイマーを無効にします。</li> <li>• <b>shutdown</b> : すべてのプロトコル、vPC ドメイン、管理インターフェイスを除くインターフェイスをシャットダウンします (<b>shutdown</b> コマンドを使用)。このオプションを指定すると中断が発生しますが、デフォルト (<b>isolate</b> コマンドを使用) の場合、中断は発生しません。</li> </ul> |

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                              | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | Maintenance mode operation successful.                                                                                    | <p>• <b>on-reload reset-reason</b> <i>reason</i> : 指定されているシステムクラッシュが発生した場合、スイッチは自動的にメンテナンスモードで起動します。<b>no system mode maintenance on-reload reset-reason</b> コマンドを使用すると、システムクラッシュ時にスイッチがメンテナンスモードで起動するのを回避できます。</p> <p>メンテナンスモードのリセット理由は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ HW_ERROR : ハードウェア エラー</li> <li>◦ SVC_FAILURE : 重大なサービス障害</li> <li>◦ KERN_FAILURE : カーネルパニック</li> <li>◦ WDOG_TIMEOUT : ウォッチドッグ タイムアウト</li> <li>◦ FATAL_ERROR : 致命的なエラー</li> <li>◦ LC_FAILURE : ラインカード障害</li> <li>◦ MATCH_ANY : 上記のいずれかの理由</li> </ul> <p>続行を促すプロンプトが表示されます。続行する場合は <b>y</b>、プロセスを終了する場合は <b>n</b> を入力します。</p> |
| ステップ 3 | <p><b>show system mode</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# show system mode System Mode: Maintenance</pre>            | <p>(任意)</p> <p>現在のシステム モードを表示します。</p> <p>スイッチはメンテナンスモードになっています。スイッチに対する目的のデバッグ操作やアップグレード操作を実行できます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| ステップ 4 | <p><b>copy running-config startup-config</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre> | <p>(任意)</p> <p>実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。このコマンドは、再起動後にメンテナンスモードを維持する場合に必要です。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

次に、スイッチのすべてのプロトコル、vPC ドメイン、およびインターフェイスをシャットダウンする例を示します。

```
switch(config)# system mode maintenance shutdown
```

Following configuration will be applied:

```
vpc domain 10
 shutdown
router bgp 65502
 shutdown
router ospf p1
 shutdown
router ospfv3 p1
 shutdown
system interface shutdown

Do you want to continue (y/n)? [no] y

Generating a snapshot before going into maintenance mode

Starting to apply commands...

Applying : vpc domain 10
Applying : shutdown
Applying : router bgp 65502
Applying : shutdown
Applying : router ospf p1
Applying : shutdown
Applying : router ospfv3 p1
Applying : shutdown

Maintenance mode operation successful.
```

次に、致命的なエラーが発生した場合に、スイッチを自動的にメンテナンスモードで起動する例を示します。

```
switch(config)# system mode maintenance on-reload reset-reason fatal_error
```

## グレースフル挿入のトリガー

デバッグ操作やアップグレード操作の実行が終了したら、グレースフル挿入をトリガーして、すべてのプロトコルを復元できます。

### はじめる前に

作成する通常モードプロファイルをシステムに使用させる場合は、「[メンテナンスモードプロファイルの設定](#)、(270 ページ)」を参照してください。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                            | 目的                                                                                                                                        |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <b>configure terminal</b><br><br>例：<br>switch# configure terminal<br>switch(config)#                                                    | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                              |
| ステップ 2 | <b>no system mode maintenance [dont-generate-profile]</b><br><br>例：<br>switch(config)# no system mode maintenance dont-generate-profile | すべての有効なプロトコルを通常モードにします ( <b>no isolate</b> コマンドを使用)。<br><br><b>dont-generate-profile</b> オプションを指定すると、有効なプロトコルの動的な検索が回避され、通常モードプロファイルに設定され |

|       | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 目的                                                                                                                                      |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <pre>Following configuration will be applied:  no ip pim isolate router bgp 65502 no isolate router ospf p1 no isolate router ospfv3 p1 no isolate  Do you want to continue (y/n)? [no] <b>y</b>  Starting to apply commands...  Applying : no ip pim isolate Applying : router bgp 65502 Applying : no isolate Applying : router ospf p1 Applying : no isolate Applying : router ospfv3 p1 Applying : no isolate  Maintenance mode operation successful.  Generating Current Snapshot</pre> | <p>ているコマンドが実行されます。作成した通常モードプロファイルをシステムに使用させる場合は、このオプションを使用します。</p> <p>続行を促すプロンプトが表示されます。続行する場合は<b>y</b>、プロセスを終了する場合は<b>n</b>を入力します。</p> |
| ステップ3 | <p><b>show system mode</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# show system mode System Mode: Normal</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>(任意)</p> <p>現在のシステムモードを表示します。スイッチは通常モードになっていて、完全に機能しています。</p>                                                                        |

## GIR 設定の確認

GIR の設定を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

| コマンド                                                             | 目的                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>show interface brief</b>                                      | インターフェイスの要約情報を表示します。                                                                                                    |
| <b>show maintenance on-reload reset-reasons</b>                  | スイッチがメンテナンス モードで起動されることになる、リセット理由を表示します。メンテナンス モードのリセット理由の説明については、「 <a href="#">グレースフル削除のトリガー (277 ページ)</a> 」を参照してください。 |
| <b>show maintenance profile [maintenance-mode   normal-mode]</b> | メンテナンス モードまたは通常モードのプロファイルの詳細を表示します。                                                                                     |



| コマンド                                                                                             | 目的                                                                                                                                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>show maintenance timeout</b>                                                                  | メンテナンス モードのタイムアウト期間を表示します。この期間後、スイッチは自動的に通常モードに戻ります。                                                                                                                           |
| <b>show {running-config   startup-config} mmode [all]</b>                                        | 実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーションのメンテナンス モードのセクションを表示します。 <b>all</b> オプションには、デフォルト値が含まれます。                                                                                   |
| <b>show snapshots</b>                                                                            | スイッチ上に存在するスナップショットを表示します。                                                                                                                                                      |
| <b>show snapshots comparesnapshot-name-1 snapshot-name-2 [summary   ipv4routes   ipv6routes]</b> | 2つのスナップショットの比較を表示します。<br><b>summary</b> オプションは、2つのスナップショット間の全体的な変更を確認するのに十分な情報のみ表示します。<br><b>ipv4routes</b> および <b>ipv6routes</b> オプションは、2つのスナップショット間のIPv4およびIPv6ルートの変更を表示します。 |
| <b>show snapshots dumpsnapshot-name</b>                                                          | スナップショットの取得時に生成された各ファイルの内容を表示します。                                                                                                                                              |
| <b>show snapshots sections</b>                                                                   | ユーザ指定のスナップショットセクションを表示します。                                                                                                                                                     |
| <b>show system mode</b>                                                                          | 現在のシステム モードを表示します。                                                                                                                                                             |





## 第 22 章

# PCAP SNMP パーサーの使用

この章の内容は、次のとおりです。

- [PCAP SNMP パーサーの使用, 283 ページ](#)

## PCAP SNMP パーサーの使用

PCAP SNMP パーサーは、.pcap 形式でキャプチャされた SNMP パケットを分析するツールです。スイッチ上で動作し、スイッチに送信されるすべての SNMP get、getnext、getbulk、set、trap、および response 要求の統計情報レポートを生成します。

PCAP SNMP パーサーを使用するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

- **debug packet-analysis snmp [mgmt0 | inband] durationseconds [output-file] [keep-pcap]** : Tshark を使用して指定の秒数間のパケットをキャプチャし、一時 .pcap ファイルに保存します。次に、その .pcap ファイルに基づいてパケットを分析します。

結果は出力ファイルに保存されます。出力ファイルが指定されていない場合は、コンソールに出力されます。**keep-pcap** オプションを使用する場合を除き、一時 .pcap ファイルはデフォルトで削除されます。パケットキャプチャは、デフォルトの管理インターフェイス (mgmt0)、または帯域内インターフェイスで実行できます。

例 :

```
switch# debug packet-analysis snmp duration 100
switch# debug packet-analysis snmp duration 100 bootflash:snmp_stats.log
switch# debug packet-analysis snmp duration 100 bootflash:snmp_stats.log keep-pcap
switch# debug packet-analysis snmp inband duration 100
switch# debug packet-analysis snmp inband duration 100 bootflash:snmp_stats.log
switch# debug packet-analysis snmp inband duration 100 bootflash:snmp_stats.log keep-pcap
```

- **debug packet-analysis snmpinput-pcap-file [output-file]** : 既存の .pcap ファイルにあるキャプチャしたパケットを分析します。

例 :

```
switch# debug packet-analysis snmp bootflash:snmp.pcap
switch# debug packet-analysis snmp bootflash:snmp.pcap bootflash:snmp_stats.log
```

次に、**debug packet-analysis snmp [mgmt0 | inband] duration** コマンドの統計情報レポートの例を示します。

```
switch# debug packet-analysis snmp duration 10
Capturing on eth0
36
wireshark-cisco-mtc-dissector: ethertype=0xde09, devicetype=0x0
wireshark-broadcom-rcpu-dissector: ethertype=0xde08, devicetype=0x0

Started analyzing. It may take several minutes, please wait!

Statistics Report
-----
SNMP Packet Capture Duration: 0 seconds
Total Hosts: 1
Total Requests: 18
Total Responses: 18
Total GET: 0
Total GETNEXT: 0
Total WALK: 1 (NEXT: 18)
Total GETBULK: 0
Total BULKWALK: 0 (BULK: 0)
Total SET: 0
Total TRAP: 0
Total INFORM: 0

Hosts          GET  GETNEXT  WALK (NEXT)  GETBULK  BULKWALK (BULK)  SET  TRAP  INFORM  RESPONSE
-----
10.22.27.244   0      0          1 (18)       0         0 (0)            0    0      0       18

Sessions
-----
1

MIB Objects GET  GETNEXT  WALK (NEXT)  GETBULK (Non_rep/Max_rep)  BULKWALK (BULK, Non_rep/Max_rep)
-----
ifName       0      0          1 (18)       0                                0

SET          Hosts
-----
0           10.22.27.244
```



## 第 23 章

# ソフトウェアメンテナンスアップグレード (SMU) の実行

この章では、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチでソフトウェアメンテナンスアップグレード (SMU) を実行する方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [SMU について, 285 ページ](#)
- [SMU の前提条件, 286 ページ](#)
- [SMU の注意事項と制約事項, 287 ページ](#)
- [Cisco NX-OS のソフトウェアメンテナンスアップグレードの実行, 287 ページ](#)

## SMU について

ソフトウェアメンテナンスアップグレード (SMU) は、特定の障害の修正を含むパッケージファイルです。SMUは、直近の問題に対処するために作成され、新しい機能は含まれていません。通常、SMUがデバイスの動作に大きな影響を及ぼすことはありません。SMUのバージョンは、アップグレードするパッケージのメジャー、マイナー、およびメンテナンスバージョンに同期されます。

SMUの影響は次のタイプによって異なります。

- プロセスの再起動SMU：アクティベーション時にプロセスまたはプロセスのグループの再起動を引き起こします。
- リロードSMU：スーパーバイザおよびラインカードの平行リロードを引き起こします。

SMUは、メンテナンスリリースの代わりになるものではありません。直近の問題に対する迅速な解決策を提供します。SMUで修正された障害は、メンテナンスリリースにすべて統合されます。

デバイスを新しい機能やメンテナンスリリースにアップグレードする詳細については、『*Cisco Nexus 3000 Series NX-OS Software Upgrade and Downgrade Guide*』を参照してください。



(注) SMU をアクティブにすると、以前の SMU、または SMU が適用されるパッケージが自動的に非アクティブ化されることはありません。

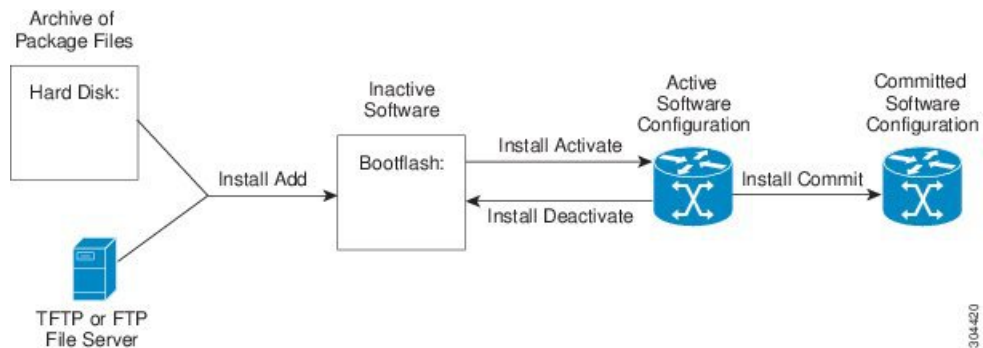
## パッケージ管理

デバイスでの SMU パッケージの追加およびアクティブ化の一般的な手順は次のとおりです。

- 1 パッケージファイルをローカルストレージデバイスまたはファイルサーバにコピーします。
- 2 **install add** コマンドを使用してデバイス上でパッケージを追加します。
- 3 **install activate** コマンドを使用して、デバイス上でパッケージをアクティブ化します。
- 4 **install commit** コマンドを使用して、現在のパッケージのセットをコミットします。
- 5 (任意) 必要に応じて、パッケージを非アクティブ化して削除します。

次の図は、パッケージの管理プロセスの主要な手順について説明します。

図 2: SMU パッケージを追加、アクティブ化およびコミットするプロセス



3104-420

## SMU の前提条件

アクティブ化または非アクティブ化するパッケージでは、これらの前提条件が満たされている必要があります。

- 適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザグループの割り当てが原因でコマンドを使用できないと考えられる場合、AAA 管理者に連絡してください。
- すべてのラインカードが取り付けられ、正常に動作していることを確認します。たとえば、ラインカードのブート中、ラインカードのアップグレード中または交換中、または自動スイッチオーバー アクティビティが予想される場合は、パッケージのアクティブ化や非アクティブ化はできません。

## SMU の注意事項と制約事項

SMU に関する注意事項および制約事項は次のとおりです。

- パッケージによっては、他のパッケージのアクティブ化または非アクティブ化が必要です。SMU に相互に依存関係がある場合は、前の SMU をまずアクティブにしないとそれらをアクティブ化できません。
- アクティブ化するパッケージは、現在のアクティブなソフトウェアのセットと互換性がある必要があります。
- 1 つのコマンドで複数の SMU をアクティブにできません。
- パッケージの互換性が確認できた場合に限り、アクティブ化が実行されます。競合がある場合は、エラーメッセージが表示されます。
- ソフトウェアパッケージをアクティブ化する間、その他の要求はすべての影響のあるノードで実行できません。これと同様のメッセージが表示されると、パッケージのアクティブ化は完了します。

```
Install operation 1 completed successfully at Thu Jan 9 01:19:24 2014
```

- 各 CLI インストール要求には要求 ID が割り当てられます。これは後でイベントを確認するのに使用できます。
- ソフトウェアメンテナンスアップグレードを実行後、デバイスを新しい Cisco Nexus 3000 ソフトウェア リリースにアップグレードする場合、新しいイメージで以前の Cisco Nexus 3000 リリースと SMU パッケージファイルの両方が上書きされます。

## Cisco NX-OS のソフトウェアメンテナンスアップグレードの実行

### パッケージインストールの準備

SMU パッケージのインストールの準備に関する情報を収集するには、複数の **show** コマンドを使用する必要があります。

#### はじめる前に

ソフトウェアの変更が必要かどうかを確認します。

使用中のシステムで新しいパッケージがサポートされていることを確認する。ソフトウェアパッケージによっては、他のパッケージまたはパッケージバージョンをアクティブにする必要があります。特定のラインカードのみをサポートするパッケージもあります。

そのリリースに関連する重要な情報についてリリース ノートを確認し、そのパッケージとデバイス設定の互換性の有無を判断する。

システムの動作が安定していて、ソフトウェアの変更に対応できることを確認する。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                        | 目的                                                                                                         |
|--------|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <b>show install active</b><br><br>例：<br>switch# show install active | デバイス上のアクティブなソフトウェアを表示します。デバイスに追加する必要があるソフトウェアを決定するため、またインストール操作完了後にアクティブなソフトウェアのレポートと比較するために、このコマンドを使用します。 |
| ステップ 2 | <b>show module</b><br><br>例：<br>switch# show module                 | すべてのモジュールが安定状態であることを確認します。                                                                                 |
| ステップ 3 | <b>show clock</b><br><br>例：<br>switch# show clock                   | システムクロックが正しいことを確認します。ソフトウェア操作は、デバイスクロックの時刻に基づいて証明書を使用します。                                                  |

次に、システム全体のアクティブなパッケージを表示する例を示します。この情報を使用して、ソフトウェアの変更が必要かどうかを判断します。

```
switch# show install active
Active Packages:
Active Packages on Module #3:

Active Packages on Module #6:

Active Packages on Module #7:
Active Packages on Module #22:

Active Packages on Module #30:
```

次に、現在のシステムクロックの設定を表示する例を示します。

```
switch# show clock
02:14:51.474 PST Wed Jan 04 2014
```

## ローカルストレージデバイスまたはネットワークサーバへのパッケージファイルのコピー

デバイスがアクセスできるローカルストレージデバイスまたはネットワークファイルサーバに SMU パッケージファイルをコピーする必要があります。この作業が完了したら、パッケージをデバイスに追加しアクティブにできます。

デバイスにパッケージファイルを保存する必要がある場合は、ハードディスクにファイルを保存することを推奨します。ブートデバイスは、パッケージを追加しアクティブするローカルディスクです。デフォルトのブートデバイスは `bootflash:` です。





## ヒント

ローカルストレージデバイスにパッケージファイルをコピーする前に、**dir** コマンドを使用して、必要なパッケージファイルがデバイスに存在するかどうかを確認します。

SMU パッケージファイルがリモート TFTP、FTP、または SFTP サーバにある場合、ローカルストレージデバイスにファイルをコピーできます。ファイルがローカルストレージデバイスに置かれた後、パッケージをそのストレージデバイスからデバイスに追加しアクティブにできます。次のサーバプロトコルがサポートされます。

- TFTP : ネットワークを介して、あるコンピュータから別のコンピュータへファイルを転送できるようにします。通常は、クライアント認証 (たとえば、ユーザ名およびパスワード) を使用しません。これは FTP の簡易版です。



(注) パッケージファイルによっては、大きさが 32 MB を超える場合もありますが、一部のベンダーにより提供される TFTP サービスではこの大きさのファイルがサポートされていない場合があります。32 MB を超えるファイルをサポートする TFTP サーバにアクセスできない場合は、FTP を使用してファイルをダウンロードします。

- ファイル転送プロトコル : FTP は TCP/IP プロトコルスタックの一部であり、ユーザ名とパスワードが必要です。
- SSH ファイル転送プロトコル : SFTP は、セキュリティパッケージの SSHv2 機能の一部で、セキュアなファイル転送を提供します。

SMU パッケージファイルをネットワークファイルサーバまたはローカルストレージデバイスに転送した後に、ファイルを追加しアクティブ化することができます。

## パッケージの追加とアクティブ化

ローカルストレージデバイスまたはリモート TFTP、FTP、SFTP サーバに保存されている SMU パッケージファイルをデバイスに追加できます。



(注) アクティブ化する SMU パッケージは、現在アクティブで動作可能なソフトウェアと互換性がなければなりません。アクティブ化が試行されると、システムは自動互換性チェックを実行し、パッケージがデバイス上でアクティブなその他のソフトウェアと互換性があることを確認します。競合がある場合は、エラーメッセージが表示されます。アクティブ化が実行されるのは、すべての互換性が確認できた場合だけです。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <p><b>install add</b><i>filename</i> [<b>activate</b>]</p> <p>例 :</p> <pre>switch# install add bootflash: n3000-uk9.6.0.2.U6.0.1.CSCab00001.bin</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <p>ローカルストレージデバイスまたはネットワークサーバからイメージソフトウェアファイルを解凍してブートフラッシュおデバイスにインストールされているすべてのアクティブスーパーバイザおよびスタンバイスーパーバイザに追加します。</p> <p><i>filename</i> 引数は、次の形式をとることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>bootflash:</b><i>filename</i></li> <li>• <b>ftp://hostname-or-ipaddress/directory-path/filename</b></li> <li>• <b>ftp://username:password@hostname-or-ipaddress/directory-path/filename</b></li> <li>• <b>sftp://hostname-or-ipaddress/directory-path/filename</b></li> </ul> |
| ステップ 2 | <p><b>show install inactive</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch# show install inactive</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <p>(任意)</p> <p>デバイス上の非アクティブなパッケージを表示します。前述の手順で追加されたパッケージが表示に出ることを確認します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| ステップ 3 | <p><b>install activate</b><i>filename</i> [<b>test</b>]</p> <p>例 :</p> <pre>switch# install activate n3000-uk9.6.0.2.U6.0.1.CSCab00001.bin</pre> <p>例 :</p> <pre>switch# install activate n3000-uk9.6.0.2.U6.0.1.CSCab00001.bin Install operation 1 completed successfully at Thu Jan 9 01:27:56 2014</pre> <p>例 :</p> <pre>switch# install activate n3000-uk9.6.0.2.U6.0.1.CSCab00001.bin Install operation 2 !!WARNING!! This patch will get activated only after a reload of the switch. at Sun Mar 9 00:42:12 2014</pre> | <p>デバイスに追加されたパッケージをアクティブにします。SMUパッケージは、アクティブにされるまで無効のままです。 (<b>install activate</b> コマンドを使用して、パッケージが前にアクティブにされた場合は、この手順を省略します。)</p> <p>(注) パッケージ名を部分的に入力してから ? を押すと、アクティブ化に使用できるすべての候補が表示されます。候補が 1 つしかない場合に Tab キーを押すと、パッケージ名の残りの部分が自動入力されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                        |
| ステップ 4 | <p>すべてのパッケージがアクティブ化されるまで手順 3 を繰り返します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>必要に応じて他のパッケージもアクティブ化します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| ステップ 5 | <p><b>show install active</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch# show install active</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>(任意)</p> <p>すべてのアクティブなパッケージを表示します。このコマンドを使用して、正しいパッケージがアクティブであるかどうかを判断します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

## アクティブなパッケージセットのコミット

SMUパッケージがデバイス上でアクティブになると、それは現在の実行コンフィギュレーションの一部になります。パッケージのアクティブ化をシステム全体のリロード間で持続させるには、デバイス上でパッケージをコミットする必要があります。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                               | 目的                                                      |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <b>install commitfilename</b><br><br>例：<br>switch# install commit<br>n3000-uk9.6.0.2.U6.0.1.CSCab00001.bin | 現在のパッケージのセットをコミットして、デバイスが再起動したときにこれらのパッケージが使用されるようにします。 |
| ステップ 2 | <b>show install committed</b><br><br>例：<br>switch# show install committed                                  | (任意)<br>コミットされたパッケージを表示します。                             |

## パッケージの非アクティブ化と削除

パッケージを非アクティブ化すると、そのデバイスではアクティブではなくなりますが、パッケージファイルはブートディスクに残ります。パッケージファイルは、後で再アクティブ化できます。また、ディスクから削除もできます。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                       | 目的                                                                                                                                                          |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <b>install deactivatefilename</b><br><br>例：<br>switch# install deactivate<br>n3000-uk9.6.0.2.U6.0.1.CSCab00001.bin | デバイスに追加されたパッケージを非アクティブ化し、ラインカードのパッケージ機能をオフにします。<br><br>(注) パッケージ名を部分的に入力してから?を押すと、非アクティブ化に使用できるすべての候補が表示されます。候補が1つしかない場合に Tab キーを押すと、パッケージ名の残りの部分が自動入力されます。 |

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 2 | <b>show install inactive</b><br><br>例 :<br><pre>switch# show install inactive</pre>                                                                                                                                                                                                                  | (任意)<br>デバイス上の非アクティブなパッケージを表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| ステップ 3 | <b>install commit</b><br><br>例 :<br><pre>switch# install commit</pre>                                                                                                                                                                                                                                | (任意)<br>現在のパッケージのセットをコミットして、デバイスが再起動したときにこれらのパッケージが使用されるようにします。<br><br>(注) パッケージを削除できるのは、非アクティブ化操作がコミットされた場合だけです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| ステップ 4 | <b>install remove {filename   inactive}</b><br><br>例 :<br><pre>switch# install remove n3000-uk9.6.0.2.U6.0.1.CSCab00001.bin Proceed with removing n3000-uk9.6.0.2.U6.0.1.CSCab00001.bin? (y/n)? [n] y</pre><br>例 :<br><pre>switch# install remove inactive Proceed with removing? (y/n)? [n] y</pre> | (任意)<br>非アクティブなパッケージを削除します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>削除できるのは非アクティブなパッケージだけです。</li> <li>パッケージは、デバイスのすべてのラインカードから非アクティブにされた場合にのみ削除できます。</li> <li>パッケージの非アクティブ化はコミットする必要があります。</li> <li>ストレージデバイスから特定の非アクティブなパッケージを削除するには、<b>install remove</b> コマンドに <i>filename</i> 引数を指定して使用します。</li> <li>システムのすべてのノードから非アクティブなパッケージをすべて削除するには、<b>install remove</b> コマンドと <b>inactive</b> キーワードを使用します。</li> </ul> |

## インストール ログ情報の表示

インストール ログは、インストール動作の履歴についての情報を提供します。インストール動作が実行されるたびに、その動作に対して番号が割り当てられます。

- **show install log** コマンドを使用して、インストール動作の成功および失敗の両方について情報を表示します。

- 引数を指定しない **show install log** コマンドを使用して、すべてのインストール動作のサマリーを表示します。ある動作に固有の情報を表示するには、*request-id* 引数を指定します。ファイルの変更、リロードできなかったノード、その他プロセスに影響する操作など、特定の操作の詳細を表示するには、**detail** キーワードを使用します。

次に、すべてのインストール要求の情報を表示する例を示します。

```
switch# show install log
Thu Jan 9 01:26:09 2014
Install operation 1 by user 'admin' at Thu Jan 9 01:19:19 2014
Install add bootflash: n3000-uk9.6.0.2.U6.0.1.CSCab00001.bin
Install operation 1 completed successfully at Thu Jan 9 01:19:24 2014
-----
Install operation 2 by user 'admin' at Thu Jan 9 01:19:29 2014
Install activate n3000-uk9.6.0.2.U6.0.1.CSCab00001.bin
Install operation 2 completed successfully at Thu Jan 9 01:19:45 2014
-----
Install operation 3 by user 'admin' at Thu Jan 9 01:20:05 2014
Install commit n3000-uk9.6.0.2.U6.0.1.CSCab00001.bin
Install operation 3 completed successfully at Thu Jan 9 01:20:08 2014
-----
Install operation 4 by user 'admin' at Thu Jan 9 01:20:21 2014
Install deactivate n3000-uk9.6.0.2.U6.0.1.CSCab00001.bin
Install operation 4 completed successfully at Thu Jan 9 01:20:36 2014
-----
Install operation 5 by user 'admin' at Thu Jan 9 01:20:43 2014
Install commit n3000-uk9.6.0.2.U6.0.1.CSCab00001.bin
Install operation 5 completed successfully at Thu Jan 9 01:20:46 2014
-----
Install operation 6 by user 'admin' at Thu Jan 9 01:20:55 2014
Install remove n3000-uk9.6.0.2.U6.0.1.CSCab00001.bin
Install operation 6 completed successfully at Thu Jan 9 01:20:57 2014
```





## 第 24 章

# タップ アグリゲーションおよび MPLS ストリッピングの設定

この章の内容は、次のとおりです。

- [タップ アグリゲーションに関する情報, 295 ページ](#)
- [MPLS ストリッピングに関する情報, 298 ページ](#)
- [タップ アグリゲーションの設定, 300 ページ](#)
- [タップ アグリゲーションの設定の確認, 303 ページ](#)
- [MPLS ストリッピングの設定, 303 ページ](#)
- [MPLS ラベルの設定の確認, 307 ページ](#)

## タップ アグリゲーションに関する情報

### ネットワーク タップ

さまざまなメソッドを使用して、パケットをモニタできます。1つのメソッドでは、物理ハードウェア タップが使用されます。

ネットワーク タップは、ネットワークを通過するデータへの直接インラインアクセスが可能なので、トラフィックのモニタリングに非常に役立ちます。多くの場合、サードパーティがネットワーク内の2ポイント間のトラフィックをモニタするのに適しています。ポイント A と B の間のネットワークが物理ケーブルで構成されている場合、ネットワーク タップがこのモニタリングを実現する最良の方法になります。ネットワーク タップには、少なくとも3つのポート (A ポート、B ポート、およびモニタ ポート) があります。A ポートと B ポートの間に挿入されるタップは、すべてのトラフィックをスムーズに通過させますが、同じデータをそのモニタ ポートにもコピーするため、サードパーティがリッスンできるようになります。

タップには次の利点があります。

- 全二重データ伝送を処理可能
- 目立たず、ネットワークによって検出されることがなく、物理または論理アドレッシングが不要
- 一部のタップは、分散タップを構築する機能のあるフル インライン パワーをサポート

ネットワークのエッジまたは仮想エッジにおけるサーバ間データ通信に対する可視性を確保しようとする場合、またはネットワークのインターネットエッジで侵入防御システム (IPS) アプライアンスにトラフィックのコピーを提供する場合でも、ネットワーク タップは、環境内のほぼすべての場所で使用できます。ただし、大規模環境にネットワーク タップを導入する場合、多くのコストがかかり、運用の複雑さが増し、ケーブル配線の問題が生じます。

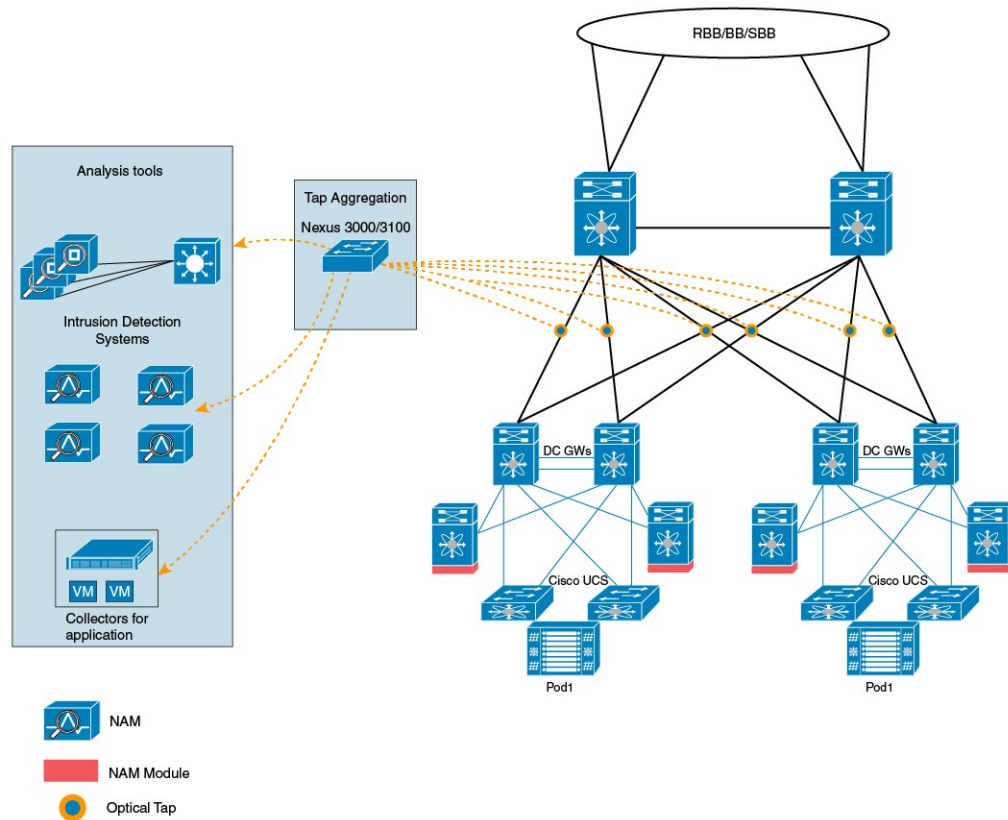
## タップアグリゲーション

データセンターにおけるモニタリングおよびトラブルシューティングタスクに役立つ代替ソリューションは、複数タップの集約を可能にし、複数のモニタリングシステムに接続するためだけに指定されているデバイスを使用するソリューションです。このソリューションは、タップアグリゲーションと呼ばれます。タップアグリゲーションスイッチは、監視する必要があるパケットを



処理するネットワークファブリック内の特定のポイントにすべてのモニタリングデバイスを直接リンクします。

図 3: タップアグリゲーションスイッチソリューション



タップアグリゲーションスイッチソリューションでは、Cisco Nexus 3000 または Cisco Nexus 3100 シリーズスイッチは、パケットのモニタリングに都合の良い、ネットワーク内のさまざまなポイントに接続されます。各ネットワーク要素から、スイッチドポートアナライザ (SPAN) または光タップを使用して、このタップアグリゲーションスイッチにトラフィックフローを直接送信できます。タップアグリゲーションスイッチ自体は、ネットワークファブリック内のイベントをモニタするために使用されるすべての分析ツールに直接接続されます。これらのモニタリングデバイスには、リモートモニタリング (RMON) プロブ、アプリケーションファイアウォール、IPS デバイス、およびパケットスニファーツールが含まれます。

ネットワーク要素に接続されている特定のポートのセットを介して、トラフィックのスイッチへの到達を許可する設定を指定して、タップアグリゲーションスイッチを動的にプログラミングできます。特定のトラフィックをフィルタ処理して、1つ以上のツールにリダイレクトする、複数の一致条件とアクションも設定できます。

## タップアグリゲーションの注意事項と制約事項

タップアグリゲーションに関する注意事項と制約事項は次のとおりです。

- タップアグリゲーションポリシーとともに適用されるインターフェイスは、レイヤ2にある必要があります。レイヤ3インターフェイスはポリシーを指定して設定できますが、そのポリシーは機能しなくなります。
- 各ルールは、1つの固有の一致基準とのみ関連付ける必要があります。
- すべてのタップアグリゲーションインターフェイスが、同じACLを共有する必要があります。一致基準には入力インターフェイスが含まれているため、複数のインターフェイス間に複数のACLは必要ありません。
- **vlan-set** アクションと **vlan-strip** アクションは、常に **redirect** アクションの後に指定する必要があります。そうしないと、エントリが無効であるとして拒否されます。
- 拒否ルールでは、**redirect**、**vlan-set**、および **vlan-strip** などのアクションはサポートされません。
- ポリシー用インターフェイスのリストなどの入力リストを入力する場合は、スペースではなくカンマでエントリを区切る必要があります。例、`port-channel50,ethernet1/12,port-channel20`。
- ポリシーにターゲットインターフェイスを指定する場合、短縮形ではなく、完全なインターフェイスタイプを入力する必要があります。例、`eth1/1` ではなく `ethernet1/1`、`po50` ではなく `port-channel 50` と入力します。

## MPLS ストリッピングに関する情報

### MPLS の概要

マルチプロトコルラベルスイッチング (MPLS) では、レイヤ2スイッチングのパフォーマンスおよびトラフィック管理機能と、レイヤ3ルーティングの拡張性、柔軟性、およびパフォーマンスが統合されています。

MPLS アーキテクチャには、次の利点があります。

- データは、レイヤ2テクノロジーの任意の組み合わせを使用して転送できます。
- サポートは、すべてのレイヤ3プロトコルに対して提供されています。
- 今日のネットワークで提供される最も優れた拡張性を備えています。

## MPLS ヘッダーストリッピング

Cisco Nexus 3172 の入力ポートは、さまざまな MPLS パケットタイプを受信します。MPLS ネットワークの各データパケットには、1 つ以上のラベルヘッダーがあります。これらのパケットはリダイレクト ACL に基づいてリダイレクトされます。

ラベルは、Forwarding Equivalence Class (FEC) を特定するために使用される短い 4 バイトの固定長のローカルで有効な識別子です。特定のパケットに設定されているラベルは、そのパケットが割り当てられている FEC を表します。次のコンポーネントがあります。

- Label : ラベルの値 (非構造化) 、 20 ビット
- Exp : 試験的使用、 3 ビット、現在、サービスクラス (CoS) フィールドとして使用
- S : スタックの一番下、 1 ビット
- TTL : 存続可能時間、 8 ビット

MPLS ラベルはレイヤ 2 ヘッダーとレイヤ 3 ヘッダーの間に適用されるため、そのヘッダーとデータは、標準のバイトオフセットには含まれません。標準のネットワークモニタリングツールでは、このトラフィックのモニタリングと分析はできません。標準のネットワークモニタリングツールでこのトラフィックをモニタリングできるようにするには、単一ラベルのパケットから MPLS ラベルヘッダーを削除して、T キャッシュデバイスにリダイレクトします。

複数のラベルヘッダーがある MPLS パケットは、MPLS ヘッダーが削除されずに、ディープパケットインスペクション (DPI) デバイスに送信されます。

## MPLS ストリッピングに関する注意事項と制限事項

MPLS ストリッピングに関する注意事項と制約事項は次のとおりです。

- グローバルタップアグリゲーションモードが有効であることを確認します。
- MPLS ストリッピングに関係する入力および出力インターフェイスで、**mode tap-aggregation** が有効になっている必要があります。
- 目的の宛先にパケットを転送するためには、入力インターフェイスのリダイレクトアクションを使用してタップアグリゲーション ACL を設定する必要があります。
- システムでは 1 つのタップ ACL のみサポートされます。
- 削除されたパケットが出力される出力インターフェイスは、許可 VLAN としての VLAN 1 が存在するインターフェイスである必要があります。出力インターフェイスは、デフォルトですべての VLAN が許可されるトランクとして設定することを推奨します。
- MPLS ストリッピングを有効にするには、MPLS のコントロールプレーンポリシング (CoPP) クラス (copp-s-mpls) を設定する必要があります。
- MPLS ストリッピングパケットの場合、port-channel ロードバランシングがサポートされません。

- レイヤ 3 ヘッダー ベースのハッシュおよびレイヤ 4 ヘッダー ベースのハッシュはサポートされていますが、レイヤ 2 ヘッダー ベースのハッシュはサポートされていません。
- MPLS ストリッピング時、VLAN では MPLS ラベルも削除されます。
- MPLS ストリッピングは、Cisco Nexus 3100 シリーズ スイッチでのみサポートされています。

## タップアグリゲーションの設定

### タップアグリゲーションの有効化

タップアグリゲーションを有効にしたら、**copy running-config startup-config** コマンドを実行して、スイッチをリロードしてください。

#### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                           | 目的                                                                                                                                                                       |
|--------|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                      | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                             |
| ステップ 2 | switch (config)# <b>[no] hardware profile tap-aggregation [l2drop]</b> | タップアグリゲーションを有効にし、VLAN タギングに必要なエントリをインターフェイステーブルに予約します。<br><br><b>l2drop</b> オプションは、タップインターフェイス上で IP 以外のトラフィック入力をドロップします。<br><br>このコマンドの <b>no</b> 形式を使用すると、この機能が無効化されます。 |
| ステップ 3 | switch (config)# <b>copy running-config startup-config</b>             | リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。                                                                                                       |
| ステップ 4 | switch (config)# <b>reload</b>                                         | Cisco NX-OS ソフトウェアをリロードします。                                                                                                                                              |

次に、スイッチ上でタップアグリゲーションをグローバルに設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# hardware profile tap-aggregation
switch(config)# copy running-config startup-config
switch(config)# reload
```

## タップアグリゲーションポリシーの設定

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                                            | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                                                                                       | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>ip access-list</b> <i>access-list-name</i>                                                                           | アクセス コントロール リストを作成し、IP アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| ステップ 3 | switch(config-acl)# <b>statistics per-entry</b>                                                                                         | 各エントリで許可または拒否されるパケット数の統計情報の記録を開始します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ステップ 4 | switch(config-acl)# [ <b>no</b> ]<br><b>permit</b> <i>protocol</i> <i>source</i> <i>destination</i> <i>match-criteria</i> <i>action</i> | <p>条件に一致するトラフィックを許可する、IP アクセス コントロール リスト (ACL) のルールを作成します。</p> <p>このコマンドの <b>no</b> 形式は、ポリシーから許可ルールを削除します。</p> <p><i>match-criteria</i> は、次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ingress-intf</b></li> </ul> <p>(注) 入力インターフェイスはレイヤ 2 のみの一致基準 (EtherType またはポート チャネル) になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>vlan</b></li> <li>• <b>vlan-priority</b></li> </ul> <p>(注) 各ポリシーには、一意の一致条件と関連付けられた1つのルールのみ設定できます。</p> <p><i>action</i> は、次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>redirect</b></li> <li>• <b>priority</b></li> <li>• <b>set-vlan</b></li> </ul> |

|        | コマンドまたはアクション                                                                       | 目的                                                                                                                                                                    |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        |                                                                                    | IP 以外の Ethertype で一致するタップ ACL には、0 よりも大きい優先度を指定する必要があります。                                                                                                             |
| ステップ 5 | switch(config-acl)# <b>[no] deny protocolsourcedestinationmatch-criteriaaction</b> | 条件に一致するトラフィックを拒否する、IP アクセス コントロール リスト (ACL) のルールを作成します。<br><br>このコマンドの <b>no</b> 形式は、ポリシーから拒否ルールを削除します。<br><br><b>redirect</b> および <b>vlan-set</b> アクションは、サポートしていません。 |

次に、タップアグリゲーションポリシーを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip access-list test
switch(config-acl)# statistics per-entry
switch(config-acl)# permit ip any any ingress-intf Ethernet1/4 redirect Ethernet1/8
switch(config-acl)# permit ip any any ingress-intf Ethernet1/6 redirect
Ethernet1/1,Ethernet1/2,port-channel7,port-channel8,Ethernet1/12,Ethernet1/13
switch(config-acl)# permit tcp any eq www any ingress-intf Ethernet1/10 redirect port-channel4
switch(config-acl)# deny ip any any
```

## タップアグリゲーションポリシーのインターフェイスへのアタッチ

タップアグリゲーションポリシーをインターフェイスにアタッチするには、タップアグリゲーションモードを開始し、タップアグリゲーションが設定された ACL をインターフェイスに適用します。ポリシーをアタッチするインターフェイスがレイヤ 2 インターフェイスであることを確認します。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                         | 目的                                                                                                |
|--------|------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                    | グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。                                                                        |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>interfacetypeslot/port</b>        | 指定したインターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。                                                      |
| ステップ 3 | switch (config-if)# <b>[no] mode tap-aggregation</b> | ACL と一致基準とアクション基準のアタッチメントを許可します。<br><br>このコマンドの <b>no</b> 形式は、タップアグリゲーションポリシーを設定した ACL のインターフェイスへ |

|        | コマンドまたはアクション                                                            | 目的                                                                                                   |
|--------|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        |                                                                         | のアタッチメントを禁止します。インターフェイスから ACL を削除するには、 <b>no ip port access-group</b> コマンドを使用します。                    |
| ステップ 4 | <b>switch(config-if)# [no] ip port access-group access-list-name in</b> | IPv4 アクセスコントロールリスト (ACL) をポート ACL としてインターフェイスに適用します。<br>このコマンドの <b>no</b> 形式は、インターフェイスから ACL を削除します。 |

次に、タップアグリゲーション ポリシーをインターフェイスにアタッチする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet1/2
switch (config-if)# mode tap-aggregation
switch(config-if)# ip port access-group test in
```

## タップアグリゲーションの設定の確認

| コマンド                                        | 目的                                                      |
|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| <b>show ip access-list access-list-name</b> | すべての IPv4 アクセス コントロール リスト (ACL) または特定の IPv4 ACL を表示します。 |

次に、IPv4 ACL を表示する例を示します。

```
switch(config)# show ip access-list test
IPV4 ACL test
 10 permit ip any any ethertype 0x800 ingress-intf Ethernet1/4 redirect Ethernet1/8
 20 permit ip any any ingress-intf Ethernet1/6 redirect Ethernet1/1,Ethernet1/2,port-channel7,port-channel8,Ethernet1/12,Ethernet1/13
 30 permit tcp any eq www any ethertype 0x800 ingress-intf Ethernet1/10 redirect port-channel4
 40 deny ip any any
```

## MPLS ストリッピングの設定

### MPLS ストリッピングの有効化

MPLS ストリッピングをグローバルに有効にできます。

手順

|        | コマンドまたはアクション                           | 目的                                                                             |
|--------|----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>      | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                   |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>[no] mpls strip</b> | MPLS ストリッピングをグローバルに有効にします。<br>このコマンドの <b>no</b> 形式を使用すると、MPLS ストリッピングが無効化されます。 |

次に、MPLS ストリッピングを有効にする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# mpls strip
```

## MPLS ラベルの追加と削除

デバイスは、フレームがモードタップインターフェイスで不明なラベルを受信するたびにラベルを動的に学習できます。また、次のコマンドを使用して、スタティック MPLS ラベルを追加または削除できます。

はじめる前に

- タップアグリゲーションの有効化
- タップアグリゲーションポリシーの設定
- タップアグリゲーションポリシーのインターフェイスへのアタッチ

手順

|        | コマンドまたはアクション                                           | 目的                                                                         |
|--------|--------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                      | グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。                                                 |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>mpls strip label/label</b>          | 指定したスタティック MPLS ラベルを追加します。<br>ラベルの値の範囲は 1 ~ 1048575 です。                    |
| ステップ 3 | switch(config)# <b>no mpls strip label/label   all</b> | 指定したスタティック MPLS ラベルを削除します。<br><b>all</b> オプションは、すべてのスタティック MPLS ラベルを削除します。 |



|  | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--|--------------|----|
|--|--------------|----|

次に、スタティック MPLS ラベルを追加する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# mpls strip label 100
switch(config)# mpls strip label 200
switch(config)# mpls strip label 300
```

次に、スタティック MPLS ラベルを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no mpls strip label 200
```

次に、すべてのスタティック MPLS ラベルを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no mpls strip label all
```

## ラベルエントリのクリア

次のコマンドを使用して、MPLS ラベルテーブルからダイナミック ラベルエントリをクリアできます。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                  | 目的                                     |
|--------|-----------------------------------------------|----------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>clear mpls strip label dynamic</b> | MPLS ラベル テーブルからダイナミック ラベル エントリをクリアします。 |

次に、ダイナミック ラベル エントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear mpls strip label dynamic
```

## MPLS ストリッピング カウンタのクリア

すべてのソフトウェアおよびハードウェア MPLS ストリッピング カウンタをクリアできます。

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                             | 目的                             |
|--------|------------------------------------------|--------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>clear counters mpls strip</b> | すべての MPLS ストリッピング カウンタをクリアします。 |

次に、すべての MPLS ストリッピング カウンタをクリアする例を示します。

```
switch# clear counters mpls strip
switch# show mpls strip labels
MPLS Strip Labels:
  Total      : 15000
  Static     : 2
Legend:      * - Static Label
Interface - where label was first learned
Idle-Age   - Seconds since last use
SW-Counter- Packets received in Software
HW-Counter- Packets switched in Hardware
-----
Label      Interface      Idle-Age  SW-Counter  HW-Counter
-----
4096       Eth1/44                15          0           0
8192       Eth1/44                17          0           0
12288      Eth1/44                15          0           0
16384      Eth1/44                39          0           0
20480      Eth1/44                47          0           0
24576      Eth1/44                 7          0           0
28672      Eth1/44                 5          0           0
36864      Eth1/44                 7          0           0
40960      Eth1/44                19          0           0
45056      Eth1/44                 9          0           0
49152      Eth1/44                45          0           0
53248      Eth1/44                 9          0           0
```

## MPLS ラベル エージングの設定

使用されていないダイナミック MPLS ラベルがエージアウトする時間を定義できます。

手順

|        | コマンドまたはアクション                                   | 目的                                |
|--------|------------------------------------------------|-----------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>              | グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。        |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>mpls strip label-ageage</b> | ダイナミック MPLS ラベルがエージアウトする時間を指定します。 |

次に、ダイナミック MPLS ラベルのラベル エージを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# mpls strip label-age 300
```

## 宛先 MAC アドレスの設定

削除された出力フレームの宛先 MAC アドレスを設定できます。

手順

|        | コマンドまたはアクション                                           | 目的                                                                                                                                                                                                                               |
|--------|--------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                      | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                                                                                     |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>mpls strip dest-mac mac-address</b> | <p>ヘッダーが削除された出力フレームの宛先 MAC アドレスを指定します。</p> <p>MAC アドレスは、次の 4 つのいずれかの形式で指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• E.E.E</li> <li>• EE-EE-EE-EE-EE-EE</li> <li>• EE:EE:EE:EE:EE:EE</li> <li>• EEEE.EEEE.EEEE</li> </ul> |

次に、出力フレームの宛先 MAC アドレスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# mpls strip dest-mac 1.1.1
```

## MPLS ラベルの設定の確認

次のコマンドを使用して、MPLS ラベルの設定を表示します。

| コマンド                                                                                         | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>show mpls strip labels</b> [ <i>label</i>   <b>all</b>   <b>dynamic</b>   <b>static</b> ] | <p>MPLS ラベルに関する情報を表示します。次のオプションを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>label</i> : 表示するラベル</li> <li>• <b>all</b> : すべてのラベルを表示することを指定します。これがデフォルトのオプションです。</li> <li>• <b>dynamic</b> : ダイナミック ラベルのみ表示することを指定します。</li> <li>• <b>static</b> : スタティック ラベルのみ表示することを指定します。</li> </ul> |

次に、すべての MPLS ラベルを表示する例を示します。

```
switch# show mpls strip labels
MPLS Strip Labels:
  Total      : 3005
  Static     : 5
Legend:      * - Static Label
  Interface - where label was first learned
  Idle-Age  - Seconds since last use
  SW-Counter- Packets received in Software
  HW-Counter- Packets switched in Hardware
```

| Label   | Interface   | Idle-Age | SW-Counter | HW-Counter |
|---------|-------------|----------|------------|------------|
| 4096    | Eth1/53/1   | 15       | 1          | 210        |
| 4097    | Eth1/53/1   | 15       | 1          | 210        |
| 4098    | Eth1/53/1   | 15       | 1          | 210        |
| 4099    | Eth1/53/1   | 7        | 2          | 219        |
| 4100    | Eth1/53/1   | 7        | 2          | 219        |
| 4101    | Eth1/53/1   | 7        | 2          | 219        |
| 4102    | Eth1/53/1   | 39       | 1          | 206        |
| 4103    | Eth1/53/1   | 39       | 1          | 206        |
| 4104    | Eth1/53/1   | 39       | 1          | 206        |
| 4105    | Eth1/53/1   | 1        | 1          | 217        |
| 4106    | Eth1/53/1   | 1        | 1          | 217        |
| 4107    | Eth1/53/1   | 1        | 1          | 217        |
| 4108    | Eth1/53/1   | 15       | 1          | 210        |
| * 25000 | None <User> | 39       | 1          | 206        |
| * 20000 | None <User> | 39       | 1          | 206        |
| * 21000 | None <User> | 1        | 1          | 217        |

次に、スタティック MPLS ラベルのみ表示する例を示します。

```
switch(config)# show mpls strip labels static
MPLS Strip Labels:
  Total      : 3005
  Static     : 5
Legend:      * - Static Label
  Interface - where label was first learned
  Idle-Age  - Seconds since last use
  SW-Counter- Packets received in Software
  HW-Counter- Packets switched in Hardware
```

| Label   | Interface   | Idle-Age | SW-Counter | HW-Counter |
|---------|-------------|----------|------------|------------|
| * 300   | None <User> | 403      | 0          | 0          |
| * 100   | None <User> | 416      | 0          | 0          |
| * 25000 | None <User> | 869      | 0          | 0          |
| * 20000 | None <User> | 869      | 0          | 0          |
| * 21000 | None <User> | 869      | 0          | 0          |



## 第 25 章

# sFlow の設定

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [sFlow について, 309 ページ](#)
- [ライセンス要件, 310 ページ](#)
- [前提条件, 310 ページ](#)
- [sFlow の注意事項および制約事項, 310 ページ](#)
- [sFlow のデフォルト設定, 311 ページ](#)
- [sFlow の設定, 311 ページ](#)
- [sFlow 設定の確認, 318 ページ](#)
- [sFlow の設定例, 319 ページ](#)
- [sFlow に関する追加情報, 319 ページ](#)
- [sFlow の機能の履歴, 319 ページ](#)

## sFlow について

sFlow を使用すると、スイッチやルータを含むデータ ネットワーク内のリアルタイム トラフィックをモニタできます。sFlow では、トラフィックをモニタするためにスイッチやルータ上の sFlow エージェントソフトウェアでサンプリングメカニズムを使用して、入力および出力ポート上のサンプル データを中央のデータ コレクタ（sFlow アナライザとも呼ばれる）に転送します。

sFlow の詳細については、RFC 3176 を参照してください。

## sFlow エージェント

Cisco NX-OS ソフトウェアに組み込まれている sFlow エージェントは、サンプリングされるパケットのデータ ソースに関連付けられたインターフェイス カウンタを定期的にサンプリングまたは

ポーリングします。このデータソースは、イーサネットインターフェイス、EtherChannel インターフェイス、ある範囲に属するイーサネットインターフェイスのいずれかです。sFlow エージェントは、イーサネットポートマネージャにクエリを送信して、対応する EtherChannel メンバーシップ情報を確認するほか、イーサネットポートマネージャからもメンバーシップの変更の通知を受信します。

Cisco NX-OS ソフトウェアで sFlow サンプルングをイネーブルにすると、サンプリングレートとハードウェア内部の乱数に基づいて、入力パケットと出力パケットが sFlow でサンプリングされたパケットとして CPU に送信されます。sFlow エージェントはサンプリングされたパケットを処理し、sFlow アナライザに sFlow データグラムを送信します。sFlow データグラムには、元のサンプリングされたパケットに加えて、入力ポート、出力ポート、および元のパケット長に関する情報が含まれます。sFlow データグラムには、複数の sFlow サンプルを含めることができます。

## ライセンス要件

この機能には、ライセンスは必要ありません。ライセンスパッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システムイメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『*Cisco NX-OS Licensing Guide*』を参照してください。

## 前提条件

sFlow を設定するには、**feature sflow** コマンドを使用して sFlow 機能をイネーブルにする必要があります。

## sFlow の注意事項および制約事項

sFlow 設定時の注意事項および制約事項は次のとおりです。

- インターフェイスの sFlow をイネーブルにすると、入力と出力の両方に対してイネーブルになります。入力だけまたは出力だけの sFlow をイネーブルにできません。
- マルチキャスト、ブロードキャスト、または未知のユニキャストパケットの sFlow の出力のサンプリングはサポートされません。
- システムの sFlow の設定およびトラフィックに基づいてサンプリングレートを設定する必要があります。
- Cisco Nexus 3000 シリーズは、1 つの sFlow コレクタだけをサポートします。

## sFlow のデフォルト設定

表 32: デフォルトの sFlow パラメータ

| パラメータ (Parameters)          | デフォルト |
|-----------------------------|-------|
| sFlow sampling-rate         | 4096  |
| sFlow sampling-size         | 128   |
| sFlow max datagram-size     | 1400  |
| sFlow collector-port        | 6343  |
| sFlow counter-poll-interval | 20    |

## sFlow の設定

### sFlow 機能のイネーブル化

スイッチの sFlow を設定する前に sFlow 機能をイネーブルにする必要があります。

#### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                              | 目的                                                                          |
|--------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                         | グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。                                                 |
| ステップ 2 | [no] <b>feature sflow</b>                                 | sFlow 機能をイネーブルにします。                                                         |
| ステップ 3 | <b>show feature</b>                                       | (任意)<br>イネーブルおよびディセーブルにされた機能を表示します。                                         |
| ステップ 4 | switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b> | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。 |

次に、sFlow 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature sflow
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## サンプリング レートの設定

はじめる前に

sFlow 機能がイネーブルになっていることを確認します。

手順

|        | コマンドまたはアクション                                              | 目的                                                                                                          |
|--------|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                         | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                |
| ステップ 2 | [no] <b>sflow sampling-rate</b><br><i>sampling-rate</i>   | パケットの sFlow のサンプリング レートを設定します。<br><br><i>sampling-rate</i> には 4096 ~ 1000000000 の整数を指定できます。デフォルト値は 4096 です。 |
| ステップ 3 | <b>show sflow</b>                                         | (任意)<br>sFlow 情報を表示します。                                                                                     |
| ステップ 4 | switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b> | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。                                 |

次に、サンプリング レートを 50,000 に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow sampling-rate 50000
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## 最大サンプリング サイズの設定

サンプリングされたパケットからコピーする最大バイト数を設定できます。

はじめる前に

sFlow 機能がイネーブルになっていることを確認します。



## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                        | 目的                                                                                          |
|--------|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                   | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                |
| ステップ 2 | [no] <b>sflow max-sampled-size</b><br><i>sampling-size</i>          | sFlow の最大サンプリング サイズ パケットを設定します。<br><i>sampling-size</i> の範囲は 64 ~ 256 バイトです。デフォルト値は 128 です。 |
| ステップ 3 | <b>show sflow</b>                                                   | (任意)<br>sFlow 情報を表示します。                                                                     |
| ステップ 4 | switch(config)# <b>copy</b><br><b>running-config startup-config</b> | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。                 |

次に、sFlow エージェントの最大サンプリング サイズを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow max-sampled-size 200
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## カウンタのポーリング間隔の設定

データ ソースに関連するカウンタの継続的なサンプル間の最大秒数を設定できます。サンプリング間隔 0 は、カウンタのサンプリングをディセーブルにします。

### はじめる前に

sFlow 機能がイネーブルになっていることを確認します。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                    | 目的                                                                                        |
|--------|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                               | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                              |
| ステップ 2 | [no] <b>sflow counter-poll-interval</b><br><i>poll-interval</i> | インターフェイスの sFlow のポーリング間隔を設定します。 <i>poll-interval</i> の範囲は 0~2147483647 秒です。デフォルト値は 20 です。 |

|        | コマンドまたはアクション                                                  | 目的                                                                         |
|--------|---------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 3 | <b>show sflow</b>                                             | (任意)<br>sFlow 情報を表示します。                                                    |
| ステップ 4 | <b>switch(config)# copy<br/>running-config startup-config</b> | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。 |

次に、インターフェイスの sFlow のポーリング間隔を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow counter-poll-interval 100
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## 最大データグラムサイズの設定

1つのサンプルデータグラムで送信できるデータの最大バイト数を設定できます。

はじめる前に

sFlow 機能がイネーブルになっていることを確認します。

手順

|        | コマンドまたはアクション                                                  | 目的                                                                                     |
|--------|---------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | <b>switch# configure terminal</b>                             | グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。                                                             |
| ステップ 2 | <b>[no] sflow max-datagram-size<br/>datagram-size</b>         | sFlow の最大データグラムサイズを設定します。<br><i>datagram-size</i> の範囲は 200~9000 バイトです。デフォルト値は 1400 です。 |
| ステップ 3 | <b>show sflow</b>                                             | (任意)<br>sFlow 情報を表示します。                                                                |
| ステップ 4 | <b>switch(config)# copy<br/>running-config startup-config</b> | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。             |

次に、sFlow の最大データグラム サイズを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow max-datagram-size 2000
switch(config)# copy running-config startup-config
[#####] 100%
```

## sFlow アナライザのアドレスの設定

はじめる前に

sFlow 機能がイネーブルになっていることを確認します。

手順

|        | コマンドまたはアクション                                                     | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ステップ 2 | [no] <b>sflow collector-ip</b><br><i>IP-address vrf-instance</i> | sFlow アナライザの IPv4 アドレスを設定します。<br><i>vrf-instance</i> は、次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザ定義の VRF 名：最大 32 文字の英数字を指定できます。</li> <li>• <b>vrf management</b>：sFlow データ コレクターが、管理ポートに接続されたネットワークに存在する場合は、このオプションを使用する必要があります。</li> <li>• <b>vrf default</b>：sFlow データ コレクターが、前面パネルのポートに接続されたネットワークに存在する場合は、このオプションを使用する必要があります。</li> </ul> |
| ステップ 3 | <b>show sflow</b>                                                | (任意)<br>sFlow 情報を表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| ステップ 4 | switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>        | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

次に、管理ポートに接続されている sFlow データ コレクタの IPv4 アドレスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow collector-ip 192.0.2.5 vrf management
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## sFlow アナライザ ポートの設定

sFlow データグラムの宛先ポートを設定できます。

はじめる前に

sFlow 機能がイネーブルになっていることを確認します。

手順

|        | コマンドまたはアクション                                                        | 目的                                                                                    |
|--------|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                   | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                          |
| ステップ 2 | [no] <b>sflow collector-port</b><br><i>collector-port</i>           | sFlow アナライザの UDP ポートを設定します。<br><i>collector-port</i> の範囲は 0~65535 です。デフォルト値は 6343 です。 |
| ステップ 3 | <b>show sflow</b>                                                   | (任意)<br>sFlow 情報を表示します。                                                               |
| ステップ 4 | switch(config)# <b>copy</b><br><b>running-config startup-config</b> | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。           |

次に、sFlow データグラムの宛先ポートを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow collector-port 7000
switch(config)# copy running-config startup-config
[#####] 100%
switch(config)#
```

## sFlow エージェント アドレスの設定

はじめる前に

sFlow 機能がイネーブルになっていることを確認します。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                              | 目的                                                                                                                                                        |
|--------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                         | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。                                                                                                                              |
| ステップ 2 | <b>[no] sflow agent-ip ip-address</b>                     | sFlow エージェントの IPv4 アドレスを設定します。<br>デフォルトの <i>ip-address</i> は 0.0.0.0 です。つまり、すべてのサンプリングがスイッチでディセーブルであることを示します。sFlow 機能をイネーブルにするには、有効な IP アドレスを指定する必要があります。 |
| ステップ 3 | <b>show sflow</b>                                         | (任意)<br>sFlow 情報を表示します。                                                                                                                                   |
| ステップ 4 | switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b> | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。                                                                               |

次に、sFlow エージェントの IPv4 アドレスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow agent-ip 192.0.2.3
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## sFlow サンプリング データ ソースの設定

sFlow のサンプリングデータソースには、イーサネットポート、イーサネットポートの範囲、またはポートチャネルを指定できます。

### はじめる前に

- sFlow 機能がイネーブルになっていることを確認します。
- データソースとしてポートチャネルを使用する場合は、すでにポートチャネルを設定して、ポートチャネル番号がわかっていることを確認してください。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                                                                                     | 目的                                                                                                                                  |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | switch# <b>configure terminal</b>                                                                                | グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。                                                                                                          |
| ステップ 2 | switch(config)# <b>[no] sflow data-source interface [ethernet slot/port[-port]  port-channel channel-number]</b> | sFlow のサンプリング データ ソースを設定します。<br>イーサネットのデータ ソースの場合、 <i>slot</i> はスロット番号、 <i>port</i> は 1 つのポート番号または <i>port-port</i> で指定されたポートの範囲です。 |
| ステップ 3 | switch(config)# <b>show sflow</b>                                                                                | (任意)<br>sFlow 情報を表示します。                                                                                                             |
| ステップ 4 | switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>                                                        | (任意)<br>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。                                                          |

次に、sFlow のサンプラーのイーサネット ポート 5~12 を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow data-source interface ethernet 1/5-12
switch(config)# copy running-config startup-config
[#####] 100%
switch(config)#
```

次に、sFlow のサンプラーのポート チャネル 100 を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow data-source interface port-channel 100
switch(config)# copy running-config startup-config
[#####] 100%
switch(config)#
```

## sFlow 設定の確認

sFlow の設定情報を確認するには、次のコマンドを使用します。

| コマンド                         | 目的                              |
|------------------------------|---------------------------------|
| <b>show sflow</b>            | sFlow のグローバル コンフィギュレーションを表示します。 |
| <b>show sflow statistics</b> | sFlow の統計情報を表示します。              |

| コマンド                                         | 目的                              |
|----------------------------------------------|---------------------------------|
| <code>clear sflow statistics</code>          | sFlow 統計情報をクリアします。              |
| <code>show running-config sflow [all]</code> | 現在実行中の sFlow コンフィギュレーションを表示します。 |

## sFlow の設定例

次に sFlow を設定する例を示します。

```
feature sflow
sflow sampling-rate 5000
sflow max-sampled-size 200
sflow counter-poll-interval 100
sflow max-datagram-size 2000
sflow collector-ip 192.0.2.5 vrf management
sflow collector-port 7000
sflow agent-ip 192.0.2.3
sflow data-source interface ethernet 1/5
```

## sFlow に関する追加情報

表 33: sFlow の関連資料

| 関連項目           | マニュアルタイトル                                                                                                          |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sFlow CLI コマンド | 『Cisco Nexus 3000 Series NX-OS System Management Command Reference』。                                               |
| RFC 3176       | sFlow のパケット形式と SNMP MIB を定義します。<br><a href="http://www.sflow.org/rfc3176.txt">http://www.sflow.org/rfc3176.txt</a> |

## sFlow の機能の履歴

この表には、機能の追加や変更によるリリースの更新内容のみが記載されています。

| 機能名   | リリース        | 機能情報          |
|-------|-------------|---------------|
| sFlow | 5.0(3)U4(1) | この機能が導入されました。 |







## 索引

### A

- ACL のロギング [157](#)
  - インターフェイスへの適用 [157](#)
- ACL ロギング キャッシュ [157](#)
  - 設定 [157](#)
- ACL ログ [159](#)
  - 一致レベル [159](#)

### C

- cache [157](#)
  - ロギング [157](#)
    - 設定 [157](#)
- Call Home の通知 [191](#)
  - syslog の XML 形式 [191](#)
  - syslog のフルテキスト形式 [191](#)
- configure maintenance profile maintenance-mode [271](#)
- configure maintenance profile normal-mode [272](#)

### E

- EEE [131](#)
  - 注意事項と制約事項 [131](#)
- EEM ポリシーの定義 [139](#)
  - VSH スクリプト [139](#)
- ERSPAN [243](#), [244](#), [245](#), [246](#), [250](#), [258](#), [264](#), [266](#)
  - destination [264](#)
    - 設定例 [264](#)
  - sessions [245](#)
    - 複数 [245](#)
  - source [264](#)
    - 設定例 [264](#)
  - sources [244](#)
  - ソフトウェアをダウングレードするときの設定の消失 [246](#)
  - デフォルト パラメータ [250](#)

### ERSPAN (続き)

- ハイ アベイラビリティ [245](#)
- ライセンス要件 [245](#)
- 宛先 [244](#)
- 宛先セッション [258](#)
  - ERSPAN の設定 [258](#)
- 宛先セッションの設定 [258](#)
- 概要 [243](#)
- 関連資料 [266](#)
- 前提条件 [246](#)
- 送信元セッション [250](#)
  - ERSPAN の設定 [250](#)
- 送信元セッションの設定 [250](#)
- 注意事項と制約事項 [246](#)

### G

- GOLD 診断 [119](#), [120](#), [121](#)
  - runtime [119](#)
  - ヘルス モニタリング [120](#)
  - 拡張モジュール [121](#)
  - 設定 [121](#)

### I

- ID [172](#)
  - シリアル ID [172](#)
- isolate [268](#)

### L

- linkDown 通知 [221](#)
- linkUp 通知 [221](#)

**M**

mgmt0 インターフェイス 157  
 ACL のログイン 157  
 MPLS エージング 306  
 MPLS エージングの設定 306  
 MPLS カウンタのクリア 305  
 MPLS ストリッピングに関する注意事項と制限事項 299  
 MPLS ストリッピングの有効化 303  
 MPLS ストリッピング機能、有効化 303  
 MPLS の概要 298  
 MPLS ヘッダー ストリッピング 299  
 MPLS ラベルの削除 304  
 MPLS ラベルの追加 304  
 MPLS 設定の確認 307

**N**

no isolate 268  
 no shutdown 269  
 no system interface shutdown 269  
 no system mode maintenance 279  
 no system mode maintenance dont-generate-profile 279  
 no system mode maintenance on-reload reset-reason 278  
 ntp 53, 55  
 仮想化 55  
 情報 53  
 NTP ブロードキャスト サーバ、設定 64  
 NTP マルチキャスト クライアント、設定 66  
 NTP マルチキャスト サーバ、設定 65

**P**

PTP 73, 74, 75, 76, 77, 79  
 process 75  
 インターフェイス、設定 79  
 グローバル設定 77  
 デバイス タイプ 74  
 デフォルト設定 76  
 概要 73  
 注意事項と制約事項 76  
 python instance 269

**R**

RBAC 83, 84, 85, 88, 90, 93, 94, 95, 96, 97, 98  
 ユーザ アカウント、設定 90

## RBAC (続き)

ユーザ アカウントの制限事項 88  
 ユーザ ロール 83  
 ユーザ ロール VLAN ポリシー、変更 96  
 ユーザ ロール VSAN ポリシー、変更 97  
 ユーザ ロール インターフェイス ポリシー、変更 95  
 ユーザ ロール および ルール、設定 93  
 ルール 85  
 確認 98  
 機能グループ、作成 94  
 registering 179  
 smart call home 179

**S**

SAN 管理者、ユーザ ロール 84  
 SAN 管理者ユーザ、設定 92  
 RBAC 92  
 scheduler 107, 108, 109, 110, 111, 112, 113, 114, 116, 117, 118  
 イネーブル化 110  
 ジョブ、削除 113  
 タイムテーブル、定義 114  
 ディセーブル化 116  
 デフォルト設定 109  
 ライセンス 109  
 リモート ユーザ認証 108  
 リモート ユーザ認証、設定 111, 112  
 ログファイル 108  
 ログファイル サイズ、定義 110  
 ログファイル、消去 116  
 概要 107  
 規格 118  
 設定、確認 117  
 注意事項と制約事項 109  
 Session Manager 101, 102, 103, 104  
 ACL セッションの設定例 104  
 セッションのコミット 103  
 セッションの確認 103  
 セッションの廃棄 104  
 セッションの保存 104  
 制限事項 102  
 設定の確認 104  
 説明 101  
 注意事項 102  
 sFlow 309, 310, 311, 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319  
 show コマンド 318  
 アナライザ ポート 316

## sFlow (続き)

- アナライザのアドレス 315
- エージェント アドレス 316
- ガイドラインに準拠 310
- カウンタのポーリング間隔 313
- サンプリング データ ソース 317
- サンプリング レート 312
- データグラム サイズ 314
- デフォルト設定 311
- ライセンス 310
- 機能の履歴 319
- 設定例 319
- 前提条件 310
- show interface brief 280
- show maintenance on-reload reset-reasons 280
- show maintenance profile 280
- show maintenance profile maintenance-mode 271, 280
- show maintenance profile normal-mode 272, 280
- show maintenance timeout 281
- show running-config mmode 281
- show snapshots 274, 281
- show snapshots compare 274, 281
- show snapshots dump 281
- show snapshots sections 281
- show startup-config mmode 281
- show system mode 278, 280, 281
- show コマンド 318
  - sFlow 318
- show コマンドの追加、アラート グループ 185
  - smart call home 185
- sleep instance 269
- smart call home 167, 168, 169, 177, 178, 179, 181, 182, 184, 185, 186, 187, 188, 189, 190
  - registering 179
  - show コマンドの追加、アラート グループ 185
    - アラート グループ 169
    - アラート グループのアソシエート 184
    - デフォルト設定 178
    - メッセージフォーマット オプション 168
    - 宛先プロファイル 168
    - 宛先プロファイル、作成 181
    - 宛先プロファイル、変更 182
    - 確認 190
    - 重複メッセージ抑制、ディセーブル化 188, 189
    - 設定のテスト 189
    - 説明 167
    - 前提条件 178
    - 担当者情報、設定 179
    - 注意事項と制約事項 177

## smart call home (続き)

- 定期的なインベントリ通知 187
- 電子メールの詳細、設定 186
- Smart Call Home のメッセージ 168, 171
  - フォーマット オプション 168
  - レベルの設定 171
- SMU 285, 286, 287, 289, 291, 292
  - アクティブなパッケージセットのコミット 291
  - パッケージ インストールの準備 287
  - パッケージのアクティブ化 289
  - パッケージの削除 291
  - パッケージの追加 289
  - パッケージの非アクティブ化 291
  - パッケージ管理 286
  - 制限事項 287
  - 説明 285
  - 前提条件 286
  - 注意事項 287
- snapshot create 273
- snapshot delete 273
- SNMP 205, 206, 208, 209, 210, 212, 213, 214, 217, 224
  - CLI を使用したユーザの同期 209
  - アクセス グループ 210
  - インバンドアクセス 217
  - グループ ベースのアクセス 210
  - セキュリティ モデル 208
  - ディセーブル化 224
  - デフォルト設定 210
  - トラップ通知 206
  - バージョン 3 のセキュリティ機能 206
  - メッセージの暗号化 213
  - ユーザ ベースのセキュリティ 208
    - SNMP 208
  - ユーザの設定 212
  - ライセンス 210
  - 機能の概要 205
  - 注意事項と制約事項 210
  - 通知レシーバ 214
  - 要求のフィルタリング 214
- SNMP notifications 216
  - VRF に基づくフィルタリング 216
- SNMP のデフォルト設定 210
- SNMP 通知レシーバ 216
  - VRF による設定 216
- SNMP 要求のフィルタリング 214
- SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) 207
  - バージョン 207

## SNMPv3 206, 213

- セキュリティ機能 206

- 複数のロールの割り当て 213

## SPAN 231, 232, 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 240

- VLAN、設定 236

- イーサネット宛先ポート、設定 235

- セッションのアクティブ化 238

- ソフトウェアをダウングレードするときの設定の消失 233

- モニタリングの送信元 231

- 宛先 233

- 宛先ポート、特性 233

- 作成、セッションの削除 234

- 出力送信元 232

- 情報の表示 239

- 設定例 240

- 説明、設定 237

- 送信元ポートチャネル、設定 236

- 送信元ポート、設定 236

- 注意事項と制約事項 233

- 特性、送信元ポート 232

- 入力送信元 232

## SPAN 送信元 232

- 出力 232

- 入力 232

## syslog 142, 158, 159, 160

- ACL ログの一致レベル 159

- 設定 160

- 組み込みイベント マネージャ (EEM) 142

- 送信元インターフェイス、設定 158

## system interface shutdown 269

## system mode maintenance dont-generate-profile 277

## system mode maintenance on-reload reset-reason 278

## system mode maintenance shutdown 277

## system mode maintenance timeout 277

## U

## users 83

- 説明 83

## V

## VRF 216

- SNMP 通知のフィルタリング 216

- SNMP 通知レシーバの設定 216

## VSH スクリプト 139

- EEM ポリシーの定義 139

## VSH スクリプト ポリシー 130, 140

- 組み込みイベント マネージャ (EEM) 130

- 登録およびアクティブ化 140

## あ

## アクション文 130

- 組み込みイベント マネージャ (EEM) 130

## アクション文、設定 137

- 組み込みイベント マネージャ (EEM) 137

## アナライザポート 316

- sFlow 316

## アナライザのアドレス 315

- sFlow 315

## アラート グループ 169

- smart call home 169

## アラート グループのアソシエート 184

- smart call home 184

## い

## イーサネット宛先ポート、設定 235

- SPAN 235

## イネーブル化 68, 110

- NTP 用 CFS 配信 68

- scheduler 110

## イベント文 129

- 組み込みイベント マネージャ (EEM) 129

## イベント文、設定 134

- 組み込みイベント マネージャ (EEM) 134

## インストール ログ情報の表示 292

## インターフェイス、設定 79

- PTP 79

- インターフェイスでのNTP、イネーブル化およびディセーブル化 57

## え

## エージェント アドレス 316

- sFlow 316

## か

ガイドラインに準拠 310

sFlow 310

カウンタのポーリング間隔 313

sFlow 313

## こ

コミット 68

NTP 設定変更 68

## さ

サーバ ID 172

説明 172

サンプリング データ ソース 317

sFlow 317

サンプリング レート 312

sFlow 312

## し

システム ポリシー、上書き 141

組み込みイベント マネージャ (EEM) 141

システム メッセージ ロギングの設定 149

デフォルト 149

システム メッセージのログ 147, 149

ライセンス 149

概要 147

注意事項と制約事項 149

シャットダウン 268

ジョブ スケジュール、表示 118

例 118

ジョブ、削除 113

scheduler 113

シリアル ID 172

説明 172

## す

スイッチ プロファイル 19, 31, 32, 37, 38, 39

バッファ、表示 31, 39

リポート後のコンフィギュレーションの同期 32

確認とコミット、表示 38

スイッチ プロファイル (続き)

実行コンフィギュレーション、表示 37

注意事項と制約事項 19

例、ローカルとピアの同期 37, 39

スイッチ プロファイル バッファ、表示 31, 39

スイッチド ポート アナライザ 231

スケジューラ ジョブ、スケジューリング 117

例 117

スケジューラ ジョブ、結果の表示 118

例 118

スケジューラ ジョブ、作成 117

例 117

## せ

セッションのアクティブ化 238

SPAN 238

セッションの実行 103

## そ

その他の参考資料 145

組み込みイベント マネージャ (EEM) 145

ソフト エラー リカバリ 125

ソフトウェア 233, 246

ダウングレード 233, 246

ERSPAN の設定の損失 246

SPAN の設定の消失 233

ソフトウェアのダウングレード 233, 246

ERSPAN の設定の損失 246

SPAN の設定の消失 233

## た

タイムテーブル、定義 114

scheduler 114

タップ アグリゲーション ポリシー、設定 301

タップ アグリゲーション ポリシーのインターフェイスへのアタッチ 302

タップ アグリゲーション ポリシーの設定 301

タップ アグリゲーション、有効化 300

タップ アグリゲーションの概要 296

タップ アグリゲーションの設定の確認 303

タップ アグリゲーションの有効化 300

## て

- ディスクアーディング [69](#)
  - NTP 設定変更 [69](#)
- ディセーブル化 [116](#)
  - scheduler [116](#)
- データグラム サイズ [314](#)
  - sFlow [314](#)
- デバイス ID [172](#)
  - Call Home の形式 [172](#)
- デフォルト パラメータ [250](#)
  - ERSPAN [250](#)
- デフォルト設定 [57](#), [104](#), [109](#), [132](#), [178](#), [311](#)
  - scheduler [109](#)
  - sFlow [311](#)
  - smart call home [178](#)
  - ロールバック [104](#)
  - 組み込みイベント マネージャ (EEM) [132](#)

## と

- トラップ通知 [206](#)

## ね

- ネットワーク タップ [295](#)

## は

- ハイ アベイラビリティ [75](#)
  - PTP [75](#)
    - ハイ アベイラビリティ [75](#)
- パスワード要件 [89](#)

## ふ

- ファシリティ メッセージのロギング [154](#)
  - 設定 [154](#)

## へ

- ヘッダー ストリッピング [299](#)
- ヘルス モニタリング診断 [120](#)
  - 情報 [120](#)

## ほ

- ポリシー [128](#)
  - 組み込みイベント マネージャ (EEM) [128](#)

## ま

- マルチプロトコル ラベル スイッチングの概要 [298](#)

## め

- メッセージの暗号化 [213](#)
  - SNMP [213](#)

## も

- モジュール メッセージのロギング [154](#)
  - 設定 [154](#)

## ゆ

- ユーザ アカウント [89](#), [90](#), [98](#)
  - パスワード [89](#)
    - 確認 [98](#)
    - 注意事項と制約事項 [90](#)
  - ユーザ アカウントの制限事項 [88](#)
    - RBAC [88](#)
  - ユーザ ポリシー、定義 [133](#)
    - 組み込みイベント マネージャ (EEM) [133](#)
- ユーザ ロール [83](#)
  - RBAC [83](#)
- ユーザ ロール VLAN ポリシー、変更 [96](#)
  - RBAC [96](#)
- ユーザ ロール VSAN ポリシー、変更 [97](#)
- ユーザ ロール インターフェイス ポリシー、変更 [95](#)
  - RBAC [95](#)
- ユーザ ロール、RBAC [84](#)
  - SAN 管理者 [84](#)
- ユーザ ロールおよびルール、作成 [93](#)
  - RBAC [93](#)

## ら

- ライセンス [76](#), [109](#), [130](#), [149](#), [210](#), [310](#)
  - PTP [76](#)
    - ライセンス [76](#)
  - scheduler [109](#)
  - sFlow [310](#)
  - SNMP [210](#)
  - システム メッセージのログ [149](#)
  - 組み込みイベント マネージャ (EEM) [130](#)
- ライセンス要件 [245](#)
  - ERSPAN [245](#)
- ラベルエントリのクリア [305](#)
- ランタイム診断 [119](#)
  - 情報 [119](#)

## り

- リブート後のコンフィギュレーションの同期 [32](#)
  - スイッチ プロファイル [32](#)
- リモート ユーザ認証 [108](#)
  - scheduler [108](#)
- リモート ユーザ認証、設定 [111](#), [112](#)
  - scheduler [111](#), [112](#)

## る

- ルール [85](#)
  - RBAC [85](#)

## ろ

- ロール [83](#)
  - 認証 [83](#)
- ロールバック [101](#), [102](#), [104](#)
  - チェックポイントのコピー [101](#)
  - チェックポイント コピーの作成 [102](#)
  - チェックポイント ファイルの削除 [102](#)
  - チェックポイント ファイルへの復帰 [102](#)
  - デフォルト設定 [104](#)
  - ハイ アベイラビリティ [101](#)
  - ロールバックの実装 [102](#)
  - 制限事項 [102](#)
  - 設定の確認 [104](#)
  - 設定例 [102](#)
  - 説明 [101](#)
  - 注意事項 [102](#)
- ロギング [154](#), [159](#)
  - ACL ログの一致レベル [159](#)
  - ファシリティ メッセージ [154](#)
  - モジュール メッセージ [154](#)
- ロギング キャッシュ [157](#)
  - 設定 [157](#)
- ログ ファイル [108](#)
  - scheduler [108](#)
- ログ ファイル サイズ、定義 [110](#)
  - scheduler [110](#)
- ログ ファイル、消去 [116](#)
  - scheduler [116](#)

